

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 561 集

さいの はばたて

斎羽場館跡発掘調査報告書

緊急地方道路整備事業下門岡地区関連遺跡発掘調査

2010

岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部

(財) 岩手県文化振興事業団

斎羽場館跡発掘調査報告書

緊急地方道路整備事業下門岡地区関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、緊急地方道路整備事業下門岡地区に関連して平成20年度に発掘調査された齊羽場跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では後期旧石器時代のキャンプ地、平安時代の集落跡、中世の館跡であることが明らかとなり、北上盆地中流域の当該期の実態を解明する上で貴重な資料になることと思われます。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、御理解と御協力をいただきました岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部、北上市教育委員会、北上市埋蔵文化財センターをはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成22年1月

財团法人 岩手県文化振興事業団
理事長 武田牧雄

例　　言

- 1 本報告書は、岩手県北上市稻瀬町字前田164-1に所在する齊羽場館跡において、平成20年度に実施した発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、「緊急地方道路整備事業下門岡地区」に伴う緊急事前調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の調整を経て、岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部の委託を受けた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡情報検索システムに記載される遺跡番号はM E 76-2110、遺跡略号はS H T -08である。
- 4 発掘調査期間は平成20年9月1日～11月21日、発掘調査面積は1,290m²、野外調査担当者は北村忠昭・丸山浩治・吉田泰治、室内整理期間は平成20年12月16日～平成21年3月31日、室内整理担当者は北村忠昭である。
- 5 本書の執筆は、第Ⅰ章を岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部、それ以外を北村が担当し、編集は北村が行った。
- 6 遺構写真は北村が、遺物写真は岩間和幸が撮影した。
- 7 本書で用いる方位は、世界測地系による座標北を示す。レベル高は海拔である。
- 8 各種委託業務は、以下の機関に委託した（敬称略）。なお、黒曜石産地同定・火山灰分析・放射性炭素年代測定の結果報告は附録に収録している。
石質鑑定：花崗岩研究会、金属製品の保存処理：岩手県立博物館、放射性炭素年代測定：株式会社 加速器分析研究所、火山灰分析：株式会社 火山灰考古学研究所、黒曜石産地同定：株式会社 第四紀地質研究所、遺物実測図化業務：株式会社ラング、基準点測量：株式会社キタテック、航空写真：東邦航空株式会社
- 9 野外調査、室内整理にあたり岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部、北上市教育委員会、北上市埋蔵文化財センター、北上市上下水道部上水道課、近隣住民の方々の御理解と御協力をいただいた。
- 10 発掘調査や整理・報告書の作成は、以下の方々に御教示・御協力を頂いた。（アイウエオ順、敬称略）
井上雅孝、宇田川浩一、大渡賢一、笠原　興、加藤朋夏、加藤　竜、神原雄一郎、菊池強一、熊谷仁志、小林　克、坂本尚史、鈴木宏行、直江康雄、西谷　隆、原田昌幸、廣田良成、吉川耕太郎、秋田市教育委員会、秋田県埋蔵文化財センター、秋田県立博物館、財團法人北海道埋蔵文化財センター
- 11 本報告書では、国土地理院発行1:50,000地形図「北上」、1:25,000地形図「口内」「陳中江刺」「北上」「金ヶ崎」を使用した。
- 12 土層注記及び出土土器の色調の記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帖』2002年度版に準拠した。
- 13 本遺跡の出土遺物と記録類は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 14 本報告書発行以前に平成20年度発掘調査報告書で調査成果を公表したが、本報告書を正とする。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地・環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	9
III 調査の方法	14
1 野外調査	14
2 室内整理	16
IV 分類基準	18
1 土器類	18
2 石器・石製品	18
V 検出遺構と出土遺物	23
1 後期旧石器時代	23
2 繩文時代	49
3 平安時代	83
4 中世	93
5 時期不明	101
VI まとめ	107
附編 齋羽場館跡の自然科学分析	115
黒曜石产地同定	115
火山灰分析	121

放射性炭素年代測定 127

報告書抄録 167

図版目次

第1図 遺跡位置図	1	第33図 縄文時代の遺構（3）	53
第2図 調査区と周辺の地形	2	第34図 縄文時代の遺構（4）	55
第3図 地形分類図・表層地質図	4	第35図 縄文時代の遺構（5）	59
第4図 基本層序	6	第36図 縄文時代の遺物（1）	60
第5図 調査区土層断面図（1）	7	第37図 縄文時代の遺物（2）	61
第6図 調査区土層断面図（2）	8	第38図 縄文時代の遺物（3）	62
第7図 周辺の遺跡	11	第39図 縄文時代の遺物（4）	63
第8図 全体図・グリッド配置図・遺構配置図	15	第40図 縄文時代の遺物（5）	64
第9図 石器分類図（1）	20	第41図 縄文時代の遺物（6）	66
第10図 石器分類図（2）	21	第42図 縄文時代の遺物（7）	67
第11図 旧石器分布図	24	第43図 縄文時代の遺物（8）	68
第12図 岩種別分布図（第Ⅰ文化層1）	25	第44図 縄文時代の遺物（9）	69
第13図 岩種別分布図（第Ⅰ文化層2）	26	第45図 縄文時代の遺物（10）	70
第14図 器種別分布図（第Ⅱ文化層）	27	第46図 縄文時代の遺物（11）	71
第15図 石器石材別分布図（第Ⅰ文化層1）	28	第47図 縄文時代の遺物（12）	72
第16図 石器石材別分布図（第Ⅰ文化層2）	29	第48図 縄文時代の遺物（13）	73
第17図 石器石材別分布図（第Ⅱ文化層）	30	第49図 平安時代の遺構（1）	84
第18図 第Ⅰ文化層以前の出土遺物	32	第50図 平安時代の遺構（2）	86
第19図 S b 01	33	第51図 平安時代の遺構（3）	87
第20図 S b 02・S b 03	34	第52図 平安時代の遺構（4）	88
第21図 第Ⅰ文化層の遺物（1）	36	第53図 平安時代の遺物（1）	90
第22図 第Ⅰ文化層の遺物（2）	37	第54図 平安時代の遺物（2）	91
第23図 第Ⅰ文化層の遺物（3）	38	第55図 中世の遺構（1）	94
第24図 第Ⅰ文化層の遺物（4）	40	第56図 中世の遺構（2）	95
第25図 第Ⅰ文化層の遺物（5）	41	第57図 中世の遺構（3）	97
第26図 第Ⅰ文化層の遺物（6）	42	第58図 中世の遺構（4）	98
第27図 第Ⅰ文化層の遺物（7）	43	第59図 中世の遺構（5）	99
第28図 S b 04	45	第60図 中世の遺物	100
第29図 第Ⅱ文化層の遺物（1）	46	第61図 時期不明の遺構	101
第30図 第Ⅱ文化層の遺物（2）	48	第62図 縄文時代草創期の遺物	108
第31図 縄文時代の遺構（1）	50	第63図 齊羽場館縄張り想定図	111
第32図 縄文時代の遺構（2）	51		

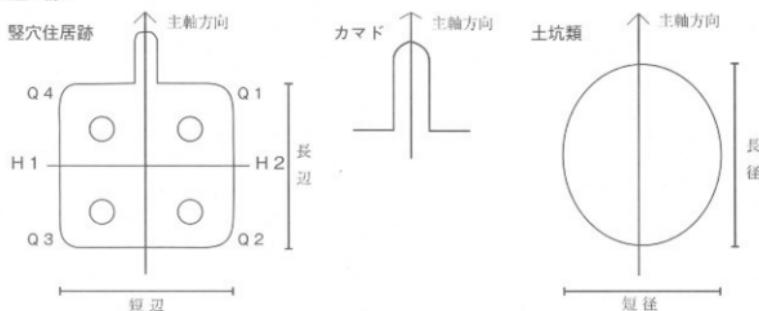
表 目 次

第1表 層名対応表	8	第19表 S b 05 d 石器組成表	58
第2表 周辺の遺跡	12	第20表 S b 06 石器組成表	58
第3表 遺構層名対応表	17	第21表 S b 07 石器組成表	59
第4表 旧石器組成表	23	第22表 S b 08 石器組成表	59
第5表 石器観察表（第I文化層以前）	32	第23表 土器観察表（縄文時代）	74
第6表 S b 01 石器組成表	33	第24表 石器観察表（縄文時代）	76
第7表 S b 02 石器組成表	35	第25表 石器計測表（縄文時代）	78
第8表 S b 03 石器組成表	35	第26表 表掲載石器観察表（縄文時代）	79
第9表 石器計測表（第I文化層）	42	第27表 土器観察表（平安時代）	92
第10表 石器観察表（第I文化層）	44	第28表 土製品観察表（平安時代）	92
第11表 表掲載石器観察表（第I文化層）	44	第29表 石器観察表（平安時代）	93
第12表 S b 04 石器組成表	46	第30表 金属製品観察表（平安時代）	93
第13表 石器観察表（第II文化層）	47	第31表 上器観察表（中世）	100
第14表 石器計測表（第II文化層）	48	第32表 石器観察表（中世）	101
第15表 表掲載石器観察表（第II文化層）	48	第33表 遺物観察表（時期不明）	102
第16表 S b 05 a 石器組成表	56	第34表 柱穴一覧	103
第17表 S b 05 b 石器組成表	57	第35表 点取り遺物座標データ一覧	104
第18表 S b 05 c 石器組成表	57	第36表 縄文時代早期中期の主な遺跡	110

写真図版目次

写真図版 1 空撮（1）	137	写真図版17 第I文化層以前の遺物、 第I文化層の遺物（1）	153
写真図版 2 空撮（2）	138	写真図版18 第I文化層の遺物（2）	154
写真図版 3 調査前現況	139	写真図版19 第I文化層の遺物（3）	155
写真図版 4 層序	140	写真図版20 第I文化層の遺物（4）、 第II文化層の遺物	156
写真図版 5 第I文化層（1）	141	写真図版21 縄文時代の遺物（1）	157
写真図版 6 第I文化層（2）、第II文化層	142	写真図版22 縄文時代の遺物（2）	158
写真図版 7 縄文時代の遺構（1）	143	写真図版23 縄文時代の遺物（3）	159
写真図版 8 縄文時代の遺構（2）、平安時代の 遺構（1）	144	写真図版24 縄文時代の遺物（4）	160
写真図版 9 平安時代の遺構（2）	145	写真図版25 縄文時代の遺物（5）	161
写真図版10 平安時代の遺構（3）	146	写真図版26 縄文時代の遺物（6）	162
写真図版11 平安時代の遺構（4）	147	写真図版27 縄文時代の遺物（7）	163
写真図版12 中世の遺構（1）	148	写真図版28 平安時代の遺物（1）	164
写真図版13 中世の遺構（2）	149	写真図版29 平安時代の遺物（2）	165
写真図版14 中世の遺構（3）	150	写真図版30 中世の遺物、時期不明の遺物	166
写真図版15 S K 01・S K 04	151		
写真図版16 終了状況	152		

<遺構>



[使用トーン]



<遺物>



[表現方法・使用トーン]



当センターで使用しているコンテナの大きさは以下の通りである。

大コンテナ : 42×32×30 cm 中コンテナ : 42×32×20 cm

小コンテナ : 42×32×10 cm

凡例

I 調査に至る経過

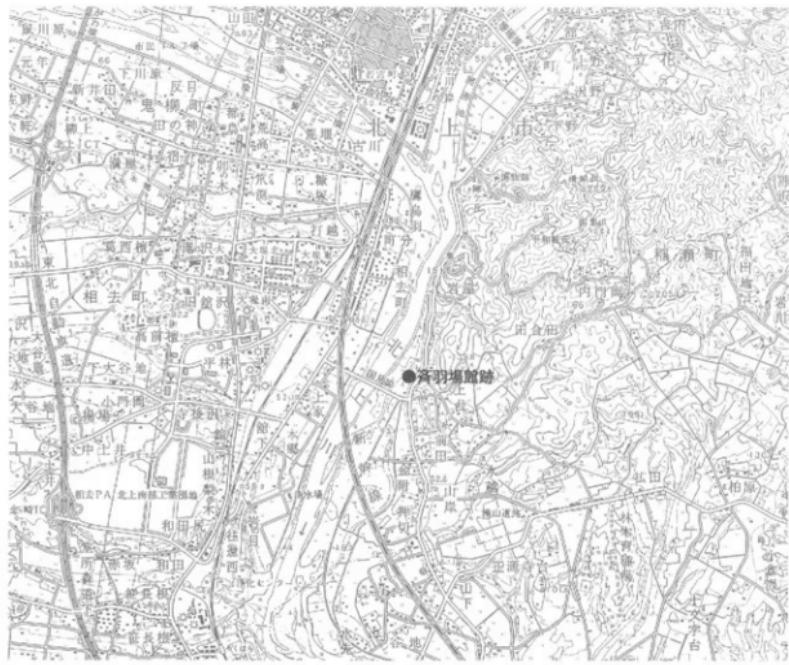
齊羽場館跡は、緊急地方道路整備事業である主要地方道一関北上線下門岡工区の事業区域内に存在することから、工事施行前の発掘調査が必要となり、平成 20 年度に発掘調査を実施した。

主要地方道一関北上線は一般国道 4 号を補完する重要な幹線道路であるが、当該区間は線形不良のため死亡事故を含む交通事故が多発し、通学時における児童の安全が脅かされていることから、道路の整備を進めているものである。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱いについては、当部から平成 18 年 3 月 30 日付北緯土第 321 号にて岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課（以下、生涯学習文化課）に試掘調査を依頼し、平成 18 年 4 月 18 日に生涯学習文化課が試掘調査を実施した。その結果、工事施行前の発掘調査が必要であることが明らかになった。

その結果を踏まえ、生涯学習文化課の調整を受けて、財団法人岩手県文化振興事業団との間で平成 20 年 8 月 20 日に委託契約を締結し、発掘調査を実施したものである。

（岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部）



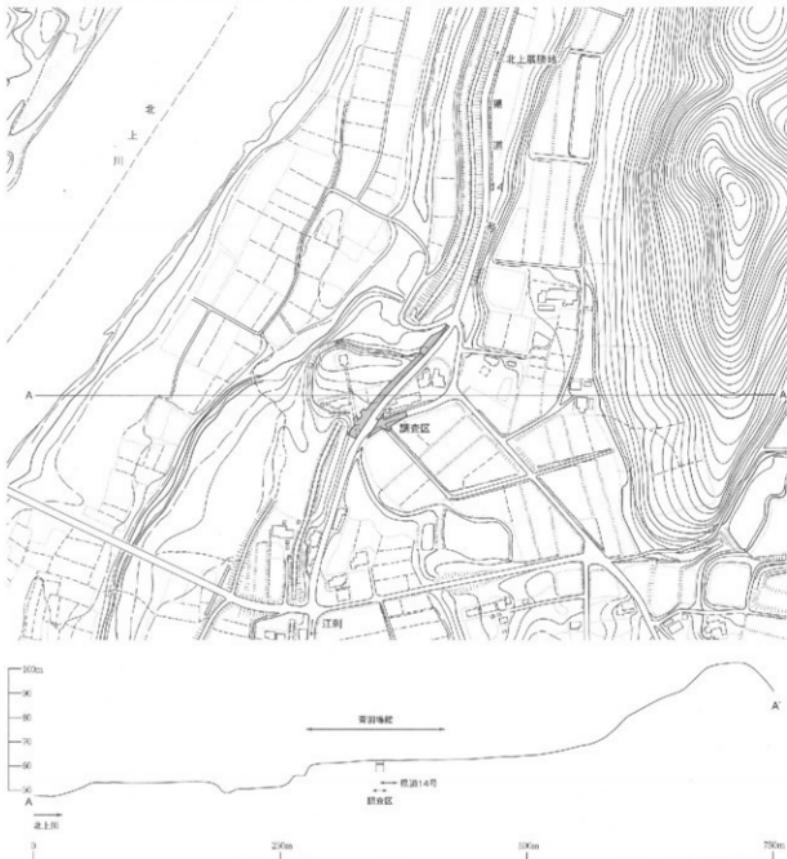
第 1 図 遺跡位置図

II 遺跡の立地・環境

1 地理的環境

(1) 遺跡の位置と立地

齊羽場館跡の所在する北上市は、西の奥羽山脈と東の北上山地との間を南流する北上川が形成した北上盆地の中程に位置し、北は花巻市、南は胆沢郡金ヶ崎町、東は奥州市江刺区・花巻市、西は和賀郡西和賀町と接している。現在の北上市は平成3年4月に旧北上市、和賀町、江釣子村の3市町村が



第2図 調査区と周辺の地形

合併し、面積437.55m²、人口83,000人余の盛岡市に次ぐ人口規模を有する都市として誕生したが、平成の大合併を迎えた現在は人口93,771人（平成21年2月末現在）の盛岡市、奥州市、一関市、花巻市に次ぐ都市となっている。北上市は地理的条件に恵まれ、古くから交通の要衝であった。近世以降、奥州街道の宿場町としての役割を果たすとともに、南北に流れる北上川船運の最大の商港として繁栄してきた。現在でも国道4号と国道107号が交差し、東北本線（明治23年開通）、北上線（大正13年開通）、東北新幹線（昭和57年開業）、東北縦貫自動車道（昭和52年開通）、東北横断道秋田線（平成9年開通）等の交通網が次々と整備され、太平洋側と日本海側、北と南を結ぶ物流の中継地点として重要な役割を担っている。

齊羽場館跡は東日本旅客鉄道東北本線北上駅の南約3.1kmに位置し、北上市稻瀬町地内に所在している。国土地理院発行の2万5千分の1地形図「北上」N J - 54-14-13-3（一関13号-3）、「口内」N J - 54-14-13-1（一関13号-1）、「金ヶ崎」N J - 54-14-13-4（一関13号-4）、同5万分の1地形図「北上」N J - 54-14-13（一関13号）の図幅に含まれ、北緯39度15分10秒、東経141度7分14秒付近に位置する（第1図）。

調査区は、北上川東岸の中位段丘である村崎野段丘に相当する段丘上に立地している。東西方向の最大距離約100m、南北方向の最大距離約120m、調査区幅5~9mの県道14号に面した細長い調査区で、面積は1,290m²である。調査前は宅地や道路等であり、標高は60~64mである。北上川との最短距離は約250mで、比高差は約15mである（第2図）。

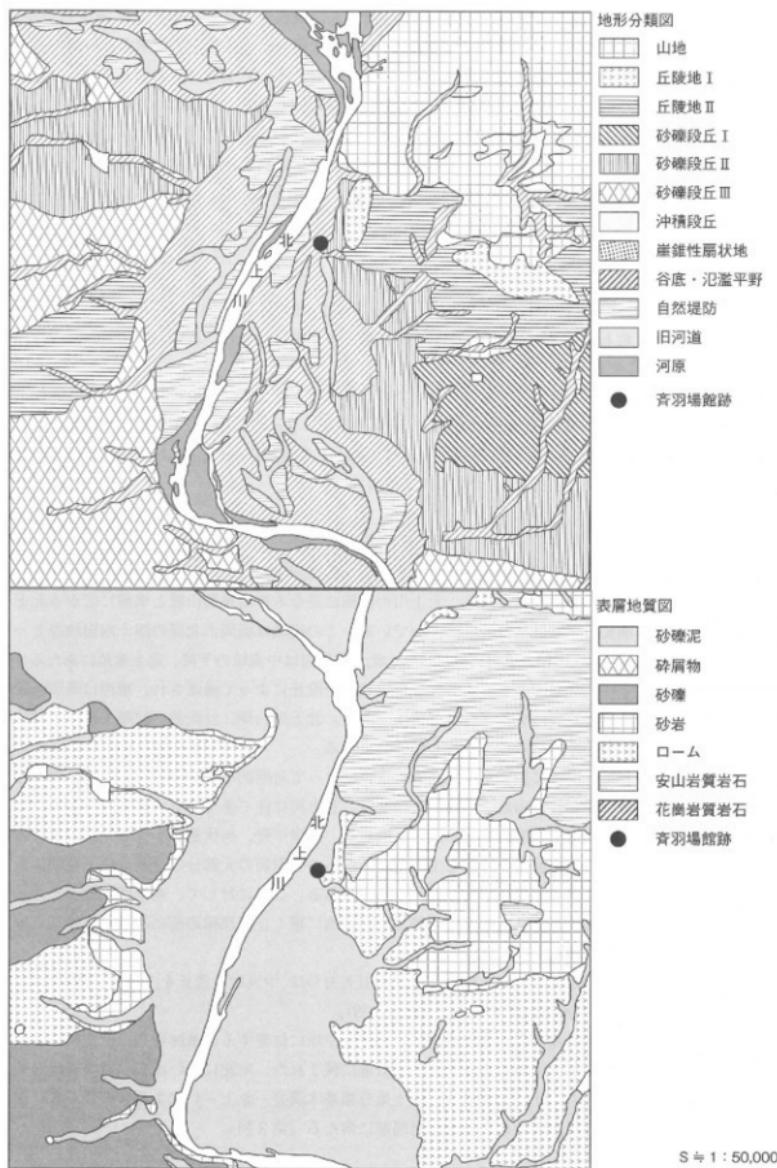
（2）遺跡周辺の地形と地質

北上川は県北部の岩手町御堂観音境内にその源を発し、延長243km、流域面積10,720km²、支流数216を数える、東北地方最大の一級河川であり、北上川の西側に連なる奥羽脊梁山脈と東側に広がる北上山地の間の低地帯を涵養し、宮城県石巻湾に注いでいる。この流域は盛岡市北部の四十四田峡谷と一関市狐桜寺峡谷を境にして上・中・下流に分けられ、北上市周辺は中流域の下部、北上盆地にあたる。北上盆地は北上川とその支流が形成している様々な扇状地や段丘によって構成され、東西は奥羽山脈から北上山地に及び、南北90kmにも及ぶ帶状の盆地である。北上川右岸には新第三紀層の砂岩・凝灰岩を基盤とする台地、扇状地の末端に侵食崖を形成している。

北上川中流域の地形は、背後に控える山地構造の違いによって対照的な様相を呈している。新第三系及び火山岩類を主体とする褶曲山地である奥羽山脈は、北上川に注ぐ多くの支流を持ち、それれに多量の土砂を供給し、北上川右岸に大小の段丘や扇状地、河岸平野、起伏量の小さい丘陵地が複雑に入り組む扇状地の広い平坦面を作り出している。これらの平坦面の大部分は更新世中・後期に形成されたもので、支流によって開削され段丘化したものである。これに対して、老年期山地がその後の地殻変動によって隆起準平原化した北上山地側では、山地に続く丘陵部縁辺部に小規模な段丘と沖積地が認められるにすぎない。

北上川流域の第四系及び地形の研究を行っている中川久夫らは、中流域の段丘を上部から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に分類している（中川ほか1963）。

齊羽場館跡の所在する稻瀬地区は北上市の南東、北上川左岸に位置する。遺跡周辺は、東側の丘陵地と小起伏山地、西側の北上川沿いに発達した河岸低地に挟まれた、南北に長い段丘（村崎野段丘相当：岩手県企画開発室発行の『北上川系開発地域土地分類基本調査－北上－』による砂礫段丘Ⅱ）が形成されており、調査地点周辺はその段丘の南西端部に当たる（第3図）。



第3図 地形分類図・表層地質図

(3) 基本層序

本調査区は、主要地方道一関北上線沿いに細長く設定されている。遺構・遺物が確認された区域は、A区・D区・E区・凸区である。このなかでも、D区に集中し、堆積状況が比較的良好なA19及びA20グリッドの西壁を基本とし、E区のS D01西側の西壁、凸区の西壁で層序の確認を行った。各層(第4~6図、写真図版3)は以下のとおりである。

I層 現在の表土層である。2層に分層した。なお、D区の西側(B1~B5、D1~D3グリッド)では、III層までが一体化し、分離不可能であったため、I~III層という表記をしている。

I a層 10YR3/1黒褐 腐植土層。φ5~20mmの礫を多量混入する。層厚は約5~50cmである。

I b層 砕石層 金毘羅神社参道付近とD区南側で見られる。層厚は約5~20cmである。

II層 近年の盛土層で褐色~明黄褐色を呈する。3層に細分した。

II a層 10YR4/4褐 粘性無、しまり有 VII d層粒30%、炭化物粒1%混入。円区周辺のみに見られる。VII A層もしくはVII a層を起因とする盛土の可能性が高い。層厚は約10~30cmである。

II b層 10YR5/8黄褐 粘性無、しまり有 D区では濃淡の塊状を呈し、凸区より南側では黒褐色土塊が10%混入する。D区周辺では石器が多量に出土している。VII D層もしくはVII d層を起因とする盛土の可能性が高い。層厚は約2~30cmである。

II c層 10YR6/8明黄褐 粘性無、しまり有 φ0.5~4cmの碎石を多量に含む堆積層である。凸区周辺のみに見られる。VII a層を起因とする盛土の可能性が高い。層厚は約2~10cmである。

III層 近年の盛土層である。6層に細分した。

III a層 10YR2/3黒褐 粘性無、しまり有 VII層粒10%、炭化物2%、焼土粒1%を混入。乾燥すると黒色(10YR2/1)を呈する。S D01西側周辺のみに見られない。II b層と上下関係が反転する場所があり、II層との時間差がないものと考えられる。石器や土器が多量に出土している。層厚は約2~30cmである。

III b層 10YR7/6明黄褐~10YR8/8黄橙 粘性無、しまり有 φ1~2cmの礫、黒褐色土塊20~30%混入。重機による盛土層である。S D03周辺より南側で見られる。層厚は約5~140cmである。

III c層 10YR2/2黒褐 粘性無、しまり中~有 炭化物粒1%、橙色粒3%混入。S D03周辺より南側で見られる。層厚は約10~40cmである。

III d層 10YR2.5/2黒褐 粘性無、しまり中~有 炭化物粒1%、橙色粒3%混入。S D01西側周辺のみで見られる。層厚は約5~20cmである。

III e層 10YR3/2黒褐 粘性無、しまり中~無 黒色土塊30%、焼土粒1%、炭化物粒1%混入。全体的に酸化鉄が見られる。S D 01西側周辺のみで見られる。層厚は約5~20cmである。

III f層 7.5YR3/2黒褐 粘性無、しまり中~有 黒色土塊20%、暗褐色土塊10%、橙色粒10%混入。S D 01西側周辺のみで見られる。層厚は約5~40cmである。

IV層 旧耕作土層である。3層に細分したが、IV層とIV a・IV b層との前後関係は不明である。

IV層 10YR2/2.5黒褐 粘性無、しまり中 VII d層小塊5%、VI層粒3%、炭化物粒1%混入。φ1~2cmの礫少量含む。S D 03より北側で見られる。層厚は約5~30cmである。

IV a層 7.5YR3/2黒褐 粘性無、しまり中 橙色細粒5%、炭化物粒1%、φ0.5~2cmの礫少量混入。S D01西側周辺のみに見られる。層厚は約2~15cmである。

IV b層 10YR2/3黒褐 粘性無、しまり中~有 橙色細粒10%、炭化物粒1%混入。S D01西側周

辺のみに見られる。層厚は約5~40cmである。

V層 主に、縄文時代早期中葉～末葉の遺物を包含する堆積層である。本層上面が平安時代～中世の遺構検出面である。

7.5YR3/2黒褐 粘性無、しまり中～有 炭化物粒1%混入。層厚は約2~15cmである。

VI層 主に、縄文時代草創期～早期前葉の遺物を包含する堆積層で、ローム層との漸移層である。本層上面が縄文時代早期中葉の遺構検出面である。層厚は約2~20cmである。

7.5YR3/4暗褐 粘性中、しまり中～有 炭化物粒1%混入。

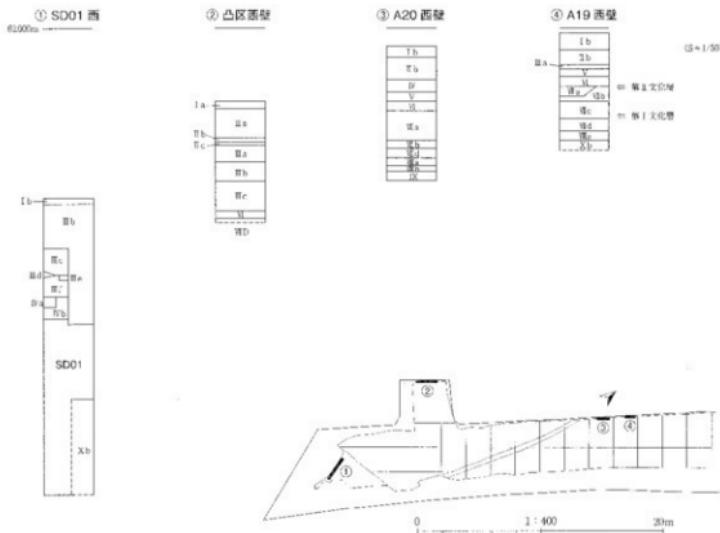
VII層 フラットドローム層で、後期旧石器時代の遺物を包含する。D区の西側（Aグリッド及びC16・21グリッド）周辺は沢状に落ち込んでおり、4層に細分したが、それ以外の場所ではVIIa層とVIId層に対応する細分しかできず、それぞれVIIA層・VII D層と表記した。

VIIa層 10YR4/6褐 粘性中、しまり有～中 凸凹北端～SD03より北側で見られるが、西側では $\phi 0.5\sim 1\text{cm}$ の礫を5%混入する。S b04はVIIA層に帰属し、細石刃が出土している。層厚は約10~35cmである。

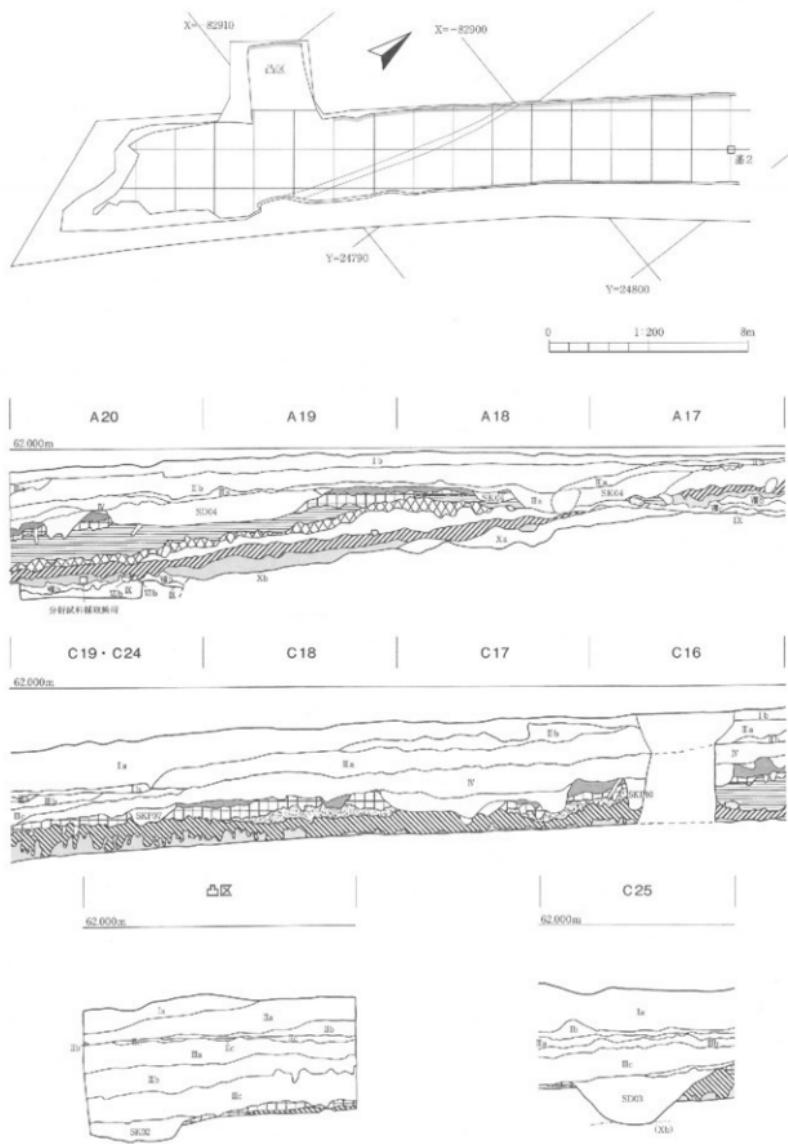
VIIb層 10YR4/6褐～10YR5/6黄褐 粘性中～無、しまり有 $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$ の酸化鉄粒が5~7%混入する。層厚は約5~15cmである。

VIIc層 10YR4/6褐 粘性無、しまり中～有 $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$ の酸化鉄粒2~3%、 $\phi 5\sim 10\text{cm}$ の礫1%混入する。S b02は本層に帰属する。層厚は約2~25cmである。

VId層 10YR4/6褐～10YR5/6黄褐 粘性無、しまり有 中央高地より南側では確認できるが、中央高地西側では最下部に $\phi 20\sim 30\text{cm}$ の礫が多量に混入し、それ以外では $\phi 0.5\sim 1\text{cm}$ の礫が少量混入する。S b03及びD1グリッド出土の石器は本層に帰属し、VIIa層との層理面に



第4図 基本層序

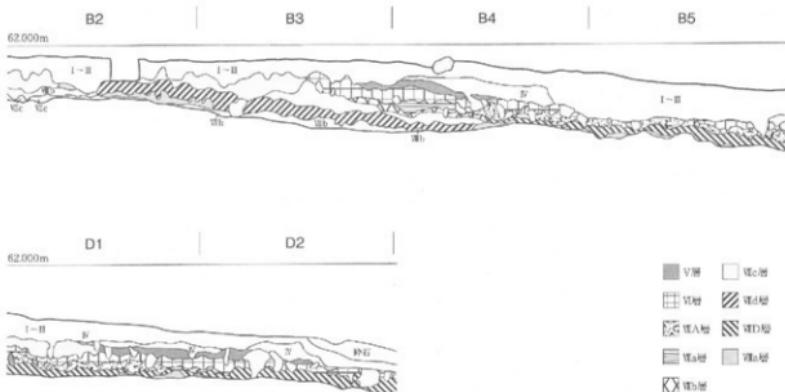


第5図 調査区土層断面図（1）

第1表 層名対応表

新層名	E区 SD 02付近	凸区	D区 CDグリッド	D区 ABグリッド	D区 基2以北	D区 落ち込み	C区
I a	I	I	I	I	I	I	I
I b	I b		I b			I b	
II a		I b					
II b		II	II	II	II	II	
II c		II b					
III a		III	III	III	III	(III)	
III b	盛	盛					
III c	①	①	①				
III d	①						
III e	②						
III f	③						
IV a	④						
IV b	⑤						
IV			IV	IV		IV	
V		(V)	V	V		V	
VI		VI	VI	VI		VI	
VII A		Ⅶ上	Ⅶ上	Ⅶ上		VII a	
VII a							
VII b						VII b	
VII c						VII c	
VII D		Ⅶ下	Ⅶ下	Ⅶ下	Ⅶ下	VII d	
VII d							
VII a	Ⅷ	Ⅷ	○	○	○	○	
VII b					○	○	
VII c					○	○	
IX	○				○	○	○
X a					○	○	
X b	○				○	○	○

※ ○は変更なし



第6図 調査区土層断面図（2）

貼りつくように出土している。VII D層の部分ではインボリューションが顕著に観察される。

S b 01がVII D層に帰属する。層厚は約2~25cmである。

VII 層 フラットドローム層で、遺物は包含されない。3層に細分した。

VII a層 10YR6/7 明黄褐色 粘性無、かたくしまる 酸化鉄粒が1~2%混入する。最上面ではサン・クラックが顕著に観察される。層厚は約2~25cmである。

VII b層 10YR5/6 黄褐色 粘性無~中、しまり中~有 酸化鉄粒が15%混入する。層厚は約2~10cmである。

VII c層 10YR5/6 黄褐色 粘性無、しまり中~有 酸化鉄粒が2~3%混入する。層厚は約2~10cmである。

IX層 黄褐色(10YR5/6)~明黄褐色(10YR6/6)を呈する粘土質のローム層である。にぶい黄橙(10YR7/3)と鹿ノ子状になっている。A区やC区では、にぶい黄橙が主体となっており、細分が可能であるが括して扱った。遺物は確認されていない。層厚は不明である。

X層 段丘を構成する基盤砂礫層である。黄褐色(10YR5/6)~明褐色(75YR5/6)を呈する。砂主体のX a層と礫主体のX b層に細分した。A20グリッドの北側で本層が急激に落ち込んでいる。層厚は不明である。

2 歴史的環境

北上市では東北新幹線、東北縦貫自動車道、東北横断道秋田線、工業団地建設等に伴って、緊急発掘調査が数多く行われている。現在のところ、北上市に所在する遺跡は岩手県教育委員会が作成した『岩手県遺跡情報検索システム（花巻・北上地方振興局管内）』によると504箇所（平成20年3月現在）が登録されている。時代別では旧石器時代が13箇所、縄文時代が277箇所、弥生時代が26箇所、古墳時代が5箇所、奈良・平安時代が254箇所、古代が22箇所、中世が94箇所、近世が21箇所等である（複合遺跡は複数計上）。当地域には、多くの遺跡が登録されているが、すべてにふれることは困難であり、近年刊行された岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第482集『金附遺跡発掘調査報告書』（財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006）、同第539集『境遺跡発掘調査報告書』（同2009）等にも同様の内容が詳しく述べられていることから、本遺跡が所在する稻瀬地区や主な遺跡を中心に概観する。

本遺跡周辺には、旧石器時代より人々の生活の痕跡を認めることができる。北上川対岸の相去町の下成沢II遺跡（報告書では下成沢遺跡）や場所は少し離れるが、和賀町の愛宕山遺跡が後期旧石器時代の、稻瀬地区岩脇遺跡（第7図2）が旧石器時代終末期の石器製作跡である。金ヶ崎町永沢には中期旧石器時代より営まれた柏山館跡があり、周辺では最古の遺跡となっている。北上市内には他にも旧石器の出土する遺跡が散見されるが、稻瀬地区と相去町で北上川を挟むこの地域にはやや集中して分布する傾向がみられる。

縄文時代草創期に入ると、周辺町区まで見渡しても遺物の出土はほとんどなくなり、人々の活動が一時に活発でなくなる様子がうかがえるが、本遺跡以外では、隣接する岩脇遺跡において当時の遺物が認められている。遺跡数が少なく、何とも言えないが、旧石器時代に続いて、当地域に分布する傾向がみられる。

早期は、稻瀬地区の阿弥陀堂遺跡・岩脇遺跡、相去町下成沢II遺跡、北上市仙人・水沢区佐倉河・真城・南矢中・黒石町に遺物の散布が認められるものの、明瞭な遺構は北上市煤孫・山口の石曾根遺

跡の後葉の表裏縄文式割のフラスコ状土坑1基のみである。本遺跡では早期中葉の土坑が1基検出され、当該期では最も古い段階の遺構と考えられる。

当遺跡周辺に縄文時代の集落があらわれるのは縄文前期後葉からである。江刺区岩谷堂の宝性寺跡・金ヶ崎町西根の和光6区遺跡などがこれにあたり、どちらも中期中葉まで営まれる。北上市鳩岡崎の鳩岡崎上の台遺跡の集落は末葉に始まりやはり中期中葉まで営まれる。北上市岩崎の梅ノ木台地Ⅱ遺跡では前期の埋設土器が検出されている。これらの前期にはじまる集落遺跡の中で最も特筆されるのが、稲瀬地区に所在し後期初頭まで営まれる国指定史跡櫛山遺跡（同10）であろう。堅穴住居跡に加えて検出された中期を中心とする30基余りの配石遺構は埋葬または祭祀を目的とした施設と考えられている。

中期を中心とする集落遺跡には、前述のものに加えて北上市横川日の蛭川館・鬼柳町の滝ノ沢遺跡（同31）、金ヶ崎町西根の中荒巻遺跡などがある。

後期の集落遺跡には、最大級の円形大型住居が検出され国指定史跡となっている北上市更木の八天遺跡、配石遺構や土坑墓をともなう江刺区伊出の久田遺跡などがある。

晩期の稲瀬地区には前葉～中葉の遺物が散布する相田遺跡（同14）がある。周辺の集落遺跡には、晩期中葉に営まれた北上市横川日の大橋遺跡、晩期後半に営まれ大量の生活用具が出土した同市九年橋の九年橋遺跡（同25）がある。

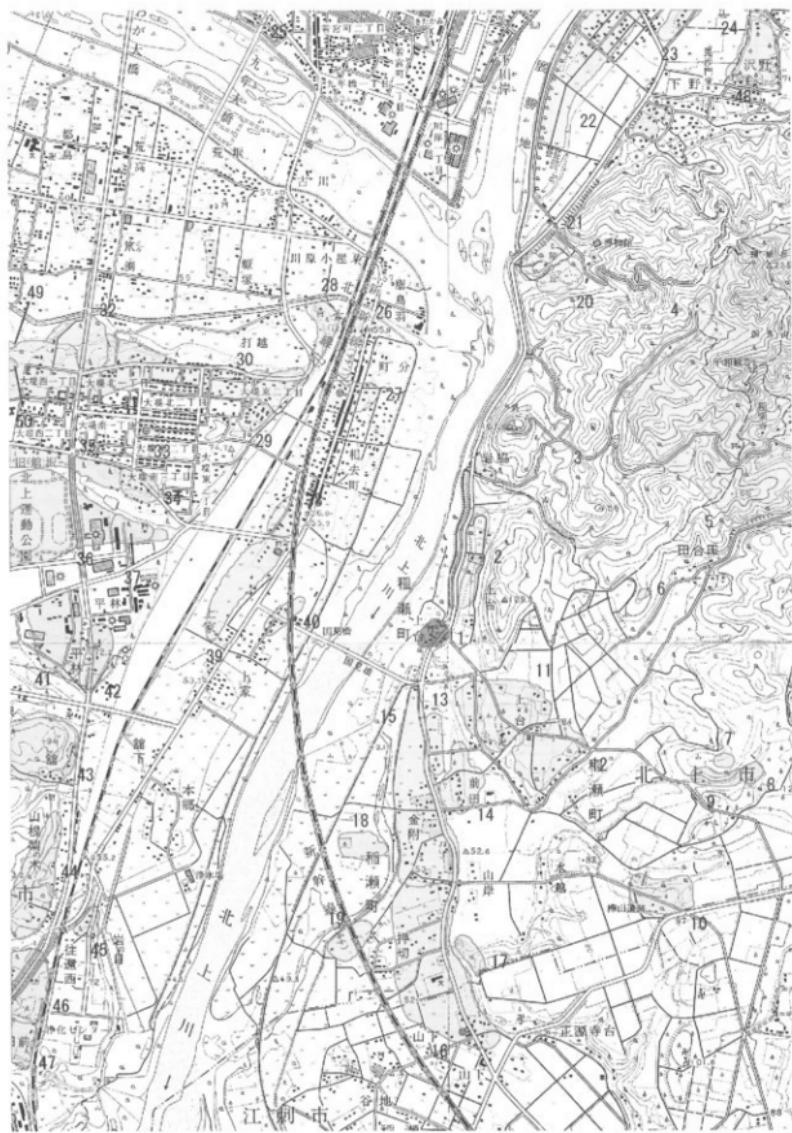
縄文時代晩期末から弥生時代初頭にかけては、稲瀬地区に所在する金附遺跡（同15）が挙げられる。土器・石器が大量に出土しており弥生中期までの石器製作集落であることがわかっている。周辺にも同時期の遺跡は比較的多く分布しているが遺構の検出された遺跡は少なく遺物散布地が主である。金附遺跡と隣接する境遺跡（同16）でも当該期の遺物包含層が確認されている。前述の相田遺跡（同14）にも金附遺跡と同時期の遺物の散布が見られ、「相田遺跡が本来の集落で、金附遺跡は石器製作を主とする作業場であった可能性が高い。」（財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006）と考えられている。集落遺跡としては、北上市更木に所在し、現在は二子城として登録されている馬場野遺跡・物見崎遺跡や北上市里分の牡丹畑遺跡などがある。

弥生時代になると、北上市岩崎の兵庫館（一六花館・二日市城）では墓域が、弥生初頭の谷起島式に次ぐ式部遺跡となっている江刺区愛宕の沼ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡では集落が、江刺区岩谷堂の反町遺跡では前期、水沢区佐倉河の常盤広町遺跡では後期の水田跡が確認されている。稲瀬地区の遺跡では全くことのできない遺跡として、境遺跡が挙げられる。平成19・20年度の発掘調査で、縄文時代晩期末からの遺物が出土しているが、不明瞭ながら当該期の住居状造構が3棟確認されている。このうち1棟には地床炉も検出され、前～中期に属すると想定している。住居状造構の北側には中期を主とする土器を伴う土坑がまとまって検出されており、居住にともなう貯蔵穴と推察している。

古墳時代の遺跡は少ない。稲瀬地区では確認されておらず、分布は和賀川流域に集中する。江釣子の猫谷内古墳群や長沼の長沼古墳群、上江釣子の猫谷地古墳群・五条丸古墳群、北鬼柳の八幡古墳群からなる国指定史跡江釣子古墳群などが代表的な遺跡である。

奈良時代の遺跡としては、8世紀に始まる大集落である上江釣子の塚遺跡、789年の蝦夷と征夷軍との交戦の跡が確認された北上市山口の羽黒山根Ⅰ遺跡、戦いに関係すると思われる消失住居が見つかった同市藤沢の藤沢遺跡などがある。

奈良時代の様々な抵抗むなしく平安時代の9世紀初頭には中央政権により水沢区佐倉河に胆沢城が築城される。稲瀬地区的瀬谷子窯跡は城に関わる瓦生産をした窯跡である。北上市上江釣子の下谷地遺跡や水沢区佐倉河の西大畑遺跡は官人に関わると思われる遺跡で、稲瀬地区でも上台遺跡（同



第7図 周辺の遺跡

第2表 周辺の遺跡

No	遺跡名	種別	時代	備考	所在地
1	齐羽场船	キャンプ地・集落・城館	山古志・縄文・平安・中世	昭和 46・58 年発掘調査	北上市福島町前田
2	岩屋	散布地・墳墓	旧石器～弥生・平安・近世	昭和 58・平成 6 年発掘調査	北上市福島町岩屋
3	男山	散布地	縄文		北上市福島町岩屋
4	西谷	散布地	平安		北上市福島町内門岡
5	阿見山鹿寺	寺院	平安	昭和 38・48・55・58・62・平成 1・2・8～16 年発掘調査 平成 16 年国指定史跡	北上市福島町内門岡・上台・岩屋・田舎田
6	舒羅山	蛭塚	古代末～中世		北上市福島町
7	岸沢山	蛭塚	古代末～中世		北上市福島町水越
8	下門内ひじり塚	埋葬	中世	昭和 44 年国指定史跡	北上市福島町水越
9	笠置沼	散布地	縄文		北上市福島町水越
10	佛山	集落	縄文		北上市福島町水越
11	安樂寺	散布地	縄文・弥生・平安	昭和 52 年国指定史跡	北上市福島町上白
12	上台	集落	平安	昭和 44 年発掘調査	北上市福島町上台
13	前田	散布地	縄文		北上市福島町前田
14	相田	散布地	縄文	昭和 60 年発掘調査	北上市福島町前田
15	金附	集落	縄文・弥生・平安	平成 14・15 年発掘調査	北上市福島町金附
16	堀	集落	縄文・弥生・平安・中世	平成 18～20 年発掘調査	北上市福島町堀城窓
17	俵岩	散布地	縄文・平安		北上市福島町大谷地
18	中谷起	散布地	縄文		北上市福島町中谷地
19	馬場崎	散布地	平安		北上市立花 14 地湖
20	尾勝地	散布地	平安		北上市立花 14 地湖
21	陣ヶ岡	城跡	中世		北上市立花 10 地湖
22	立花南	集落	平安・奈良・縄文	平成 13 年発掘調査	北上市立花 10 地湖
23	前1	散布地	縄文	平成 9・16 年発掘調査	北上市立花 9・9 地割
24	沢井	散布地	縄文		北上市立花町立花
25	九年橋	集落	縄文	昭和 50・53・57～61・平成 8 年 発掘調査	北上市立花橋 3 丁目
26	鬼柳西裏	集落・蛭塚	平安・縄文・中世・近世	昭和 50・51 年発掘調査	北上市鬼柳町西分
27	西野	散布地	平安	昭和 50 年発掘調査	北上市鬼柳町西野
28	白鶴院	城跡	中世		北上市鬼柳町白鶴
29	南館	墳壙・散布地	縄文・平安・近世	昭和 48 年発掘調査	北上市人妻東二丁目
30	大堤東	散布地	平安・縄文		北上市大堤東 1 丁目
31	流ノ沢	集落	縄文・平安	昭和 47・51・53・61～63・平成 1・4・9・13～16 年発掘調査	北上市鬼柳町下鬼柳 北上市相子野町流ノ沢・大堤
32	丸子船	城跡	縄文・弥生・平安・中世	昭和 47・55・平成 12 年発掘調査	北上市鬼柳町丸子船
33	中筋	集落	平安		北上市大堤南二丁目
34	者前森	集落	平安	昭和 56 年発掘調査	北上市相子町著前森
35	大堤	集落	平安・縄文	平成 10 年発掘調査 大堤運動公園内遺跡	北上市相子町昭和沢
36	高瀬壇Ⅱ	集落	平安・縄文	平成 1・4 年発掘調査 南部・上畠田内遠勢 大堤運動公園内遺跡	北上市相子町高瀬壇
37	高瀬壇Ⅲ	城跡	中世		北上市相子町高瀬壇
38	松ノ木	散布地	平安	昭和 50 年発掘調査	北上市相子町松ノ木
39	小櫻沢	散布地	縄文・平安	平成 14 年発掘調査	北上市相子町小櫻沢
40	八木堀	散布地	平安	昭和 49 年発掘調査	北上市相子町八ノ木
41	平林Ⅰ	集落	平安	南部・上畠田内遠勢	北上市相子町平林
42	平林Ⅱ	散布地	平安		北上市相子町平林
43	梅之城(姫野館)	城跡	中世		北上市相子町山根
44	山根梨ノ木	集落	平安		北上市相子町山根
45	岩ノ日館	城跡	中世		北上市相子町岩ノ日
46	和田尻	散布地	縄文		北上市相子町和田尻
47	和田舟	散布地	縄文	昭和 39 年発掘調査	北上市相子町和田舟
48	安納館(某館?)	城跡	中世		北上市立花 4 地割
49	卯ノ木	集落	縄文・平安	昭和 46 年発掘調査	北上市鬼柳町下鬼柳
50	南部伊達領境塙	遺跡	近世	平成 13 年国指定史跡	北上市

12) に 9 世紀初頭の当時は珍しい板谷造りの建物が検出された。築城に関わり周辺地域には人口の急増が起こり、多くの集落が形成される。北上市二子には西川目遺跡や野田 I 遺跡、立花の横町遺跡、水沢区姫体町の林前南館遺跡などの集落遺跡がある。集落跡と同時に、江刺区愛宕の宮地遺跡では 9 世紀後半の畠、落合遺跡では物資の集散地と考えられる遺構、力石 II 遺跡では 9 世紀初頭の鉄生産跡、

北上市更木に所在する山口遺跡では金属器や方形周溝、小川屋敷遺跡では金属器や墨書き土器、野沢Ⅱ遺跡では軒間や土師器焼成遺構が確認されている。成田の成田岩田堂館遺跡は当時の墓域であり、岩崎の岩崎城は9世紀末～11世紀の城館跡である。

胆沢城は、この地域の富裕者に寺院建立を奨励し、多くの寺院が建立されるようになる。それらの寺院の遺跡としては、北上市に更木の国指定史跡大竹庵寺、黒岩の白山庵寺、江刺区に岩谷堂の宝性寺跡などがあるが、この北上川左岸の信仰ゾーンの中心となったのが稻瀬地区の国指定史跡国見山庵寺（同5）である。857年には国見山東南にある極楽寺が定楽寺となっている。同じく稻瀬地区にある広岡前遺跡もこの時期の寺院跡である。

11世紀には、この地は安倍氏の支配下となり、前九年合戦（1051～62年）とかかわって周辺には金ヶ崎西根に鳥海柵、北上市川岸には黒沢尻柵などが造営されるようになる。安倍氏も仏教を奨励し、稻瀬地区は引き続き信仰の中心地であった。

平安時代の末に当たる12世紀は、平泉の藤原氏が隆盛を誇った時代である。江刺区岩谷堂の豊田城は藤原経清・清衡父子の居館と伝えられる。同市鳩岡崎の鳩岡崎三館は古代から中世の館跡である。

1189年平泉藤原氏が滅亡し、鎌倉時代以降のこの地は和賀氏が支配するようになる。このころ稻瀬地区の極楽寺は、源氏方の武将でありながら承久の乱に敗れ配流となった河野通信のあざかり先となっており、通信は1223年同寺で死去している。県指定史跡ひじり塚（下門岡ひじり塚）（同8）はその墓所で、死後彼の子である時宗闇舟一遍もこの地を訪れている。金ヶ崎町西根の柏山館跡と同遺跡内の松木館は領地を接する葛西氏の重臣柏山氏の居城である。南北朝時代になると、北上市鬼柳町の丸子館を居城とすると伝えられる鬼柳氏が北朝方に、須々孫氏が南朝方にといったように和賀氏内で同族争いがおこるようになり和賀氏は一度南朝方に属するが後に北朝方へついている。水沢区黒石町の正法寺は曹洞宗本寺として1348年に開山している。室町時代の15世紀前半には北上市二子町に和賀氏の本城として二子城が築城されるが安土桃山時代になると奥州仕置により和賀氏は領地を没収されてしまう。和賀氏は北上市岩崎の岩崎城で最後の決戦をしかけるが敗れ、中世の長きにわたる和賀氏の支配は終わるのである。本遺跡周辺の中世城館跡は、同地区的曾館（僧館）、煤孫の下煤孫館（観音館・煤孫城・古館）、江刺区には岩谷堂の岩谷堂城などがある。また、境遺跡では、薬研堀や墓壙が検出されている。

江戸時代には、稻瀬地区は伊達領仙台藩となり南部領盛岡藩の立花と接する藩境地区となる。1641年には藩境塹が置かれ、そのうち内野沖大塚は国指定、金ヶ崎城は町指定史跡となっている。黒沢尻河岸は南部藩の主要港となり奥州街道は五街道の1つとして整備される。国指定史跡である北上市成田と二子の一里塚や鬼柳町の鬼柳西浦遺跡にある南部藩御仮屋はその名残である。寿安堀・松岡堀・奥寺堀などと同様、稻瀬地区にも1653年に大堀、それに代わる新堀も1771年に完成し新田開発も盛んに行われるようになっていく。

齊羽場館跡は、過去に2度の発掘調査が行われた。昭和46年度には岩手県教育委員会、岩手大学教授の板橋源先生が中心となって9月10日から9月20日の間、発掘調査が行われた。実質7日という短期間であったが、後期旧石器時代（石器11点）、縄文時代（中期前葉～中葉の大木7b～8a式期を中心とし、早期中葉の物見台式併行期、前期前葉の大木1式期）、中世の遺構・遺物が検出され、複合遺跡であることが確認された。中世に関しては、詳細な構造などの検討はなされていないが、堀跡や柱穴などが検出され、16世紀末には及川若狭守吉種の居城があったとする「葛西御家臣衆座列」を裏付ける遺構が確認されたのは重要である。その後、昭和58年度に北上市教育委員会の分布調査が行われ、詳細な位置は不明であるが、堀跡が1条検出され、中世城館であることがさらに確認された。

III 調査の方法

1 野外調査

グリッドの設定 本調査区は主要地方道一関北上線（以下県道14号線と表記）を挟んで東西に分かれ、県道14号に沿って細長くなっている。また、金毘羅神社の参道、地形によって分かれており、試掘や表土除去の段階での遺物取り上げのために、区域名を付した。東側はA区、西側は北端部の斜面部をB区、金毘羅神社の参道より南側をF区とした。B区とF区の間は、基2周辺の中央部分が高く、その北側と南側が低くなっている、地形によって3つに分けた。基2周辺の平坦な部分から南側の斜面部をD区とし、北側のやや低い部分をC区、南側のやや低い部分をE区とした。E区には民家の進入路となる突出した場所があり凸区とした（第8図右下）。基準点はこれらの区域で少なくとも2点が確認できるように、世界測地系の基準点を以下のとおりに施設した。

基1 : X = -82,860.000, Y = 24,822.000, H = 60.950

基2 : X = -82,893.000, Y = 24,798.000, H = 62.125 位置：B 1

補1 : X = -82,883.000, Y = 24,806.000, H = 61.211

補2 : X = -82,908.000, Y = 24,790.000, H = 60.850

補3 : X = -82,923.000, Y = 24,773.000, H = 60.053

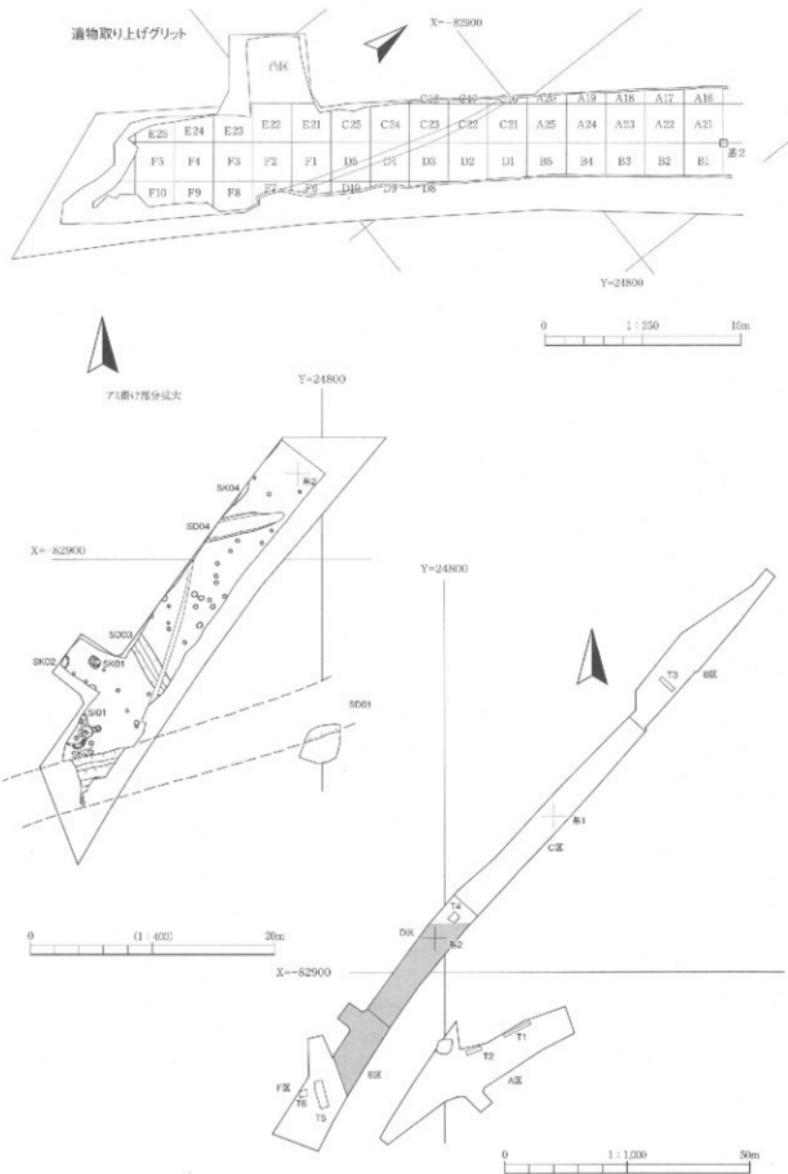
補4 : X = -82,920.000, Y = 24,807.000, H = 61.063

試掘の結果、遺構・遺物はD区・E区に集中していることが判明し、この区域にのみ、遺物取り上げ用にグリッドを設定した。グリッドは座標系ではなく、調査区に合わせて、基2と補1を結んだ線を基準線とし、これに直交・平行する線で10×10mを1区画としたものを設定した。そのため、グリッドの基準線は座標北より38.65度東に振ることとなる（第8図上）。また、後期旧石器時代の遺物が出土した過去の調査事例を考慮して、このグリッドを25分割した小グリッドを設定した。

試掘 調査区全体の表土掘削を行う前に、試掘を行っている。岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による試掘は、D区～E区に限定されていたため、B区・C区・F区の層序・造構密度等を確認するため行った。また、A区は市道部分を調査の対象となっており、道路使用許可の手続き完了を待ったため、半月遅れの試掘となった。試掘の結果、A区の市道部分、B区・C区・F区南端には遺構・遺物の確認される堆積層が残存していないことが確認された。E区では柱穴や縄文土器や土師器、D区・凸区では溝跡・柱穴、縄文土器などが出土し、盛土層直下から複数枚の遺物を包含する堆積層が存在することが予想された。

表土掘削 表土から平安時代～中世の遺構検出面であるV層上面までに、石器を中心とする遺物が多く出土したが、近年の盛土層や旧表土層であるため、作業効率を優先して、重機による表土掘削を行った。道路に面していたこともあり、特に安全に配慮しながら行った。

遺構検出・精査 検出作業は人力による作業に頼った。鍬籠を使用して、遺構の確認を行なった後に、移植ゴテを使用して掘削を行った。遺構の中心は土坑や柱穴などの小規模なものであったため、半剖法を中心に用いた。S I01堅穴住居跡は調査区で検出され、S D01廻跡西側、S D03溝跡、S D04溝跡は調査区を横断するように検出されたため、作業員の移動が困難にならないような場所に土層観察用のベルトを一篇所残して掘削を行った。掘削の際には、適宜サブトレーンチを設定し、堆積状況の把握を行っている。



第8図 全体図・グリッド配置図・構造配置図

遺構の命名 遺構名称は、竪穴住居跡がS I 、堀跡・溝跡がS D 、土坑がS K 、柱穴がS K P の略号を用い、検出順に01から使用した。S D02 、S K03は欠番となっている。S D02の欠番については、第V章で詳しくふれるが、S D01と同一遺構と判断したため、もとのS D01をS D01東側、S D02をS D01西側とし、S D02は遺物の混乱を招かないように欠番とした。S K03は精査の結果、現代の掘り込みであったため、欠番とした。

実測記録 遺構の実測は簡易造り方測量とトータル・ステーションを併用した平面図の作成、及び断面図の作成を行った。縮尺は1/20を基本とし、微細図などの記録には1/10を用いた。VI層以下の遺物の取り上げに関しては、株式会社C U B I C の遺構実測支援システム「遺構くん cubic_B タイプ Ver.3.02」を使用した。

写真記録 野外調査の写真撮影にあたっては、中判カメラ（6×7cm判）1台（モノクローム）と一眼レフデジタルカメラ（Canon 社製EOS 5D）1台を使用した。

2 室 内 整 理

遺構 遺構実測図は必要に応じて合成等の編集作業を行い、第2原図を作成した。その際に、掲示板にも番号が付されていたため、整理しなおして番号を変更している。遺物の観察表は変更後の名称を使用しているが、遺物の注記には変更前の名称が使用されているため、対応表を第3表に示した。遺構図の縮尺は図版毎にスケールを付すと同時に縮尺を記載したので参照して頂きたい。遺構図に使用した記号・網掛け等は凡例に示した。

遺構の計測は実測図、第2原図をもとに次の方法で行った。①主軸方向は基本的に長軸または長辺方向である。②長径は長軸方向の最大距離を、短径は長径に直行する軸で最大径を計測した。③深さは上端で最も高い部分と底面の比高差で計算した。④溝跡などの長大な遺構の長さはエリアカーブメータを使用し、遺構の中心線を3回計測した値の平均値を記載した。⑤溝跡の幅は長軸方向に直交する場所で計測した。

遺物 出土遺物は水洗、大別仕分け、出土地点の確認を行い、種類毎に次のとおりにした。遺物図版に使用した表現方法及び網掛け等は凡例及び第9・10図に示した。番号は選別時に種別毎に整理番号を付し、掲載遺物決定後に変更している。掲載番号は後期旧石器時代が1～、绳文時代が101～、平安時代が301～、中世が401～、時期不明が411～の番号を付した。掲載番号は本文、観察表、図版、写真図版すべて一致している。なお、表掲載のみの点取り遺物に関しては、フィールド時に使用した番号を使用した。

<土器類> 取り上げてきた袋毎に重量計測（g 単位：少数第1位を四捨五入）を行い、台帳に記載した。その後、注記を行い、接合作業と資料の選択・登録作業を行った。選択にあたっては全ての資料を登録・分類・図化する時間的余裕がないため、次の選定基準を設定し行った。①全体の形状が把握できるもの、②口径もしくは底径が算出できる資料、③胴部破片で反転実測が可能な資料、④口縁部もしくは底部の一部が残存する資料、⑤胴部の断片的な資料。基本的に①～③の基準で選別を行ったが、全体的に断片的な資料が多いことから、遺構内出土資料や文様のある資料、資料数の少ない器種については④や⑤から採用した。その後、必要に応じて石膏による復元作業を行い、拓影図作成を含む図化作業、トレース作業、写真撮影を行った。

<土製品> 土製品は点数が少ないと、注記は行っていない。時期の特定できないものであるため、写真撮影を行い、写真と観察表のみの掲載とした。

第3表 遺構層名対応表

遺構名	報告名	フィールド名	遺構名	報告名	フィールド名	遺構名	報告名	フィールド名									
S 1 01 (新)	1層 2層 3層 4層 5層 6層 7層 8層 9層 10層 11層 12層 13層 14層 15層 16層 17層	1層 2層 3層 4層 5層 6層 7層 8層 カマド1層 カマド2層 煙道1層 煙道2層 柱穴 カマド4層 カマド3層 カマド5層 貼床	S 1 01 (新)	18層 19層 20層 21層 22層 23層	下1層 下2層 下3層 下4層 下5層 下6層	S 1 01 (新) カマド	1層 2層 3層 4層 5層	カマド1層 ソデ1層 ソデ2層 ソデ3層 ソデ4層	S 1 01 (旧)	1層 2層 3層 4層 5層	煙道3層 煙道4層 煙道5層 カマド6層 カマド7層	S K 05	1層 2層 3層 4層	1層 2層 3層 4層	S D 01 西	1 a層 1 b層 2 a層 2 b層 3 a層 3 b層 4 層 5 層 6 層 7 層 8 層	1層 2層 2層 3層 3層 4層 5層 6層 7層 8層

＜石器・石製品＞ 野外調査中に、全点の洗浄を済ませ、点取り遺物全点とグリッド一括遺物の主なもの（二次加工や使用痕のあるもの）の選別・登録作業を行った。室内整理開始とともに重量計測（g 単位：少数第2位を四捨五入、大形の剥塊石器は少数第1位まで計測）を行い、台帳に記載した。その後、掲載遺物を選別し、図化・トレース作業を行った。後期旧石器時代の剥片石器と縄文時代の主な剥片石器の素図作成は作業の効率化を優先して外部（株式会社ラング）に委託した。他の剥片石器は小形のシールを用いて、簡便な注記を行い、素図作成終了を待って、頁岩製の剥片石器を中心に接合作業を約1ヶ月間行った。接合作業にあたっては、主に石器石材の色調により仕分けを行ったが、剥片・測離工程が復元できるような資料は得られなかった。

＜金属製品＞ 1点のみの出土で、掲載した。まず、簡単に土砂の除去を行った後、X線写真撮影を行い、もとの形状を確認した。その上で、図化作業を行った。機械を使用した銷落とは行っていない。図化終了後、トレース作業、写真撮影を行った。

写真 野外調査時に撮影した遺構などの写真には6×7cm判モノクローム、デジタルデータがある。モノクローム写真は主に保存用に撮影したもので、アルバムに整理し、台帳を作成した。デジタルデータはRAWデータとJPEGデータを同時に撮れるモードで撮影を行い、写真図版作成用に使用した。デジタルデータは当センターの規定に則った整理を行い、台帳を作成した。遺物写真は室内整理時にデジタルカメラでRAWデータとJPEGデータを同時に撮れるモードで撮影を行い、基本的にRAWデータを保存用に、JPEGデータを図版作成用にしている。これらの遺構写真と航空写真及び遺物写真で図版を作成した。なお、遺構の断面写真は基本的には図版の断面図と同じ方向から撮影したものである。

IV 分類基準

1 土器類

土器類には、縄文土器、土師器、須恵器、陶器、磁器がある。縄文土器、須恵器、陶器、磁器については、分類できるほどの数量がないため、個別に記載している。なお、縄文土器の一部には点取り遺物があり、表中ではJP(○)と略号を使用した。

土師器は壺、鉢、甕、小甕がある。甕や小甕、鉢は細分できるほどの種類がないため、それぞれ一括した。壺はすべてロクロを使用したもので、黒色処理の有無により内面に黒色処理を施したI類と非黒色処理のII類の2種に大別のみ行った。

2 石器・石製品

(1) 器種分類

出土石器の器種分類はこれまでの研究の中で確立し、一般に広く認識されているものを踏襲して下記のとおり分類した(第9・10図)。表中では括弧内の略号を使用した。

台形石器(T R) 素材剥片の鋭利な縁辺部を刃部とし、平面形を台形状に整形した石器。様々な名称で呼ばれることが多いが、北東北を中心とした近年の報告例を踏まえて、台形石器に統一した。

I類：素材剥片を倒位に用いる。縦長剥片を素材とし、二側縁全線に急斜度な二次加工が施されるもの(I a)と寸詰りの剥片を素材とし、主に、素材剥片の頭部側背面に二次加工が施されるもの(I b)がある。

II類：石刃や縱長剥片を数個に分割した剥片を素材とし、横位に用いる。素材剥片の鋭い縁辺を刃部に設定し、切断した部分に急斜度な二次加工が施される。

ナイフ形石器(K N : ★) 素材剥片の鋭利な縁辺部を刃部とし、他の部位に二次加工を施した石器。

彫器(G R) 素材剥片の一部に一条または数条の柄状剥離を施した石器。

彫器削片(G R S : ■) 彫器の彫刀面作出時に剥離されたと考えられる剥片。

搔器(E S : ▲) 主に素材剥片の端部半分以上に連続的な二次加工を施して刃部を作出した石器。

I類：素材剥片端部の背面側に急斜度な二次加工を施すもの。

II類：素材剥片端部の背面側に急斜度な二次加工が施されるとともに、腹面側に平坦剥離が施されるもの。

搔削器(E S S) 素材剥片の端部及び側縁の半分以上に連続的な二次加工を施して刃部を作出した石器。

I類：素材剥片端部の背面側に急斜度な二次加工を施し、側縁部の二次加工が一側縁のみに施されるもの。

II類：素材剥片端部の背面側に急斜度な二次加工が施されるとともに、腹面側に平坦剥離が施され、側縁部の二次加工が一側縁のみに施されるもの。

III類：素材剥片端部の背面側に急斜度な二次加工を施し、側縁部の二次加工が二側縁に施されるもの。

IV類：素材剥片端部の背面側(腹面側)に急斜度な二次加工が施されるとともに、腹面側(背面側)

に平坦剥離が施され、側縁部の二次加工が二側縁に施されるもの。

削器 (S S : △) 主に素材剥片の側縁半分以上に連続的な二次加工を施して刃部を作出した石器。

I類：側縁部の調整が一側縁のみに施されるもの。

II類：二側縁に調整が施されるもの。

錐形石器 (S A W : ▼) 素材剥片の一部に二次加工を施して錐状の尖頭部を作出した石器。

I類：摘み部を有するもの。

II類：棒状を呈するもの。

III類：素材剥片の一部に刃部のみを作出したもの。

抉入石器 (N O : ▽) 素材剥片の一部にえぐりの刃部を作出した石器。

楔形石器 (P A : ◇) 相対する縁辺に両板技法によって生じる線状もしくは点状を呈する特徴的な打面形状と細かい階段状の剥離痕が観察される石器。

石鎌 (S A R : ◆) 素材剥片の片面または両面に二次加工を施して、尖頭部を作出した石器。概ね、扁平で左右対称である。器長が5cm以下のものを本類とした。

I類：平基無茎鎌で、平面形が二等辺三角形を呈するもの。

II類：凹基無茎鎌で、基部の抉りが浅く、平面形が正三角形に近い形状を呈するもの。

III類：凹基無茎鎌で、基部の抉りが浅く、平面形が二等辺三角形を呈するもの。器長に対して器幅が1/2以上のもの (III a) と1/2未満～1/3以上のもの (III b) がある。

IV類：凹基無茎鎌で、基部の抉りが深いものであり、基部がやや丸みを帯びるもの。III b類のように器長に対して器幅が狭いものである。

V類：凹基無茎鎌で、基部の抉りが深く、平面形が二等辺三角形を呈するもの。

VI類：凸基有茎鎌。

VII類：上記以外のもの。

尖頭器 (P O : ◆) 素材剥片の両面に二次加工を施して、尖頭部を作出した石器。

範形石器 (S S P) 平面形が中軸線ではば左右対称の撮影もしくは輪円形を呈し、断面形がかまばこ状、台形状、凸レンズ状で、一端に刃部が作出されている石器。

石匙 (T S S) 両側縁から抉りを入れることで作出されたつまみ部とつまみ部とは異なる側縁に刃部を有する石器。

I類：縦形のもの。刃部の調整が片面のみのものと両面のものがある。

II類：横形のもの。

調整痕のある剥片 (石刃) (R F : □) 素材剥片の一部に二次加工を施した石器で、ナイフ形石器・台形石器・彫器・搔器・搔削器・削器・錐形石器・抉入石器・楔形石器・石鎌・尖頭器・範形石器・石匙以外のものを一括した。

I類：一側縁のみに二次加工が施されるもの。

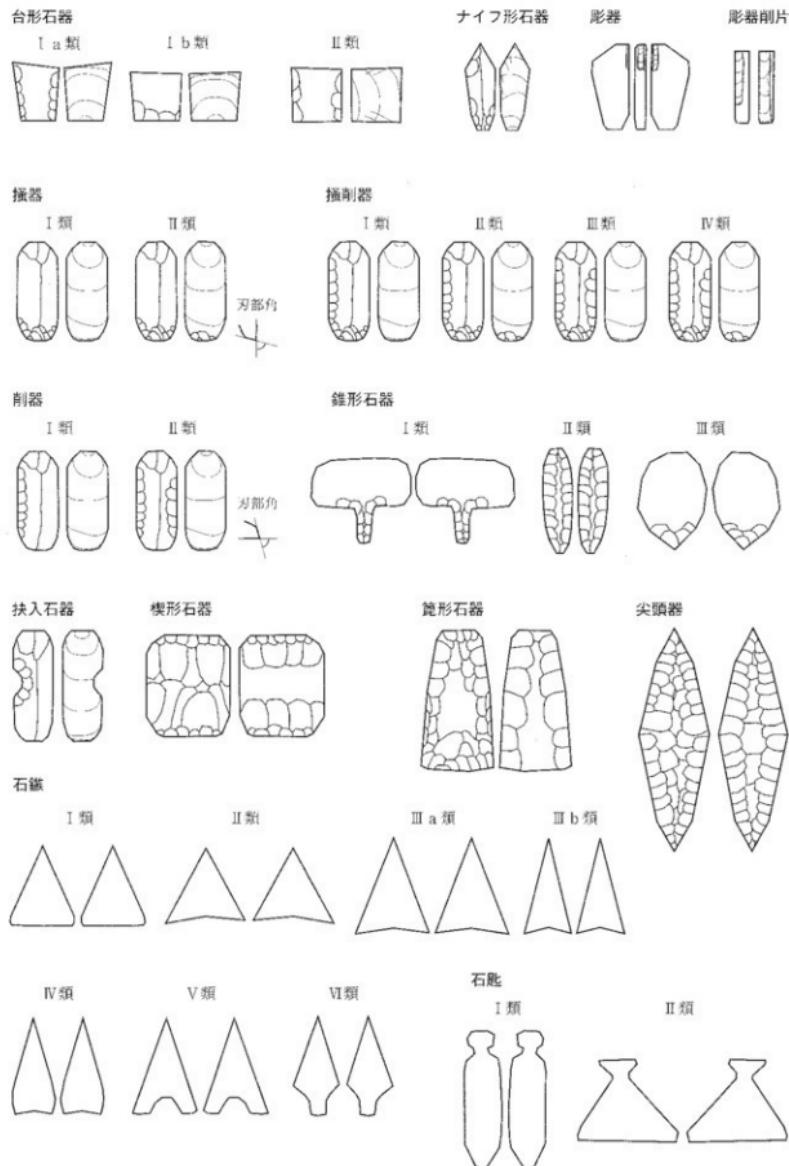
II類：二側縁に二次加工が施されるもの。

III類：複数の縁辺部に二次加工が施されるもの。

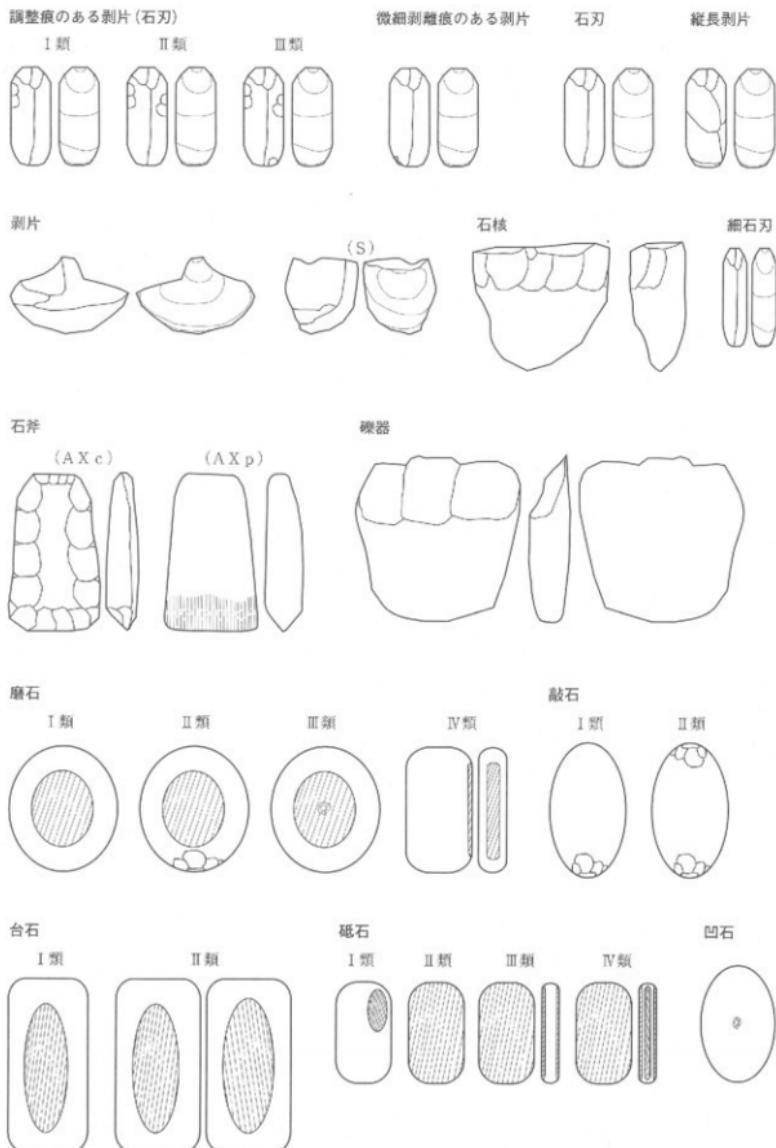
微細剥離痕のある剥片 (U F : □) 素材剥片の一部に調整痕ではない、細かな剥離痕が観察される石器。

石刃 (B L : ●) 器幅に対して器長が2倍以上で、両側縁がほぼ平行し、それに平行する稜をもつ石器。

縦長剥片 (B L F : ●) 器長が器幅の2倍以上であるが、石刃に該当しない剥片。



第9図 石器分類図（1）



第10図 石器分類図 (2)

剥片（F : ●） 石核やトゥール類から剥離されたもので、石刃・縫長剥片・細石刃・彫器削片以外の剥片。貝殻状を呈する剥片は分類の項目に「S」と表記した。最大器長・最大器幅のいずれもが1.5cm未満のものを鉢片（C）とした。

石核（CO） 剥片を剥離したと考えられる石器。

石斧（AX : ☆） 両面もしくは片面加工により、斧状の刃部を作出した石器。打製石斧（AX c）や磨製石斧（AX p）を一括している。

礫器（PT : ♦） 磨の一端に剥離調整を施して刃部を作出した石器。

磨石（GS : +） 磨に磨痕が観察される石器。

I類：磨面のみ観察されるもの。

II類：磨面と敲打痕が観察されるもの。

III類：磨面と凹部が観察されるもの。

IV類：礫の側面部に平坦な磨面をもつ所謂「特殊磨石」であるもの。

敲石（HS : ×） 磨の端部や側面にあばた状の敲打痕が形成されている石器。

I類：端部に形成されるもの。

II類：両端部に形成されるもの。

台石（AS : -） 扁平礫に打撃痕や磨痕の観察される石器。

I類：片面のみに使用痕跡が観察されるもの。

II類：両面に使用痕跡が観察されるもの。

砥石（WS : *） 磨の片面もしくは両面または、一部に磨痕の観察される石器。

I類：一面の一部のみに磨痕の観察されるもの。

II類：一面全体に磨痕が観察されるもの。

III類：平坦な二面に磨痕が観察されるもの。

IV類：複数の面に磨痕が観察されるもの。

細石刃（MB : ●） 器長が器幅の2倍以上で、両側縁がほぼ平行し、それに平行する稜をもつ剥片のなかで、器幅が1cm以下の剥片。

凹石（SW I） 磨の平坦な面に敲打による凹み状の痕跡が観察される石器。

石製品（SMO） 石刀・石剣類の範疇に収まるものをI類、欠損などにより不明のものをII類とした。

礫（PB : ○） 剥離痕、敲打痕、擦痕などの人為的な痕跡が観察されない石。

（2）石器石材分類

同一の原産に帰属する石器の一群である。資料全体を母岩別に分類するのが理想であると思われるが、接合資料が非常に少なく、原産まで復元可能な個体が皆無であるため、頁岩については、石器石材別の色調を中心とした分類を行うにとどめ、頁岩A（黒）・頁岩B（白）・頁岩C（灰）・頁岩D（茶）・頁岩E（黄）・頁岩F（赤）の6種類（6系統）、奥羽山脈系はa、北上山地系はbとした。その他の石材については、石材毎の点数がないため、分類を行わなかった。この分類は頁岩製石器すべての分類であり、第I文化層以前では頁岩A・C・D、第I文化層では頁岩A～E、第II文化層では頁岩A～F、縄文時代では頁岩A～Fが利用される。

V 検出遺構と出土遺物

1 後期旧石器時代

(1) 概 要

旧石器時代に帰属する遺構はブロック4箇所、遺物は台形石器をはじめとする石器が合計119点である。このうち座標3次元データを有する遺物は99点(第11図)である。出土遺物の組成を第4表に示した。

＜文化層＞ 本遺跡では奥羽山脈系の頁岩を石器石材として利用し、台形石器を中心とする石器群、石刃技法を多用する石器群、良質な珪質分の高い頁岩を主な石器石材として利用する細石刃石器群が出土した。石刃技法を多用する石器群は主にⅦD(Ⅶd)層を中心とし、第Ⅰ文化層とした。細石刃石器群は主にⅥ～ⅧA(Ⅷa)層を中心とし、第Ⅱ文化層とした。台形石器はプライマリーな堆積層

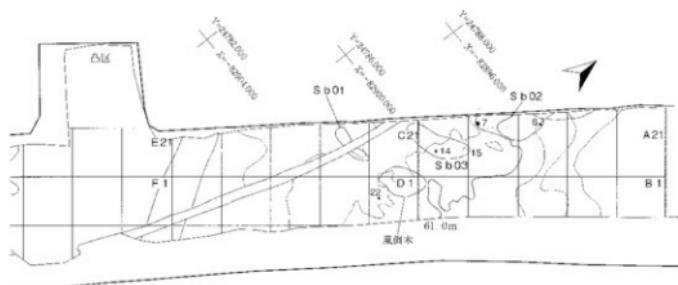
第4表 旧石器組成表

文化層	器種	石材	sh A	sh B	sh C	sh D	sh E	sh F	nsh	hor	san	tuf	an	dio	dac	serp	計
前	台形石器	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	ナイフ形石器	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	彫器削片	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	撲器	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	揉削器	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	削器	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	楔形石器	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	RF	2	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	UF	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
第Ⅰ文化層	石刃	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	縫長剥片	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	剥片	2	1	7	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	鉗片	2	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	石斧	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	螺旋器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
	施石	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	敲石	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	台石	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	1	1	0	0	10
	砥石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	礫	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	0	0	0	0	6
	計	7	1	23	12	3	0	2	0	6	6	3	3	2	1	69	
第Ⅱ文化層	彫器	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	揉器	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	RF	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	細石刃	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	縫長剥片	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	剥片	1	0	9	0	0	1	0	0	0	0	0	9	0	0	0	11
	鉗片	5	1	4	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
	螺旋器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	台石	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	礫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	計	7	1	16	15	1	1	0	2	0	0	0	1	1	0	0	45
	総計	15	2	41	29	4	1	2	2	6	6	3	4	3	1	119	



第11図 旧石器分布図

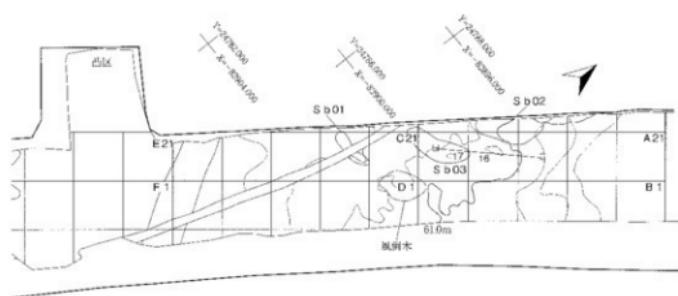
ナイフ形石器・彫器削片・搔器・楔形石器



62.0m ——

59.0m ——

RF・UF



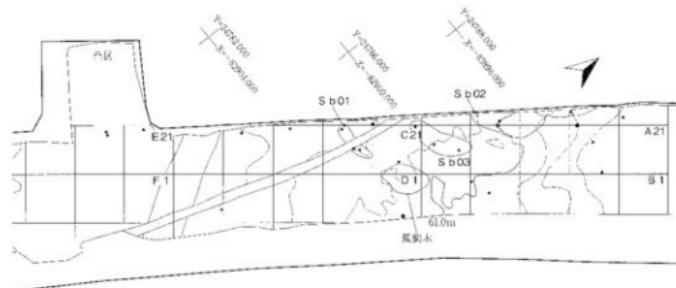
62.0m ——

59.0m ——

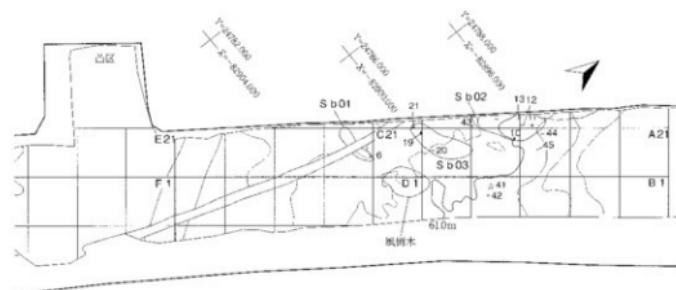
0 1:200 10m

第12図 器種別分布図（第I文化層1）

石刃・縫長削片・剥片・砂片

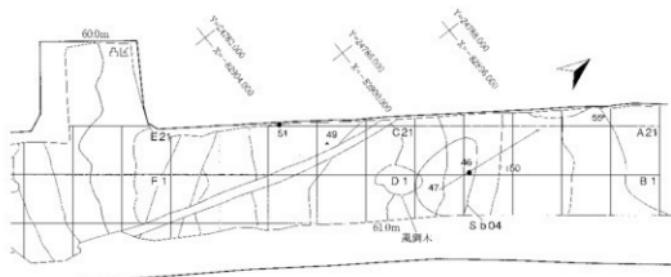


礪器・石斧・磨石・敲石・台石・砥石

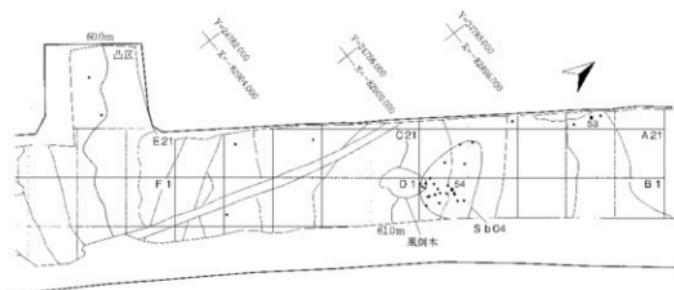


第13図 器種別分布図（第I文化層2）

搔器・R.F.・鍛石刃・樂器・台石



縦長剥片・剥片・碎片



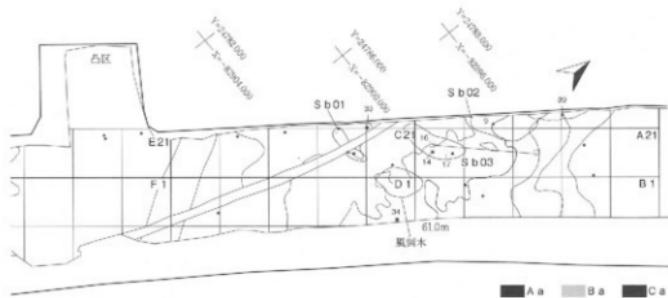
62.0m—

59.0m—

0 1:200 10m

第14図 器種別分布図（第II文化層）

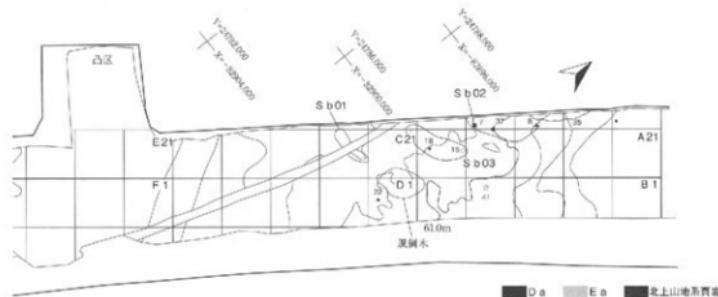
頁岩①



620m ——

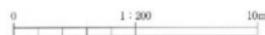
590m ——

頁岩②



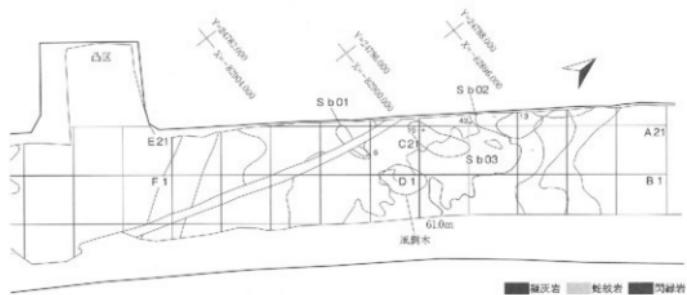
620m ——

590m ——

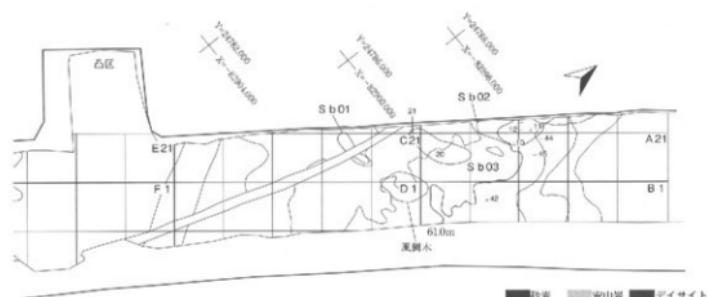


第15図 石器石材別分布図（第Ⅰ文化層1）

凝灰岩・蛇紋岩・閃綠岩

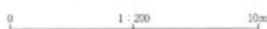


砂岩・安山岩・ディサイト



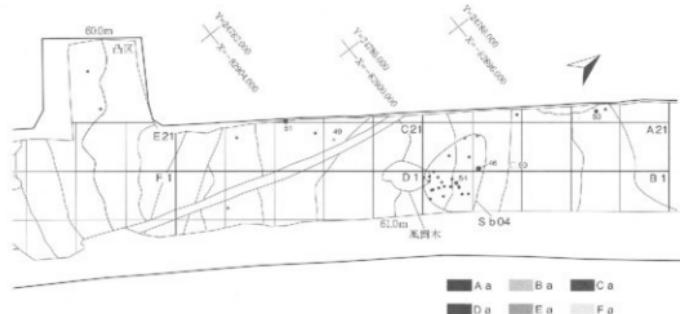
620m ——

590m ——

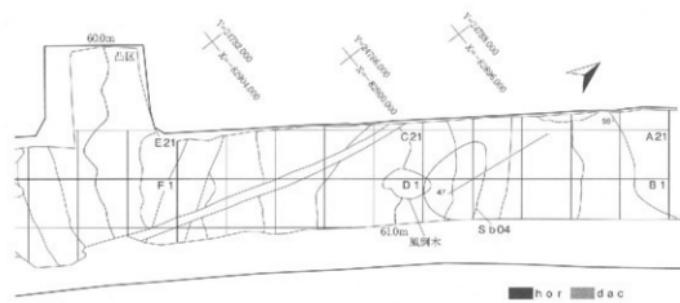


第16図 石器石材別分布図（第I文化層2）

頁岩



ホルンフェルス・デイサイト



620m ——

590m ——

0 1:300 10m

第17図 石器石材別分布図（第II文化層）

から出土したものが皆無であり、帰属する層序が不明瞭であるため、単独の文化層の名称は使用せず、第Ⅰ文化層以前の石器とした。

＜ブロック＞ 出土遺物は平面的に分布が密になっている部分が確認され、5点以上の石器で構成される部分をブロックとして把握した。このブロックは接合状況や器種組成の観察から導き出された有意の石器分布ではなく、平面分布のまとまりを示している。ブロックを把握する際には、個々の石器の直線距離が100cm以上離れているものを分離していき、区切られた範囲を一つのブロックとした。この方法で行ったブロックの分布図は、本来であれば非常に細かくうねった線で括られることになるが、規模や形態を捉え易くするため、最も範囲の外に位置する石器を結んで分布の範囲を決定した。そのため、分布図上はブロックの範囲の中に含まれる石器が観察表や図版ではブロック外出土となっていることがある。ブロックの範囲は野外調査時のものを基本としているが、室内整理時に再検討を行っている。その結果、S b 01・03は南に縮小、S b 02は西に縮小した。図版等では、S b の略号を使用した。

＜器種別の分布状況（第12～14図）＞ 本遺跡では多様な器種の石器が出土している。座標3次元データを記録した遺物を中心に器種別の分布を概観する。

第Ⅰ文化層：石器の分布はD区の北側西にあたるAグリッド内に集中する傾向がみられる。S b 02・03を構成する資料は本区域内にあり、定形的な石器にはナイフ形石器、搔器等がある。ブロック外に出土した台石3点も、この範囲内に分布する。この他ではブロック外の搔器がDグリッド内に、S b 01を構成する敲石がCグリッド内に、ブロック外の石斧や敲石がBグリッド内に分布している。

第Ⅱ文化層：本文化層はS b 04があるB 5グリッドに集中している。そのなかには、細石刃や台石が含まれている。それ以外の定形的な石器では、搔器・細石刃がCグリッド内に、礫器・台石がAグリッド内に分布している。

＜石器石材別資料（第15～17図）＞ 石器石材には、頁岩（A～F）、北上山地系頁岩、凝灰岩、蛇紋岩、安山岩、砂岩、閃緑岩、デイサイト、ホルンフェルスがある。座標3次元データを記録した遺物を中心に分布を概観する。

第Ⅰ文化層：本文化層には、頁岩A～E、北上山地系頁岩、凝灰岩、蛇紋岩、砂岩、閃緑岩、デイサイトがある。頁岩が全体の2/3を占め、その中でも、頁岩C（灰色）が圧倒的に多い。石器の分布は前述のとおりであるが、頁岩Cは南西側のEグリッドにも散在している。その他の石材はAグリッド内に集中する傾向がみられる。

第Ⅱ文化層：本文化層には、頁岩A～F、閃緑岩、デイサイト、ホルンフェルスがある。頁岩のみで90%以上を占める。そのなかでも、頁岩C（灰色）・頁岩D（茶色）が多い。

（2）第Ⅰ文化層以前の出土遺物（第18図、写真図版17）

概要 本群の石器には台形石器を当てた。この石器は第Ⅰ文化層の石刃石器群よりは明らかに古い石器群であるが、プライマリーな堆積層中からの出土がなく、帰属する層序は不明である。そのため、文化層とはせずに、第Ⅰ文化層以前の出土遺物とした。

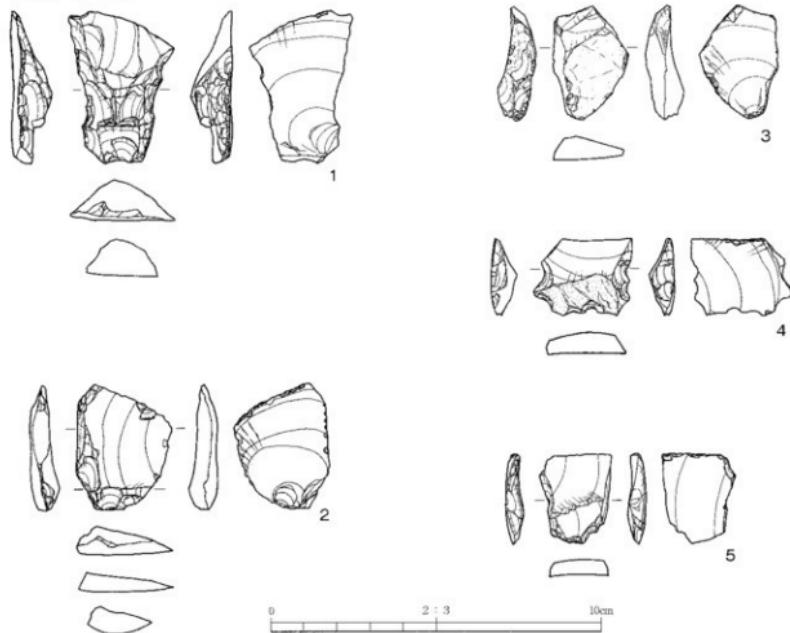
台形石器（1～5） 1は縦長剥片を素材としている。素材剥片を倒位に用い、素材剥片端部の鋭い縁辺を刃部に設定し、その他の側縁に二次加工を施している。特に、素材剥片の両側縁の二次加工は急斜度なもので、断面形は三角形形状を呈する。2・3は寸詰りの不定形剥片を素材としている。1と同様、素材剥片を倒位に用い、素材剥片端部の鋭い縁辺を刃部に設定している。主に、素材剥片の左側縁の頭部側背面に急斜度な二次加工が施されている。3は端部の一部を腹面側から切断している。

4・5は石刃を素材としている。素材剥片の両端を切断後、切断した二側縁に二次加工を施して、台形に整えている。4は素材剥片の左側縁を刃部に、5は素材剥片の右側縁を刃部に設定している。

第5表 石器観察表（第I文化層以前）

掲載 No	器種	位置	出土 層位		石材	分類	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)	写真 No		
			Ⅲ層	Ⅰ層									No		
1	TR	D区	Ⅲ層	sh	D a	I a	4.68	3.14	1.24	109		11.21		18	17
2	TR	D区	Ⅲ層	sh	A a	I b	3.84	2.90	0.87			7.89		18	17
3	TR	C区	I層	sh	D a	I b	3.50	2.31	1.12			6.25		18	17
4	TR	D区	Ⅲ層	sh	C a	II	2.39	3.02	0.78			5.36		18	17
5	TR	D区	搅乱層	sh	C a	II	2.78	2.19	0.55			3.30		18	17

【石材】sh：頁岩



第18図 第I文化層以前の出土遺物

(3) 第I文化層のブロック

S b01 (第19図、写真図版5)

【規模と形状】D区中央、C22グリッドに位置し、ほぼ中央部を水道管によって分断されている。分布範囲は長辺1.8m、短辺0.6mで三日月状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向とほぼ並行しており、東側に約85度傾いている。遺物の標高は60.507~60.755mの範囲である。地形の傾斜方向と並行して分布しているため、分布幅が約25cmと広い。層位はⅦD層である。

【石器器種組成】剥片2点、碎片2点、敲石1点の合計5点で構成され、敲石以外のトゥールは含まれない。

【石器石材】頁岩A1点、頁岩B1点、頁岩C2点、凝灰岩1点で構成され、頁岩の占める割合が高いのは、本文化層の特徴を示している。石材別総重量は、第6表のとおりで、点数が少ないものもあり、凝灰岩の割合が高くなっている。

【出土遺物】(第21図、写真図版17)

図化したのは敲石1点のみである。小形の棒状のもので、両端に明瞭な敲打痕が観察される。

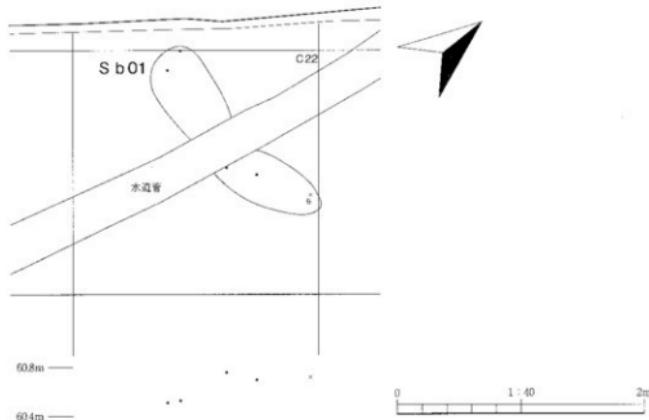
S b 02 (第20図、写真図版5)

【規模と形状】D区北側、A18・A19・A23・A24グリッドに位置し、北西側は調査区外に広がっている。確認できた分布範囲は長辺27mである。長軸方向は地形の傾斜方向とほぼ並行しており、東側に約40度傾いている。遺物の標高は61.005~61.269mの範囲で、地形の変化点にあたり分布幅が約26cmと広い。出土層位はⅦc層である。

【石器器種組成】彫器削片1点、搔器1点、剥片1点、蝶器1点、磨石1点、台石3点の合計8点で構成される。第I文化層のブロックの中では、剥片類が少なく、加工工具や石器製作に係る道具などの比率が高い特徴が見られる。

第6表 S b 01 石器組成表

器種	点数(点)	石 材				重量(g)	石 材			
		sh A	sh B	sh C	tuf		sh A	sh B	sh C	tuf
F	2	0	1	1	0	1.7	0.0	1.3	0.4	0.0
	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	7.1	0.0	5.3	1.8	0.0
C	2	1	0	1	0	0.5	0.1	0.0	0.4	0.0
	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	2.0	0.4	0.0	1.6	0.0
H S	1	0	0	0	1	22.3	0.0	0.0	0.0	22.3
	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	90.9	0.0	0.0	0.0	90.9
合計	5	1	1	2	1	24.5	0.1	1.3	0.8	22.3
	100.0	20.0	20.0	40.0	20.0	100.0	0.4	5.3	3.3	90.9

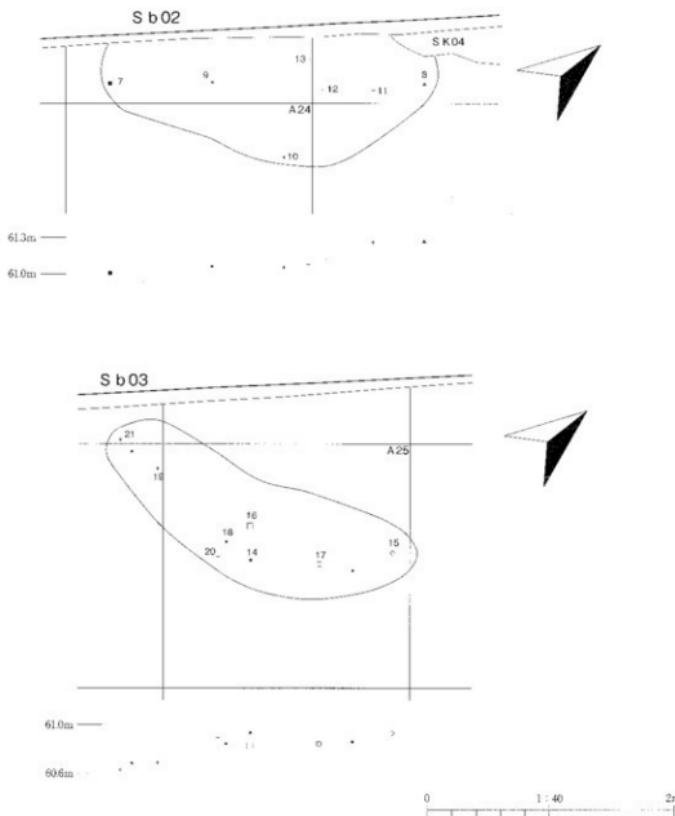


第19図 S b 01

【石器石材】頁岩C 1点、頁岩D 2点、安山岩1点、砂岩2点、閃綠岩1点、ディサイト1点で構成される。剥片石器の占める割合が他のブロックより低いため、相対的に頁岩以外の石材の占める割合が高い。石材別総重量は、第7表のとおりで、砂岩・閃綠岩・ディサイトの割合が高くなっている。

【出土遺物】（第21図、写真図版17・18）

構成する遺物のうち、彫器削片1点、搔器1点、蝶型1点、台石1点を図化し、剥片1点、磨石1点、台石1点を写真掲載とした。7は残存する腹面の観察から、素材剥片を倒位に利用した彫器の右肩から剥離された削片と推察できる。背面には剥離方向と同一方向の彫刃面が残存しており、同一方向から多条の横状剥離を施していると判断できる。8は縦長剥片を素材としている。刃部は直線的な上面観を呈している。稜上には横方向からの剥離面が見られる。9は貝殻状を呈する剥片である。10は安山岩製の礫器である。扁平な円形の河原石を利用し、片面に粗い二次加工を施して刃部を作出し



第20図 S b 02・S b 03

第7表 S b 02 石器組成表

器種	点数 (点)	石 材						重量 (g)	石 材						
		%	sh C	sh D	an	san	dio	dac	%	sh C	sh D	an	san	dio	dac
G R S	1	0	1	0	0	0	0	0	24	0.0	24	0.0	0.0	0.0	0.0
	125	0.0	125	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
E S	1	0	1	0	0	0	0	0	9.7	0.0	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	125	0.0	125	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
F	1	1	0	0	0	0	0	0	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	125	0.0	0.0	125	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
P T	1	0	0	1	0	0	0	0	660.3	0.0	0.0	660.3	0.0	0.0	0.0
	125	0.0	0.0	125	0.0	0.0	0.0	0.0	64	0.0	0.0	64	0.0	0.0	0.0
G S	1	0	0	0	1	0	0	0	464.5	0.0	0.0	464.5	0.0	0.0	0.0
	125	0.0	0.0	0.0	125	0.0	0.0	0.0	45	0.0	0.0	45	0.0	0.0	0.0
A S	3	0	0	0	1	1	1	1	9175.0	0.0	0.0	0.0	3060.0	3820.0	2296.0
	375	0.0	0.0	0.0	125	125	125	125	889	0.0	0.0	0.0	297	370	222
合計	8	1	2	1	2	1	1	1	10315.6	3.8	121	660.3	3524.5	3820.0	2296.0
	100.0	125	25.0	125	25.0	12.5	12.5	100.0	0.0	0.1	64	342	37.0	22.2	

第8表 S b 03 石器組成表

器種	点数 (点)	石 材						重量 (g)	石 材							
		%	sh A	sh C	sh D	sh E	an	dac	serp	%	sh A	sh C	sh D	sh E	an	dac
K N	1	0	1	0	0	0	0	0	7.5	0.0	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
P A	1	0	0	1	0	0	0	0	2.7	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R F	1	0	1	0	0	0	0	0	19.7	0.0	19.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
U F	1	0	1	0	0	0	0	0	14.4	0.0	14.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
F	3	1	0	1	1	0	0	0	24.9	15	0.0	1.1	224	0.0	0.0	0.0
	30.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.1	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
P T	1	0	0	0	0	0	0	1	728.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	728.1
	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.8
A S	1	0	0	0	0	1	0	0	1594.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1594.7
	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	56.4	0.0	0.0	0.0	56.4	0.0	0.0	0.0
W S	1	0	0	0	0	0	1	0	4347	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4347
	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4
合計	10	1	3	2	1	1	1	1	2826.6	1.5	41.5	3.7	22.4	1594.7	4347	728.1
	100.0	10.0	30.0	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	100.0	0.1	1.5	0.1	0.8	56.4	15.4	25.8

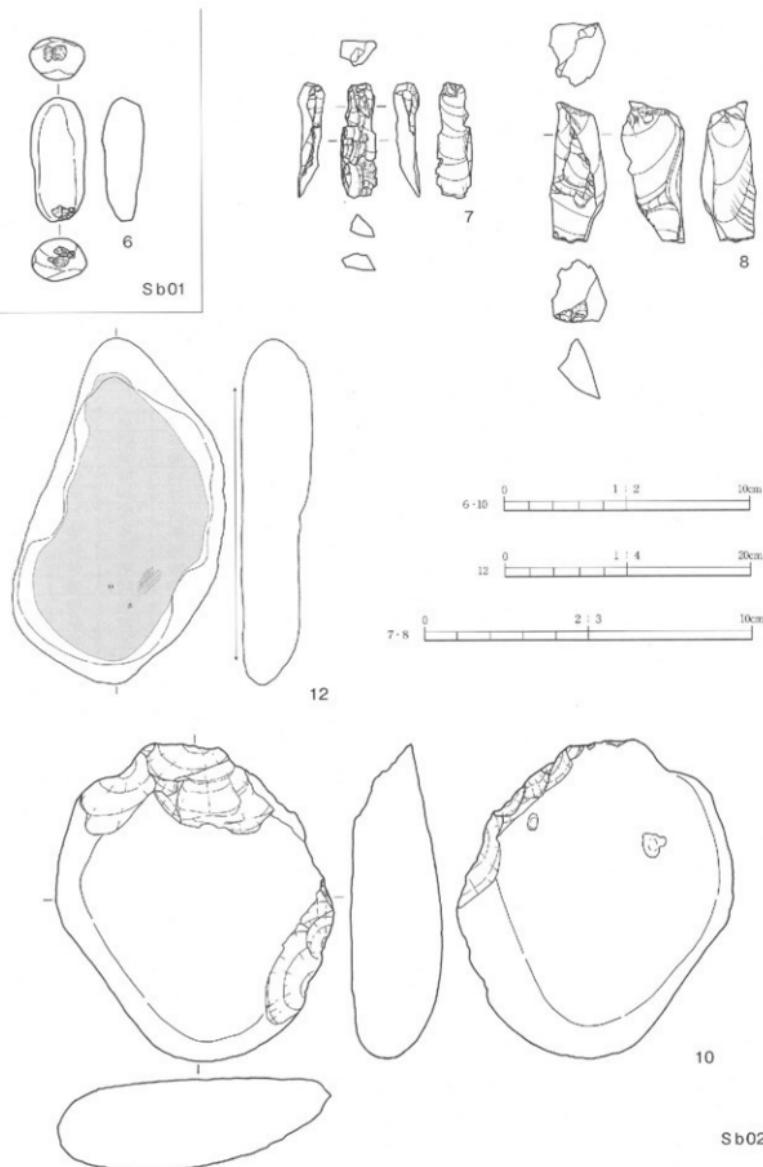
ている。右側縁側は、上半は裏面に、下半は表面に、全体の形状を整える調整を施している。11は掌に取まるサイズの河原石を利用した砂岩製の磨石である。使用面は表裏2面である。12は大形で扁平な河原石を利用した砂岩製の台石である。13は人頭大のブロック状の河原石を利用した閃緑岩製の台石である。12・13の使用面は1面である。

S b 03 (第20図、写真図版5)

〔規模と形状〕 D区中央、A25グリッド付近に位置する。分布範囲は長辺2.6m、短辺1.0mで三日月状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向とほぼ並行しており、東側に約62度傾いている。遺物の標高は60.626~60.934mの範囲である。地形の傾斜方向と並行して分布しているため、分布幅が約30cmと広い。出土層位はⅦd層である。

〔石器種類組成〕 ナイフ形石器1点、楔形石器1点、R F 1点、U F 1点、剥片3点、礫器1点、台石1点、砥石1点の合計10点で構成される。

〔石器石材〕 貝岩A 1点、貝岩C 3点、貝岩D 2点、貝岩E 1点、安山岩・デイサイト・蛇紋岩各1点で構成される。多様な石材を利用しているが、本文化層の特徴である貝岩C・Dの占める割合が高い

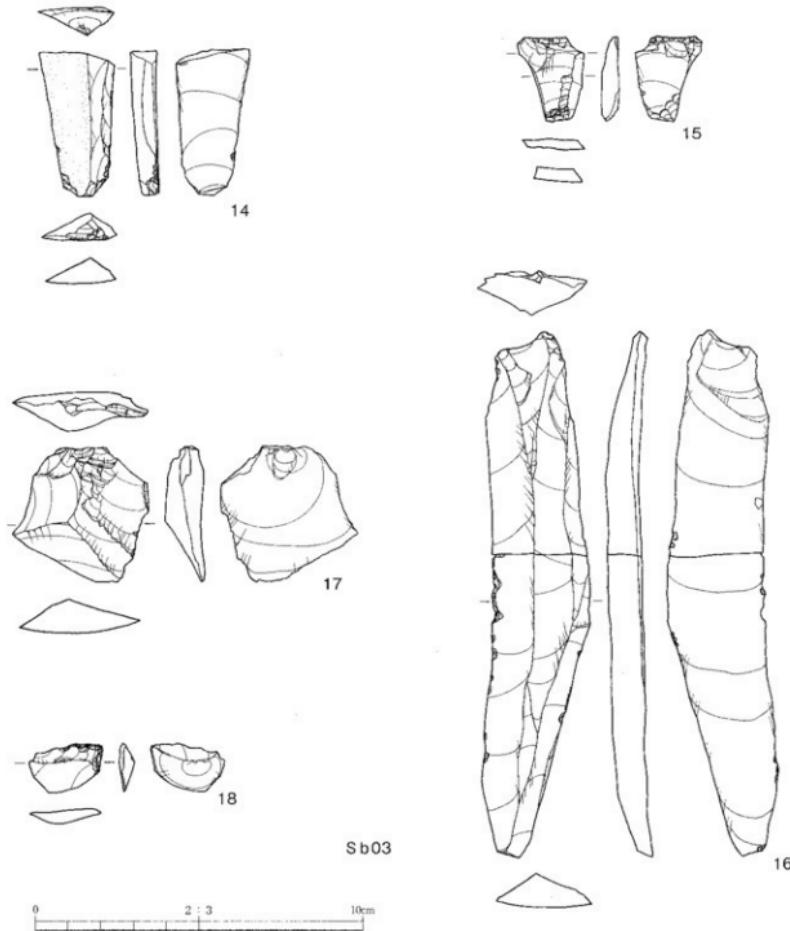


第21図 第I文化層の遺物（1）

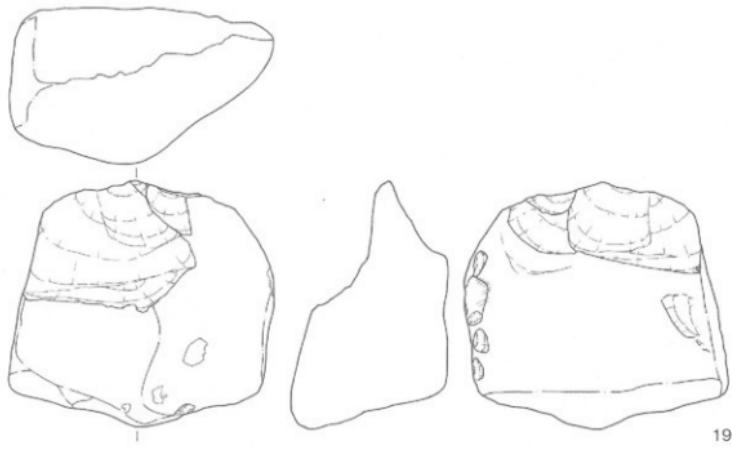
くなっている。石材別総重量は、第8表のとおりで、安山岩の占める割合が高い。

〔出土遺物〕（第22・23図、写真図版18）

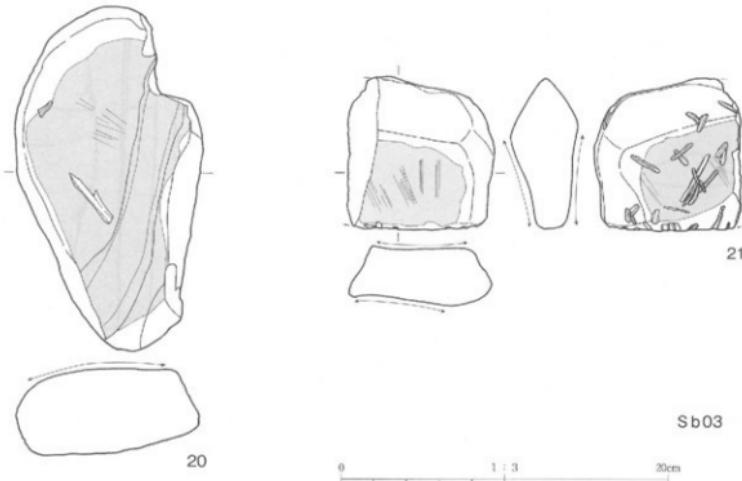
ナイフ形石器1点、楔形石器1点、RF1点、UF1点、剥片1点、疊器1点、台石1点、砾石1点を図化した。14は上半部を欠損したナイフ形石器である。バルブを除去するように、素材剥片の頭部側を背面側から切断した後、素材剥片の左側縁背面側に急斜度な二次加工を施している。実測図右側縁には刃こぼれと考えられる微細剥離痕が断続的に観察される。15は頁岩製の楔形石器である。相対する剥離は両端の縁辺部にとどまる。両極技法による衝撃によって、大きく欠損している。16は左



第22図 第I文化層の遺物（2）



19 0 1 : 2 10cm



0 1 : 3 20cm

第23図 第I文化層の遺物 (3)

側縁の中央部に断続的な調整痕が観察される大形の石刃である。2点が接合したもので、いずれの面も背面側からの欠損である。腹面の両側縁にも断続的な微細剥離痕が観察される。背面の剥離構成を観察すると、両設打面石核から剥離されたものであることがわかる。17は不定形な剥片の右側縁の一部に微細な剥離痕が観察される。18は貝殻状を呈する剥片である。背面の上端の一部に微細な剥離痕が観察され、何らかのツールから剥離された剥片の可能性が高い。19は蛇紋岩製の礫器である。方形形状の河原石を利用し、両面に粗い二次加工を施して刃部を作出している。裏面の右側縁寄りの一部に線状痕が観察される。20は安山岩製の台石である。細長く、持ち運びが容易な大きさの河原石を利用している。使用面は1面である。21はデイサイト製の砥石である。欠損しているため、全体の形状は不明であるが、長方形の河原石を利用したものと考えられる。使用面は2面で、裏面には溝状の使用痕が観察される。

(4) 第I文化層のブロック外出土遺物(第24~27図、写真図版18~20)

搔器(22・23) 22は継長剥片素材で、上半部を欠損している。素材剥片を正位に用い、端部背面の縁辺部及び腹面に二次加工を施して刃部を作出している。両側縁にも微細な剥離痕が観察される。23は右刃素材で、上半部を欠損している。素材剥片を正位に用い、端部背面に二次加工を施して刃部を作出している。腹面に、背面右側縁を打面とした剥離面が連続して観察でき、小形不定形剥片を目的とした石核に転用している可能性が考えられる。

搔削器(24~26) 3点とも右刃素材で、24は正位、25・26は倒位に素材剥片を用いている。端部と両側縁背面のほぼ全縁に二次加工が施されている。24は頭部調整と打面調整が行われ、打面との稜は摩耗している。25は上端を除く縁辺部に使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が観察される。刃部の上面観はカーブのきつい弧状を呈する。26は奥羽山脈系の良質な頁岩を利用したものである。ほぼ全周に微細な剥離痕が観察される。端部の刃部は尖頭状を呈している。

削器(27) 大形の継長剥片を素材としている。両側縁とも微細な剥離痕が観察され、特に、右側縁は顕著である。打面から左側縁上部の一部を欠損しているため、打面の形状は不明である。

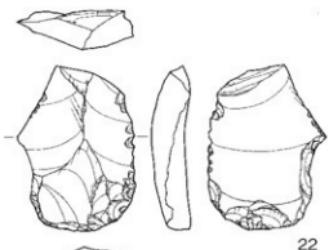
R F(28~31) 28は下半部を大きく欠損している。右側縁背面側に連続的な二次加工が施されている。打面側は折損後、細かな二次加工が施され、左側面側に1回の調整を施している。彫器の調整に類似しており、彫器の可能性が考えられる。29は素材剥片の打面側を折損後、細かな二次加工を施している。両側縁には連続する微細な剥離痕が観察される。30・31は石刃の頭部のみの資料である。30は左側縁背面に二次加工が施されている。調整部位には微細な剥離痕が観察される。31は左側縁と右側縁の一部に二次加工が施されている。右側縁には微細な剥離痕が観察される。

U F(32) 単剥離面打面の右刃で、左側縁端部に微細な剥離痕が観察される。頭部調整は施されるがごく一部にとどまる。背面は剥離方向と同一方向のみの剥離面で構成される。

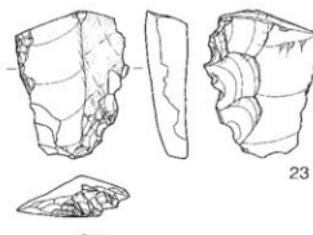
石刃(33~36) いずれの資料も背面は剥離方向と同一方向で構成されている。33は、打面調整が行われるもの、明瞭な頭部調整は行われず、最大幅はほぼ打面幅に相当している。端部を欠損している。34は頭部調整が行われ、頭部の上面観が山状を呈している。35・36はほぼ完形の石刃である。単剥離面打面で、最大幅は打面付近に位置する。

剥片類(37~40) 37・38は継長剥片である。単剥離面打面で、打面幅は最大幅と比較すると、かなり小さい。39・40は不定形の剥片である。39は一部のみで、詳細は不明である。40の左側面の一部には背面を打面とする剥離面が残存しており、打面調整もしくは、打面再生剥片の可能性がある。

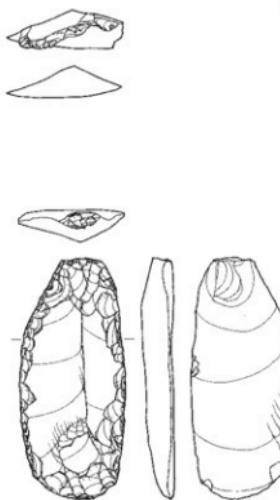
斧形石器(41) 北上山地産の頁岩製の斧形を呈する石器である。河原石を数個に分割し、扁平な剥



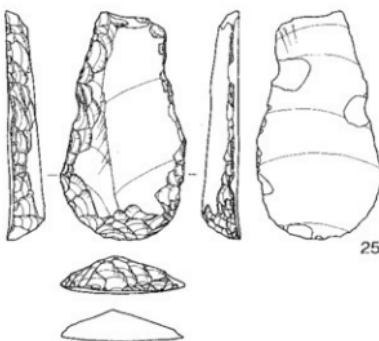
22



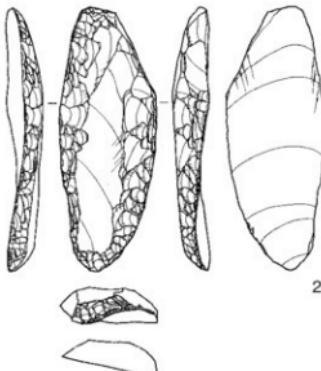
23



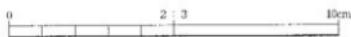
24



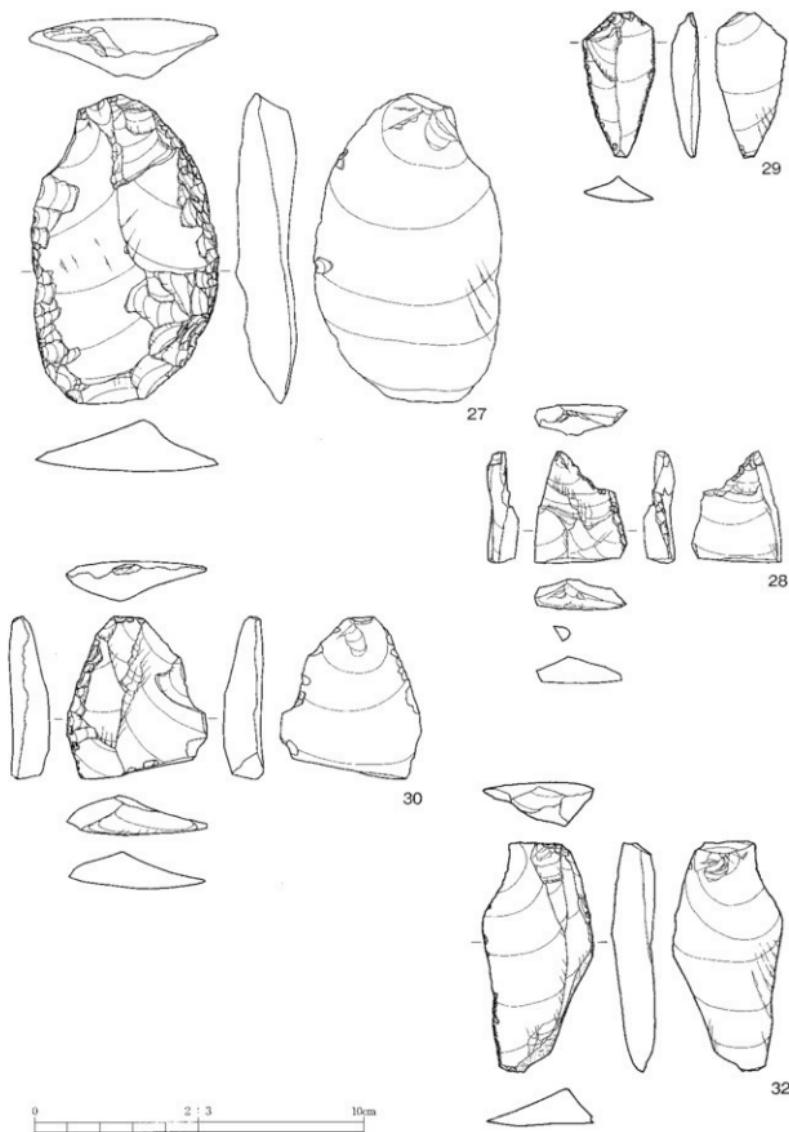
25



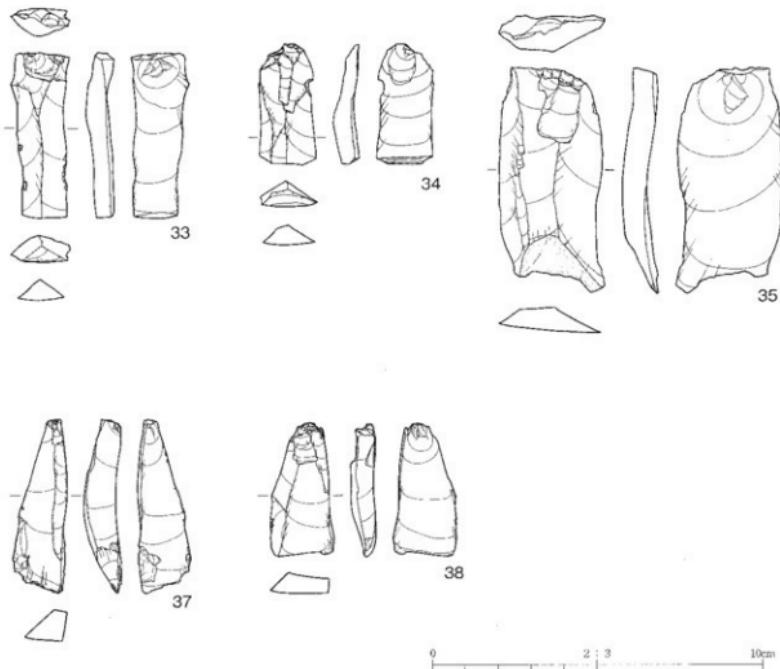
26



第24図 第I文化層の遺物(4)



第25図 第I文化層の遺物（5）



第26図 第I文化層の遺物（6）

第9表 石器計測表（第I文化層）

器軸 No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
6	5.06	2.18	1.72			22.28
7	3.54	1.10	0.78	99		2.35
8	4.35	1.67	1.89	116	76	9.70
9	2.36	2.70	0.71	114		3.77
10	12.96	11.30	3.82		56	660.30
11	10.90	11.04	3.14			464.50
12	28.35	17.40	5.85			3060.00
13	19.45	14.73	8.62			3820.00
14	(4.44)	(2.29)	(0.82)			7.49
15	(2.59)	(2.02)	(0.56)			2.65
16	16.06	3.35	1.34			19.66
17	4.12	(1.17)	1.19	101		14.36
18	1.42	2.25	0.44	127		1.05
19	10.33	10.87	6.41		64	728.10
20	21.05	11.45	5.30			1594.70
21	(9.38)	(8.99)	(4.28)			434.70
22	(5.04)	(3.59)	(1.19)		75	16.30
23	(4.52)	(3.45)	(1.27)		83	15.40
24	7.29	3.21	0.96	111	70・43	22.94
25	(6.99)	(3.90)	1.15		70・62	27.92

【刃部角】数字が2つの場合は前が溝部、後ろが側縁部の角度

器軸 No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
26	8.08	2.97	1.11		66・36	24.14
27	9.51	6.70	1.82	112	35	86.33
28	(2.41)	(2.74)	(0.92)			7.08
29	(4.95)	(4.28)	(1.20)			21.60
30	(4.45)	(2.16)	(0.81)			6.16
31	(2.87)	(2.61)	(1.03)	101		7.20
32	7.05	3.33	1.31	110		25.05
33	(5.09)	1.78	(0.84)	112		5.76
34	(3.71)	(1.72)	(0.78)			3.74
35	(6.89)	(3.21)	(1.11)	106		18.81
36	6.83	3.60	1.15			17.77
37	5.28	1.56	1.17	107		7.05
38	4.06	1.90	0.74	102		6.06
39	(1.72)	(1.66)	(0.74)			2.03
40	2.71	3.00	0.90	107		4.55
41	16.16	4.85	1.82			141.97
42	12.16	7.50	6.38			726.50
43	11.90	11.30	6.70			936.80
44	25.28	18.27	10.03			3200.00
45	22.98	14.56	7.08			3400.00

片を利用している。一端の両面側に二次加工を施して、片刃状に仕上げている。研磨痕などは確認できない。

敲石 (42) 掌に収まるほどの大きさの河原石を利用した砂岩製の敲石である。一端に敲打に伴う剥離痕が観察される。



第27図 第I文化層の遺物 (7)

台石（43～45） 43は掌よりやや大きい大きさの河原石を利用した凝灰岩製の台石である。44・45は大形の河原石を利用した砂岩製の台石である。使用面は1面である。

（5）接合資料

接合資料1（写真図版19） 37と38が接合したもので、第I文化層唯一の接合資料である。剥片素材の石核の同一打面上から剥離されている。37の背面にも同一打面上からの剥離と考えられる痕跡が確認

第10表 石器観察表（第I文化層）

掘致 No	個別 No	器種	位置	出土層位	Sb	石材	分類	備考	図版 No	写真 No
6	572	H S	C 22	VII D層	1	tuf	II		21	17
7	537	G R S	A 19	VII C層	2	sh	D a		21	17
8	532	E S	A 18	VII C層	2	sh	D a	I	21	17
9	536	F	A 19	VII C層	2	sh	C a	S	-	17
10	538	P T	A 24	VII C層	2	an			21	17
11	533	G S	A 18	VII C層	2	sand	I	立位	-	17
12	583	A S	A 18	VII C層	2	sand	I		21	17
13	535	A S	A 19	VII C層	2	dio	I		-	18
14	557	K N	A 25	VII D層	3	sh	C a		22	18
15	561	P A	A 25	VII D層	3	sh	D a		22	18
16	558	R F	A 25	VII D層	3	sh	C a	I	22	18
17	539	R F	A 23	VII C層	3	sh	C a		22	18
18	559	U F	A 25	VII C層	3	sh	C a		22	18
19	555	F	A 25	VII C層	3	sh	D a	S	22	18
20	550	P T	C 21	VII C層	3	serp	II		23	18
21	564	A S	A 25	VII D層	3	an	I		23	18
21	552	W S	C 16	VII D層	3	dac	III		23	18
22	544	E S	D 1	VII D層	sh	D a	II	立位	24	18
23		E S	凸区	III b層	sh	C a	I	石核に軸用か	24	18
24		E S S	SD 02	1層	sh	C a	III		24	18
25		E S S	凸区	III c層	sh	A a	III		24	18
26		E S S	SD 03	埋下	sh	D a	III		24	19
27		S S	SD 02	6層	sh	D a	II		25	19
28		R F	D区	IV層	sh	A a	III		25	19
29		R F	SD 02	2層	sh	D a	I	円錐線に微細剥離痕	25	19
30		R F	D区	III層	sh	C a	I		25	19
31		R F	D区	III層	sh	A a	II		-	19
32		U F	C D	V層上	sh	D a			25	19
33	567	B L	C 16	VII D層	sh	C a			26	19
34	543	B L	D 1	VII D層	sh	C a			26	19
35	531	B L	A 17	VII C層	sh	E a			26	19
36		B L	D区	IV層	sh	E a			-	19
37	562	B L F	A 19	VII D層	sh	D a		接合資料1	26	19
38		B L F	B 4	VII層	sh	D a		接合資料1	26	19
39	530	F	A 17	VII C層	sh	C a			-	19
40		F	C 21	VII D層	sh	C a			-	19
41	563	A X	B 4	VII D層	sh			北上山地産頁岩	27	19
42	564	H S	B 4	VII D層	sand	I			27	19
43	586	A S	A 19	VII D層	tuf		I		27	19
43	587	A S	A 19	VII D層					-	20
44	541	A S	A 23	VII C層	sand	I			-	20
45	540	A S	A 23	VII C層	sand	I			-	20

【石材】an: 安山岩、dac: ダイサイト、dio: 閃綠岩、san: 砂岩、serp: 蛇紋岩、sh: 黃岩、tuf: 凝灰岩
【出土層位】埋下、埋土下位、V層上、V層上面

第11表 表掲載石器観察表（第I文化層1）

個別 No	器種	位置	出土層位	Sb	石材	器具 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)	分類	備考
358	C	E 22	VII D層	sh	C a						0.09		
359	C	E 22	VII D層	sh	C a						0.06		
522	C	D 4	VII D層	sh	C a						0.03		
534	A S	A 18	VII C層	2	dac	20.78	(11.45)	(8.97)			229.00	I	
549	F	C 21	VII D層	sh	C a	4.85	5.78	2.11	72		43.36		節理割れ

第11表 表揚載石器観察表(第I文化層2)

編別 No	器種	位置	出土層位	Sb	石材	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)	分類	備考
551	F	C 21	VII d 層	3	sh E a	(2.77)	(4.28)	(2.04)			2241		
553	P B	A 25	VII d 層		tuf	14.83	6.91	4.10			519.80		
556	P B	A 25	VII d 層		sh	5.95	2.85	2.03			34.60		北上山地系質岩
560	F	A 25	VII d 層	3	sh A a	(150)	(193)	(0.82)			1.48		
565	F	B 4	VII D 層		sh C a	(2.80)	1.24	0.49			0.95		
566	F	B 4	VII D 層		sh A a	(1.75)	(2.91)	(0.39)			1.16		はじけ
568	C	C 17	VII D 層	1	sh C a	0.95	1.40	0.33	114		0.38		
569	F	C 22	VII D 層	1	sh B a	(2.27)	1.45	0.66			1.30		
570	F	C 22	VII D 層	1	sh C a	1.15	(1.64)	0.27	95		0.43		
571	C	C 22	VII D 層	1	sh A a						0.11		
573	C	C 23	VII D 層		sh C a						0.04		
574	F	C 24	VII D 層		sh C a	1.17	(1.94)	(0.29)			0.51		
575	C	A 22	VII D 層		sh A a	(0.74)	(0.76)	(0.09)			0.05		
576	P B	A 22	VII D 層		san	6.77	6.15	3.22			172.20		
577	C	A 22	VII D 層		sh C a	(0.69)	(1.01)	(0.37)			0.13		
578	P B	A 22	VII D 層		dio	15.02	6.88	3.80			376.50		断面二角形
579	-	A 22	VII D 層		dio						493.80		578と接合
580	F	A 16	VII D 層		sh D a	1.69	1.64	0.32	101		0.51		
581	C	E 21	VII D 層		sh C a						0.12		
584	A S	A 23	VII d 層		tuf	(3.29)	(11.27)	(5.51)			161.20	I	
585	A S	A 19	VII d 層		tuf	14.85	12.73	7.70			1743.40	I	
588	P B	A 19	VII d 層		an	14.62	6.74	2.66			269.50		

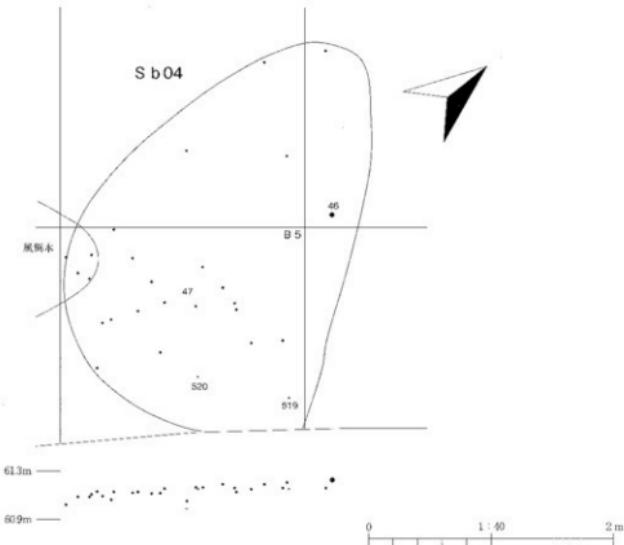
【石材】an: 安山岩、dac: ダイサイト、dio: 閃綠岩、san: 砂岩、sh: 寶鋼、tuf: 麻灰岩

認でき、少なくとも、3点の剥片が剥離されている。

(6) 第II文化層のブロック

S b 04 (第28図、写真図版6)

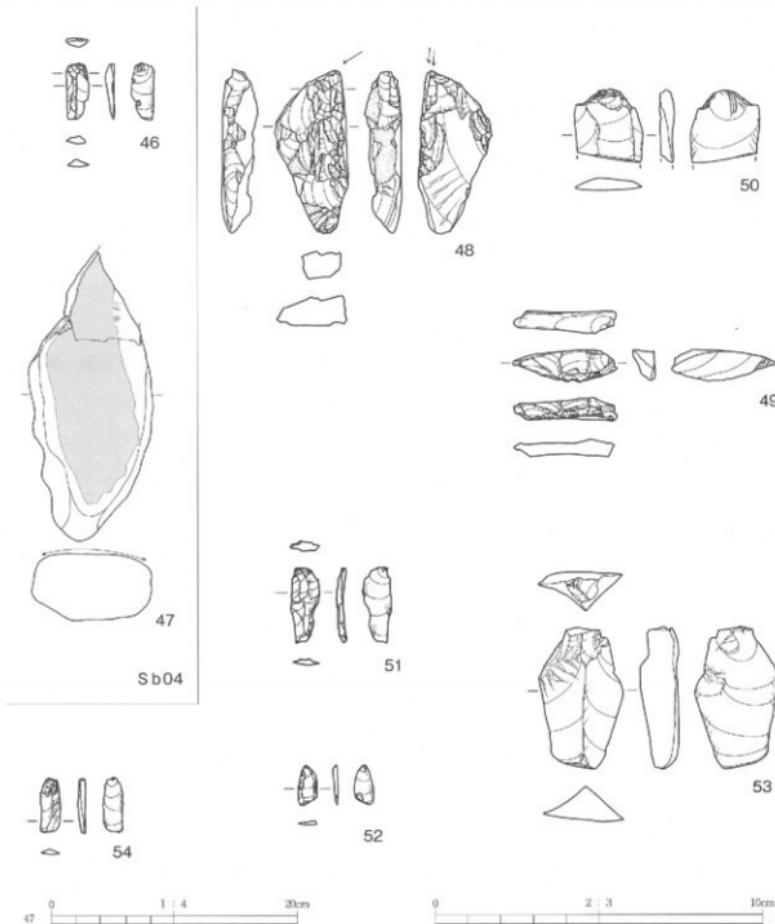
[規模と形状] D区の中央、A25・C5グリッド付近に位置する。南東側の一部は、県道際の擁壁構



第28図 S b 04

第12表 S b04石器組成表

器種	点数(個)	石材					重量(g)	石材					
		%	sh A	sh B	sh C	sh D	hor	%	sh A	sh B	sh C	sh D	hor
MB	1	0	0	0	0	1	0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
	38	0.0	0.0	0.0	38	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
F	6	0	0	6	0	0	11.3	0.0	0.0	11.3	0.0	0.0	0.0
	231	0.0	0.0	231	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0
C	18	5	1	1	11	0	1.3	0.5	0.1	0.1	0.6	0.0	0.0
	69.2	19.2	3.8	3.8	42.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
AS	1	0	0	0	0	1	1599.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1599.8	0.0
	38	0.0	0.0	0.0	0.0	38	99.2	0.0	0.0	0.0	0.0	99.2	0.0
合計	26	5	1	7	12	1	1612.6	0.5	0.1	11.4	0.8	1599.8	0.0
	1000	19.2	3.8	269	46.2	3.8	1000.0	0.0	0.0	0.7	0.1	99.2	0.0



第29図 第II文化層の遺物（1）

築の際に削平をされており、消失している。確認できた分布範囲は長辺3.4m、短辺(2.6)mで楕円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向と直交しており、西側に約17度傾いている。遺物の標高は60.991~61.227mで、約24cmの範囲に収まっている。出土層位はⅦA層である。

【石器器種組成】細石刃1点、剥片6点、碎片18点、台石1点の合計26点で構成される。トゥールが非常に少なく、碎片が主体となっている。この他に炭化物サンプル2点採取したが、1点は重量不足により測定できなかったため、分析可能な個別No519を年代測定試料とした。

【石器石材】頁岩A5点、頁岩B1点、頁岩C7点、頁岩D12点、ホルンフェルス1点で構成される。頁岩類が9割以上を占め、その中でも、頁岩Dの割合が高い。石材別総重量は第12表のとおりで、点数比と逆転して、ホルンフェルスが99%を占めている。

〔出土遺物〕(第29図、写真図版20)

細石刃1点、台石1点を図化した。46は完形の細石刃である。打面は点のような単剥離面打面である。右側縁上部に連続的な二次加工が施されている。47は2点が接合したホルンフェルス製の台石である。使用面は片面で、器長に直交する線状痕が観察される。

(7) 第II文化層のブロック外出土遺物(第29・30図、写真図版20)

彫器(48) 不定期の剥片を素材としている。素材剥片端部に残置する節理面を打面として、打面側へ1条の桶状剥離を施している。その後、その面を打面として、実測図右側面から裏面側に2条の桶状剥離を施している。桶状剥離と前後する、節理面を打面とした剥離面が観察される。

搔器(49) 背面側からの加熱によって折損した刃部のみの断片的な資料である。刃部の調整は背面側のみに行われる。

R F(50) 下半部を背面側からの加熱によって欠損している。右側縁腹面側の一部に二次加工が施されている。両側縁には微細な剥離痕が観察される。

細石刃(51・52) 51は良質な頁岩製の細石刃で、端部に観察されるいわゆる「ガジリ」痕以外の欠損部は見られない。打面は線状に細くなっている。52はタテ方向に欠損した細石刃の一部である。

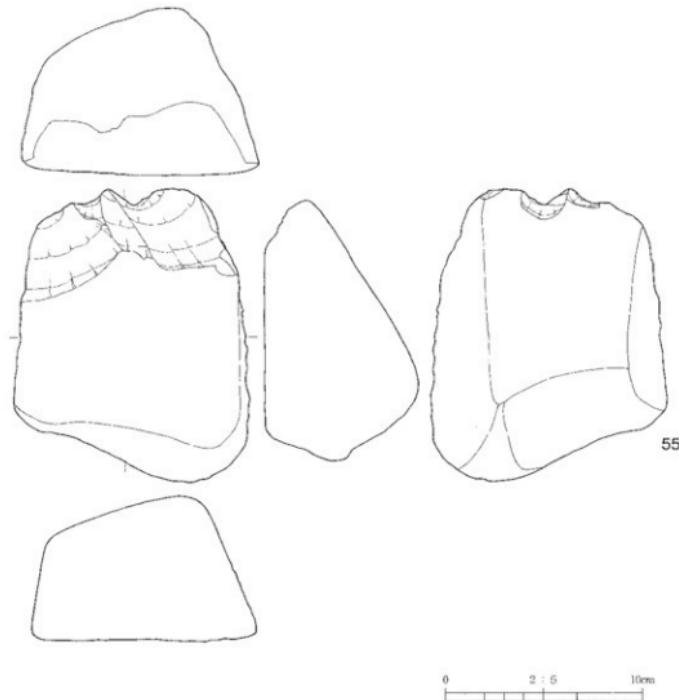
剥片類(53・54) 53・54とも二次加工や微細剥離痕の観察されない縱長剥片である。53の背面は剥離方向と同一方向の剥離面で構成され、54の背面は端部に直交もしくは対向する剥離面が観察される。

礫器(55) ブロック状の河原石を利用したデイサイト製の礫器である。一端の片面に粗い二次加工を施して刃部を作出している。刃部裏面には刃こぼれ状の剥離面が観察される。

第13表 石器観察表(第II文化層)

編號 No.	器別 No.	器種	位置	出土層位	Sb	石材	分類	備考	図版 No.	写真 No.
46	497	MB	A 24	ⅦA層	4	sh	D a	調整痕あり	29	20
47	545	A S	B 5	ⅦA層	4	hor	I		29	20
	542		A 23	Ⅶc層						
48		GR	E区	IV層		sh	D a	彫刀面3条	29	20
49	548	E S	C 22	ⅦA層		sh	E a	I	29	20
50	155	R F	A 24	ⅦA層		sh	C a	I	29	20
51	334	MB	C 18	VI層		sh	C a		29	20
52		MB	凸区	VI層		sh	D a		29	20
53	495	B L F	A 17	ⅦA層		sh	A a	I 立位	29	20
54	167	B L F	B 5	VI層		sh	C a	III 細石刃状	29	20
55	493	P T	A 17	ⅦA層		dac	I		30	20

【石材】dac: デイサイト、hor: ホルンフェルス、sh: 頁岩



第30図 第II文化層の遺物（2）

第14表 石器計測表（第II文化層）

掘戻 No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
46	1.71	0.70	0.25	129		0.21
47	(23.80)	(10.15)	(5.77)			1599.80
48	4.98	2.23	1.11		62	12.33
49	(0.96)	(3.14)	(0.68)		77	1.64
50	(2.18)	(2.07)	(0.46)	106		2.08

掘戻 No	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
51	(2.29)	0.89	(0.29)	99		0.37
52	(1.20)	(0.58)	(0.16)			0.10
53	4.35	2.56	1.18	95		9.90
54	(1.65)	0.65	(0.25)	99		0.15
55	15.20	12.05	8.70		83	1722.10

第15表 表掲載石器観察表（第II文化層1）

個別 No	種類	位置	出土層位	Sb	石材	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量	分類	備考
82	C	凸区	ⅣA層	sh	C a	0.83	0.89	0.18	124		0.08		
97	C	凸区	ⅣA層	sh	C a						0.03		
106	C	F 4	ⅣA層	sh	C a						0.07		
347	F	C 24	ⅣA層	sh	C a	(2.10)	(1.96)	(0.19)	123		0.54		
350	F	D 4	ⅣA層	sh	C a	(1.51)	(1.67)	(0.26)	113		0.38		
417	P B	C 23	ⅣA層	dio		13.30	(6.87)	(3.11)			282.20		
494	C	A 17	ⅣA層	sh	D a	(0.83)	(1.16)	(0.19)	90		0.12		立紋
496	F	A 17	ⅣA層	sh	F a	(3.42)	(2.20)	(0.97)	99		4.85		
498	C	A 25	ⅣA層	4	sh	A a	(1.09)	(1.14)	(0.18)		0.10		はじけ

第15表 表掲載石器観察表(第II文化層)

測定 No.	新規 位置	出土層位	Sb	石材	高さ (cm)	右横 (cm)	右厚 (cm)	打凸 (°)	刃前角 (°)	重量	分類	備考
499	F	A 25	ⅣA層	4	sh	C a	(2.87)	(3.09)	(1.44)	-	7.58	-
500	C	A 25	ⅣA層	4	sh	A a	-	-	-	-	0.08	-
501	C	B 5	ⅣA層	4	sh	A a	(1.40)	(0.81)	(0.28)	-	0.21	調整版あり。ほじけ
502	C	B 5	ⅣA層	4	sh	D a	-	-	-	-	0.05	-
503	C	B 5	ⅣA層	4	sh	B a	(0.81)	(0.68)	(0.09)	-	0.06	-
504	C	B 5	ⅣA層	4	sh	D a	-	-	-	-	0.04	-
505	C	B 5	ⅣA層	4	sh	D a	-	-	-	-	0.06	-
506	C	B 5	ⅣA層	4	sh	D a	0.74	0.92	0.16	76	0.11	-
507	C	B 5	ⅣA層	4	sh	A a	(0.95)	(1.61)	(0.38)	113	0.07	-
508	C	B 5	ⅣA層	4	sh	D a	-	-	-	-	0.01	-
509	F	B 5	ⅣA層	4	sh	C a	(2.21)	(2.55)	(0.38)	136	0.99	立証
510	C	B 5	ⅣA層	4	sh	C a	(1.88)	(0.97)	(0.19)	124	0.12	-
511	C	B 5	ⅣA層	4	sh	A a	-	-	-	-	0.04	-
512	C	D 5	ⅣA層	5	sh	D a	(0.94)	(0.51)	(0.10)	-	0.07	繩石斧状
513	C	B 5	ⅣA層	4	sh	D a	-	-	-	-	0.04	-
514	F	E 5	ⅣA層	4	sh	C a	(1.84)	(1.91)	(0.47)	-	0.72	-
515	F	E 5	ⅣA層	4	sh	C a	(1.50)	(2.28)	(0.49)	123	0.97	-
516	C	E 5	ⅣA層	4	sh	D a	0.93	0.76	0.15	764	0.02	-
517	C	B 5	ⅣA層	4	sh	D a	-	-	-	-	0.02	ほじけ
518	C	B 5	ⅣA層	4	sh	D a	(0.96)	(1.15)	(0.22)	97	0.17	-
521	F	A 19	ⅣA層	sh	A a	(2.90)	(3.72)	(0.73)	-	4.59	石斧の一部?	
522	F	A 25	ⅣA層	4	sh	C a	(1.59)	(0.85)	(0.17)	-	0.13	繩石刀状
524	C	B 5	ⅣA層	4	sh	D a	0.83	0.99	0.26	112	0.03	-
529	F	A 24	ⅣA層	4	sh	C a	(2.25)	(1.59)	(0.68)	-	1.03	ほじけ
547	F	C 22	ⅣA層	sh	C a	(1.51)	(2.10)	(0.41)	136	0.98	-	

【石材】dia: 開錐岩、sh: 硬岩、hor: ホルンフェルス

2 繩文時代

(1) 概 要

縄文時代に帰属する遺構は土坑1基、ブロック4箇所、出土遺物は縄文土器（貝殻文系土器群を中心とする早期中葉が中心）が中コンテナ1箱、石錐、尖頭器、搔器、削器、石匙、範形石器、石斧、磨石、敲石、台石、砥石等の石器が大コンテナ3箱、石刀・石劍類等の石製品が5点出土している。

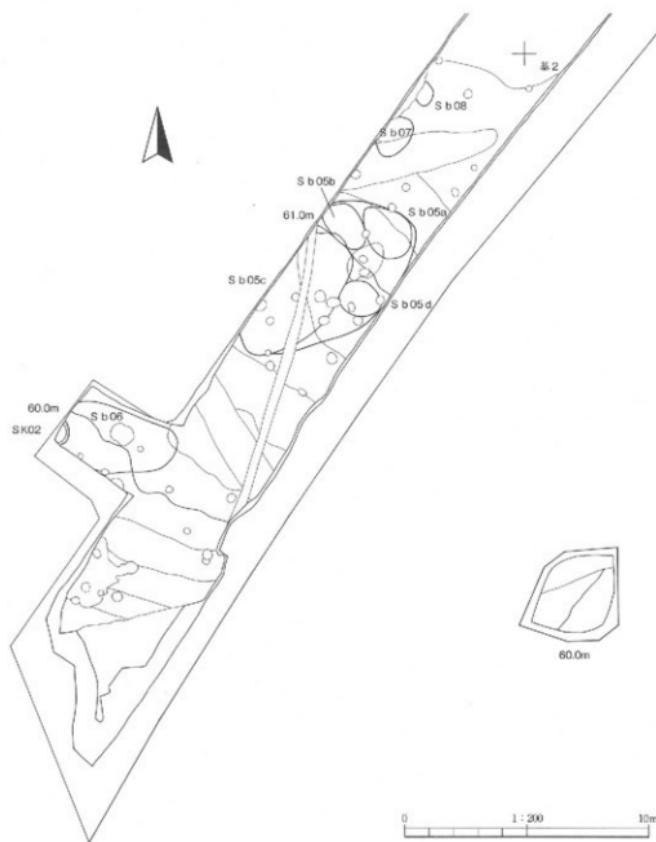
これらの遺物はV層～VI層で断続的に出土している。主に、V層からは貝殻文系土器群を中心とした早期中葉の遺物が出土し、VI層の最下部からは薄手の縄文土器が出土している。この薄手の縄文土器は後に触れるが、土器の特徴、出土状況、放射性炭素年代測定の結果から草創期に属すると判断した。また、同一ブロック内の遺物についても、同一時期のものと判断している。

VI層中でも、石器を中心としたブロックが確認されている。ブロックの捉え方は後期旧石器時代と同様である。範囲についても、後期旧石器時代と同様、野外調査時ものを基本としているが、VI層の遺物分布を再検討した結果、A18・23を中心とする密集部とA17・18を中心とする密集部が確認でき、前者をS b 07、後者をS b 08とした。そのため、ブロックは4箇所となつた。また、S b 05についても分布の疎密が確認できたため、a～dに細分した。細分した場所では、遺物間の距離が約50cm以上離れている。この結果、S b 05全体としては、ひとまわり範囲が縮小した。図版等では、S b の略号を使用した。

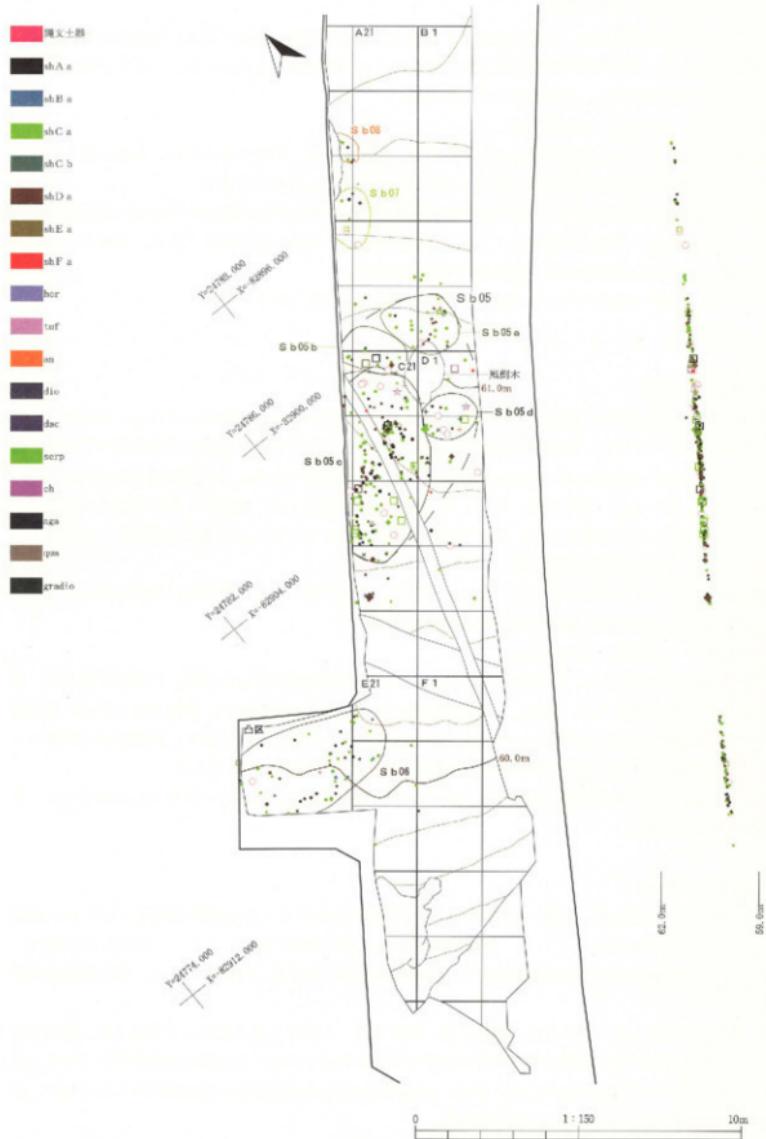
(2) 土 坑

S K02土坑（第31図、写真図版8）

[位置と形態] 凸区にあり、X = -82909、Y = 24778付近に位置する。VI層上面で暗褐色の広がりをして確認した。重複関係にある遺構はないが、西側の大半が調査区外に広がっている。そのため、平面形や規模は不明である。検出面からの深さは最大で23cmである。底面にはやや凹凸が見られ、壁は



第31図 繩文時代の遺構（1）



第32図 縄文時代の遺構（2）

底面からなだらかに立ち上がる。

堆積土は4層に分層され、V層に起因すると考えられる黒褐色土主体である。堆積の初期段階は、夾雜物が少なく、三角堆積の状況を呈しているため、自然堆積と考えられるが、1層や2層には炭化物や土器の混入が見られ、人為堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕（第36図、写真図版21）

底面に貼りつくように土器片が出土しているが、非常に脆く、小片であるため、掲載に耐えられなかった。掲載した資料は堆積土の上部（1・2層）から出土したものである。

101は南東北地方を中心に分布する大寺式・常世式に類似する資料の体部片である。沈線文を主体とし、貝殻腹縁文・刺突文が施されている。102は両端とも欠損した尖頭器である。両面とも縁辺部の細部調整がほとんど見られず、未製品の可能性がある。

〔時期〕出土遺物や検出状況から判断すると、早期中葉と考えられる。

（3）ブロック

S b 05 a（第33図）

〔規模と形状〕D区中央、A25・B5グリッドを中心に分布する。分布範囲は長辺2.5m、短辺1.8mで、梢円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向に直交しており、西側に約45度傾いている。遺物の標高は61.136～61.272mで、約14cmの範囲に収まり、安定している。出土層位はVI層である。

〔器種組成〕剥片8点、碎片16点、石斧1点、磨石1点、砥石1点、土器片1点の計28点で構成される。トゥール類も若干構成するが、剥片や碎片が主体となっている。この他に炭化物サンプルを1点採取しており、年代測定試料とした。

〔石器石材〕点数及び重量は第16表のとおりである。点数に関しては、圧倒的に頁岩の占める割合が高いが、重量に関しては、凝灰岩の占める割合が高い。

〔出土遺物〕（第36図、写真図版21）

103は蛇紋岩製の石斧で、下半部を欠損している。器面の風化が激しいため、不明瞭であるが、部分的に平滑な面が確認でき、研磨による調整が行われている可能性が高い。断面形はかまぼこ状を呈する。104は棒状の河原石を利用した閃綠岩製の磨石である。使用面は三面で、断面形は三角形もしくは逆台形状を呈する。105はブロック状の礫を利用した凝灰岩製の砥石である。

〔時期〕時期の特定できる資料が出土していないが、放射性炭素年代測定の結果から判断すると、草創期の可能性が高い。

S b 05 b（第33図）

〔規模と形状〕D区中央、A25・C21グリッドを中心に分布する。分布範囲は長辺（2.0）m、短辺1.7mで、梢円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向に直交しており、西側に約50度傾いている。遺物の標高は60.991～61.082mで、約9cmの範囲に収まり、安定している。出土層位はVI層である。

〔器種組成〕石鏃1点、RF2点、剥片5点、碎片3点、土器片1点の計12点で構成され、磨石や台石などの環礁石器が全く組成せず、剥片や碎片が主体となっている。この他に炭化物サンプルを1点採取しており、年代測定試料とした。また、土器片に付着した炭化物も年代測定試料としており、詳細は附録放射性炭素年代測定に記載している。

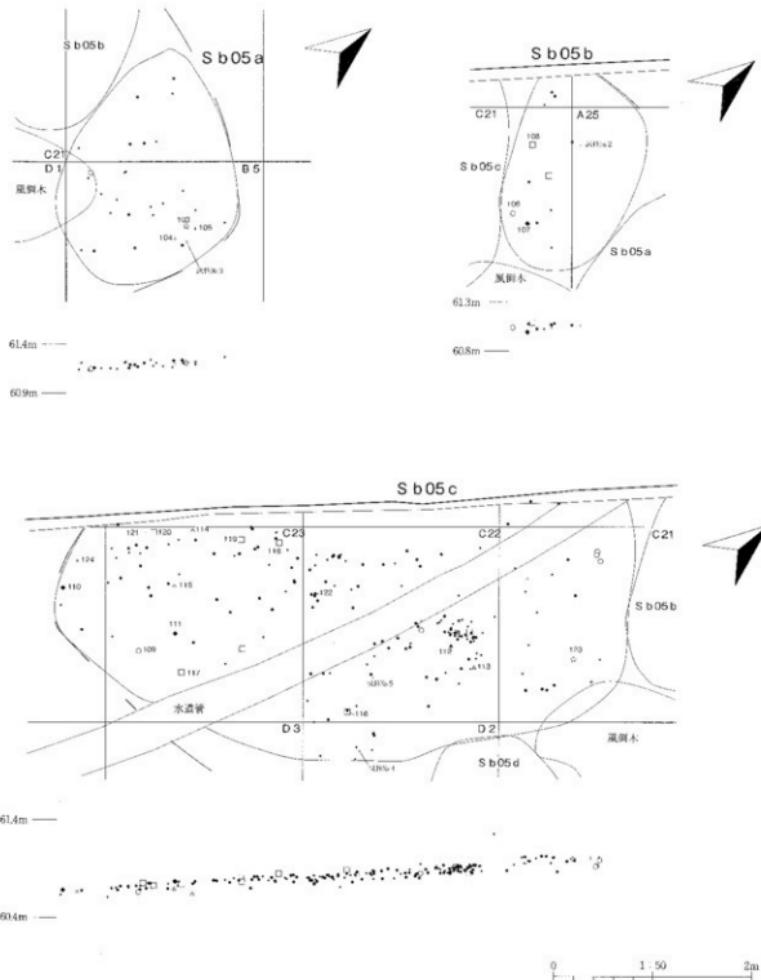
〔石器石材〕点数及び重量は第17表のとおりである。頁岩のみで構成され、点数に関しては、頁岩C

の占める割合が高く、重量に関しては、頁岩Eの占める割合が高くなっている。

【出土遺物】（第37図、写真図版21）

106は非常に薄手の縄文土器で、無節縄文が横位に施文されている。接合できなかった同一個体に付着していた炭化物の年代測定を行ったところ 10020 ± 60 yrBPとの結果が得られた。詳細は附編を参照して頂きたい。

107はI類の石器である。両面、特に裏面には素材剥片の剥離面が広範囲に残置している。108は大



第33図 縄文時代の遺構（3）

形の剥片を利用した頁岩製のRFである。剥片端部腹面側に二次加工が施されている。稜は摩滅している。左側縁中央部には使用によると考えられる微細な剥離痕が連続的に観察される。

〔時期〕出土遺物や放射性炭素年代測定結果から判断すると、草創期後半の室谷下層式期に属する。

S b 05 c (第33図、写真図版7)

〔規模と形状〕D区中央、C21～C24グリッドを中心に分布し、北西側は調査区外に広がっている。確認できた分布範囲は長辺5.9m、短辺(2.6)mである。長軸方向は地形の傾斜方向と並行しており、東側に37度傾いている。遺物の標高は60.606～61.255mで、分布範囲が地形の傾斜方向に沿っているため、約65cmと広くなっている。出土層位はVI層である。

本ブロックはC22グリッド内的一部で遺物分布の狭窄部があり、北東側と南西側に分かれる可能性がある。前者部分から採取した炭化物の年代測定結果は草創期に相当し、後者内の時期の判別可能な遺物は早期中葉に相当する。C24ブロック周辺のVI層（やや上部）から早期中葉～後葉の遺物が出土していることからも、後世の遺物の混入よりは、同一層内の異なる時期の遺物を混同して扱ってしまった可能性が高い。しかし、現段階では客観的な分離（出土層位やブロック設定方法による分離）が不可能であるため一括して報告する。

〔器種組成〕石鎌2点、搔器1点、削器3点、RF9点、剥片90点、碎片73点、石斧1点、磨石1点、敲石1点、土器片5点の計186点で構成される。ツール類も構成するが、剥片や碎片が主体となっている。この他に炭化物サンプルを3点採取しており、2点を年代測定試料とした。

〔石器石材〕点数及び重量は第18表とのおりである。点数では、頁岩が97%以上を占め、その中でも、頁岩C・Dの占める割合が高いのは、本調査区の特徴を示している。重量では、花崗閃緑岩、頁岩Aの割合が高いが、他のブロックと異なり、全体的に頁岩の占める割合が高い。

〔出土遺物〕（第37・38図、写真図版21・22）

109は本ブロック内から出土した個別No332とE区の擾乱層から出土した土器片が接合した資料で、早期中葉に関東地方を中心に分布する出土下層式に類似する資料の体部片である。斜位に3～4条を単位とする沈線文が施されている。

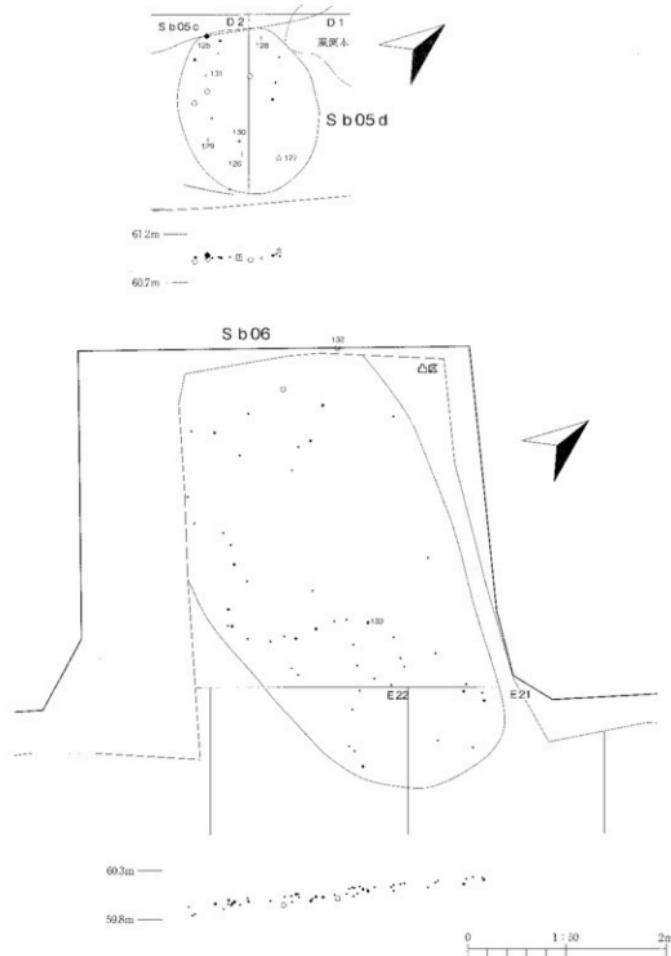
110はⅢ類の石鎌である。両面とも入念な二次加工が施されており、精巧なつくりをしている。111は円基の石鎌である。両面とも素材剥片の剥離面が広範囲に残置しており、110と比較すると、粗雑な印象を受ける。112は不定形剥片を素材とする。細かな二次加工を施して刃部を作出している。両面ともはじけの痕跡があり、二次的な被熱を受けたものと考えられる。113～115は綫長剥片を素材とするⅡ類の削器である。113はやや泥質な頁岩製で、左側縁には両面から二次加工が施されている。また、素材剥片の打面及びバルブを除去する調整が施されている。114は2点が欠損部で接合したものである。両側縁とも背面側に二次加工が施されている。115の調整も背面側のみである。116～121はRFである。116は不定形な剥片を素材とし、端部の背面側全線に細かな二次加工が施されている。調整は粗いが、正面觀は横形の石匙に似る。二次加工の部位は、117・120・121は背面のみ、118は端部と右側縁が腹面、左側縁が背面、119は端部が腹面、両側縁が背面である。122は不定形の剥片である。229・230と接合して、数少ない剥離工程を窺える資料となっている。123は緑色凝灰岩製の磨製石斧である。刃部側を欠損している。両側縁には研磨痕より新しい剥離痕が観察され、再加工が行われたものと考えられる。124は棒状の礫を利用した花崗閃緑岩製の敲石である。上半部は欠損している。端部には、剥離痕が観察される。

〔時期〕前述のとおりであるため、草創期～早期中葉とせざるを得ない。

S b05 d (第34図)

【規模と形状】D区中央、D1・D2グリッドを中心に分布する。分布範囲は長辺1.7m、短辺1.5mで、椭円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向と直交しており、西側に52度傾いている。遺物の標高は60.917~61.018mで、約10cmの範囲に収まり、安定している。出土層位はVI層である。

【器種組成】尖頭器1点、R F 1点、剥片3点、碎片5点、磨製石斧1点、磨石3点、敲石1点、土器片3点の計18点で構成される。他のブロックよりやや多くトゥール類も構成するが、剥片や碎片が



第34図 繩文時代の遺構 (4)

占める割合が高い。

【石器石材】点数及び重量は第19表のとおりである。点数に関しては、頁岩、特に、頁岩Cの割合が高い。重量に関しては、安山岩が最も高く、次いでデイサイトである。この2種類で96%以上を占めている。

【出土遺物】（第39図、写真図版22）

125は幅広の尖頭器で、基部側を欠損している。縁辺部の二次加工が粗く、粗雑な印象を受ける。126は頭部側のみ残存するRFである。腹面側に二次加工が施されている。127は緑色凝灰岩製の石斧である。研磨痕より新しい剝離痕がほぼ両側縁の両面に観察でき、再加工が行われた可能性が高い。128は小形の扁平な礫を利用した磨石である。使用面は表面のみである。129は卵形の河原石を利用したもので、一部を大きく欠損している。端部には敲打痕が観察され、敲石としての機能も有していたことがわかる。130は棒状の礫を利用した磨石である。使用面は表面のみである。131は棒状の礫を利用した敲石である。使用頻度が低いためか、敲打痕は部分的である。

【時期】時期の特定できる資料が出土していないため断定はできないが、S b 05 a～c の時期を考慮すると、草創期の可能性が考えられる。

S b 06（第34図、写真図版7）

【規模と形状】凸区に位置し、西側は調査区外に広がっている。確認できた分布範囲は長辺（5.1）m、短辺（2.9）mである。長軸方向は地形の傾斜方向と斜交しており、西側に約85度傾いている。遺物の標高は59.840～60.230mで、約40cmの幅を持っている。出土層位はVI層である。

【器種組成】UF 1点、剥片13点、碎片38点、土器片1点の合計53点で構成される。トゥール類は皆無で、碎片が主体となっている。

【石器石材】点数及び重量は第20表のとおりである。点数に関しては、頁岩C・Dの割合が高く、本調査区の特徴を示している。重量に関しては、頁岩Aの割合が高くなっている。

【出土遺物】（第39図、写真図版22）

UF 1点を図化し、剥片を写真掲載とした。132は頁岩製のUFである。端部背面側に断続的な微細な剝離痕が観察される。133は節理面を打面とする頁岩製の剥片である。

【時期】時期の特定できる資料が出土していないが、遺物の出土層位から判断すると、早期中葉以前と考えられる。

第16表 S b 05 a 石器組成表

器種	点数 (点)	石 器 材						重 量 (g)	石 器 材								
		%	sh A	sh C	sh D	tuf	serp	dio	aga	%	sh A	sh C	sh D	tuf	serp	dio	aga
F	8	0	8	0	0	0	0	0	0	6.8	0.0	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	29.6	0.0	29.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
C	16	1	7	7	0	0	0	1	16	0.1	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	59.3	37	25.9	25.9	0.0	0.0	0.0	37	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
AX	1	0	0	0	0	1	0	0	5961	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5961	0.0	0.0
	37	0.0	0.0	0.0	0.0	37	0.0	0.0	288	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	288	0.0	0.0
GS	1	0	0	0	0	0	1	0	463.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	463.5	0.0
	37	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37	0.0	22.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.4	0.0
WS	1	0	0	0	1	0	0	0	1002.5	0.0	0.0	0.0	1002.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	37	0.0	0.0	0.0	37	0.0	0.0	0.0	484	0.0	0.0	0.0	484	0.0	0.0	0.0	0.0
合計		27	1	15	7	1	1	1	2070.5	0.1	7.5	0.7	1002.5	5961	463.5	0.1	
		1000	3.7	55.6	25.9	37	3.7	37	1000	0.0	0.4	0.0	484	28.8	22.4	0.0	

第17表 S b 05 b 石器組成表

器種	点数 (点) %	石 材				重量 (g) %	石 材				
		sh A	sh C	sh D	sh E		sh A	sh C	sh D	sh E	
SAR	1	0	0	1	0	18	0.0	0.0	18	0.0	
	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	12	0.0	0.0	12	0.0	
RF	2	1	0	0	1	129.9	0.6	0.0	0.0	129.3	
	18.2	9.1	0.0	0.0	9.1	90.6	0.4	0.0	0.0	90.2	
F	5	0	5	0	0	11.6	0.0	11.6	0.0	0.0	
	45.5	0.0	45.5	0.0	0.0	8.1	0.0	8.1	0.0	0.0	
C	3	0	1	2	0	0.2	0.0	0.1	0.1	0.0	
	27.3	0.0	9.1	18.2	0.0	0.1	0.0	0.05	0.05	0.0	
合計		11	1	6	3	143.4	0.6	11.6	1.9	129.3	
		100.0	9.1	54.5	27.3	9.1	100.0	0.4	8.15	12.5	90.2

第18表 S b 05 c 石器組成表

器種	点数 (点) %	石 材											
		sh A a	sh A b	sh B	sh C a	sh C b	sh D	sh E	sh F	tuf	aga	qua	gradio
SAR	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	11	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ES	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
SS	3	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	17	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
RF	9	1	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0
	5.0	0.6	0.0	0.0	39	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
F	90	22	0	1	53	1	8	4	22	0.0	0.0	0.6	0.0
	49.7	12.2	0.0	0.6	29.3	0.6	4.4	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
C	73	21	0	1	9	0	37	3	1	0	0	1	0
	40.3	11.6	0.0	0.6	5.0	0.0	20.4	1.7	0.6	0.0	0.0	0.6	0.0
AX	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
GS	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
HS	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
合計		181	45	1	2	71	1	48	7	1	2	1	1
		1000	24.9	0.6	1.1	39.2	0.6	265	39	0.6	11	0.6	0.6

器種	重量 (g) %	石 材											
		sh A a	sh A b	sh B	sh C a	sh C b	sh D	sh E	sh F	tuf	aga	qua	gradio
SAR	6.1	0.0	0.0	0.0	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0.9	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ES	5.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
SS	45.0	42	14.4	0.0	0.0	0.0	26.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6.9	0.6	22	0.0	0.0	0.0	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
RF	32.2	39	0.0	0.0	25.7	0.0	27	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4.9	0.6	0.0	0.0	3.9	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
F	250.4	173.9	0.0	10	63.4	10	5.6	5.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
	38.4	26.7	0.0	0.2	9.7	0.2	0.9	0.8	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
C	105	29	0.0	0.1	0.9	0.0	6.0	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
	1.6	0.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
AX	26.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.9	0.0	0.0
	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1	0.0	0.0	0.0
GS	57.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.8	0.0	0.0	0.0
	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.9	0.0	0.0	0.0
HS	218.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	218.1
	33.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.5
合計		631.9	184.9	14.4	11	100.4	10	41.3	5.5	0.0	84.7	6.4	0.1
		1000	28.4	2.2	0.2	15.4	0.2	6.3	0.8	0.0	13.0	0.1	0.0
													335

第19表 S b 05 d 石器組成表

器種	点数 (点)	石 材					重量 (g)	石 材							
		%	sh A	sh C	sh D	tuf		%	sh A	sh C	sh D	tuf	an	dac	
P O	1	0	1	0	0	0	27.3	0.0	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	67	0.0	67	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R F	1	0	1	0	0	0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	67	0.0	67	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
F	3	0	3	0	0	0	1.6	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
C	5	1	2	2	0	0	0	0.3	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	33.3	67	133	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A X	1	0	0	0	1	0	0	17.4	0.0	0.0	0.0	17.4	0.0	0.0	0.0
	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0
G S	3	0	0	0	0	1	2	1094.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	947.9	146.2
	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	13.3	73.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	63.9	9.9
H S	1	0	0	0	0	0	1	341.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	341.3
	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	23.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.0
合計	15	1	7	2	1	1	3	1482.5	0.1	296	0.1	17.4	947.9	487.5	
	100.0	6.7	46.7	13.3	6.7	6.7	20.0	100.0	0.0	20	0.0	12	63.9	32.9	

第20表 S b 06 石器組成表

器種	点数 (点)	石 材					重量 (g)	石 材							
		%	sh A	sh B	sh C	sh D	sh E	tuf	%	sh A	sh B	sh C	sh D	sh E	tuf
U F	1	0	0	0	0	1	0	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	0.0
	19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	21.3	0.0	0.0	0.0	0.0	21.3	0.0
F	13	1	1	8	3	0	0	22.6	15.6	0.6	5.2	1.3	0.0	0.0	0.0
	25.0	1.9	1.9	15.4	5.8	0.0	0.0	65.3	44.9	1.6	15.0	3.8	0.0	0.0	0.0
C	38	6	4	16	11	0	1	4.7	0.8	0.3	2.2	1.0	0.0	0.4	
	731	11.5	7.7	30.8	21.2	0.0	1.9	13.4	2.3	0.8	6.3	2.9	0.0	1.2	
合計	52	7	5	24	14	1	1	347	16.4	0.8	7.4	2.3	7.4	0.4	
	100.0	13.5	9.6	46.2	26.9	1.9	1.9	100.0	47.2	2.4	21.3	6.7	21.3	1.2	

S b 07 (第35図)

【規模と形状】D区北側に位置し、西側は調査区外に広がっている。また、北側はSK04の構築時に包含層が削平されており、遺物の分布は確認できない。確認できた分布範囲は長辺1.9m、短辺1.0mで梢円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向と斜交しており、東側に約38度傾いている。遺物の標高は61.461~61.599mの範囲で、約14cmに収まり、安定している。出土層位はVI層である。

【器種組成】UF1点、剥片3点、碎片2点、土器片1点の合計7点で構成される。トゥール類は皆無で、碎片が主体となっている。

【石器石材】点数及び重量は第21表のとおりである。点数に関しては、頁岩C・Dの割合が高く、本調査区の特徴を示している。重量に関しては、頁岩Aの割合が高くなっている。

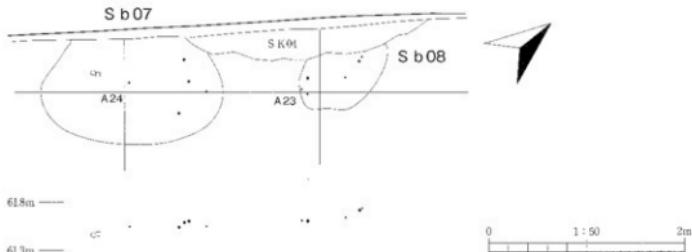
【出土遺物】(第40図、写真図版22)

134は繩文土器の体部片資料である。撫糸文をやや斜位気味に施している。

【時期】組成する遺物が少ないため、断定はできないが、早期中葉前後の可能性が高い。

S b 08 (第35図)

【規模と形状】D区北側に位置する。北西側はSK04の構築時に包含層が削平されており、遺物の分布は確認できない。確認できた分布範囲は長辺1.0m、短辺0.8mで梢円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向とほぼ直交しており、ほぼ南北方向を向いている。遺物の標高は61.602~61.731mの範囲で、約13cmに収まり、安定している。出土層位はVI層である。



第35図 縄文時代の遺構（5）

第21表 S b 07石器組成表

器種	点数 (点) %	石 材			重量 (g) %	石 材		
		sh A	sh C	sh D		sh A	sh C	sh D
UF	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1.7 186	0.0 0.0	1.7 186	0.0 0.0
	3 50.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	7.2 78.5	6.4 70.3	0.4 4.7	0.3 3.5
C	2 33.3	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0.3 3.0	0.0 0.0	0.1 0.5	0.2 2.4
	6 100.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	9.2 100.0	6.4 70.3	2.2 23.8	0.5 5.9

第22表 S b 08石器組成表

器種	点数 (点) %	石 材			重量 (g) %	石 材		
		sh A	sh C	sh D		sh A	sh C	sh D
F	2 33.3	0 0.0	2 33.3	0 0.0	4.6 88.7	0.0 0.0	4.6 88.7	0.0 0.0
	4 66.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	0.6 11.3	0.2 4.0	0.2 4.4	0.2 2.9
合計	6 100.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	5.2 100.0	0.2 4.0	4.9 93.1	0.2 2.9

[器種組成] 剥片2点、碎片4点の合計6点で構成され、トゥール類は皆無である。

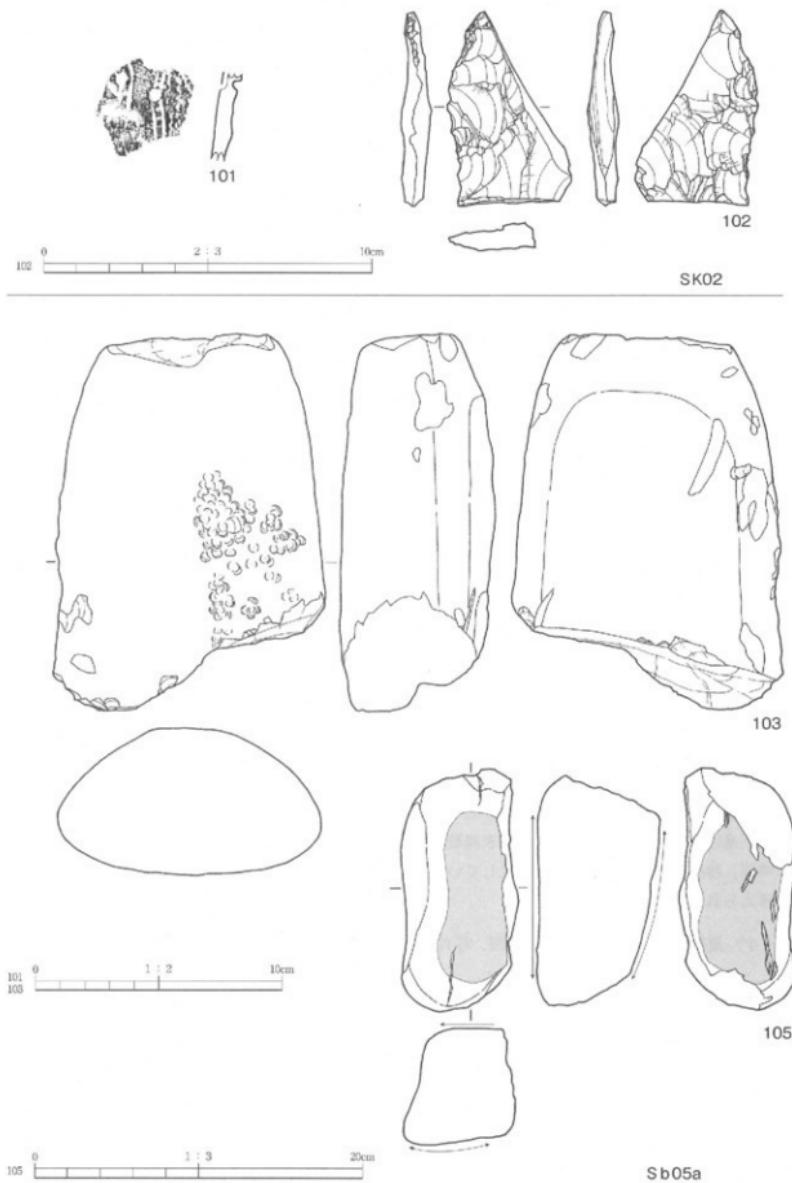
[石器石材] 点数及び重量は第22表のとおりである。点数・重量ともに頁岩C・Dの割合が高い。

[出土遺物] 剥片類のみであるため、表掲載にとどめた。

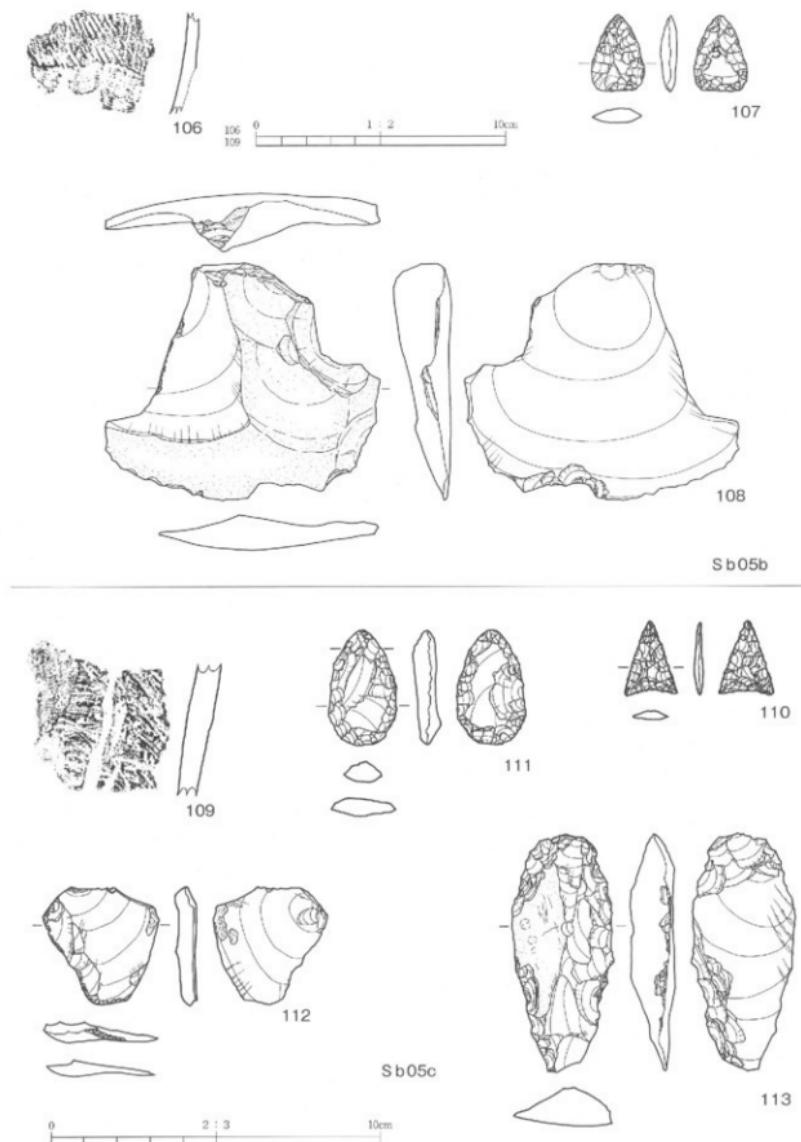
[時期] 時期の特定できる資料が出土していないが、遺物の出土層位から判断すると、早期中葉以前と考えられる。

（4）遺構外出土遺物(第40～48図、写真図版22～27)

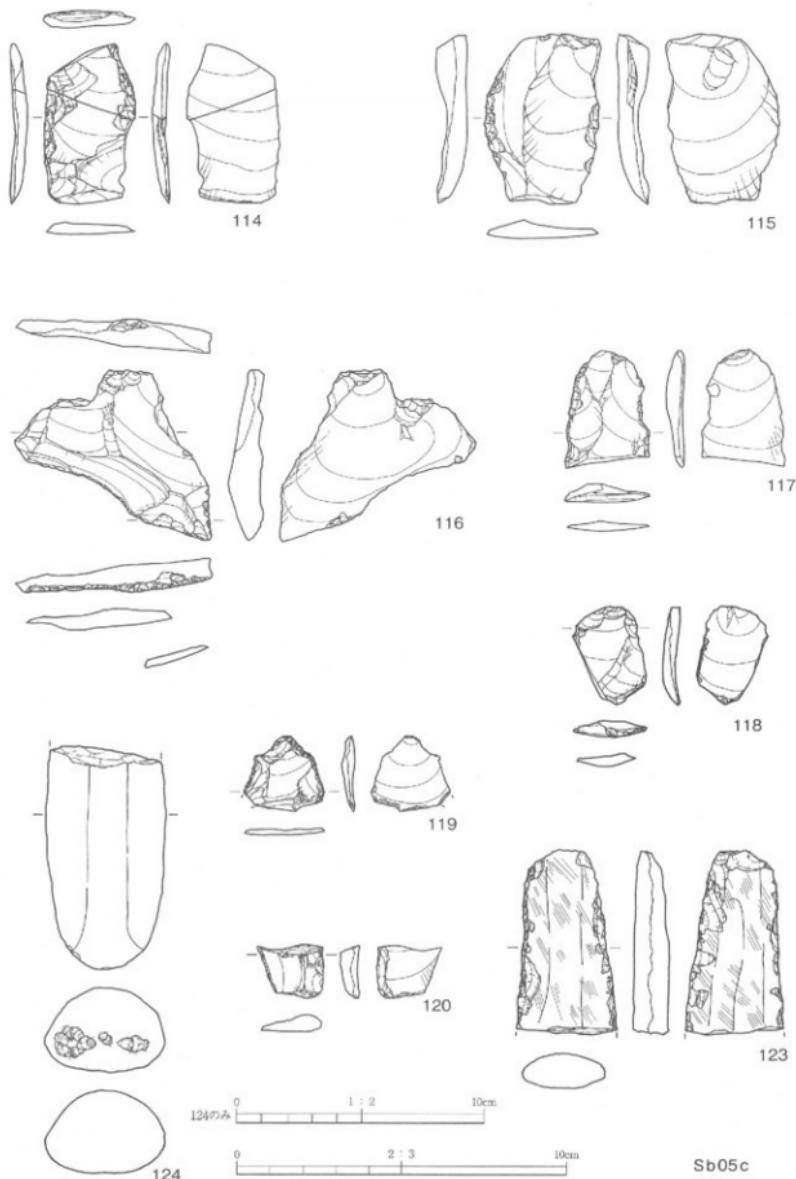
縄文土器 (135～153) 135・149はVI層出土遺物で、135は貝殻沈施文系土器群の体部の断片的な資料である。136～138・142・143・150はV層、その他はI～IV層や縄文時代以外の遺構から出土した資料である。136～145は主に南東北地方を中心に分布する人寺式・常世式に類似する資料である。断片的な資料であるため、全体の文様は不明であるが、貝殻腹縁文、沈線文、刺突文を併用している。145は数少ない底部資料である。146・147は物見台式に類似する資料である。断片的な資料であるため、全体は不明である。2点とも沈線文を主体とし、146には、物見台式に特徴的な、口縁部内面の貝殻腹縁圧痕が観察される。148は詳細な型式は不明であるが、早期中葉の貝殻沈線文土器群の資料



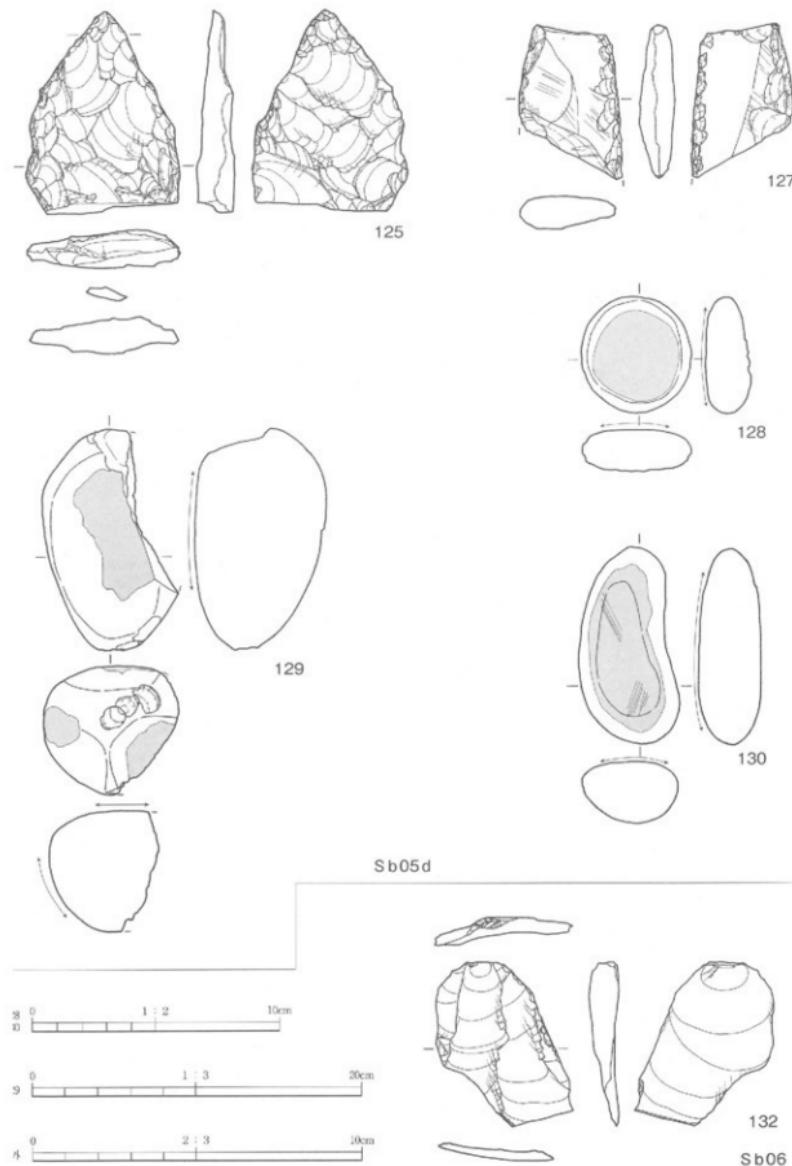
第36図 繩文時代の遺物（1）



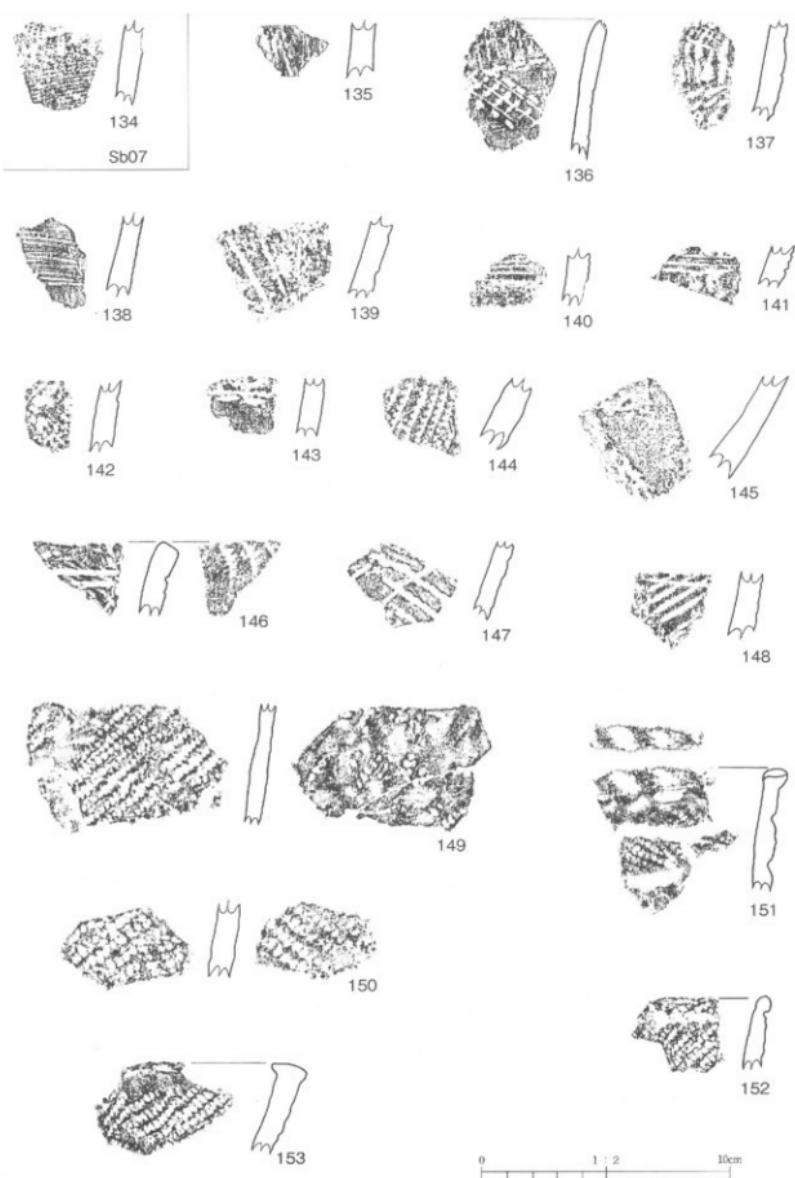
第37図 縄文時代の遺物（2）



第38図 繩文時代の遺物（3）



第39図 繩文時代の遺物 (4)



第40図 繩文時代の遺物（5）

である。149・150は早期後葉～末葉の表裏縦文土器群の資料である。151・152は口縁部の断片的な資料である。152には纖維が多く混入されており、前期前半期の土器と考えられる。153は地文のみの土器の口縁部の断片的な資料である。

石鏃（154～162） 154～156はI類、157はII類、158・159はIII類、160はIV類、161はV類、162はVI類の石鏃である。154～156・162は、二次加工が縁辺部のみに行われ、両面とも素材剥片の剥離面を広範囲に残置している。157～159・161は両面とも入念な二次加工が施されている。160は、先端部の二次加工は両面とも入念に行われているが、基部の二次加工がやや粗雑である。脚部が片側に歪んでおり、欠損後に再調整が行われた可能性が示唆される。

尖頭器（163～167） 163・164は木葉形を呈する細身の尖頭器である。163は押圧剥離により、3～5mm幅の細長く整然とした二次加工が施されている。基部が片面側に寄っており、側面観もやや歪みがみられる。164は両面とも入念な二次加工が施されている。165は細身の尖頭器で、上半部を欠損し、端部を調査時に欠いている。両面とも入念な二次加工が、表面の右側縁・裏面の右側縁→表面の左側縁・裏面の左側縁の順で施されている。166は菱形を呈する尖頭器と考えられるが、基部側の縁辺部の大半を調査時に欠いており、二次加工の有無が不明瞭である。先端部の調整は両面とも施されているが、基部側の調整は素材剥片の剥離面が広範囲に残置している。全体的に粗製で、未製品の可能性もある。167は基部を欠損した幅広の尖頭器と考えられる。全体的に粗製で、未製品である可能性がある。

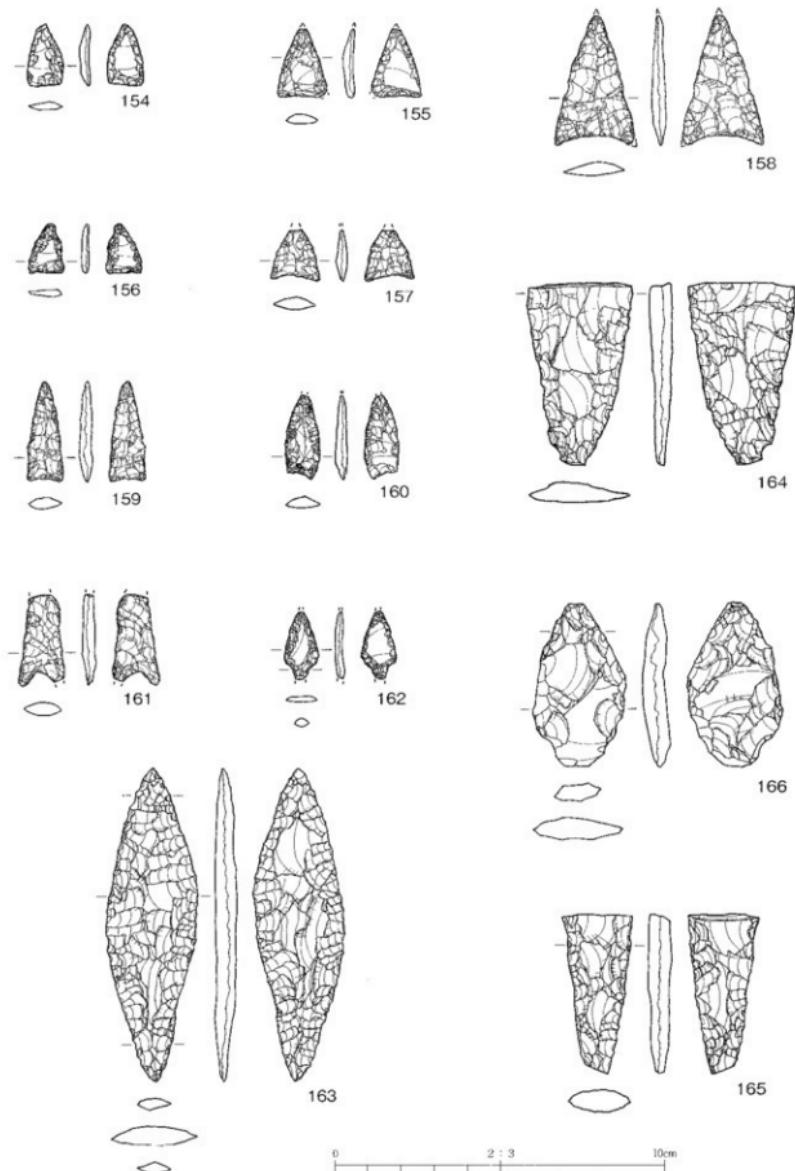
搔器（168～176） 168～172・174～176はI類、173はII類の搔器である。168・169・171は刃部の上面観が弧状を呈し、刃部の厚みがあるものである。171は上辺以外の縁辺部に二次加工が施されており、ラウンド状を呈する。170は刃部の上面観が直線状を呈し、168などよりは刃部は薄い。刃部の稜は磨滅している。172は正面観がティアドロップ状を呈するもので、素材剥片のはば全周に二次加工が施されている。全体的に二次加工は縁辺部にとどまる。173は両面ポジ面の剥片を素材としている。172と同様、二次加工は縁辺部にとどまり、刃部の上面観は直線状で、刃部の厚みはない。174は端部の他に、上辺の背面側にも二次加工が施されている。

搔削器（177～180） 177はI類、178・179はIII類、180はIV類の搔削器である。177は縦長剥片を素材とする。端部の二次加工は背面側に、側縁の二次加工は腹面側に施されている。178は縦面を打面とする縦長剥片を素材とし、両側縁の二次加工は背面側に施されている。179は縦長剥片を素材とする。端部及び右側縁の二次加工は背面側に、左側縁の二次加工は腹面側に施されている。左側縁下半部を調査時に欠損しているため、右側縁のように端部まで二次加工が施されているか不明である。180は小形のものである。刃部作出の調整は腹面の縁辺部を中心に行われる。

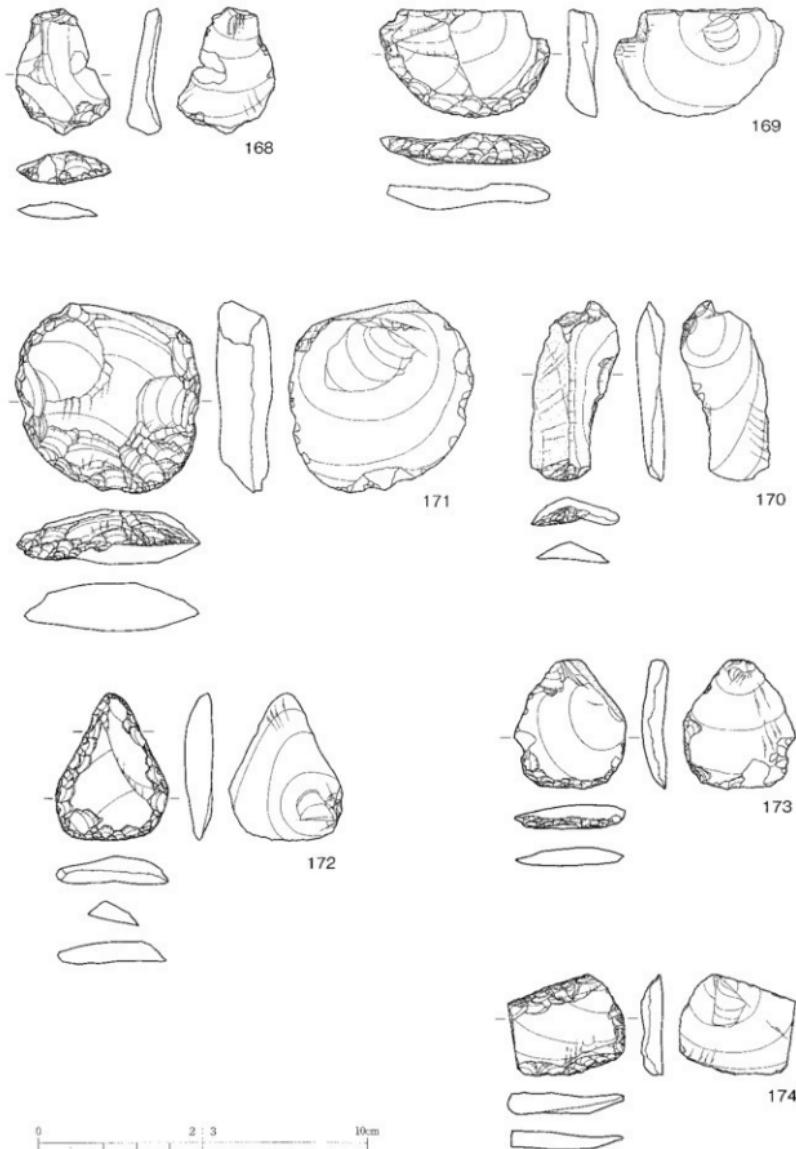
削器（181～187） すべてII類の削器である。181は硬質な頁岩製のもので、両側縁とも二次加工は両面に施されている。182は不定形剥片を素材とする。二次加工は両側縁とも両面に施されているが、粗雑である。183は凝灰質な頁岩製のもので、下半部を欠損している。両側縁の二次加工は両面に施されるが、背面側中心である。184は厚手の剥片を素材とする。二次加工は腹面側に施されている。185は不定形の剥片を素材とする。右側縁は腹面側に、左側縁は背面側に細かな二次加工を施している。186は上半部を欠損している。両側縁とも縁辺部には微細な剥離痕が観察される。187は端部を欠損している。両側縁とも背面側に二次加工を施している。左側縁の後は摩耗している。

抉入石器（188） 左側縁の中央部背面側に数回の粗い二次加工で凹状の刃部が作出されている。

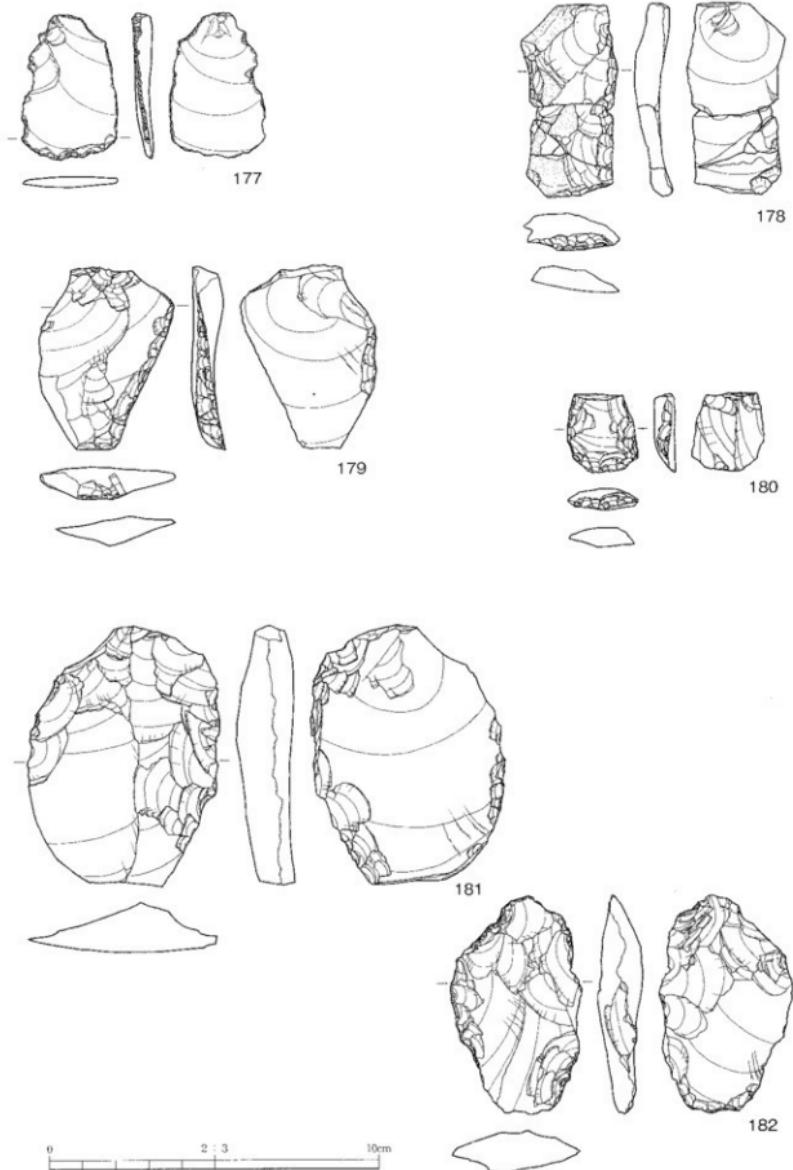
範形石器（189・190） 189は基部がやや尖る短冊状の正面観を呈する。裏面の基部・裏面の刃部・表面の刃部の順で二次加工が施されている。190は撥形を呈する範形石器である。二次加工は表面を



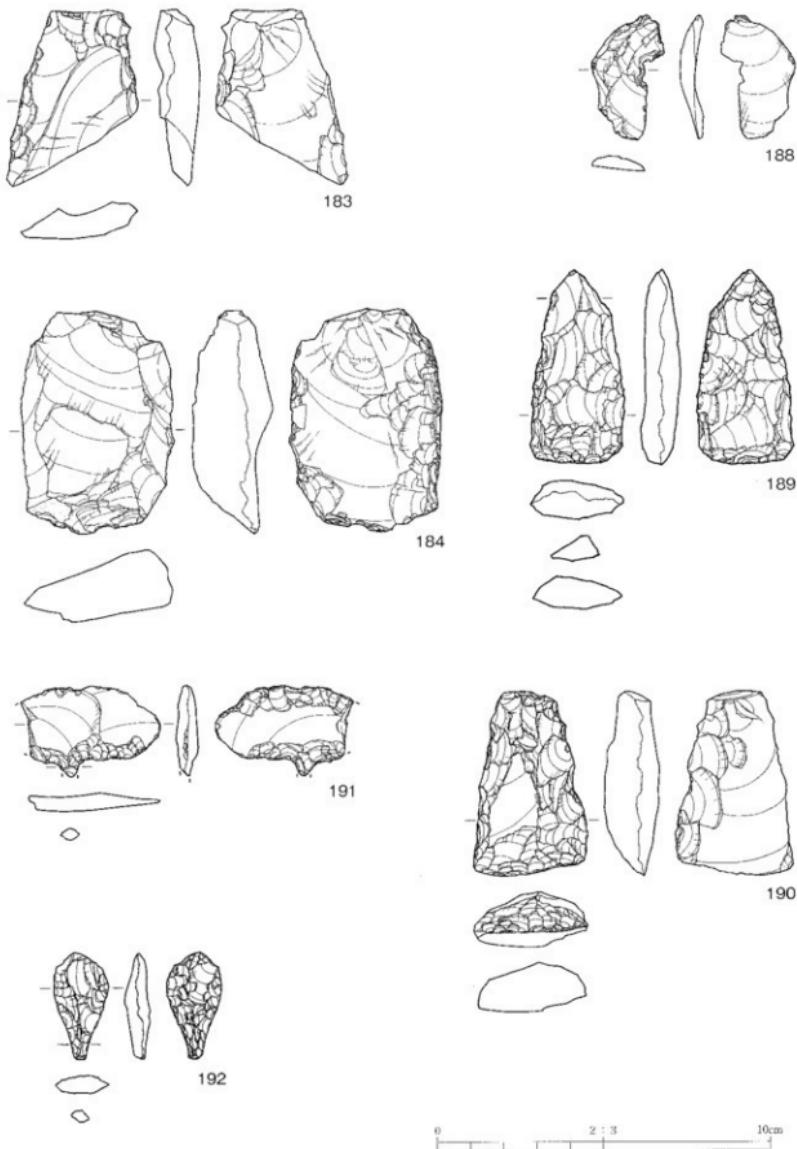
第41図 繩文時代の遺物（6）



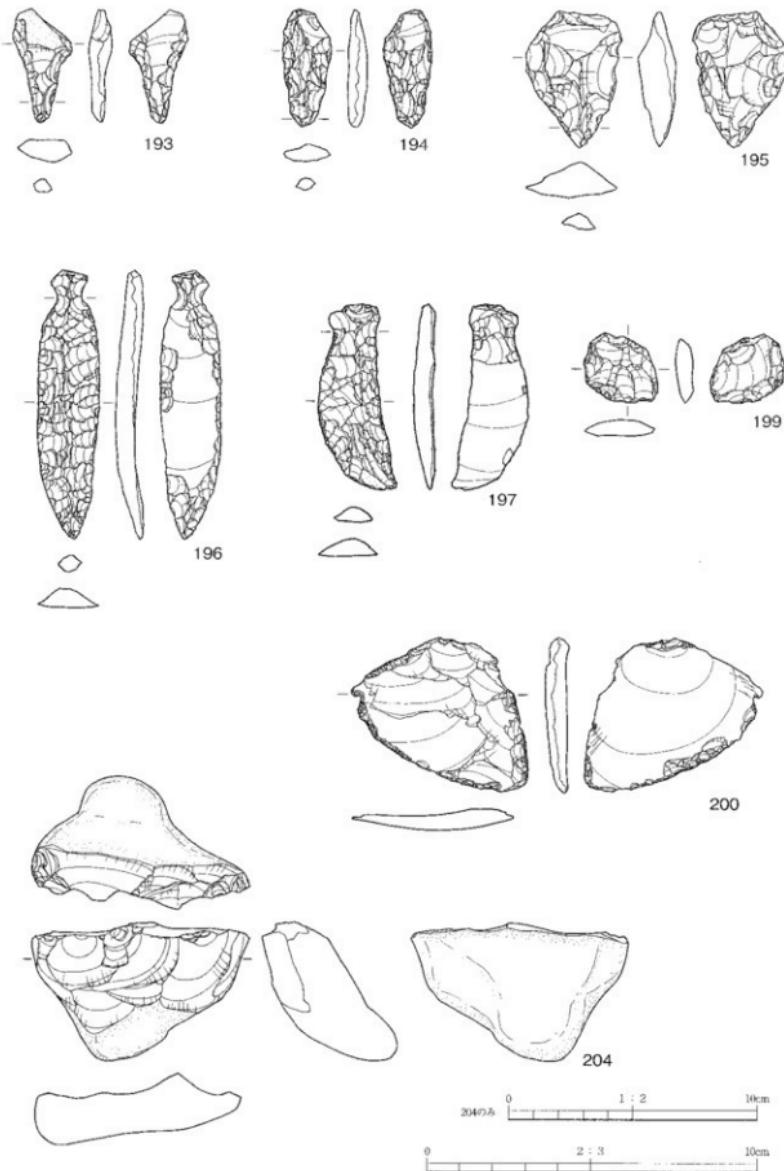
第42図 縄文時代の遺物（7）



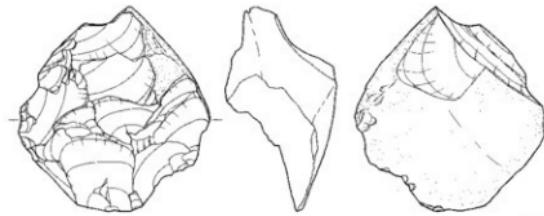
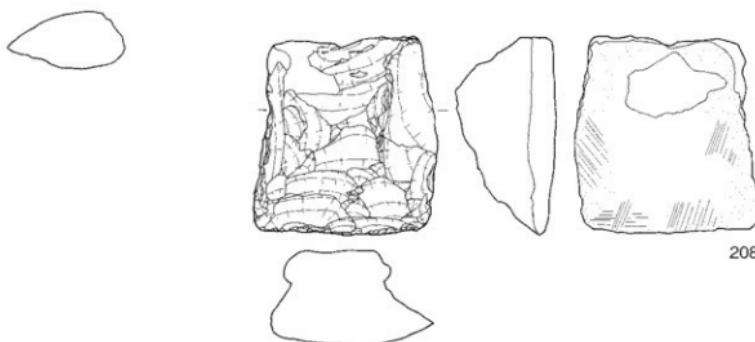
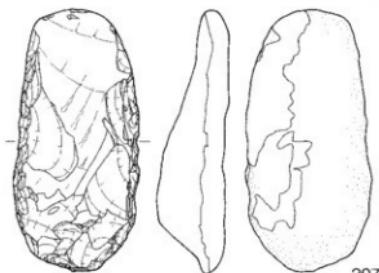
第43図 桶文時代の遺物（8）



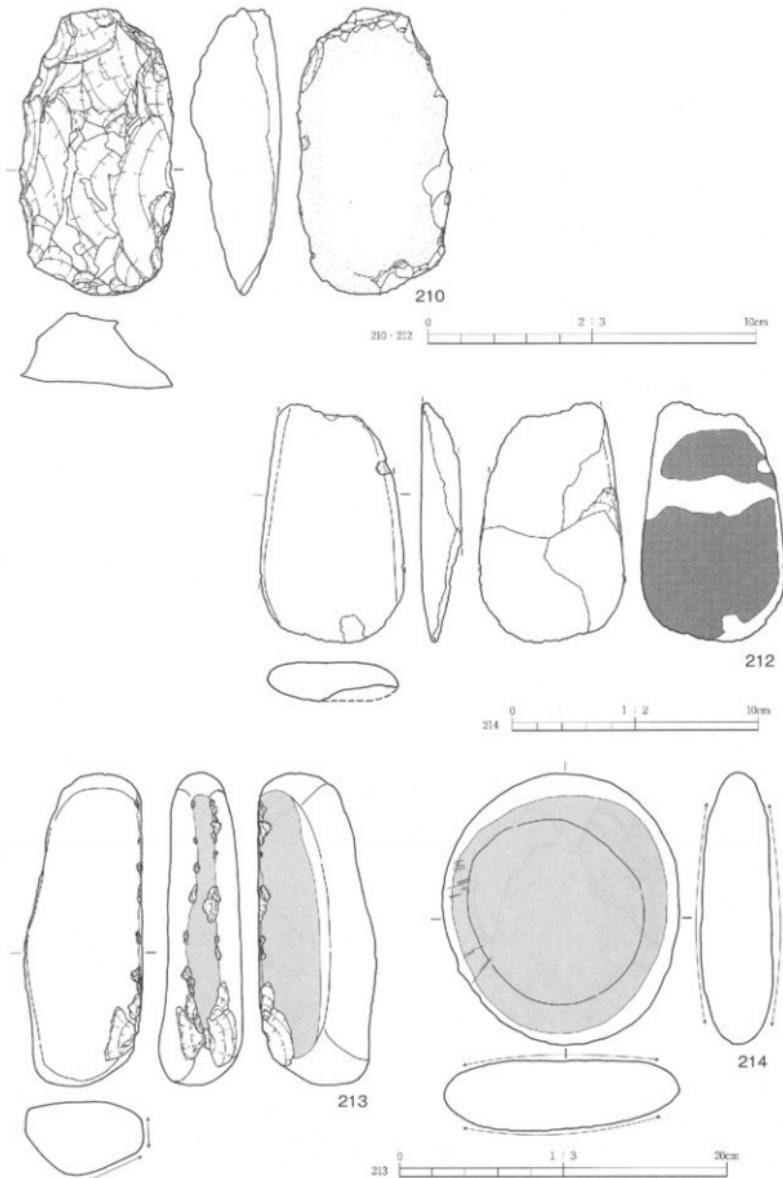
第44図 編文時代の遺物（9）



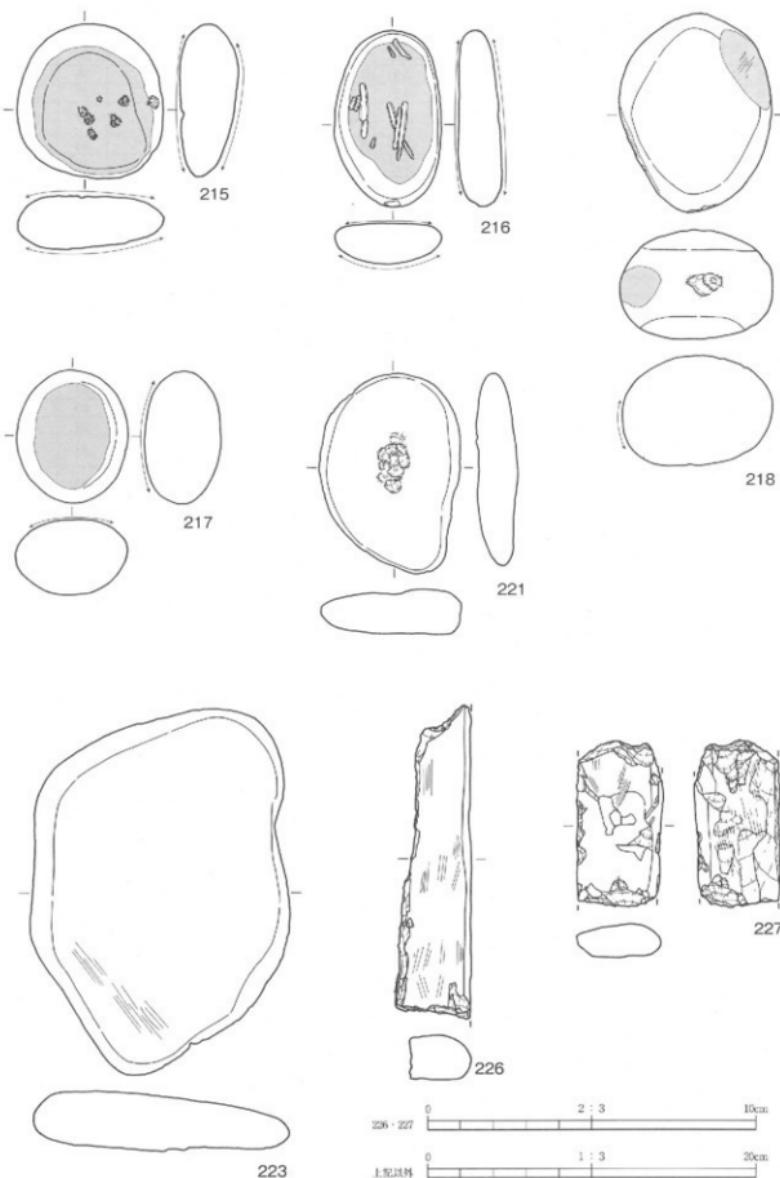
第45図 繩文時代の遺物 (10)



第46図 純文時代の遺物 (11)



第47図 繩文時代の遺物 (12)



第48図 繩文時代の遺物 (13)

第23表 土器観察表（縄文時代）

掲載 No	出土地点・層位	器種	部位	器高 (cm)	文様等	備考	図版 No	写図 No
101	S K 02 増上	深鉢	体	(3.9)	貝殻模様文、沈線文、刺突		36	21
106	S b 05 b (C 21) VI層 (200)	深鉢	体	(4.1)	Rヨコ		37	21
109	S b 05 c (C 23) VI層 (332)	深鉢	体	(6.3)	沈線文		37	21
134	S b 07 (A 19) VI層 (154)	深鉢	体	(3.7)	拂系文		40	22
135	A 24 VI層 (468)	深鉢	体	(2.5)	貝殻模様文、沈線文		40	22
136	D V層	深鉢	体	(5.7)	貝殻模様文、沈線文、刺突		40	22
137	D V層	深鉢	体	(4.2)	貝殻模様文、沈線文、刺突		40	23
138	D V層	深鉢	体	(3.8)	沈線文		40	23
139	D区 IV層	深鉢	体	(3.5)	沈線文		40	23
140	D区 III層	深鉢	体	(2.4)	沈線文		40	23
141	A区 黒削木	深鉢	体	(2.2)	沈線文、刺突		40	23
142	D区 V層	深鉢	体	(3.0)	貝殻模様文、刺突		40	23
143	C V層	深鉢	体	(2.4)	貝殻模様文、刺突		40	23
144	D区 IV層	深鉢	体	(3.5)	貝殻模様文		40	23
145	D区 III層	深鉢	底	(4.2)			40	23
146	D区 風削木	深鉢	口	(3.1)	外：沈線文 内：貝殻模様文		40	23
147	E区 II層	深鉢	体	(3.4)	沈線文		40	23
148	A区 風削木	深鉢	体	(2.9)	沈線文		40	23
149	C 18 VI層 (336)	深鉢	体	(5.2)	外・内：L Rヨコ 外：L Rヨコ・タテ 内：L Rタテ		40	23
150	D V層	深鉢	体	(3.5)			40	23
151	S K 04 南埋	深鉢	口	(5.1)	外：R L + 結節 解：II痕		40	23
152	S K P 09 墓上	深鉢	口	(3.0)	L R + 結節	縦堆合む	40	23
153	S D 03 西3層	深鉢	口	(3.8)	L Rヨコ		40	23

【出土地点・層位】 墓上：埋土上位、南埋：南側埋土、C：Cグリッド、D：Dグリッド

【部位】 口：口縁部、体：体部、底：底部 【器高】 ()：残存値

【文様等】 外：外面、内：内面 管：口唇部

中心に施され、右側縁の裏面側は粗い調整のみである。表面のほぼ中央の棱は摩滅しており、着柄痕の可能性が高い。

錐形石器 (191~195) 191はI類、192~195はIII類の錐形石器である。191は横長剥片を素材とする。錐部は両面に、相対する縁辺部は腹面側に二次加工を施している。刃部とつまみ部の一部を欠損している。192は正面觀が逆ティアドロップ状を呈するものである。両面とも入念な二次加工が施されている。193は縦長剥片を素材とする。両側縁の両面縁辺部に二次加工を施して錐部を作出している。194は縦長剥片を素材とする。やや粗い二次加工を両面に施して錐部を作出している。195は全体的に調整が粗く、未製品の可能性がある。

石匙 (196~198) 196・197はI類、198はII類の石匙である。196は背面全面と腹面のつまみ部及び端部に入念な二次加工が施されている。197は、つまみ部以外は背面のみに二次加工が施される。198はつまみ部が欠損したものである。全体的に薄手で、両面に二次加工が施されている。

楔形石器 (199) 寸詰りの剥片を素材としている。直交する方向にも相対する剥離面が観察され、打撃方向を転移しながら利用している。

R F (200~203) 200はIII類のR Fである。背面のほぼ全縁と腹面の端部に細かな二次加工を施している。201は側縁部の一部しか残存していないため、R Fとしたものである。断面形がレンズ状になるような二次加工が意識されており、石鎚や尖頭器等の可能性が想定される。202・203はI類のR Fである。202は黒曜石製のもので、端部に細かな二次加工が施されている。203は端部の断片的な資料である。左側縁の背面に二次加工が施されている。

石核 (204~206) 204は掌大の河原石を素材とし、粗い剥離によって打面作出後、作業面を一面に

限定して、同一打面上から小形の不定形剥片を作出している。205は厚手の剥片剥離工程初期段階の剥片を素材とする石核である。素材剥片背面を打面、素材剥片腹面を作業面に限定して、小形の不定形剥片を作出している。素材剥片端部から打面側に向かって剥片剥離を行っている。206は掌に収まる大きさの礫を素材とした石核で、素材の厚みを減じるように剥片剥離を行っている。素材礫の大きさがあまり減じていないため、目的剥片の剥離はほとんど行われていないことが窺える。目的剥片は204や205と同じく、小形の不定形剥片である。

石斧（207～212） 207は凝灰岩製、208・210はホルンフェルス製、209は頁岩製の片面に素材礫の礫面をそのまま残置する「礫石斧」と呼称されるものである。207は短冊状を呈し、刃部には器長にはほぼ平行する使用痕と考えられる線条痕が観察される。208はほぼ方形を呈し、裏面に線条痕が観察される。211は凝灰岩製の大形の石斧で、基部を欠損している。器面の損傷が激しく、部分的にしか研磨痕が観察されない。212はデイサイト製の石斧で、片面の中間部しか残存していない。片面の広範囲にスス状の付着物が観察できるが、中央部のみ帯状に付着物が見られない部分があり、柄が装着されたまま、被熱した可能性が想定される。

磨石（213～220） 213・219はデイサイト製で、特殊磨石といわれる、側面に平坦な磨面をもつ石器である。213には一部に剥離痕が残置している。214は扁平な円形の河原石を利用したデイサイト製の磨石である。使用面は表裏2面で、表側の縁辺部に線状痕が観察される。215～217は掌に収まるサイズの河原石を利用したもので、215は閃綠岩製、216・217は安山岩製である。215・216の使用面は表裏2面、217は表面のみである。218は指円形の河原石を利用した安山岩製の磨石で、相対する側縁の一部に使用面、一端には敲打痕が観察される。220は指円形の河原石を利用したデイサイト製の磨石である。使用面は一面である。

凹石（221） 掌に収まるサイズの河原石を利用したもので、一面の中央部に凹部が形成されている。

敲石（222） 棒状の礫を利用したデイサイト製の敲石である。一端部には敲打痕とともに剥離痕も観察される。

台石（223・224） 223は扁平な礫を利用したデイサイト製の台石で、使用面は一面である。224はブロック状の礫を利用したデイサイト製の台石で使用面は一面である。

砥石（225） ホルンフェルス製の砥石で、両面とも非常に平滑になっている。

石製品（226～228） 3点とも欠損している。226・227は両面とも入念な研磨調整が行われ、明瞭な線状痕が観察される。228は研磨痕が観察されるものの、非常に粗雑で、未製品の可能性が高い。

（5）接合資料

接合資料11（写真図版27） 122・229・230の3点が接合したものである。円礫を素材とする。礫面をそのまま打面として、229→230→122の順で剥片剥離を行っている。

第24表 石器観察表（純文時代1）

掲載 No	個別 No	器種	位置	出土層位	Sb	石材	分類	備考	図版 No	写真 No
102	P O	S K 02	埋上		sh	D a	未製品か		36	21
103	373	A X	B 5	V I層	5a	serp		一面に敲打痕	36	21
104	173	G S	B 5	V I層	5a	dio	I		-	21
105	174	W S	B 5	V I層	5a	tuf	III		36	21
107	480	S A R	C 16	V I層	5b	sh	D a	I	37	21
108	182	R F	C 21	V I層	5b	sh	E a	I	37	21
110	338	S A R	C 24	V I層	5c	sh	D a	III	37	21
111	306	S A R	C 23	V I層	5c	sh	C a	VII	37	21
112	256	E S	C 22	V I層	5c	sh	C a	I	37	21
113	258	S S	C 22	V I層	5c	sh	D a	II	37	21
114	328	S S	C 23	V I層	5c	sh	C a	II	38	21
	527	S S	C 23	V I層				縦長洞片素材、立位 (328)		
115	416	S S	C 23	V I層	5c	sh	A b	II	38	21
116	265	R F	C 22	V I層	5c	sh	C a	I	38	21
117	418	R F	C 23	V I層	5c	sh	C a	II	38	21
118	293	R F	C 23	V I層	5c	sh	D a	III	38	22
119	298	R F	C 23	V I層	5c	sh	C a	III	38	22
120	315	R F	C 23	V I層	5c	sh	C a	I	38	22
121	316	R F	C 23	V I層	5c	sh	C a	I	-	22
122	486	F	C 22	V I層	5c	sh	A a		接合資料 11	-
123	191	A X p	C 21	V I層	5c	tuf			38	22
124	337	H S	C 24	V I層	5c	gradio		(1)	38	22
125	277	P O	D 2	V I層	5d	sh	C a		39	22
126	457	R F	D 2	V I層	5d	sh	C a	I	-	22
127	205	A X p	D 1	V I層	5d	tuf			39	22
128	423	G S	D 1	V I層	5d	dac		I	39	22
129	281	G S	D 2	V I層	5d	an		II	39	22
130	425	G S	D 2	V I層	5d	dac		I	39	22
131	280	H S	D 2	V I層	5d	dac		I	-	22
132	62	U F	凸区	V I層	6	sh	E a	I	39	22
133	92	F	凸区	V I層	6	sh	A a		-	22
154	488	S A R	D 2	V I層		sh	D a	I	41	23
155	S A R	D 区		V I層		sh	C a	I	41	23
156	S A R	D 区		IV 層		ob		I	41	23
157	S A R	D 区		IV 层		sh	C a	II	41	23
158	S A R	D 区		IV 层		sh	D a	III a	41	23
159	S A R	D 区		IV 层		sh	F a	III b	41	23
160	S A R	S D 02	1 b	層		sh	C a	IV	41	23
161	S A R	D 区		III 层		sh	C a	V	41	23
162	S A R	D 区		風削木		sh	A a	VII	41	23
163	70	P O	C 24	V I層		sh	D a		41	23
164	P O	D 区		複孔層		sh	C a		41	23
165	P O	S D 02	6	層		sh	C a		41	23
166	P O	D 区		IV 层		sh	D a		41	23
167	P O	E 区		IV 层		sh	C a		-	23
168	E S	E 区		IV a 層		sh	C a	I	42	24
169	E S	S D 02	6	層		sh	C a	I	42	24
170	E S	D 区		II 层		sh	A a	I	42	24
171	E S	T 4		複孔層		sh	B a	I	42	24
172	E S	S K 04		南壁土		sh	D a	I	42	24
173	E S	E 区		III 层		sh	C a	II	42	24
174	E S	D 区		接孔層		sh	C a	I	42	24
175	E S	C		V 层		sh	D a	I	-	24
176	E S	D 区		IV 层		sh	C a	I	-	24
177	E S S	S D 03		東壁 F		sh	C a	I	43	24
178	E S S	D 区		II 层		sh	C a	III	43	24
179	E S S	D 区		II 层		sh	C a	III	43	24
180	E S S	C		V 层		sh	D a	IV	43	24
181	S S	D 区		II 层		hor		II	43	24
182	S S	D 区		III 层		sh	D a	II	43	24
183	S S	D 区		II 层		sh	E a	II	44	24
184	S S	S D 02	6	層		sh	D a	II	44	24
185	S S	D 区		II 层		sh	E a	II	-	24

第24表 石器観察表（縦文時代2）

掲載順位	個別No	器種	位置	出土層位	Sb	石材	分類	備考	図版No	写真No
186		S S	SD 02	東1層		sh	C a	II	-	24
187		S S	SD 02	2層		sh	C a	II	-	24
188		N O	D区	III層		sh	A a		44	24
189		S S P	SD 02	3層		sh	D a		44	25
190		S S P	D区	II層		sh	E a		44	25
191		S A W	D区	II層		sh	C a	I 横長剥片素材	44	25
192		S A W	D区	IV層		sh	C a	III	44	25
193		S A W	SD 03	西埋下		sh	E a		45	25
194		S A W	D区	II層		sh	B a		45	25
195		S A W	D	V層		sh	C a	III 未製品か	45	25
196		T S S	C 22	搅乱層		sh	D a	I	45	25
197		T S S	SD 03	西埋下		sh	C a	I	45	25
198		T S S	D区	II層		sh	D a	II	-	25
199		P A	D区	II層		sh	C a		45	25
200		R F	D区	II層		sh	D a	III	45	25
201		R F	C	V層		ob	-		-	25
202		R F	D区	II層		ob	I		-	25
203	272	R F	C 22	V層		sh	C a	I	-	25
204		C O	S I 01	2層		sh	E a		45	25
205		C O	S D 03	東2層		sh	E a	剥片素材	-	25
206		C O	S D 03	埋土		sh	A a		-	25
207		A X c	C 22	V層		tuf	A a	風化が著しい	46	26
208		A X c	D	V層		hor			46	26
209		A X c	A	V層		sh	A a		46	26
210		A X c	D区	II層		hor			47	26
211		A X p	S D 03	西1層		tuf			-	26
212		A X	S D 03	西3層		dac			47	26
213		G S	C 22	搅乱層		dac	IV		47	26
214		G S	S D 03	底底		dac	I	円形	47	26
215		G S	C区	II層		dio	III		48	26
216		G S	S D 02	西5層		an	I	梯円形	48	26
217		G S	S D 03	西埋上		an	I	橢円形	48	26
218		G S	A	V層		an	II		48	26
219		G S	C	V層		dac	IV		-	26
220		G S	S D 02	6層		dac	I	梯円形	-	26
221		S W I	S D 03	西埋下		an			48	27
222		H S	E区	II層		dac	I		-	27
223		A S	C	V層		dac	I		48	27
224		A S	S D 03	東3層		dac	I		-	27
225		W S	D	V層		hor	III		-	27
226		S M O	D区	搅乱層		sh	I		48	27
227		S M O	D区	II層		tuf	I	未製品	48	27
228		S M O	D区	II層		sh	II	未製品か	-	27
229	405	F	C 22	V層		sh	A a	接合資料 II	-	27
230		R F	C 22	搅乱層		sh	A a	II 接合資料 II	-	27

【位置】A : Aグリッド、B : Bグリッド、C : Cグリッド、D : Dグリッド

【出土層位】東埋下 : 東側埋土下位、西埋下 : 西側埋土下位、西埋上 : 西側埋土上位

底底 : 底面直上

【石材】an : 安山岩、dac : デイサイト、dio : 閃綠岩、gradio : 花崗閃綠岩

hor : ホルンフェルス、ob : 黒曜石、serp : 蛇紋岩、sh : 貝岩

tuf : 硫化岩

第25表 石器計測表（縄文時代）

器種 No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)	器種 No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)
102	(5.97)	(3.78)	(0.92)			15.21	178	5.89	2.94	1.11	98	79・45	13.63
103	(11.52)	(8.24)	(4.61)			596.10	179	5.57	(4.10)	(0.99)	104	63・60	18.22
104	17.18	5.61	5.15			463.51	180	(2.39)	(2.12)	(0.64)		56・57	3.73
105	(14.80)	(7.15)	(7.60)			1002.50	181	(7.92)	5.85	1.76	113	45	73.72
107	2.34	1.61	0.51			1.76	182	6.64	(3.99)	1.45		48	28.71
108	9.70	(11.09)	2.35	100		129.30	183	(5.36)	(3.97)	(1.32)	117	55	18.23
110	2.23	1.59	0.27			0.65	184	6.85	4.65	2.45	98	75	69.10
111	3.53	2.05	0.82			5.47	185	3.27	3.16	0.93	102	82	7.10
112	(3.61)	3.47	(0.62)	100	70	4.97	186	(4.59)	(2.75)	(1.02)		58	13.33
113	7.28	3.06	1.37		59	26.41	187	(4.56)	(3.01)	(0.81)	119	56	7.85
114	(4.88)	(2.75)	(0.52)		40	6.54	188	3.76	2.18	0.71		61	2.85
115	5.21	3.48	0.95	111	42	14.37	189	5.96	2.81	1.20		67	17.93
116	5.25	(5.96)	(1.04)			12.76	190	5.62	3.48	1.68	106	57	31.63
117	(3.58)	(2.56)	(0.55)			3.81	191	(2.81)	(4.21)	(0.68)			6.14
118	2.98	(2.21)	(0.50)			2.67	192	(3.24)	1.66	0.73			2.99
119	2.28	(2.39)	0.39	123		1.30	193	(3.46)	(1.75)	(0.72)			2.98
120	(1.61)	(1.96)	(0.59)			1.59	194	(3.60)	1.43	0.57			2.82
121	(3.05)	(2.67)	(0.55)			4.87	195	4.13	2.94	1.11			10.18
122	(4.09)	(3.59)	(1.18)	102		10.38	196	8.22	1.86	0.81			9.85
123	(5.53)	(2.95)	(1.14)			26.90	197	5.67	2.32	0.66			6.76
124	(9.10)	(4.81)	(3.40)			218.10	198	(4.02)	(5.91)	(0.89)			15.90
125	(6.20)	4.68	(1.16)			27.34	199	2.11	2.31	0.58			2.61
126	(1.20)	(1.46)	(0.38)	134		0.45	200	(4.71)	(5.31)	0.68	136		14.50
127	(4.66)	(3.13)	(1.04)			17.36	201	(3.59)	(1.03)	(0.47)			1.44
128	4.72	4.37	1.82			46.49	202	(1.47)	(1.09)	(0.38)			0.80
129	13.60	(8.25)	(7.85)			947.90	203	(3.95)	(4.17)	(1.59)			21.18
130	7.96	3.99	2.57			99.80	204	5.62	8.81	5.45			160.90
131	11.27	6.12	4.52			341.31	205	(2.64)	(8.53)	(4.84)			83.25
132	5.05	4.16	0.85	123		7.38	206	2.97	8.96	5.39			158.21
133	4.61	3.50	1.02	110		15.55	207	8.01	3.83	2.11		36	61.24
134	1.90	1.08	0.32			0.60	208	6.08	5.57	3.02		49	107.82
135	(2.10)	(1.46)	(0.36)			1.00	209	(6.25)	(5.80)	(3.36)		37	78.17
136	1.55	1.05	0.23			0.33	210	8.83	4.73	2.72		49	117.62
137	(1.56)	1.48	0.36			0.69	211	(16.03)	10.20	(3.85)		63	742.90
138	(3.97)	(2.40)	0.47			3.01	212	9.78	(5.85)	(1.69)			67.00
139	3.06	1.07	0.42			1.27	213	19.10	7.20	5.10			900.80
140	(2.57)	1.04	0.37			0.81	214	11.06	9.57	2.94			421.90
141	(2.76)	1.38	0.44			1.40	215	9.47	8.88	3.56			406.92
142	(2.04)	1.05	(0.27)			0.49	216	10.82	6.53	2.71			253.10
143	9.56	2.78	0.65			15.23	217	8.09	6.78	4.64			364.90
144	(5.59)	(3.17)	(0.69)			10.41	218	12.18	9.26	6.67			992.64
145	(4.91)	(2.12)	(0.71)			7.07	219	15.16	5.53	4.81			462.73
146	(4.99)	(2.86)	(0.85)			10.40	220	11.51	8.40	5.34			678.60
147	(4.88)	(4.42)	(0.82)			12.50	221	12.26	8.60	2.72			398.62
148	3.86	2.89	0.99	96	66	6.93	222	14.64	4.79	3.05			264.80
149	3.32	5.09	0.94	103	66	15.26	223	22.35	15.95	4.30			1965.90
150	(5.50)	2.69	(0.85)		62	8.00	224	18.47	10.55	6.50			1976.63
151	5.85	5.58	1.66	107	59	57.90	225	(20.26)	(5.16)	(3.40)			567.21
152	4.50	3.40	0.82	115	56	10.20	226	(9.57)	(2.33)	(1.41)			49.45
153	3.93	(3.37)	0.73	97	54	9.34	227	(5.06)	(2.53)	(1.07)			22.60
154	3.08	(3.49)	(0.68)		63	7.24	228	(12.32)	(2.87)	(1.38)			72.81
155	(1.79)	(2.33)	(1.46)		78	3.98	229	7.60	6.95	2.77	107	107.59	
156	3.73	3.67	0.81	103	73	5.74	230	(3.31)	(3.45)	(1.01)			8.14
157	4.47	2.86	0.63	99	61・87	6.80							

【刃部角】数字が2つの場合は前が端部・後ろが側縁部の角度

第26表 表掲載石器観察表(編文時代1)

調査 No.	器種 分類	出土 位置	Sb	石材	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)	分類	備考	
45	F	凸区		sh	C a	3.99	4.45	0.83	104	7.90			
46	F	凸区	VII層	6	sh	D a	1.57	1.46	0.36	133	0.57		
47	C	凸区	VII層	6	sh	C a	(1.16)	0.86	0.27	124	0.17		
48	C	凸区	VII層	6	sh	C a	(1.38)	(1.17)	(0.24)		0.19	はじけ	
49	C	凸区	VII層		sh	D a	(0.70)	(1.07)	(0.08)		0.06		
50	C	凸区	VII層	6	sh	D a	(0.93)	(0.96)	(0.14)		0.15		
51	F	凸区	VII層	6	sh	D a	(1.90)	(1.01)	(0.19)		0.24		
52	C	凸区	VII層	6	sh	A a	(0.70)	(1.07)	(0.09)		0.07		
53	C	凸区	VII層	6	sh	D a	(0.52)	(0.66)	(0.09)		0.01		
54	C	凸区	VII層	6	sh	D a	(1.22)	(0.96)	(0.23)		0.13		
55	C	凸区	VII層	6	sh	C a	(1.37)	(1.11)	(0.39)		0.31	はじけ	
56	C	凸区	VII層	6	sh	A a	(0.67)	(0.92)	(0.14)		0.06	はじけ	
57	C	凸区	VII層	6	sh	D a	(0.71)	(1.20)	(0.11)		0.09		
58	C	凸区	VII層	6	sh	C a	(0.87)	(1.21)	(0.13)		0.08		
59	C	凸区	VII層	6	sh	D a	(1.33)	(1.40)	(0.25)		0.19		
60	C	凸区	VII層	6	sh	C a	(0.73)	(1.30)	(0.15)		0.13		
61	C	凸区	VII層	6	sh	D a	(1.31)	(0.55)	(0.17)		0.10		
63	F	凸区	(VII層西)		sh	C a	(3.36)	(2.22)	(0.57)		1.78		
64	C	凸区	(VII層西)		sh	A a					0.21		
65	C	凸区	VII層	6	sh	C a	(1.43)	1.07	0.47	124	0.43		
66	F	凸区	VII層	6	sh	C a	1.83	1.61	0.41	123	1.01		
67	C	凸区	VII層	6	grit						0.41		
68	F	凸区	VII層	6	sh	B a	(0.44)	(1.79)	(0.41)		0.57		
69	C	凸区	VII層	6	sh	A a					0.37		
73	C	凸区	VII層	6	sh	A a					0.03		
75	F	凸区	VII層	6	sh	C a	(1.27)	(1.75)	(0.47)	121	0.97		
76	F	凸区	VII層	6	sh	D a	(1.52)	(1.10)	(0.26)		0.50		
79	C	凸区	VII層	6	sh	C a	(1.07)	(1.09)	(0.21)		0.20		
80	C	凸区	VII層	6	sh	B a					0.08		
81	C	凸区	VII層	6	sh	D a	(1.46)	0.93	(0.34)		0.24		
83	C	凸区	VII層	6	sh	D a					0.03		
84	C	凸区	VII層	6	sh	A a					0.13		
85	F	凸区	VII層	6	sh	C a	(1.38)	1.60	(0.24)		0.42		
86	C	凸区	VII層	6	sh	D a	(0.59)	(0.35)	(0.06)		0.01		
87	C	凸区	VII層	6	sh	C a					0.11		
88	F	凸区	VII層	6	sh	C a	1.81	1.84	0.25	116	0.51		
89	C	凸区	VII層	6	sh	C a					0.04		
90	C	凸区	VII層	6	sh	B a					0.05		
91	C	凸区	VII層	6	sh	C a	0.83	1.13	0.29		0.11		
93	C	凸区	VII層	6	sh	D a					0.02		
94	C	凸区	VII層	6	sh	C a					0.10		
95	C	凸区	VII層	6	sh	A a					0.15		
96	C	凸区	VII層	6	sh	C a					0.04		
98	F	E 21	VII層	6	sh	C a	(1.90)	(1.04)	(0.37)		0.50		
99	C	E 21	挫毛		sh	A a					0.27		
101	C	E 21	IV層		sh	C a					0.06		
102	C	E 22	VII層		sh	D a					0.09		
103	F	E 22	VII層	6	sh	C a	(1.66)	(1.39)	(0.22)		0.34		
105	C	F 1	IV層		sh	C a					0.06		
107	C	凸区	VII層	6	sh	C a	(1.00)	1.12	(0.26)		0.13		
108	C	凸区	VII層	6	sh	C a					0.07		
110	C	E 22	VII層		sh	C a					0.10		
111	C	C 22	VII層		sh	A a					0.15		
112	C	C 22	VII層		sh	A a					0.46		
113	F	C 22	VII層		sh	A a	(2.04)	1.34	0.22	118	0.39	はじけ、立位	
114	C	C 22	VII層		sh	D a					0.03		
115	C	C 22	VII層		sh	C a					0.04		
116	F	C 22	VII層		sh	C a	(2.17)	(2.23)	(0.38)	111	1.20		
117	F	C 22	VII層		sh	C a	(1.73)	(1.93)	(0.18)		0.50		
118	C	C 22	VII層		sh	D a	0.75	(0.99)	0.27		0.13		
120	F	C 22	VII層		sh	C a	1.55	(2.38)	0.35		0.75		立位
123	C	C 22	VII層		sh	D a					0.08		
124	F	C 22	VII層		sh	C a	(1.37)	(1.91)	(0.21)		0.31		
125	F	C 22	VII層		sh	D a	(1.83)	(0.65)	(0.28)		0.26		
126	F	C 22	VII層		sh	C a	(1.32)	(1.62)	(0.28)		0.34		
127	C	C 22	VII層		sh	C a					0.14		
128	F	C 22	VII層		sh	D a	2.14	1.63	0.38	83	1.00		
129	G S	C 22	VII層	an			(7.85)	(6.76)	(1.85)		135.80	I 小判形	
130	C	C 22	VII層		sh	A a					0.20		
131	F	C 22	VII層		sh	A a	(6.47)	(4.56)	(2.15)		63.46	追理割れ	
132	F	C 22	VII層		sh	C a	0.81	1.91	0.28	117	0.14		

第26表 表掲載石器観察表(縄文時代2)

個別 No	器種	位置	出土 層位	Sb	石材	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)	分類	備考	
137	F	A 20	V層	sh	C a	4.24	6.42	1.67	107		2191	立位		
139	G S	C 21	V層	sh	san	(1.41)	(3.67)	(1.23)			691	I		
141	C	C 22	V層	sh	B a						0.03			
142	C	C 22	V層	sh	D a						0.04			
143	C	C 22	V層	5c	sh	D a					0.11			
144	F	C 22	V層	sh	C a	(5.40)	(4.81)	(1.93)			37.90			
145	C	C 22	V層	sh	A a						0.01			
146	C	C 22	V層	sh	D a						0.08			
147	C	C 22	V層	sh	D a						0.12			
148	C	C 22	V層	sh	C a						0.07			
150	F	A 18	V層	7	sh	C a	(1.63)	(2.25)	(0.26)		0.43			
151	F	A 18	V層	7	sh	A a	(2.62)	(4.05)	(0.99)		643			
152	C	A 18	V層	7	sh	C a					0.05			
153	U F	A 19	V層	7	sh	C u	(2.25)	(1.96)	(0.69)		1.70			
156	F	A 24	V層	sh	C a	(1.65)	(2.27)	(0.22)			0.50			
157	F	A 25	V層	sh	C a	(2.60)	(1.86)	(0.30)	124		0.47			
158	F	A 25	V層	5a	sh	C a	(1.74)	(1.65)	(0.10)		0.21			
159	F	A 25	V層	5a	sh	C a	(2.46)	(1.66)	(0.32)	121		0.93		
160	F	A 25	V層	5a	sh	C a	(1.76)	(2.20)	(0.47)	121		1.00		
161	C	A 25	V層	9a	sh	C a					0.10			
163	F	A 25	既成	sh	C a	(2.49)	(1.67)	(0.89)	111		2.10			
164	F	B 1	V層	sh	C a	(1.92)	(2.20)	(0.60)	99		1.58			
165	F	B 4	V層	sh	C a	4.21	4.83	1.39	105		20.70	立位		
166	C	B 4	V層	sh	C a						0.21			
168	C	B 5	V層	5a	sh	D a					0.20			
169	C	B 5	V層	5a	sh	C a					0.06			
170	C	B 5	V層	5a	sh	C a					0.10			
171	F	B 5	V層	5a	sh	C a	(2.63)	(2.84)	(0.54)	122		2.78		
172	C	B 5	V層	5a	sh	D a					0.24			
177	F	C 16	V層	5b	sh	C a	(1.68)	(2.06)	(2.00)			4.80		
178	F	C 16	V層	5b	sh	C a	2.72	2.62	0.82	110		2.61		
179	F	C 16	V層	5c	sh	D a	(2.18)	1.46	(0.37)	128		0.75		
180	F	C 16	V層	5c	sh	D a	2.91	2.45	0.65	96		2.58		
181	F	C 16	V層	5c	sh	C a	(3.31)	(3.00)	(0.41)			3.14		
183	F	C 21	V層	5b	sh	C a	2.31	2.08	0.57	109		1.96	圓盤狀削片、立位	
184	C	C 21	V層	5c	sh	C a					0.02			
185	F	C 21	V層	5c	sh	C a	1.12	1.79	0.40	111		0.26		
186	F	C 21	V層	5c	sh	C a	1.25	1.63	0.25	114		0.24		
187	C	C 21	V層	5c	sh	A a					0.04			
188	C	C 21	V層	5c	sh	F a					0.01			
189	C	C 21	V層	5c	qua						0.07			
190	C	C 21	V層	5c	sh	D a					0.04			
192	G S	C 21	V層	5c	tu						57.80	I 一面のみ、紙石?		
193	F	C 21	V層	5c	sh	C b	(1.41)	(2.10)	(0.44)	111		0.99		
194	F	C 21	V層	5c	sh	C a	(1.09)	(1.23)	(0.31)	111		0.21		
195	F	C 21	V層	5c	sh	C a	2.49	1.00	0.84			0.52	崩片状	
196	F	C 21	V層	5c	sh	C a	1.65	(1.39)	0.30	125		0.50		
197	C	C 21	V層	5c	sh	A a					0.06			
198	C	C 21	V層	5c	sh	A a					0.01			
203	F	D 1	V層	sh	C a	(1.60)	2.00	(0.49)			0.95			
204	R F	D 1	V層	ch			(0.84)	(1.37)	(0.24)			0.35		
206	C	D 1	V層	5d	sh	D a					0.01			
207	F	D 1	V層	sh	C a	(1.30)	(1.69)	(0.19)			0.26	はじけ		
209	C	C 22	V層	5c	sh	C a					0.12			
210	F	C 22	V層	5c	sh	C a	(2.98)	(3.18)	(0.66)			3.40	タテ割れ	
211	F	C 22	V層	5c	sh	C a	(2.34)	(2.60)	(0.44)	121		1.25		
212	F	C 22	V層	5c	sh	C a	(1.63)	(2.03)	(0.62)			1.15		
213	C	C 22	V層	5c	sh	D a					0.07			
214	C	C 22	V層	5c	sh	D a					0.12			
215	F	C 22	V層	5c	sh	C a	(1.19)	(1.51)	(0.03)			0.31		
216	F	C 22	V層	5c	sh	C a	1.16	1.62	0.37	121		0.27		
217	F	C 22	V層	5c	sh	D a	1.54	1.24	0.26	122		0.32		
218	C	C 22	V層	5c	sh	C a					0.09			
219	C	C 22	V層	5c	sh	D a					0.19			
220	F	C 22	V層	5c	sh	D a	(1.53)	(1.07)	(0.24)			0.20		
221	C	C 22	V層	5c	sh	D a					0.12			
222	C	C 22	V層	5c	sh	D a					0.01			
223	C	C 22	V層	5c	sh	D a					0.07			
224	C	C 22	V層	5c	sh	A a					0.01			
225	F	C 22	V層	5c	sh	A a	(3.84)	(4.34)	(0.81)			11.10		
226	F	C 22	V層	5c	sh	A a	4.73	4.75	1.51	106		24.35	立位	
227	C	C 22	V層	5c	sh	D a					0.05			
228	C	C 22	V層	5c	sh	A a					0.04			

第26表 表記載石器観察表（縦文時代3）

番号 No.	器種	位置	出土 層位	Sb	石材	芯長 (cm)	芯幅 (cm)	芯厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)	分類	備考
229	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	1.05	1.38	0.26	107	0.24		
230	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					0.09		
232	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					0.03		
233	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	1.46	1.59	0.24	112	0.28		
234	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	(1.37)	(2.34)	(0.76)		1.39		
235	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	(1.77)	(1.94)	(0.31)	106	0.69		
236	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					0.05		
237	F	C 22	VII層	5c	sh	D a	(1.11)	(2.40)	(0.20)		0.29		
238	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					0.12		
239	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					0.03		
240	C	C 22	VII層	5c	sh	E a					0.28		
241	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					0.16		
242	F	C 22	VII層	5c	sh	A a	(1.39)	(1.47)	(0.24)		0.35		
243	C	C 22	VII層	5c	sh	A a	1.39	1.02	0.24	122	0.17		
244	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	(1.92)	(2.07)	(0.27)		0.91		
245	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					0.10		
246	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					0.15		
247	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	(1.75)	(1.43)	(0.38)		0.54		
248	F	C 22	VII層	5c	sh	E a	1.49	0.75	0.25	105	0.11		
249	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					0.08		
250	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					0.38		
251	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					1.88		
252	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	1.59	1.43	0.53	103	0.50		
253	C	C 22	VII層	5c	sh	D a					0.10		
254	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	1.92	1.49	0.44	109	0.56		
257	C	C 22	VII層	5c	sh	A a					0.11		
259	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	(2.48)	(1.52)	(0.30)		0.52		
260	F	C 22	VII層	5c	sh	A a	1.46	1.50	0.38	110	0.23		
261	F	C 22	VII層	5c	sh	A a	(2.60)	(2.06)	(0.58)		1.58		
262	F	C 22	VII層	5c	sh	A a	(1.42)	(1.58)	(0.41)		0.64		
263	F	C 22	VII層	5c	sh	A a	4.97	5.39	1.36	110	35.06	端理割れ	
264	C	C 22	VII層	5c	sh	C a					0.09		
266	C	C 22	VII層	5c	sh	A a					0.01		
267	C	C 22	VII層	5c	sh	B a	(1.31)	(1.45)	(0.29)	105	0.35		
268	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	(1.40)	(1.65)	(0.24)	117	0.50		
270	F	C 22	VII層	5c	sh	E a	(2.88)	(2.39)	(0.53)		2.71		
271	F	C 22	VII層	5c	sh	A a	(1.53)	(1.62)	(0.45)	130	0.62		
276	F	D 2	VII層	5d	sh	C a	2.12	1.67	0.52	121	0.71		
278	C	D 2	VII層	5d	sh	C a					0.07		
279	F	D 2	VII層	5d	sh	C a	(1.47)	(1.45)	(0.31)		0.41		
282	F	D 2	VII層	5c	sh	C a	(2.41)	(1.72)	(0.32)		0.95		
285	C	D 3	VII層	sh	P a						0.33		
286	F	D 3	VII層	sh	A a	(2.97)	(4.06)	(1.40)	103	16.73			
287	C	D 3	VII層	sh	D a					0.14	はじけ		
289	F	C 23	VII層	5c	sh	A a	(3.28)	(2.32)	(1.00)		7.38		
290	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(1.71)	(1.77)	(0.22)		0.41	はじけ	
291	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(2.02)	1.31	(0.35)	126	0.36		
292	C	C 23	VII層	5c	sh	C a					0.02		
294	F	C 23	VII層	5c	sh	A a	(2.13)	(1.71)	(0.70)	103	1.24		
295	C	C 23	VII層	5c	sh	D a	(1.55)	(0.92)	(0.28)		0.15	タテ割れ	
297	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(3.01)	(3.47)	(0.72)		4.73		
299	F	C 23	VII層	5c	sh	B a	(2.71)	(2.24)	(0.53)	105	1.04	打面調整剥片か	
301	C	C 23	VII層	5c	sh	D a					0.21		
302	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(1.27)	(1.48)	(0.19)		0.20		
303	C	C 23	VII層	5c	sh	D a					0.01	はじけ	
304	C	C 23	VII層	5c	sh	D a					0.09		
305	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	1.68	2.25	0.46	119	0.67		
307	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(3.27)	(2.85)	(0.28)		1.92		
308	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(2.68)	(2.56)	(0.45)		2.26		
309	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(2.41)	(3.19)	(0.78)		3.93		
310	C	C 23	VII層	5c	sh	D a					0.03		
311	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(1.78)	(1.46)	(0.45)		0.66		
312	F	C 23	VII層	5c	sh	A a	(0.93)	(2.49)	(0.43)		0.92		
313	C	C 23	VII層	5c	sh	D a					0.01		
314	C	C 23	VII層	5c	sh	D a					0.01		
317	F	C 23	VII層	5c	sh	A a	2.22	2.03	0.59	114	0.89		
318	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(2.77)	(2.40)	(0.38)		2.24		
319	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(2.72)	6.60	(0.94)		7.43		
320	C	C 23	VII層	5c	sh	A a					0.11		
321	C	C 23	VII層	5c	sh	D a					0.12		
322	C	C 23	VII層	5c	sh	A a					0.61		
323	C	C 23	VII層	5c	sh	A a					0.11		
324	C	C 23	VII層	5c	sh	E a					0.17		

第26表 表掲載石器観察表(縄文時代4)

No.	器種	位置	出土	Sb	石材	色	部長 (cm)	部幅 (cm)	厚さ (cm)	打角 (°)	刮詰角 (°)	重量 (g)	分類	備考
325	F	C 23	VI層	5c	sh	A a	3.23	3.14	1.44	123		10.66		
326	F	C 23	VI層	5c	sh	C a	(1.88)	(2.34)	(0.58)	107		1.76		
327	F	C 23	VI層	5c	sh	C a	(2.26)	(1.91)	0.69			1.61		
330	C	C 23	V層		sh	D a						0.05		
332	C	C 23	VI層	5c	sh	C a	(1.26)	1.28	(0.35)	(133)		0.27		
333	F	C 18	VI層	5c	sh	C a	(2.20)	(2.39)	(0.28)			1.01		立位
339	C	C 24	VI層	5c	sh	C a						0.10		
340	F	C 24	VI層	5c	sh	E a	(1.47)	(1.85)	(0.55)	117		0.98		
341	C	C 24	VI層	5c	sh	D a						0.10		
342	C	C 24	VI層	5c	sh	D a						0.05		
343	F	C 24	VI層	hor			(1.28)	(1.73)	(0.42)			0.62		
344	F	C 24	VI層	5c	sh	C a	(1.49)	(1.65)	(0.22)			0.24		
345	C	C 24	VI層	5c	sh	D a						0.22		
346	C	C 24	VI層	5c	sh	C a	(0.87)	(1.12)	(0.31)			0.24		調整機能有り
348	C	D 4	VI層		sh	C a						0.03		
349	F	D 4	VI層		sh	C a	(1.96)	(2.17)	(0.39)	(121)		1.40		
351	C	E 21	VI層	6	sh	B a						0.07		
352	C	E 21	VI層	6	sh	C a						0.05		
353	C	E 22	擾乱		sh	C a						0.35		
354	F	E 22	VI層	6	sh	C a	(2.15)	(1.14)	(0.56)			0.81		
355	C	E 22	VI層	6	sh	B a						0.06		
356	C	E 22	VI層	6	sh	C a						0.02		
357	C	E 22	VI層	6	sh	D a						0.03		
361	C	A 17	VI層	8	sh	C a	(0.81)	(1.51)	(0.25)			0.23		
362	F	A 17	VI層	8	sh	C a	(2.09)	(2.48)	(0.28)			1.29		
363	C	A 17	VI層	8	sh	A a						0.21		
364	F	A 18	VI層	8	sh	C a	(3.02)	(2.50)	(0.74)	109		3.35		タテ割れ
365	C	A 18	VI層	8	sh	D a	(1.07)	(0.97)	(0.16)			0.10		
366	C	A 18	VI層	8	sh	D a						0.05		
367	C	A 18	擾乱		sh	C a	(1.04)	(1.45)	(0.38)	52		0.31		
368	F	A 23	VI層	7	sh	D a	(1.76)	(1.25)	(0.23)			0.32		タテ割れ
369	C	B 4	V層		sh	D a						0.10		はじけ
370	C	B 5	VI層	5a	sh	C a						0.04		
371	C	B 5	VI層	5a	sh	C a						0.12		
372	F	B 5	VI層	5a	sh	C a	(1.67)	(2.13)	(0.32)			0.43		はじけ
374	F	B 5	VI層	5a	sh	C a	(1.32)	(2.10)	(0.46)	128		0.89		立位
375	C	B 5	VI層	5a	sh	C a	(1.18)	(1.19)	(0.14)			0.15		
376	C	B 5	VI層	5a	uga							0.08		
377	C	A 25	VI層	5a	sh	C a	(1.11)	1.00	(0.25)			0.13		
378	F	A 25	VI層	5a	sh	C a	0.75	1.37	0.26	132		0.13		
379	C	C 21	VI層	5b	sh	D a						0.10		
380	R F	C 21	VI層	5b	sh	A a	(1.42)	(1.86)	(0.31)			0.59		
383	F	C 21	VI層	5b	sh	C a	(2.62)	(2.69)	(0.31)			1.86		
384	F	C 21	擾乱		sh	C a	(2.82)	(3.09)	(0.48)	121		2.19		横穿孔
386	F	C 22	VI層	5c	sh	C a	(2.15)	(1.56)	(0.27)			0.77		
387	C	C 22	VI層	5c	sh	A a						0.11		
388	F	C 22	VI層	5c	sh	C a	1.94	1.43	0.34	106		0.42		
389	C	C 22	VI層	5c	sh	D a						0.11		
390	R F	C 22	VI層	5c	sh	C a	(2.66)	(1.84)	(0.51)			0.93		立位
391	F	C 22	VI層	5c	sh	A a	(1.85)	(1.82)	(0.57)	123		0.98		
392	F	C 22	VI層	5c	sh	C a	(2.41)	(4.02)	(0.85)			5.64		
393	C	C 22	VI層	5c	sh	D a						0.41		
394	F	C 22	VI層	5c	sh	A a	1.47	1.40	0.50	126		0.51		
395	C	C 22	VI層	5c	sh	A a						0.01		
396	F	C 22	VI層	5c	sh	A a	2.85	2.67	0.39	104		1.60		
397	F	C 22	VI層	5c	sh	C a	(2.51)	2.19	(0.32)	105		1.12		
398	F	C 22	VI層	5c	sh	C a	(2.74)	(1.64)	(0.40)			1.11		幅長剥片
399	F	C 22	VI層	5c	sh	C a	(2.12)	1.19	(0.43)			0.81		
400	F	C 22	VI層	5c	sh	C a	2.14	1.80	0.43	120		0.82		
401	F	C 22	VI層	5c	sh	C a	1.10	1.56	0.32	122		0.40		
402	F	C 22	VI層	5c	sh	D a	1.44	1.22	0.22	105		0.28		
403	F	C 22	VI層	5c	sh	D a	(1.69)	(1.52)	(0.50)			0.67		
404	F	C 22	VI層	5c	sh	A a	(3.89)	(2.54)	(1.05)			5.33		タテ割れ
406	C	C 22	VI層		sh	A a						0.07		はじけ
407	C	C 22	VI層		sh	C a	(1.45)	(1.24)	(0.33)			0.37		
408	F	C 22	VI層		sh	C a	(1.26)	(2.08)	(0.45)	103		0.98		
411	C	C 23	VI層	5c	sh	B a						0.08		
412	F	C 23	VI層	5c	sh	A a	2.24	1.67	0.43	105		0.63		
413	F	C 23	VI層	5c	sh	C a	1.78	(1.50)	(0.29)	100		0.54		
414	F	C 23	VI層	5c	sh	C a	(1.42)	(1.62)	(0.32)			0.49		
415	F	C 23	VI層	5c	sh	A a	(1.50)	(1.76)	(0.37)			0.63		はじけ
419	C	D 1	投出		sh	D a						0.06		
420	C	D 1	擾乱		sh	A a						0.27		

第26表 表掲載石器観察表(縄文時代5)

割別 No	器種	基準 層位	出土 層位	Sb	石材	色	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	打角 (°)	刃部角 (°)	重量 (g)	分類	備考
421	F	D 1	VII層	sh	F a							0.20		
422	C	D 1	VII層	5d	sh	A a						0.05		
424	F	D 1	VII層	5d	sh	C a	(1.96)	(1.64)	(0.27)			0.51		
426	C	D 2	VII層	5d	sh	D a						0.07		
427	F	D 2	VII層	sh	C a	(1.53)	(1.85)	(0.21)				0.31		
428	F	D 2	VII層	5c	sh	E a	(2.62)	(1.95)	(0.36)	121		1.26		立位 標準式
431	C	D 3	VII層	sh	D a							0.04		
433	C	B 5	VII層	5a	sh	D a						0.12		標準式
435	C	C 21	VII層	5b	sh	C a						0.05		
438	F	C 22	VII層	5c	sh	A a	(1.41)	(1.96)	(0.48)			1.29		
439	C	C 22	VII層	5c	sh	E a						0.03		
440	F	C 22	VII層	5c	sh	A a	(1.78)	(2.76)	(1.01)			3.86		立位
441	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	(1.76)	(1.42)	(0.29)			0.28		立位
442	C	C 22	VII層	5c	sh	A a						0.12		
443	C	C 22	VII層	5c	sh	A a						0.02		
444	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	(1.17)	(1.44)	(0.32)	121		0.34		標準式
445	C	C 22	VII層	5c	sh	D a						0.10		
447	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	(1.83)	1.51	(0.33)			0.35		
448	C	C 22	VII層	5c	sh	C a	(1.46)	(0.90)	(0.18)			0.13		立位
449	C	C 22	VII層	5c	sh	D a						0.05		立位
450	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	(1.33)	(1.86)	(0.27)			0.26		
451	F	C 22	VII層	5c	sh	aga	(0.90)	(1.85)	(0.28)			0.37		
452	F	C 22	VII層	5c	sh	D a	1.16	1.68	0.42	114		0.29		立位
453	F	C 22	VII層	5c	sh	A a	3.55	2.56	0.59	105		2.77		
454	F	C 22	VII層	5c	sh	A a	4.45	7.67	2.39	116		48.12		
455	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	1.30	1.58	0.25	100		0.25		
456	F	C 23	乱層	sh	C a	(2.33)	(2.63)	(0.71)				1.56		
458	C	D 2	VII層	5d	sh	C a						0.13		
459	C	D 2	VII層	5c	sh	C a						0.08		はじけ
460	C	D 2	VII層	5c	sh	A a						0.21		
461	C	D 2	VII層	5c	sh	D a						0.22		
463	F	D 2	乱層	sh	C a	(1.18)	(1.89)	(0.24)				0.54		
465	C	C 22	VII層	5c	sh	A a						0.06		
466	C	C 22	VII層	5c	sh	D a						0.11		
467	C	A 18	VII層	7	sh	D a						0.22		
469	C	A 25	VII層	sh	sh	D a						0.02		
470	F	A 25	VII層	5b	sh	C a	(1.49)	(1.42)	(0.21)	115		0.34		
471	C	A 25	VII層	5a	sh	A a						0.06		はじけ
474	C	B 5	VII層	5a	sh	D a						0.03		
475	C	B 5	VII層	5a	sh	D a						0.06		
476	C	B 5	VII層	5a	sh	D a						0.03		
477	F	B 5	VII層	5a	sh	C a	(1.10)	(1.71)	(0.30)			0.42		
478	C	B 5	VII層	5a	sh	D a						0.05		
479	C	C 16	VII層	5b	sh	D a						0.04		
482	C	C 22	VII層	5c	sh	A a						0.03		はじけ
483	C	C 22	VII層	5c	sh	A a	(1.42)	(1.20)	(0.26)			0.28		
484	F	C 22	VII層	5c	sh	C a	(1.88)	2.22	(0.34)			0.68		
485	C	C 22	VII層	5c	sh	D a						0.08		
487	C	D 2	VII層	5c	sh	A a	(1.31)	(1.35)	(0.41)			0.73		二次加工あり
489	R F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(2.44)	(1.40)	(0.25)			0.42		
491	F	C 23	VII層	5c	sh	A a	(4.56)	(2.90)	(1.96)	102		12.62		
492	F	C 23	VII層	5c	sh	C a	(2.46)	(2.32)	(0.40)			1.41		立位
525	C	E 23	VII層	sh	sh	C a						0.11		
526	C	E 23	VII層	sh	sh	D a						0.18		
528	C	C 23	VII層	sh	sh	C a						0.29		
536	C	C 23	VII層	5c	sh	A a						0.05		はじけ
582	F	E 21	VII層	6	sh	C a	(1.66)	(1.82)	(0.25)			0.63		
	F	D IX	VII層	ob			(2.37)	(2.28)	(0.82)	81		4.30		分析試料4
	F	D IX	VII層	ob			(3.10)	(1.84)	(1.07)			4.80		分析試料5
	F	E IX	VII層	ob			(1.52)	(1.34)	(0.92)			1.90		分析試料6

【石材】aga: 球面、an: 安山岩、ch: チャート、gtuf: 緑色凝灰岩、hor: ホルンフェルス、ob: 黒曜石
qua: 石英、san: 砂岩、sh: 現岩、tuf: 黒灰岩

3 平安時代

(1) 概要(第49図)

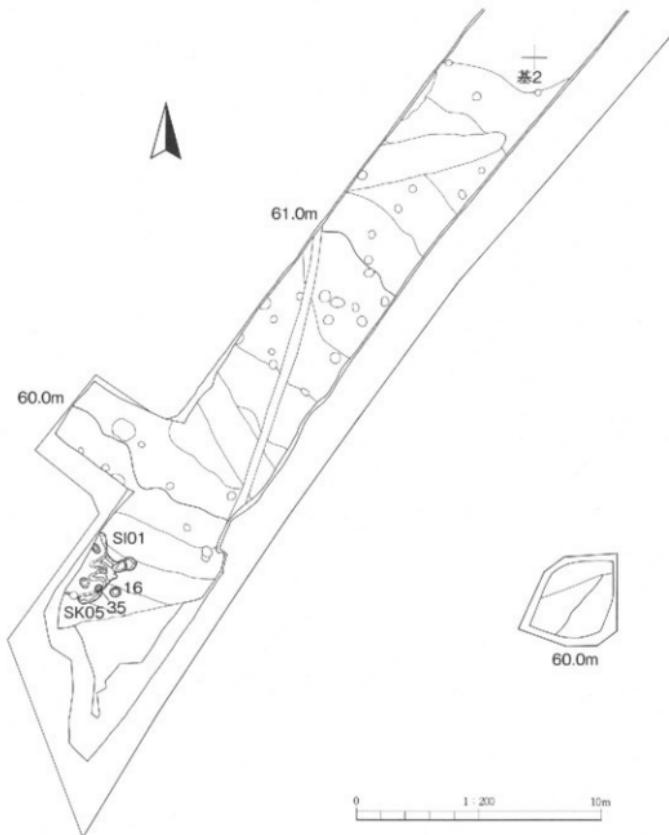
平安時代に帰属する遺構は竪穴住跡1棟、土坑1基、柱穴2個である。出土遺物は土師器・須恵

器が中コンテナ1箱、砾石や台石など大形の礫塊石器を中心とする石器が中コンテナ0.5箱、金属製品（刀子）が1点である。遺構・遺物ともにSI01竪穴住居跡の周辺で局所的に確認されている。以下、遺構・遺物について記述する。

（2）竪穴住居跡

SI01竪穴住居跡（第50～52図、写真図版8～11）

【位置と形態】E区内、X = -82915、Y = 24781付近に位置する。旧表土層にあたるIV b層除去後のVIA層中で、炭化物粒や焼土塊・焼土粒を含む黒褐色土の広がりと、煙道と判断した黒褐色土の広がりとして確認した。この時点では灰褐色の火山灰塊を確認しており、同定用の試料として採取している。SK05土坑、SKP34・35と重複しており、SKP34が本遺構の南側の一部を壊して構築しているため、本遺構が古い。また、本遺構がSK05土坑の一部を壊して、底床を構築しているため、本遺構が



第49図 平安時代の遺構（1）

新しい。SKP 35は床面で検出されたため、本遺構に伴う柱穴と判断していたが、壁の外側に広がっているため、別遺構とした。本遺構より古い遺構である。本遺構の北西側は調査区外に広がっている。このため、正確な規模は不明であるが、確認できた東壁から判断すると、一辺2.5m前後の小形の堅穴住居跡と考えられる。確認できた検出面からの深さは東壁で最大24cm、南壁で最大8cm、北壁で最大35cmである。ⅧD層まで掘り込み、Ⅶ層に起因すると考えられる黄褐色土を掘り方埋土として、平坦な床面を構築している。

堆積土は10層に分層した。壁際には黒褐色土を主体とする堆積土が三角形状に堆積し、1・2層はレンズ状の堆積状況を呈していることから、自然堆積の可能性が高い。ただし、8層など部分的に上部から貫入する堆積層もあり、植栽などによる搅乱の影響も見受けられる。

本遺構はカマドの作り替えが行われておらず、少なくとも新旧の2時期があるものと判断した。新旧ともカマドは東壁の南半部に設置される。カマド（新）の袖はカマド（旧）の袖に、Ⅶ層に起因する褐色土を貼り付けて構築している。そのため、角礫などの芯材は確認されなかった。燃焼部は不整形で、中央部の北側がU字状に消失している。範囲は長辺51cm、短辺26cmで、焼土層の厚さは最大で4cmである。煙出しピットは壁際に設置され、煙道部がほとんど確認できない。煙出しピットの規模は長辺60cm、短辺45cmである。煙道部・煙出しピットの堆積土は2層に分層でき、西側の一部に暗褐色土の堆積が確認できる以外は極暗褐色土で埋没している。上部は後世（中世以降）の削平により消失しているが、作り替えられたものであるため、掘り込み式の可能性が非常に高い。カマド（新）の主軸方向はN79°Eで、旧段階よりやや北側に振れている。カマド（旧）の袖は左袖の一部のみ検出した。Ⅶ層に起因すると考えられる褐色土主体で構築されており、角礫等の芯材は確認されなかった。燃焼部は不整円形で、長辺42cm、短辺40cm、焼土層の厚さは最大で10cmである。煙出しピットが新段階のものより東側にあるため、新段階のものより、煙道部が長いのは確かであるが、煙道部のほとんどが新段階の煙出しピットによって破壊されているため、煙道部の構造は不明である。煙出しピットの規模は推定長辺約60cm、短辺53cmである。煙道部・煙出しピットの堆積土は3層に分層した。底面付近には壁の崩落土と考えられる黄褐色土が確認された。カマド（旧）の主軸方向はN82°Eである。

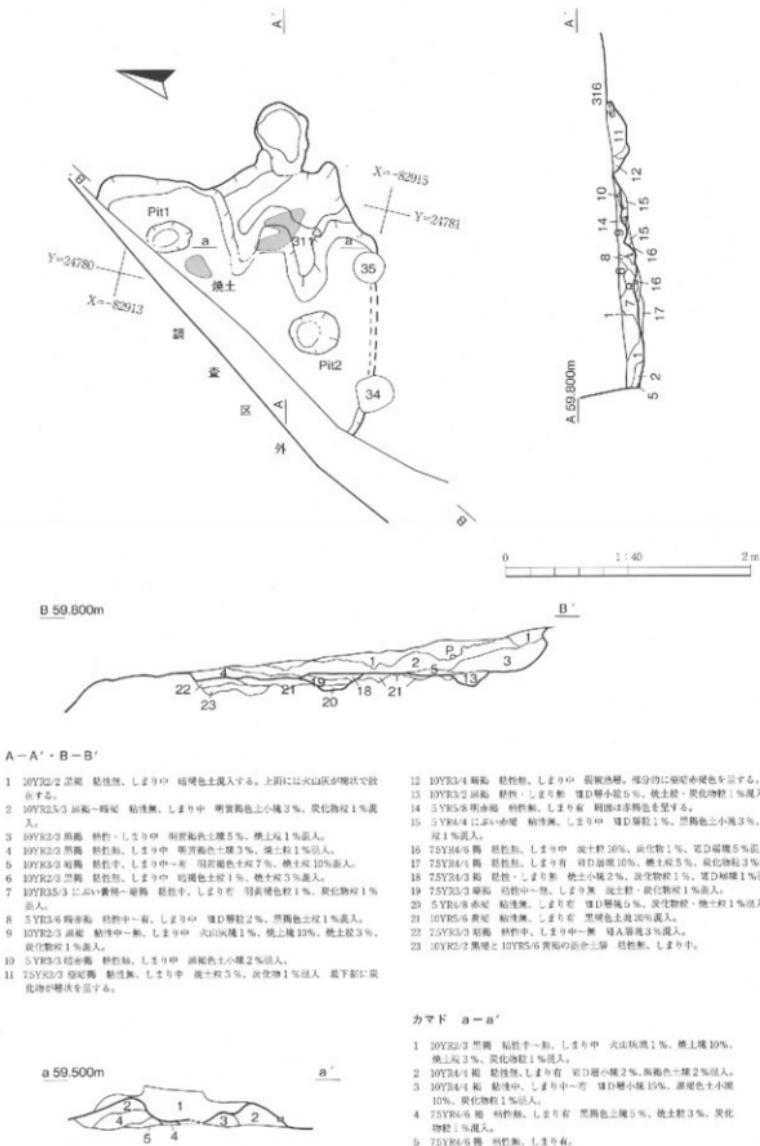
カマド以外に本遺構に伴う施設として土坑がある。3基検出され、Pit 1とPit 2が新段階に、Pit 3が旧段階に伴うものと判断した。Pit 1は北東隅に設置され、推定長辺38cm、短辺24cm、深さ13cmの楕円形の土坑である。埋土は黒褐色土主体で、焼土粒や炭化物粒が混入している。Pit 2はカマド右袖の西側に設置され、長辺40cm、短辺35cm、深さ8cmの楕円形の土坑である。2基とも浅く、遺物もほとんど伴わないため、用途は不明である。Pit 3は燃焼部の西側に隣接している。南側をPit 2に破壊され、西側が調査区外に広がっているため、詳細な規模や平面形は不明である。確認できた深さは最大で14cmである。埋土は3層に分層される。焼土粒や炭化物粒の混入が確認でき、異なった堆積土がほぼ水平に堆積していることから判断すると、人為的な堆積の可能性が高い。

この他に、カマド（旧）袖の構築土を除去すると、最大で4cmの厚さのある、50×32cmの不整形の焼土層が検出された。機能等の詳細は不明である。

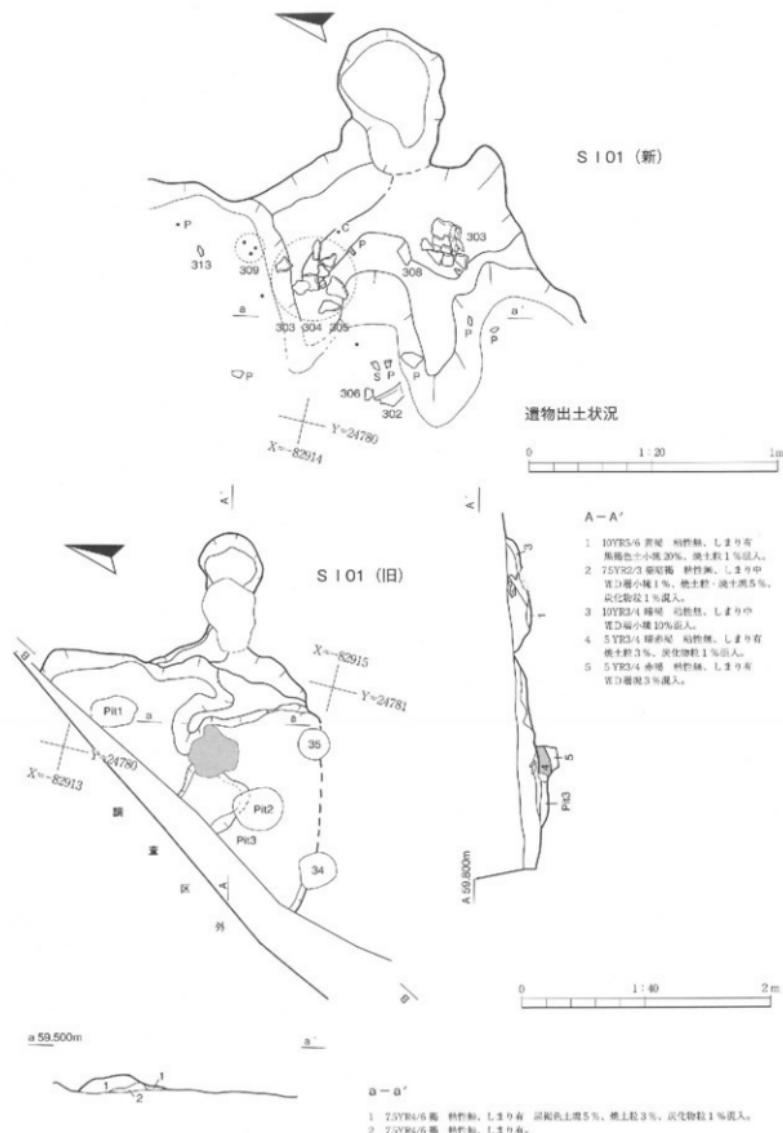
〔出土遺物〕（第53・54図、写真図版28・29）

< S I 01堅穴住居跡（新）>

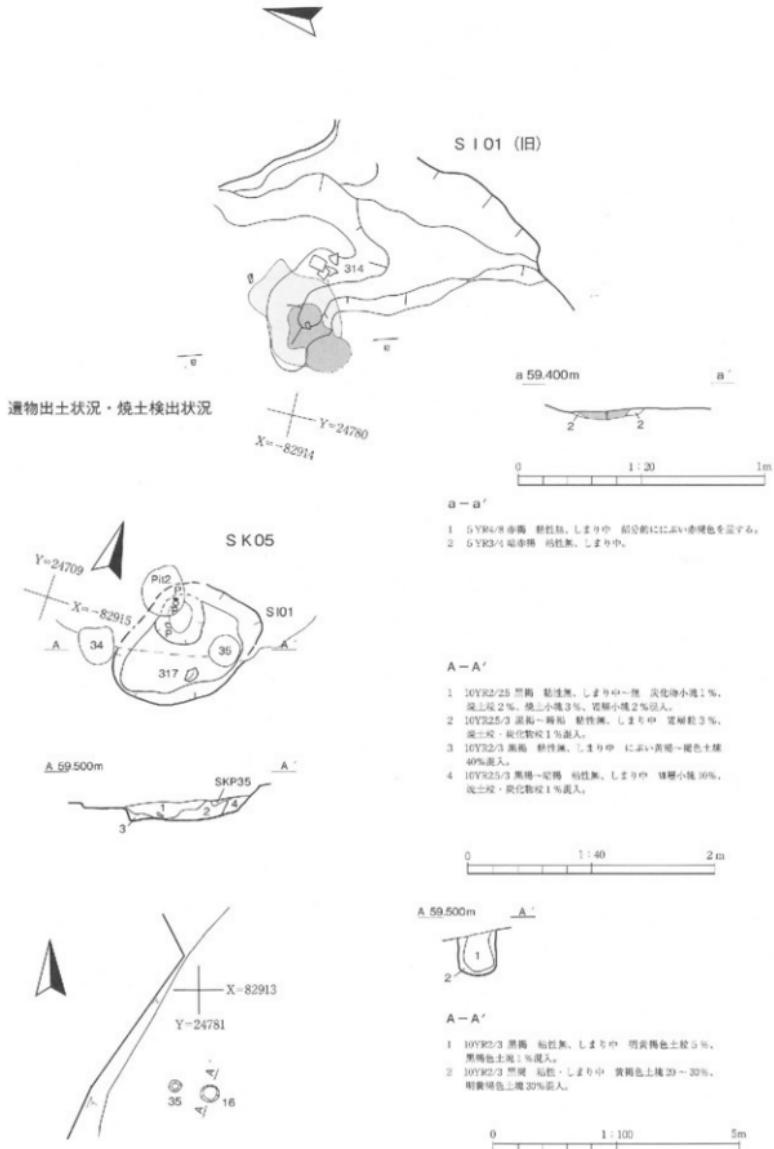
301は土師器壺、302～304は土師器壺、305～307は土師器小壺、308は土師器鉢、309は須恵器壺、310は須恵器壺、311は刀子で、S I 01（新）に伴うものである。312は土師器壺、313は焼成粘土塊、314は台石で、S I 01（旧）に伴うものである。



第50図 平安時代の遺構（2）



第51図 平安時代の遺構（3）



第52図 平安時代の遺構（4）

301はPit 1 脇の焼土から出土したII類の土師器坏で、口縁部を欠損している。二次的な被熱をしており、全体的に赤変している。302・303は土師器壺の同一個体の口縁部と体部の資料である。口縁部は受け口状をしている。302は床面から出土している。303は両袖の芯材の一部として利用されたようで、カマド構築土の最下部から出土している。304は土師器壺の底部の断片的な資料である。303と同様に、カマド構築土の最下部から出土している。305・306は土師器小壺の同一個体の上半部と下半部の資料である。接点は確認できなかった。器面全体に綺麗なロクロ目が観察される。305は303・304と同様にカマド構築土の最下部から出土した資料とカマド2層から出土した資料、SK05土坑の埋土から出土した資料が接合したもので、…部は芯材に利用されたものと考えられる。306は主に比較的初期段階の堆積土である7層から出土している。307は土師器小壺の口縁部の断片的な資料である。堆積土中からの出土である。308は土師器鉢の口縁部の断片的な資料である。残存する部分から判断すると、大形で浅いものと考えられる。カマド構築土の上面に貼りつくように出土している。

309は床面と単独焼土から出土した資料が接合した須恵器坏である。約半分ほど残存している。310は須恵器壺の底部の断片的な資料である。堆積土中からの出土である。

311はカマドの袖石に転用されたディサイト製の台石である。転用時に破碎したため、一部しか残存していない。312は凝灰岩製の砥石で荒砥と考えられる。一部しか残存していない。

313は刀子である。茎部と刀身部を大きく欠損しており、詳細な器形は不明であるが、刀身部は長三角形を呈するものと考えられる。関部は両関である。

< S I 01 竪穴住居跡 (旧) >

314は土師器壺の底部資料である。ロクロを使用した痕跡は確認できない。S I 01 竪穴住居跡 (旧) の床面から出土している。

315は焼成粘土塊である。S I 01 竪穴住居跡 (旧) の煙道部の堆積土である2層中から出土した。

316はS I 01 竪穴住居跡 (旧) の煙道部の堆積土である2層中から出土したもので、扁平な砾を利用した安山岩製の台石である。316の一面には被熱によるスス状の付着物が広範囲に観察される。最終的にはS I 01 竪穴住居跡の煙出しピットの土留め材として利用されている。

[時期] カマドの構築土中にTo-aと考えられるテフラが混入していることや出土遺物から、平安時代前半(10世紀前半)と考えられる。

(3) 土 坑

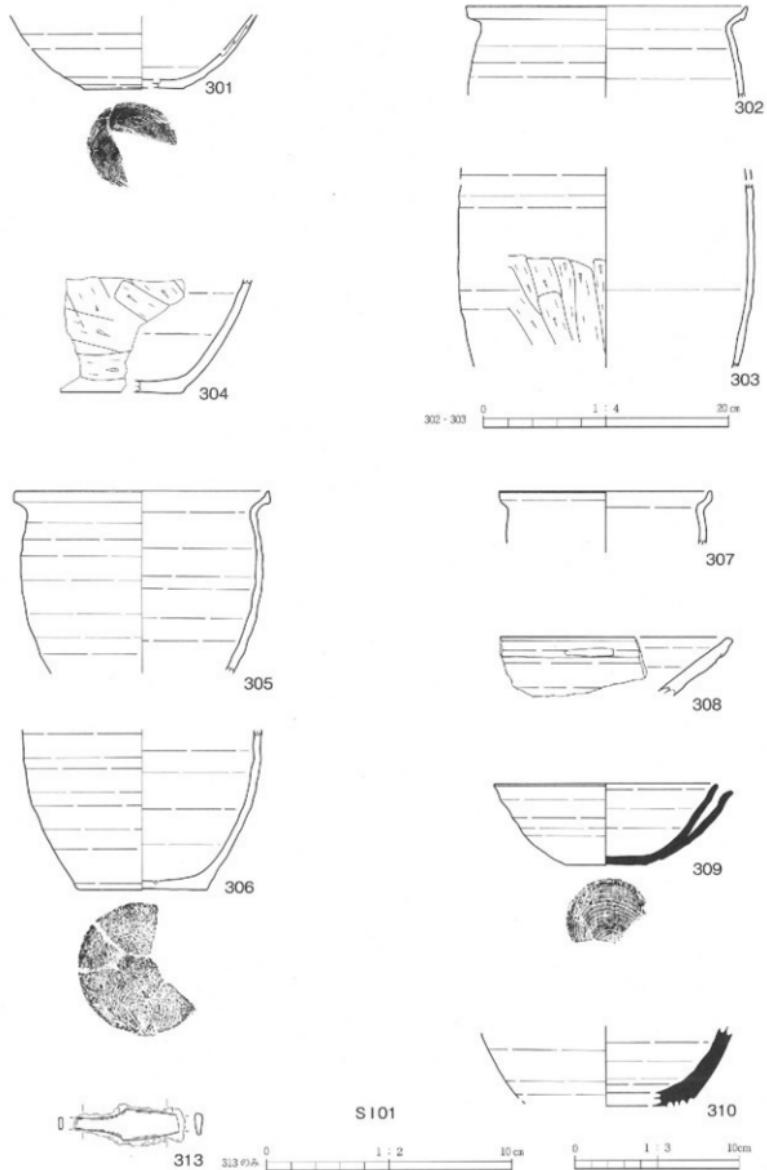
S K 05 土坑 (第52図、写真図版11)

[位置と形態] E区にあり、X = -82915、Y = 24779付近に位置する。S I 01 竪穴住居跡と重複して検出されたが、わずかに色調が明るい部分があり、別遺構と判断した。S I 01 竪穴住居跡が本遺構の一部を壊して貼床を構築していることから、本遺構が古い。また、SK P35とも重複しているが、本遺構の堆積土中に底面があるため、本遺構が古い。平面形は不整規円形を呈する。

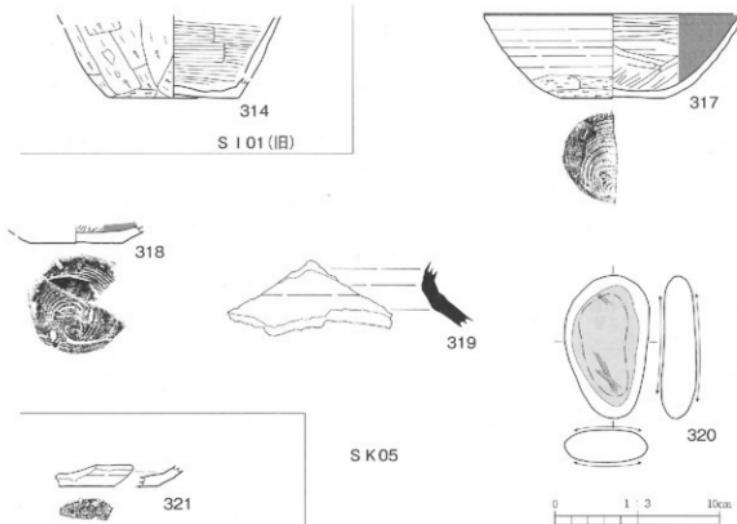
平面規模は開口部で1.26×0.96mで、主軸方向はN 43° Eである。検出面からの深さは最大で29cmで、底面からなだらかに立ち上がる。底面は細かな凹凸が見られる。北西隅の底面で、41×40cmの小ピットを確認した。土坑底面からの深さは6cmで、炭化物粒・焼土粒を多量に含む暗褐色土で埋没していた。

堆積土は4層に分層され、上部は黒褐色土、下部は暗褐色土・氣味の黒褐色土を主体とする。全体的に焼土粒・焼土小塊・炭化物粒を含み、人為堆積と考えられる。

[出土遺物] (第54図、写真図版29)



第53図 平安時代の遺物（1）



第54図 平安時代の遺物（2）

317・318はI類の土師器坏である。317は堆積土の最上部から出土し、半分程残存している。体部の最下部には二段の回転ヘラケズリが施されている。318は堆積土中から出土した資料とS I 01堅穴住居跡の貼床である21層から出土した資料が接合したものである。底部のみの資料である。319は須恵器の袋物であるが、頭部の断片的な資料であるため、詳細な器種の特定には至らなかった。堆積土中からの出土である。

320は小形の砥石で、平面形は卵形を呈する。使用面は表裏2面である。

[時期] 出土遺物から、平安時代前半（9世紀後半～10世紀前半）と考えられる。

(4) 柱 穴(第52図)

当該期の柱穴は、SKP16とSKP35の2個である。当初、S I 01堅穴住居跡に伴うものと考えていたが、明瞭な共伴関係が想定できず、別遺構としたものである。SKP16の検出面はS I 01堅穴住居跡と同じⅦA層中で、SKP35の検出面はS I 01堅穴住居跡の床面である。2個とも堆積土は黒褐色土を主体とするが、古代の生活面が特定できないため、起因する層の対比はできない。規模や形状については第34表を参照して頂きたい。2個とも遺物は出土しなかった。

(5) 遺構外出土遺物(第54図、写真図版29)

土師器（321） 中世の遺構であるSD01西の埋土から出土したI類の土師器坏の底部片である。

第27表 土器観察表（平安時代）

掲載 No	出土地点・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)	調 整	備 考	図版 No	写真 No
301	S I 01 燃土	土師	壺	体底	— [5.2] (4.5)	外・内：KN	二次的な被熱	53	28
302	S I 01 床面	土師	壺	口	[23.0] — (7.6)	外・内：KN		53	28
303	S I 01 新期カマド袖内 (S I 01 カマド1層) S I 01 1層	土師	壺	体	— — (16.7)	外：KN・N→HK 内：KN・N	302と同一個体	53	28
304	S I 01 カマド左袖内	土師	壺	体底	— — (7.0)	外：HK 内：N 底：SZ		53	28
305	S I 01 新期カマド左袖内 S I 01 カマド右袖 カマド2層 (SK 05 墓上)	土師	小壺	口体	[15.4] — (11.2)	外・内：KN		53	28
306	S I 01 7層 (S I 01 床面 S I 01 カマド袖内)	土師	小壺	体底	— 8.0 (9.9)	外・内：KN 底：KI	305と同一個体	53	28
307	S I 01 H 2 2層 (S I 01 5層)	土師	小壺	口	[13.0] — (3.2)	外・内：N		53	28
308	S I 01 カマド上	土師	鉢	口	— (3.6)	外・内：KN		53	28
309	S I 01 床面 (S I 01 燃土)	須恵	壺	口底	[13.7] [5.0] 5.0	外・内：KN		53	28
310	S I 01 1層 (SD 01 1b層)	須恵	壺	底	— — (4.9)	外・内：KN		53	28
314	S I 01 (旧) 床面 (S I 01 カマド1層) S I 01 7層	土師	壺	体底	— 8.0 (5.2)	外：IIK 内：II 底：SZ		54	29
317	SK 05 1層	土師	壺	口底	[15.8] [6.2] 5.2	外：KN→IIK 内：M→KS 底：KI		54	29
318	SK 05 墓土 (S I 01 21層)	土師	壺	底	[5.7] — (1.1)	外：KN 内：M→KS 底：KI		54	29
319	SK 05 2層	須恵	袋物	頭	— (4.6)	外・内：KN		54	29
321	SD 01 西側 2a層	土師	壺	底	— (1.3)	外・内：KN 底：N		54	29

【種別】土師：土師器、須恵：須恵器 【部位】口：口縁部、体：体部、底：底部、口底：口縁部～底部、
口体：口縁部～体部、体底：体部～底部、頭：頭部

【法量】上段：口径、中段：底径、下段：器高、()：残存値、〔 〕：推定値

【調整】外：外周、内：内面、底：底部外面、KN：回転ナデ、N：ナデ、IIK：ヘラケズリ、
H：ハケメ、M：ミガキ、KS：黒色処理、KI：回転糸切り、SZ：砂底

第28表 土製品観察表（平安時代）

掲載 No	出土地点・層位	種別	器種	部位	法量 (cm) 器長・器幅・器高	備 考	図版 No	写真 No
315	S I 01 (旧) 2層	土製	焼成粘土塊	—	—		—	29

【法量】()：残存値

第29表 石器観察表（平安時代）

掲載 No	器種	位置	出土層位	石材	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)	分類	備考	図版 No	写真 No
311	台石	S I 01	ソデ上	dac	(10.34)	(12.22)	(6.10)	560.20	I	-	29	
312	砥石	S I 01	カマド1層	tuf	(3.80)	(4.59)	(1.93)	28.82	IV	-	29	
316	台石	S I 01 (H)	2層	an	21.50	13.65	4.51	1799.25	I	被熱	-	29
320	砥石	S K 05	理土	dac	8.68	5.17	2.15	114.54	III	中砥	54	29

【石材】an: 安山岩、dac: ダイサイト、tuf: 硫灰岩

第30表 金属製品観察表（平安時代）

掲載 No	出土地点・層位	種別	器種	部位	法量 (cm) 器長・器幅・器高	備考	図版 No	写真 No
313	S I 01 H 2 カマド構築上	鉄	刀子	茎	(4.2) · (1.3) · (0.2)	-	53	29

【法量】() : 残存部 幸鋒彎部部分を見込まない数値

4 中世

(1) 概要(第55図)

中世に帰属する遺構は堀跡1条、溝跡2条、柱穴18個である。出土遺物は中国産青磁2点、かわらけ1点、砥石22点である。遺構はD区・E区全体で確認されている。堀跡は調査区内の一番低い部分に構築され、その内側の緩斜面上に柱穴が確認されている。以下、遺構・遺物について記述する。

(2) 堀跡・溝跡

SD01堀跡(第56図、写真図版12)

【位置と形態】A区及び、E区南端に位置する。国家座標で、X=-82914~-82920、Y=24780~24800付近に相当する。検出の段階では、同一遺構の可能性が高いものの、確認できる部分が局所的で、距離が離れているため、A区の遺構をSD01、E区の遺構をSD02として登録し、精査へ進んだ。

その後、平面図を作成した段階で、お互いの上端が並行し、断面形状や堆積土が類似していることから、同一遺構と判断した。その段階で、A区側をSD01東側、E区側をSD01西側と名称を変更した。本遺構は重複する遺構はないが、A区の北東側の調査区外に延びている。また、E区の南西側にも延びており、隣接する金比羅神社の参道を含むF区でも確認の必要が生じた。そこで、参道を寸断しないように、隣接部分にトレンチを設定したところ、水道管が確認され、その部分の精査は断念した。また、その南側でもトレンチを設定して、掘削を行ったが、1.8mほど掘り下げても裸塊やコンクリート塊が出土するだけで、遺構は確認できなかった。安全面を考慮して、これ以上の確認を断念した。検出面はA区で盛土層直下のⅥ層上面、E区で盛土以前の表土層であるⅣb層直下のⅦA層中である。

確認できた長さは22.5m(掘削範囲は8.3m)で、上幅は最大で4.0mである。検出面からの深さは最大で1.83mで、断面形はV字状を呈している。やや底面の角度は緩いが薬研堀と考えられる。

堆積土は細分も含め11層に分層した。最下層にはⅦ層に起因する暗褐色土が堆積し、下部には炭化物や小礫を含む黒～黒褐色土、中間部には炭化物や小礫、ⅦA層粒を含むⅦ層に起因する暗褐色土、上部は炭化物や礫を含む黒褐色土が堆積している。全体的に一角形状もしくはレンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積と考えられる。

【出土遺物】(第60図、写真図版30)

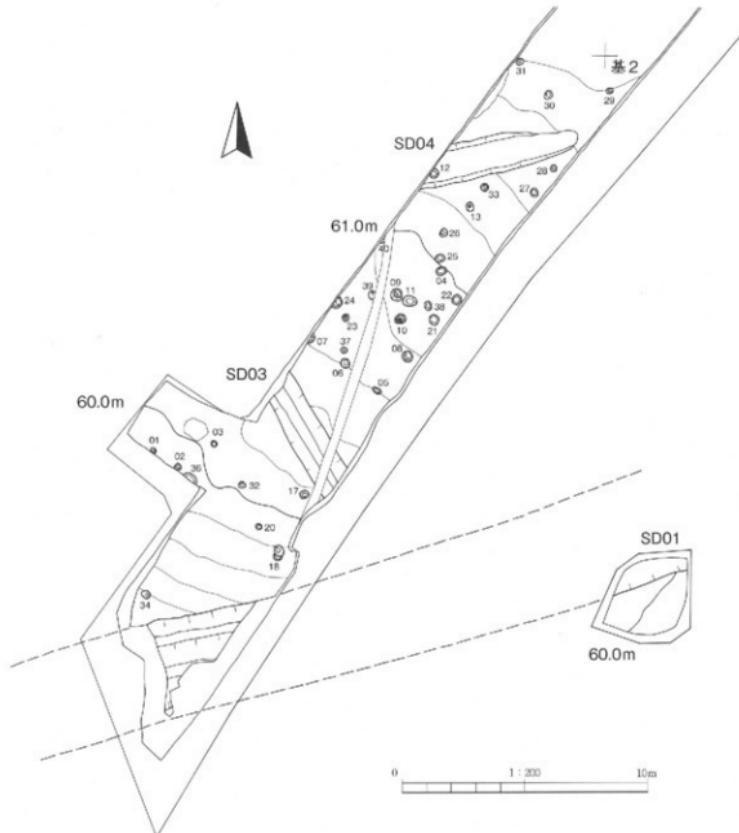
401は中国産の青磁皿の口縁部の断片的な資料である。棱花皿と考えられ、15世紀代のものと考えられる。堆積土のはば中間にあたる4層から出土している。

402は凝灰岩製の砥石である。強い湾曲を持つ使用面の一部しか残存していないが、四角く面取りされた中砥の一部と考えられる。403は拳大の礫を利用した凝灰岩製の砥石で、両面にV字状やU字状の溝状の使用痕跡が観察される。荒砥と考えられる。

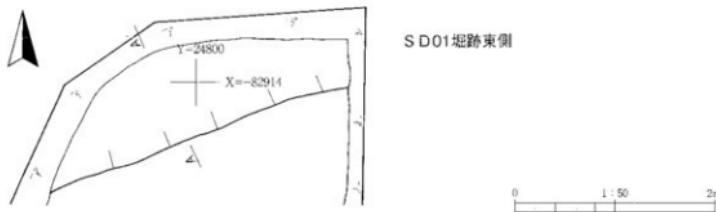
【時期】明確に本遺構に伴う遺物はないが、堆積土中から出土した青磁の年代観から判断すると、15世紀末には塙としての機能を消失していた可能性が高い。

S D03溝跡（第57図、写真図版13）

【位置と形態】D区南端にあり、X = -82909、Y = 24786付近に位置する。北西側と南東側は調査区



第55図 中世の遺構（1）



A 60.100m

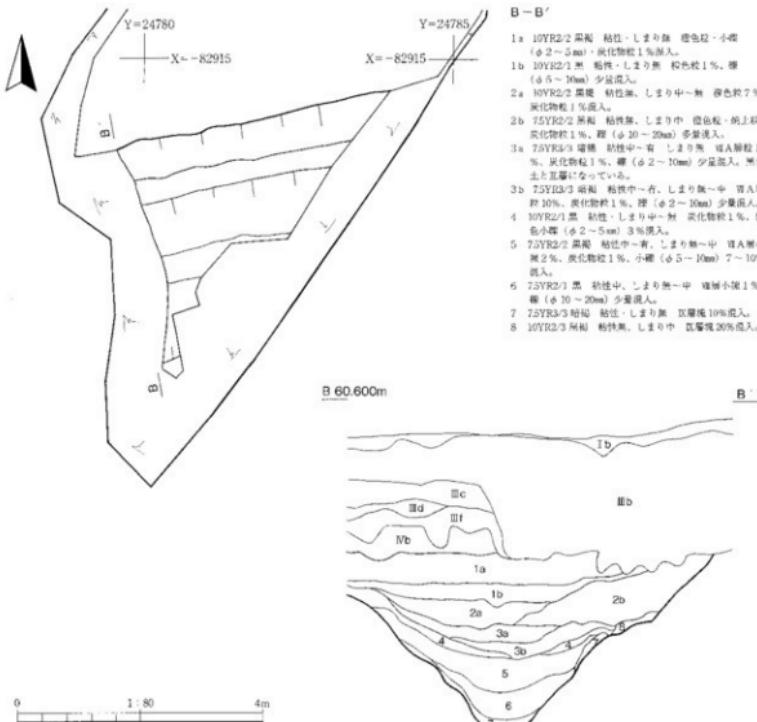
A'



A-A'

- 1 10YR2/2 黒褐色・粘性質・しまり中 黄褐色斑 2%混入。
- 2 10YR2/2 黒褐色・粘性・しまり中 黄褐色斑 10%混入。
- 3 10YR3/3 黑褐色・粘性・しまり中 黄褐色斑 10%、瓦層斑 5%混入。
- 4 10YR4/4 黑褐色・粘性中・しまり中 青D 瓦層斑 30%、瓦層斑 15%混入。

SD01堀跡西側



第56図 中世の造構（2）

外に延びている。検出面はⅢc層直下のⅥ層上面で、黒褐色のプランとして確認した。

調査区内で確認できた長さは5.25m、上幅は最大で1.5mである。検出面からの深さは最大で52cmで、断面形は逆台形を呈している。底面に明瞭な凹凸は見られない。

堆積土は黒褐色土を主体とし、混入物により7層に分層した。全体的に三角形状もしくはレンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積と考えられる。

本遺構はSD01堀跡に向かって延びており、SD01堀跡と共に存していた可能性も想定される。

〔出土遺物〕（第60図、写真図版30）

404はデイサイト製の砥石で、大きさから置き砥石と考えられる。使用面は平坦な広い表面の他、左右側面にも帶状に観察される。荒砥と考えられる。

〔時期〕明確に本遺構に伴う遺物はなく、断定はできないが、齊羽場館に関係する遺構と判断しており、SD01堀跡と大きな時期差はないものと判断した。

SD04溝跡（第57図、写真図版13・14）

〔位置と形態〕D区の北側にあり、X = -82897、Y = 24793付近に位置する。西側は調査区外に延びている。また、北東端は後世の削半により破壊されている。検出面はV層上面で、黒褐色のプランとして確認した。本遺構はSKP12と重複しており、SKP12が本遺構埋没後に構築されていることから、本遺構が古い。

調査区内で確認できた長さは6.75m、上幅は最大で1.63mである。検出面からの深さは最大で26cmで、断面形は皿状を呈している。底面に工具痕のような凸凹はみられず、斜面下方である西へ傾斜している。

堆積土は黒褐色土を主体とし、混入物により2層に分層した。全体的に層厚がなく、人為堆積か自然堆積か判断できなかった。

本遺構は検出された遺構のなかでは、最も高い場所に構築されているが、機能の推定までに至らなかった。

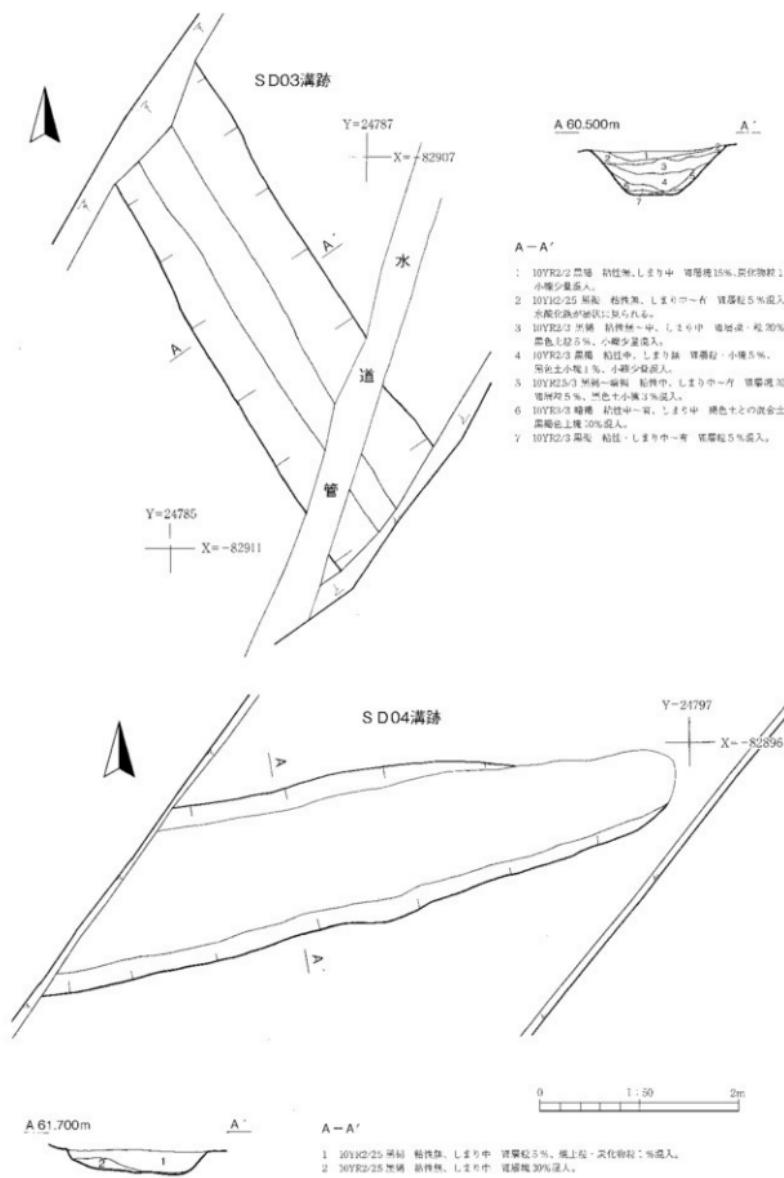
〔出土遺物〕堆積土中から砥石と考えられる蝶片が出土したが、小片であるため図化は行っていない。

〔時期〕SKP12より古いことは確かであるが、遺物が伴わず、詳細な時期は不明である。

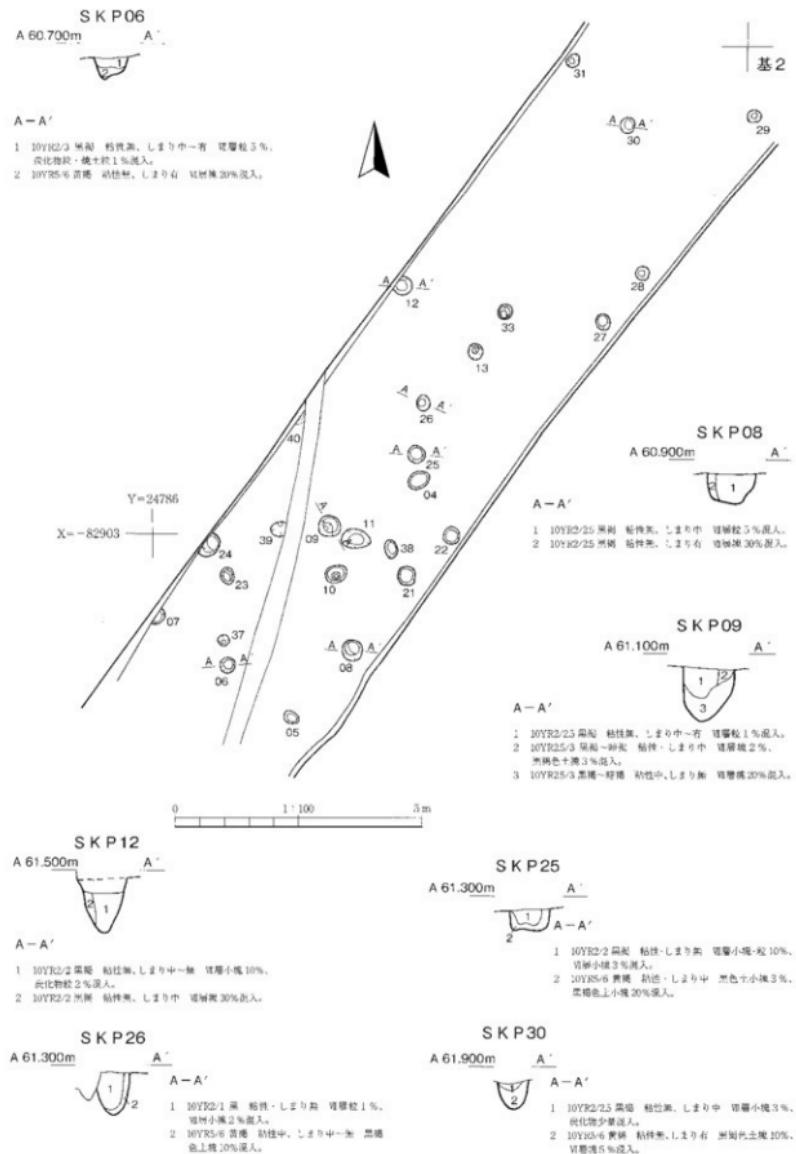
(3) 柱穴(第58・59図、写真図版14)

掘立柱建物跡や柱穴列等の遺構にならなかった（組めなかった）柱穴である。36個検出したが、中には、掘り方が非常に浅く、不明瞭なものも含まれるが、本遺跡が中世の館跡であること、柱穴が検出された区域では、近世の遺物がほとんど出土しなかったこと等から、当該期の遺構として一括して扱う。

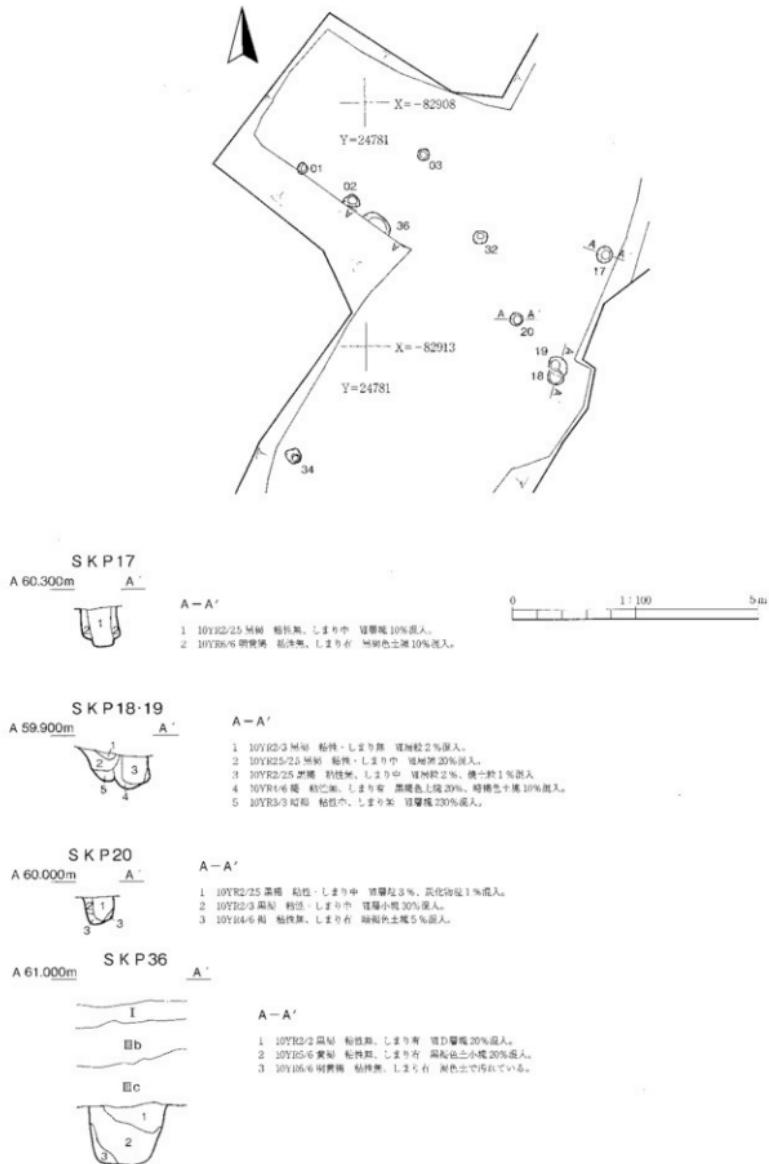
柱穴はD区・E区全体で検出されたが、D区中央から北側のやや高い部分に集中している。検出面は、D区のV層が残存する区域ではV層上面、その他は主にVI層上面、E区は主にVIA層上面で、黒褐色の円形・椭円形のプランとして確認したものが多い。SKP18とSKP19以外は柱穴どうしで重複する遺構はない。掘り方を伴うものもみられるが、D区中央部に集中している。全体的に、埋土にV層小塊やVI層粒が混入するものが多い。範囲が狭いため、掘立柱建物等の遺構にはしなかったが、SKP6・8・9・12・24・26・40は柱間隔が約242cm（8尺）と規則的で、建物になる可能性がある。仮に建物になるとすると、建物の長軸方向はSD01堀跡とは直交することとなる。各柱穴の規模等については第34表を参照して頂きたい。



第57図 中世の遺構（3）



第58図 中世の遺構（4）



第59図 中世の遺構（5）

第31表 土器観察表（中世）

掲載 No	出土地点・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)	備 考	図版 No	写真 No
401	S D 01 西側 4層	青磁	皿	口	— (1.8)	中国産 1045と同一個体	60	30
405	C区 1層	青磁	皿	底	— (2.0)	中国産 1044と同一個体	60	30
406	F区 T 6 1層	かね らけ	皿	底	— [8.0] (2.2)	内外面口クロ調整	60	30

【部位】口：口縁部、底：底部

【法量】上段：口径、中段：底径、下段：器高、()：残存値、[]：推定値



401

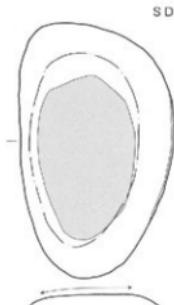


402



403

SD01



404



405



406

401 - 405 0 1 : 2 10cm

402 - 404 - 406 0 1 : 3 20cm

第60図 中世の遺物

(4) 造構外出土遺物 (第60図、写真図版30)

青磁 (405) 401と同一個体の底部の断片的な資料である。C区のI層から出土している。

かわらけ (406) T6のI層から出土したかわらけの底部片である。底部がやや高台状に厚みを持つ大形の皿である。奥州市水沢区の仙人西遺跡出土例などに類似した資料があり、15世紀代の資料の可能性が高い。

第32表 石器觀察表 (中世)

掲載 No	器種	位置	出土層位	石材	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)	分類	備考	同版 No	写真 No
402	砥石	S D 01 西	3 a b層	tuf	(7.00)	(3.92)	(2.11)	40.51	—	中砥	60	30
403	砥石	S D 01 西	6層	tuf	(12.35)	9.00	(5.70)	554.21	—	荒砥?	60	30
404	砥石	S D 03	東3層	dac	15.45	9.40	6.55	1565.34	IV	粗砥石 (荒砥?)	60	30

【石材】 dac: デイサイト、tuf: 磨灰岩

5 時期不明

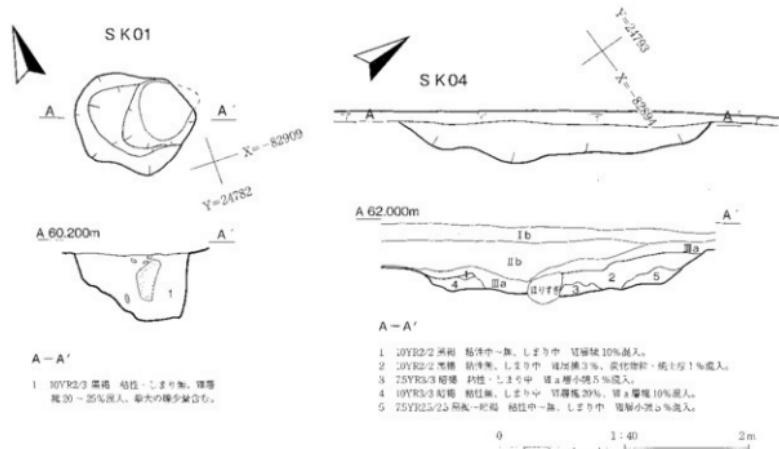
(1) 概要

遺物が伴わず、明確な掘り込み面を確認できなかった造構を一括した。また、遺物についても同様であるが、近世の遺物については、出土量が少ないと、明確な近世の造構がないことから、本節に含めて報告する。

(2) 土坑

SK01土坑 (第61図、写真図版15)

【位置と形態】 凸区にあり、X = -82909、Y = 24782付近に位置する。検出面はIII c層直下のVI層上面で、黒褐色の楕円形プランとして確認した。重複する造構はない。平面形はやや歪んだ楕円形を呈する。



第61図 時期不明の造構

平面規模は開口部で1.00×0.80mで、主軸方向はN 62° Wである。検出面からの深さは最大で57cmで、斜面上方の東壁は底面から直立気味に立ち上がり、西壁は段を持ちながら立ち上がる。底面は概ね平坦である。

堆積土は黒褐色土の単層である。拳大の礫を含み、地山塊が多量に混入する堆積土で、短時間に埋没しており、人為堆積と考えられる。

【出土遺物】堆積土中から磨石が出土しているが、後世に縄文時代の堆積土層から流入した可能性が高い。

S K04土坑（第61図、写真図版15）

【位置と形態】D区北側にあり、X = -82894、Y = 24793付近に位置する。検出面はⅢa層直下のVI層上面で、黒褐色のプランとして確認した。重複する遺構はないが、北西側の大半が調査区外に広がっている。そのため、平面形や規模は不明である。検出面から確認できた深さは最大で37cmである。壁面はなだらかに立ち上がる。

堆積土は黒褐色土を主体とし、5層に分層した。下部にはVI層に起因すると考えられる暗褐色土がみられる。確認できた範囲が狭く、中央部は後世の削平の影響を受けており、人為堆積か自然堆積かの判断は困難であった。

【出土遺物】縄文時代の土器片や石器が出土している。

（3）遺構外出土遺物（写真図版30）

陶器（411・412）2点とも碗で411は体部、412は底部の断片的な資料である。

土製品（413）球形をしており、土玉の一種と考えられる。

銭貨（414）寛永通寶と考えられる銭貨である。緑青により文字は判読できなかった。

第33表 遺物観察表（時期不明）

掲載 No	出土地点・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)	文様等	備 考	図版 No	写真 No
411	E区 Ⅲ層	陶器	碗	体	— (28)		大膳相馬？	—	30
412	D区 Ⅱ層	陶器	碗	底上	— (1.5)		産地不明	—	30
413	D区 Ⅰ層	土製品	玉？	完形	▲1.9	—		—	30
414	D区 Ⅲ層	銭貨	寛永通寶？		▲[24]			—	30

【部位】体：体部、底上：底部直上

【法量】上段：口径、中段：底径、下段：器高、▲：径、（ ）：残存値、〔 〕：推定値

第34表 柱穴一覧

遺構名	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	埋土	時代	備考
SKP 01	凸区	21	21	21.0	59.696	黒褐色土主体	中世か	
SKP 02	凸区	35	26	20.0	59.757	黒褐色土主体	中世か	
SKP 03	凸区	24	23	12.0	59.991	黒褐色土主体	中世か	
SKP 04	D 1	47	34	20.0	60.964	黒褐色土主体	中世か	
SKP 05	D 4	33	26	8.0	60.539	褐色土主体、黒褐色土塊 10%混入	中世か	
SKP 06	C 24	34	32	22.0	60.402	第 58 図参照	中世か	
SKP 07	C 19 C 24	(37)	(17)	11.0	60.553	黒褐色土主体、焼土粒 1%混入	中世か	調査区外に広がる
SKP 08	D 3	44	43	30.0	60.506	第 58 図参照	中世か	
SKP 09	C 22	47	46	52.0	60.482	第 58 図参照	中世か	
SKP 10	D 2	45	35	28.0	60.647	上：黒褐色土主体 下：暗褐色土～褐色土主体	中世か	
SKP 11	C 22	60	40	35.0	60.694	黒褐色土主体	中世か	
SKP 12	A 20	(33)	39	45.0	61.028	第 58 図参照	中世か	調査区外に広がる
SKP 13	A 25	34	31	35.0	61.046	黒褐色土主体、炭化物粒 1%混入	中世か	
SKP 16	F 4	38	34	36.0	59.029	第 52 図参照	平安時代	
SKP 17	F 1	34	31	33.0	59.828	第 59 図参照	中世か	
SKP 18	F 8	33	33	32.0	59.432	第 59 図参照	中世か	SKP 19 より古い
SKP 19	F 8	43	37	29.0	59.517	第 59 図参照	中世か	SKP 18 より新しい
SKP 20	F 2	26	26	22.5	59.657	第 59 図参照	中世か	
SKP 21	D 2	39	35	19.0	60.824	黒褐色土主体	中世か	
SKP 22	D 1	35	33	20.0	60.927	黒褐色土主体	中世か	
SKP 23	C 23	36	27	27.0	60.526	黒褐色土主体	中世か	
SKP 24	C 18 C 23	54	(31)	23.0	60.616	柱当：黒褐色土主体 掘り方：暗褐色土主体	中世か	
SKP 25	C 21 D 1	35	35	22.0	60.977	第 58 図参照	中世か	
SKP 26	A 25	33	27	35.0	60.887	第 58 図参照	中世か	
SKP 27	B 4	33	29	32.0	61.284	黒褐色土主体	中世か	
SKP 28	B 3	28	27	28.0	61.359	黒褐色土主体、モソモソしている	中世か	
SKP 29	B 1	28	27	17.0	61.630	黒色土と褐色土の混合層	中世か	
SKP 30	A 22	33	29	26.0	61.435	第 58 図参照	中世か	
SKP 31	A 17	31	25	28.0	61.506	柱当：黒褐色土主体 掘り方：褐色土主体、黒褐色土塊 20%混入	中世か	
SKP 32	E 22	30	28	30.5	59.740	柱当：黒褐色土主体 掘り方：暗褐色土主体	中世か	
SKP 33	A 24	31	31	25.0	61.059	注記なし	中世か	
SKP 34	E 25	35	32	30.0	58.960	黒褐色土主体	中世か	
SKP 35	F 4 F 5	26	25	9.5	59.197	黒褐色土主体、淡黄色小塊 2%混入	平安時代	S I 01 より古い
SKP 36	凸区	(66)	(24)	51.0	59.456	第 59 図参照	中世か	調査区外に広がる
SKP 37	C 23 C 24	24	24	15.0	60.521	黒褐色土主体	中世か	
SKP 38	D 2	38	25	13.0	60.802	黒褐色土主体、礫混入	中世か	
SKP 39	C 22	(33)	32	47.0	60.293	黒褐色土主体、炭化物粒 1%混入	中世か	
SKP 40	C 16	(33)	(13)	35.0	60.732	黒褐色土主体	中世か	

【長軸・短軸】()：残存値

第35表 点取り遺物座標データ一覧 (1)

測定 No	X 座標	Y 座標	Z 座標	測定 No	X 座標	Y 座標	Z 座標
45	-82008.80	24779.814	59.990	114	-82901.720	24789.634	60.958
46	-82008.827	24779.441	59.957	115	-82901.783	24789.652	60.940
47	-82008.439	24779.905	59.979	116	-82901.610	24789.742	60.995
48	-82008.226	24780.086	60.026	117	-82901.289	24789.756	60.944
49	-82007.816	24781.336	60.126	118	-82901.004	24789.432	60.995
50	-82009.419	24780.413	59.942	119	-82902.023	24789.311	60.956
51	-82009.516	24780.620	59.980	120	-82901.269	24789.249	60.996
52	-82009.324	24780.837	60.014	121	-82901.243	24789.375	60.960
53	-82009.886	24781.199	59.988	122	-82901.294	24789.405	60.959
54	-82009.093	24781.704	60.050	123	-82901.275	24789.405	60.951
55	-82008.850	24781.930	60.096	124	-82901.413	24789.369	60.947
56	-82008.739	24782.208	60.146	125	-82901.284	24789.282	60.961
57	-82008.818	24782.419	60.157	126	-82901.248	24789.267	60.946
58	-82008.831	24782.512	60.165	127	-82901.509	24789.917	60.993
59	-82008.499	24782.602	60.171	128	-82901.662	24789.820	60.942
60	-82008.456	24783.045	60.208	129	-82901.822	24789.823	60.947
61	-82008.384	24783.217	60.219	130	-82901.822	24789.896	60.950
62	-82007.321	24779.843	60.007	131	-82901.760	24789.831	60.930
63	-82007.857	24779.199	59.926	132	-82901.437	24790.123	60.982
64	-82007.738	24779.323	60.026	133	-82901.273	24789.961	61.003
65	-82009.465	24779.780	59.928	134	-82901.067	24789.571	60.979
66	-82009.853	24780.941	59.995	135	-82901.965	24789.441	60.929
67	-82009.073	24781.134	60.009	136	-82901.748	24789.306	60.951
68	-82009.506	24781.603	60.053	137	-82898.936	24790.068	61.143
69	-82009.341	24782.421	60.123	138	-82899.905	24789.820	61.076
70	-82006.823	24785.865	60.588	139	-82900.033	24789.709	61.036
71	-82005.787	24786.015	61.010	140	-82899.994	24789.951	61.083
72	-82007.313	24780.439	60.089	141	-82901.673	24789.320	61.253
74	-82007.572	24779.947	59.995	142	-82901.822	24789.513	61.243
75	-82007.800	24779.902	60.025	143	-82901.732	24789.633	61.255
76	-82008.127	24780.112	59.988	144	-82901.906	24789.790	61.261
77	-82008.008	24779.527	59.943	145	-82901.203	24789.685	61.252
78	-82008.737	24779.320	59.922	146	-82901.235	24789.570	61.267
79	-82009.006	24779.278	59.940	147	-82901.235	24789.642	61.256
80	-82008.773	24779.783	59.944	148	-82901.609	24789.382	61.274
81	-82008.457	24780.230	59.976	149	-82901.829	24788.576	61.272
82	-82008.815	24780.102	59.997	150	-82901.751	24792.811	61.388
83	-82008.574	24780.037	59.851	151	-82898.854	24793.054	61.359
84	-82009.102	24780.298	59.907	152	-82896.339	24792.645	61.545
85	-82009.931	24781.101	59.959	153	-82896.539	24792.384	61.467
86	-82009.726	24781.463	59.988	154	-82896.563	24792.334	61.461
87	-82009.583	24781.514	60.028	155	-82897.821	24793.879	61.427
88	-82009.242	24781.651	60.028	156	-82898.891	24793.108	61.325
89	-82009.734	24781.809	60.037	157	-82898.488	24791.152	61.201
90	-82009.721	24781.793	60.057	158	-82899.422	24791.778	61.230
91	-82008.589	24781.768	60.059	159	-82899.829	24791.693	61.168
92	-82008.838	24781.926	60.083	160	-82900.189	24792.024	61.191
93	-82009.199	24782.205	60.061	161	-82900.625	24791.729	61.142
94	-82009.149	24782.413	60.127	162	-82899.858	24791.899	61.211
95	-82009.055	24782.575	60.126	163	-82898.712	24791.539	61.159
96	-82009.748	24781.793	60.123	164	-82899.161	24793.203	61.300
97	-82006.372	2481.629	60.009	165	-82899.983	24793.339	61.309
98	-82006.416	24783.292	60.199	166	-82899.632	24793.598	61.349
99	-82008.708	24783.177	60.185	167	-82900.068	24792.762	61.263
100	-82008.934	24783.911	60.236	168	-82900.427	24792.658	61.242
101	-82006.797	24784.602	60.285	169	-82900.601	24792.217	61.219
102	-82010.187	24783.397	60.112	170	-82900.415	24792.230	61.209
103	-82011.231	24783.397	59.986	171	-82901.162	24792.650	61.139
104	-82010.678	24783.518	60.156	172	-82901.260	24792.561	61.211
105	-82010.526	24786.059	60.209	173	-82900.142	24793.064	61.208
106	-82015.513	24781.832	59.917	174	-82900.217	24793.115	61.216
107	-82009.952	24781.070	59.963	175	-82900.652	24792.407	61.197
108	-82009.005	24782.024	60.034	176	-82900.564	24792.100	61.223
109	-82009.023	24782.408	60.100	177	-82909.628	24790.996	61.082
110	-82010.181	24784.033	60.108	178	-82899.625	24799.948	61.061
111	-82001.844	24789.407	60.966	179	-82900.511	24799.129	60.866
112	-82001.783	24789.300	60.974	180	-82900.716	24788.938	60.976
113	-82001.641	24789.306	60.934	181	-82901.037	24788.971	60.879
				182	-82900.116	24790.261	61.082
				183	-82900.378	24790.524	61.076
				184	-82901.187	24796.637	61.016
				185	-82900.969	24789.972	60.979
				186	-82900.791	24788.639	60.973
				187	-82901.013	24789.657	60.956
				188	-82901.266	24788.374	60.936
				189	-82901.322	24788.630	60.954
				190	-82901.371	24788.869	61.004
				191	-82901.291	24790.481	60.889
				192	-82901.395	24790.764	61.005
				193	-82901.703	24790.560	61.015
				194	-82901.791	24796.563	61.028
				195	-82901.821	24790.519	61.026
				196	-82901.960	24790.420	61.018
				197	-82901.874	24796.267	61.014
				198	-82901.647	24799.074	60.981
				199	-82901.234	24799.540	60.953
				200	-82900.704	24790.673	61.041
				201	-82900.947	21790.180	60.990
				202	-82901.280	24789.859	60.963
				203	-82901.194	24792.721	61.115
				204	-82901.943	24792.330	61.112
				205	-82901.063	24791.853	61.018
				206	-82902.604	24791.221	60.988
				207	-82902.496	24791.916	61.090
				208	-82902.751	24791.011	60.955
				209	-82901.412	24788.991	60.927
				210	-82901.750	24788.292	60.851
				211	-82901.991	24789.680	60.840
				212	-82902.013	24788.548	60.810
				213	-82902.281	24788.794	60.844
				214	-82902.189	24788.573	60.796
				215	-82902.291	24788.500	60.733
				216	-82902.453	24788.324	60.700
				217	-82902.631	24788.523	60.664
				218	-82902.701	21788.506	60.632
				219	-82902.568	24788.239	60.605
				220	-82902.598	24788.163	60.534
				221	-82902.706	24788.112	60.527
				222	-82902.760	24788.004	60.766
				223	-82902.835	24788.078	60.823
				224	-82902.815	21788.367	60.788
				225	-82902.859	24788.353	60.920
				226	-82902.807	24788.665	60.780
				227	-82901.883	24789.238	60.938
				228	-82902.010	24789.154	60.937
				229	-82902.128	24789.312	60.933
				230	-82902.220	24789.332	60.923
				231	-82902.151	24789.353	60.920
				232	-82902.111	24789.433	60.967
				233	-82902.020	24789.618	60.923
				234	-82902.173	24789.581	60.917
				235	-82902.014	24789.681	60.937
				236	-82902.052	24789.696	60.932
				237	-82902.085	24789.665	60.920
				238	-82902.111	24789.814	60.936
				239	-82902.067	24789.858	60.929
				240	-82902.259	24789.903	60.942
				241	-82902.447	24789.948	60.921
				242	-82902.595	24789.768	60.906
				243	-82902.587	24789.799	60.904
				244	-82902.660	24789.667	60.893
				245	-82902.346	24789.204	60.947
				246	-82902.073	24789.520	60.890
				247	-82902.612	24789.187	60.882
				248	-82902.779	24789.210	60.894
				249	-82902.057	24789.315	60.890

第35表 点取り遺物座標データ一覧 (2)

割別 No	X座標	Y座標	Z座標	割別 No	X座標	Y座標	Z座標	割別 No	X座標	Y座標	Z座標
250	-82900.409	24789.038	60.819	318	-82904.119	24786.790	60.721	386	-82902.046	24789.440	60.907
251	-82902.606	24789.542	60.912	319	-82904.331	24786.784	60.718	387	-82901.951	24789.527	60.867
252	-82902.143	24789.519	60.912	320	-82904.139	24786.881	60.722	388	-82902.031	24789.667	60.886
253	-82902.191	24789.492	60.900	321	-82904.236	24786.801	60.702	389	-82902.094	24789.639	60.889
254	-82902.300	24789.497	60.898	322	-82904.361	24786.761	60.705	390	-82902.144	24789.541	60.902
255	-82902.222	24789.415	60.886	323	-82904.337	24786.656	60.704	391	-82902.089	24789.596	60.884
256	-82902.267	24789.591	60.876	324	-82903.965	24787.298	60.765	392	-82902.225	24789.440	60.896
257	-82902.149	24780.834	60.902	325	-82904.292	24787.211	60.716	393	-82902.201	24789.956	60.856
258	-82902.221	24789.911	60.934	326	-82904.336	24787.285	60.748	394	-82902.032	24789.539	60.858
259	-82902.212	24789.811	60.909	327	-82904.155	24785.952	60.717	395	-82902.162	24789.771	60.879
260	-82902.330	24789.839	60.927	328	-82903.570	24787.027	60.644	396	-82902.833	24789.933	60.855
261	-82902.246	24789.327	60.851	329	-82903.773	24788.269	60.818	397	-82903.087	24789.309	60.851
262	-82902.278	24789.116	60.872	330	-82903.255	24788.273	60.837	398	-82903.504	24789.447	60.848
263	-82902.867	24789.086	60.849	331	-82901.068	24787.812	60.782	399	-82902.008	24788.755	60.891
264	-82903.037	24789.469	60.856	332	-82904.776	24785.648	60.659	400	-82902.588	24789.158	60.852
265	-82903.521	24789.470	60.871	333	-82901.894	24787.364	60.692	401	-82902.627	24788.115	60.811
266	-82903.761	24789.117	60.808	334	-82903.870	24786.695	60.682	402	-82902.642	24788.124	60.811
267	-82903.847	24789.330	60.827	335	-82901.137	24786.506	60.679	403	-82902.907	24788.081	60.803
268	-82903.612	24789.615	60.854	336	-82902.880	24787.431	60.743	404	-82903.019	24789.351	60.790
269	-82903.466	24789.000	60.811	337	-82901.691	24786.531	60.663	405	-82903.055	24788.330	60.782
270	-82903.214	24789.401	60.834	338	-82904.974	24786.629	60.678	406	-82902.095	24789.494	60.908
271	-82903.388	24789.030	60.820	339	-82903.194	24786.733	60.632	407	-82902.218	24789.311	60.925
272	-82902.958	24789.078	60.864	340	-82903.098	24787.114	60.676	408	-82902.020	24789.435	60.894
273	-82901.906	24789.273	60.927	341	-82905.717	24766.672	60.376	409	-82902.494	24789.274	60.851
274	-82903.559	24789.325	60.811	342	-82903.198	24786.204	60.384	410	-82903.134	24788.449	60.827
275	-82903.096	24789.347	60.808	343	-82903.692	24785.808	60.657	411	-82902.933	24787.567	60.761
276	-82902.768	24790.537	60.964	344	-82905.201	24785.460	60.524	412	-82903.099	24787.366	60.697
277	-82902.849	24790.429	60.969	345	-82903.875	24785.785	60.542	413	-82903.171	24787.573	60.814
278	-82902.868	24790.626	60.964	346	-82906.330	24786.301	60.570	414	-82903.110	24788.094	60.761
279	-82903.094	24790.530	60.967	347	-82903.834	24785.981	60.526	415	-82903.459	24788.163	60.805
280	-82903.109	24790.722	60.953	348	-82906.465	24788.071	60.624	416	-82904.076	24787.360	60.693
281	-82903.306	24791.250	60.960	349	-82907.819	24788.374	60.545	417	-82903.681	24787.319	60.686
282	-82903.417	24789.759	60.856	350	-82907.924	24788.027	60.538	418	-82904.578	24788.109	60.730
283	-82903.159	24790.862	60.942	351	-82908.808	24785.933	60.230	419	-82902.119	24792.600	61.081
284	-82903.376	24790.879	60.917	352	-82909.040	24783.316	60.191	420	-82902.750	24791.627	61.008
285	-82904.456	24789.370	60.799	353	-82909.389	24789.011	60.130	421	-82902.337	24792.715	61.059
286	-82905.383	24788.629	60.656	354	-82909.801	24783.604	60.106	422	-82902.409	24791.041	60.649
287	-82906.046	24788.834	60.672	355	-82909.767	24782.670	60.120	423	-82902.428	24790.776	60.699
288	-82906.105	24788.779	60.657	356	-82909.779	24782.728	60.108	424	-82902.734	24791.336	60.678
289	-82902.947	24787.912	60.810	357	-82909.519	24782.526	60.121	425	-82903.263	24791.461	60.962
290	-82903.040	24787.919	60.827	358	-82909.664	24782.468	60.112	426	-82903.333	24791.101	60.952
291	-82903.103	24788.071	60.832	359	-82909.719	24782.795	60.121	427	-82904.066	24790.418	60.841
292	-82903.241	24788.104	60.804	360	-82909.873	24782.308	60.065	428	-82903.454	24789.822	60.870
293	-82902.983	24787.682	60.835	361	-82904.314	24793.925	61.730	429	-82904.384	24791.227	60.952
294	-82902.979	24787.614	60.771	362	-82904.363	24793.945	61.715	430	-82904.879	24789.060	60.854
295	-82902.938	24787.779	60.792	363	-82904.577	24793.983	61.639	431	-82905.289	24789.050	60.662
296	-82903.092	24787.524	60.735	364	-82914.883	24793.249	61.602	432	-82909.761	24792.681	61.199
297	-82903.100	24789.271	60.784	365	-82905.005	24793.801	61.606	433	-82909.039	24792.027	61.136
298	-82903.260	24797.419	60.787	366	-82904.988	24793.937	61.613	434	-82909.089	24792.003	61.147
299	-82903.210	24787.571	60.813	367	-82904.882	24793.835	61.614	435	-82909.620	24791.196	61.058
300	-82903.212	24789.647	60.795	368	-82906.141	24793.208	61.536	436	-82909.515	24789.754	60.924
301	-82903.199	24787.786	60.776	369	-82908.759	24794.935	61.537	437	-82909.542	24789.781	60.922
302	-82903.487	24787.961	60.796	370	-82908.949	24793.254	61.272	438	-82903.040	24789.665	60.852
303	-82903.705	24788.327	60.818	371	-82909.069	24792.733	61.206	439	-82902.063	24789.609	60.970
304	-82904.177	24788.305	60.789	372	-82900.439	24793.165	61.236	440	-82902.032	24789.600	60.853
305	-82904.290	24787.932	60.742	373	-82900.274	24793.047	61.199	441	-82902.123	24789.579	60.987
306	-82904.376	24787.746	60.764	374	-82900.031	24792.896	61.191	442	-82902.112	24789.536	60.888
307	-82903.009	24797.923	60.755	375	-82900.791	24792.448	61.154	443	-82902.124	24789.541	60.891
308	-82903.830	24787.735	60.773	376	-82900.741	24792.229	61.157	444	-82902.169	24789.536	60.891
309	-82903.390	24787.508	60.776	377	-82909.965	24792.173	61.208	445	-82902.122	24789.466	60.845
310	-82903.414	24787.495	60.796	378	-82900.079	24792.108	61.205	446	-82902.149	24789.446	60.851
311	-82903.560	24787.399	60.777	379	-82900.384	24790.890	61.073	447	-82902.166	24789.468	60.848
312	-82903.618	24787.126	60.762	380	-82901.083	24790.609	61.045	448	-82902.183	24789.322	60.891
313	-82903.751	24797.013	60.719	381	-82900.296	24790.121	61.013	449	-82902.208	24789.330	60.888
314	-82903.858	24786.990	60.743	382	-82901.064	24795.954	60.969	450	-82902.410	24789.225	60.847
315	-82903.901	24786.811	60.712	383	-82900.575	24790.903	61.021	451	-82902.404	24789.187	60.852
316	-82901.006	24786.767	60.729	384	-82900.645	24789.762	60.952	452	-82902.045	24788.379	60.766
317	-82904.053	24796.876	60.696	385	-82900.551	24789.850	60.983	453	-82903.055	24788.292	60.777

第35表 点取り遺物座標データ一覧 (3)

測定No	X座標	Y座標	計測座標	測定No	X座標	Y座標	計測座標
434	- 829031035	24788.322	60.739	499	- 82899.613	24791.907	61.034
435	- 829031236	24788.401	60.775	500	- 82899.482	24792.042	61.127
436	- 829031516	24788.508	60.812	501	- 82900.932	24791.978	61.021
437	- 829031533	24791.576	60.947	502	- 82900.756	24792.091	61.109
438	- 829031650	24791.787	60.950	503	- 82900.938	24792.138	61.083
439	- 829031669	24799.801	60.827	504	- 82900.894	24792.234	61.087
440	- 829031662	24799.923	60.833	505	- 82901.034	24792.384	61.095
461	- 829031757	24789.680	60.838	506	- 82901.301	24792.642	61.131
462	- 829031642	24789.783	60.821	507	- 82900.748	24792.690	61.127
463	- 829031441	24790.068	60.856	508	- 82900.509	24792.321	61.20
464	- 829031676	24789.853	60.935	509	- 82900.510	24792.572	61.115
465	- 829021410	24789.562	60.871	510	- 82900.534	24792.769	61.156
466	- 829021597	24789.506	60.873	511	- 82900.353	24792.993	61.165
467	- 828651781	24793.211	61.547	512	- 82900.167	24792.737	61.164
468	- 828671111	24792.359	61.286	513	- 82900.067	24792.971	61.191
469	- 828681529	24791.521	61.221	514	- 82900.000	24793.133	61.161
470	- 828691785	24790.474	61.065	515	- 82900.111	24793.182	61.127
471	- 828691530	24791.689	61.165	516	- 82900.185	24793.472	61.151
472	- 828691712	24790.549	61.061	517	- 82899.977	24793.619	61.162
473	- 829003388	24793.168	61.191	518	- 82900.817	24793.668	61.116
474	- 829003096	24792.970	61.195	519	- 82900.225	24793.106	61.153
475	- 829003110	24792.709	61.174	520	- 82900.700	24793.317	61.151
476	- 829003161	24792.741	61.177	521	- 82896.392	24792.315	61.322
477	- 829003662	24792.584	61.156	522	- 82898.036	24787.859	60.681
478	- 829003631	24792.385	61.149	523	- 82898.662	24791.174	61.191
479	- 828991761	24790.003	61.024	524	- 82900.964	24792.007	61.062
480	- 829005655	24790.849	60.991	525	- 82911.875	24781.274	59.785
481	- 829007111	24790.866	61.012	526	- 82911.890	24782.964	59.858
482	- 829011352	24799.685	60.873	527	- 82900.564	24787.062	60.526
483	- 829020245	24789.182	60.739	528	- 82904.194	24788.777	60.743
484	- 829033566	24788.922	60.778	529	- 82908.211	24791.979	61.162
485	- 829025263	24788.159	60.711	530	- 82891.509	24792.037	61.363
486	- 829030109	24788.308	60.749	531	- 82894.659	24794.128	61.475
487	- 829040114	24789.639	60.815	532	- 82895.632	24791.130	61.369
488	- 829041002	24790.341	60.812	533	- 82896.991	24792.911	61.261
489	- 829033550	24788.300	60.751	534	- 82896.087	24792.123	61.115
490	- 829033646	24787.290	60.733	535	- 82896.239	24792.392	61.075
491	- 829041111	24787.303	60.692	536	- 82896.962	24792.654	61.061
492	- 829042220	24786.962	60.685	537	- 82897.617	24791.538	61.005
493	- 828933282	24794.689	61.359	538	- 82896.894	24792.893	61.054
494	- 828934444	24794.394	61.719	539	- 82896.311	24794.139	61.221
495	- 828933766	24794.216	61.645	540	- 82896.507	24793.808	61.155
496	- 82891517	24783.996	61.578	541	- 82895.885	24793.654	61.281
497	- 82899010	24783.063	61.227	542	- 82895.725	24793.662	61.264
498	- 828991000	24792.455	61.207	543	- 82902.483	24792.645	60.911

VI まとめ

1 後期旧石器時代

本遺跡では、台形石器群、基部加工ナイフ形石器を中心とする石刃石器群、細石刃石器群の3時期の石器群が確認された。残念ながら、良好な接合資料に恵まれなかつたため、剥片剥離技術の検討はできないが、個別の石器から、各石器群の内容を見ていく。

(1) 第I文化層以前(台形石器群)

本遺跡で出土した石器群はすべてが盛土層出土であるため、本来の帰属すべき堆積層がどこに当たるのか不明と言わざるをえない。そのため、詳細な石器組成・剥片剥離技術の検討を加えることはできない。ここでは、出土した5点の台形石器の特徴を挙げ、大まか年代観を提示するにとどめる。本遺跡では、素材剥片を倒位に用いて、二側縁もしくは刃部以外の側縁に二次加工を施して台形にするタイプ(掲載No 1~3)と石刃や縦長剥片を数個に分割し、分割した面に二次加工を施して、台形にするタイプ(同4~5)の2種類がある。隣接する秋田県では吉川耕太郎氏によって詳細な分析(秋田県教育委員会 2006)が行われており、少なくとも台形石器群の中でも、1~3の台形石器を持つグループは古い時期に相当するとしている。このまま、本資料と対比することはできないが、本石器群は、少なくとも、後期旧石器時代前半期に収まる可能性が高いことを指摘しておく。なお、詳細な検討は本石器群の包含層の検出を待って検討したい。

(2) 第I文化層(石刃石器群)

本遺跡で第I文化層とした石器群である。剥片類28点(石刃4点、縦長剥片1点、剥片14点、碎片9点)、疊5点を除く36点の石器組成を見ると、搔器・搔削器のスクレーパー類(6点:約17%)、台石(10点:約28%)が多い特徴が挙げられる。1点のみであるが、基部加工ナイフ形石器が組成する。村木敏氏・米田寛氏によって、当該期の石器群の編年案が提示されている(村木・米田 2009)。この案が最新の県内の編年案であることから、この案を参考にすると、後期旧石器時代後半期古層(始良Tn火山灰上位)に位置づけられるIV期に相当する可能性が高い。しかし、調査区域外に本石器群の範囲が広がる可能性が高く、現段階で組成していない(出土していない)大形の基部加工ナイフ形石器や神山型器等の石器の有無を特定できないため、可能性が高いことを指摘するにとどめる。

剥片剥離技術に関しては、接合資料が1点しか確認できず、剥片剥離工程の復元できる資料は皆無である。そのため、剥片剥離技術を特定することは困難である。本石器群の目的剥片でもある石刃や縦長剥片を観察すると、背面の剥離面の構成は剥離方向と対向する剥離面が観察されるものがあり、両設打面石核から剥離されていることが窺える。打面と最大幅の位置を比較すると、大きく2種類見られる。打面調整や頭部調整が行われ、石刃頭部の正面観が台形状を呈するものと打面調整や頭部調整が行われず、最大幅が打向もしくは打面付近の上部に位置するものである。前者は真正な石刃技法、後者は祖形もしくは広義の石刃技法の範囲に収まるものと判断できるが、剥片の頭部が剥離時の衝撃によって残存していないものも多いため、今回の出土資料のみで、詳細な検討を加えることはできない。しかし、同じ石器群のなかにも時間幅がある可能性が考えられる。石器組成も含めて、本調査区周辺の調査を待って検討したい。

(3) 第Ⅱ文化層(細石刃石器群)

本文化層は、第Ⅰ文化層以上に出土数が少なく、詳細な検討は困難である。本文化層を構成する全45点のうち、剥片・碎片・礫を除く9点の組成は影器1点、搔器1点、R F 1点、細石刃3点、礫器1点、台石2点である。これらの石器類にも時期を特定できる特徴的な資料がないため、詳細な年代観を提示することはできないが、後期旧石器時代終末期であることは確かである。

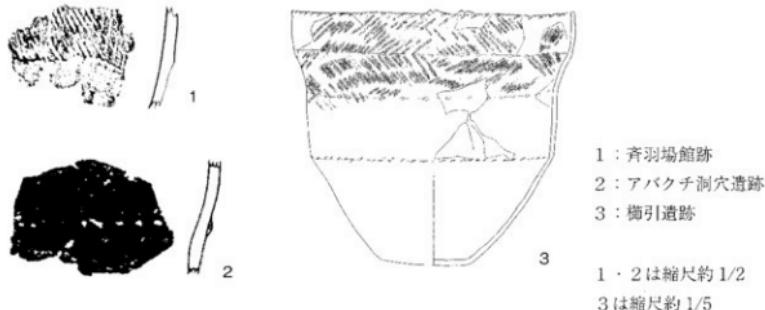
2 繩 文 時 代

(1) 繩文時代草創期の遺物について

No106（個別No200、第62図1）は、類似する資料が少なく、時期の特定に苦慮した資料である。また、体部片であるため、全体の器形が不明である点もその一因となっている。この土器の特徴は、第V章第2節第3項や第23表でもふれているが、器厚が5mm前後と非常に薄手、焼成が良好で堅い、外面は黒褐色～暗褐色を呈する、胎土に纖維を含まない、無筋縄文（R）を横位に施文するなどが挙げられる。出土層位は縄文時代早期中葉～末葉の遺物を包含するV層の下のVI層の最下部で、細石刃石器群の文化層を含むVIA層との層理面に貼りつくよう出土している。少なくとも早期中葉以前の土器である可能性が高いと推察していた。そこで、より詳細な年代観を得るために、土器に付着物していた炭化物の年代測定を行うこととした。分析に係る詳細な報告は附編の放射性炭素年代（AMS測定）を参照して頂きたいが、 10020 ± 60 yrBPという結果が得られた。また、同一ブロック内から出土した炭化物が 11490 ± 50 yrBPとの測定結果が得られた。やや時間幅があるものの、草創期の範囲に収まるもので、層位的な前後関係とも矛盾は見られない。

花巻市大迫町のアバクチ洞穴遺跡でも資料数は1点と少ないが、類似する土器片（第62図2）が出土している。その特徴は、4～5mmと非常に薄手であること、胎土に纖維を含まないこと、単筋縄文が施文されていること、頭部に低い陸帯を巡らして連続刺突文を施文していることが挙げられる。本遺跡の資料とは、無筋と単筋の違いはあるものの、縄文を施文すること、非常に薄手であること、胎土に纖維を含まないことなどが類似している。この遺跡で比較対象として挙げられているのが、新潟県東蒲原郡阿賀町に所在する室谷洞窟の室谷下層式といわれる第Ⅰ群土器である。

室谷下層式は隅丸方形を呈する平底の深鉢形土器である。口縁部や胴部がそろばん玉状に張り出す



第62図 縄文時代草創期の遺物

もの、口縁部に段を巡らすものなどの特徴があり、文様は、口縁部文様帯が意識され、胴部文様帯とは区別される。回転施文の縄文を主体とし、押圧縄文、絡条体圧痕文、爪形文、櫛目文、無文が施文される。その中でも、主体となる縄文には、羽状縄文の施文が特徴的である。口縁部文様帯の施文は横位回転を基本としており、このことは本資料にも当てはまるが、無節縄文の有無は不明である。

室谷下層式期の土器が出土した遺跡として、平成9年に発掘調査が行われ、平成11年に調査報告書が発刊された青森県八戸市の櫛引遺跡が挙げられる。草創期第1号土坑から、完形に復元された土器（第62図3）が出土しており、数少ない全体の様相がわかる資料として注目された。特徴は①器形は、口縁下と胴部のほぼ中央、胴下半で3段に屈曲する深鉢、②器高26.3cm、口径は楕円形で長軸28.8cm、短軸26cm、底径9cm、器厚4mm、③焼成は良好で堅く、外面の色調は黒褐色～褐色、④口縁部は平口縁で、対となる二つの山形状の小突起を持つ、⑤文様は胴中央部の屈曲部までLR縄文の縦位回転とRL縄文の横位回転を、屈曲部を境にして原体と回転方向を変ながら、羽状に施文している、⑥外面の口唇直下・胴下半屈曲部に爪形文、胴上半と胴中央屈曲部には、縄端刺突が連続して施文される、などがある。本遺跡の資料は断片的な資料であるため、口縁部や器形等の比較はできないが、焼成が良好で堅く、器厚が1～5mm、縄文が施文されることが類似している。同じような器形とすると、本遺跡の資料は胴上半部～胴中央部の屈曲部の間の資料と考えられる。

県内では室谷下層式期の可能性がある資料は前述のアバクチ洞穴遺跡の1点のみで、草創期の資料を中心となるのは、前段階にあたる爪形文系土器群である。これらの資料は県央部の盛岡市を中心に散見される。発掘調査が行われた遺跡としては、盛岡市の安倍館遺跡、同大船町遺跡、同大新町遺跡、同前九年遺跡、滝沢村の寧小路15遺跡、二戸市淨法寺町のコアスカ館遺跡、岩泉町の龍泉新洞遺跡、同森の越遺跡の8遺跡が挙げられる。本遺跡の資料は1点と少ないながらも、これらの爪形文系土器群に後続し、花巻市の上台I遺跡をはじめとする草創期末葉～早期初頭の平底無文土器群の前段階に位置づけられる多縄文土器群の一資料として重要である。室谷洞窟や櫛引遺跡の出土資料に、無節縄文の存在はうかがえないが、不明なことの多い当該期の資料には、あまり見られない原体としても、注意して観察する必要があろう。このような意味でも、本遺跡の出土資料は貴重な資料と考えられる。

（註）本遺跡の資料を原田昌幸氏に見て頂いたところ、無節縄文であること以外は室谷下層式期の土器と類似しており、爪形文系土器群と無文土器群をつなぐ多縄文系土器群に位置付けられるのではないかとのご教授を頂いた。

（2）縄文時代早期の集落について

本遺跡では、1基であるが、縄文時代早期中葉の土坑が検出された。そこで、他の時代・時期に比べ調査事例の少ない、当該期の集落について概観する。

当該期の堅穴住居跡が確認されている遺跡は、二戸市馬立I遺跡、同長瀬B遺跡、同大久保遺跡、同米沢遺跡、一戸町小井田III遺跡、田野畑村真木沢I遺跡、盛岡市大新町遺跡、同薬師社脇遺跡、紫波町西田遺跡、遠野市昌山遺跡、仕田町小松I遺跡である。この内、詳細な時期が判明しているものは、白浜・小舟渡平式期が13棟（大新町遺跡1棟、薬師社脇遺跡10棟、西田遺跡2棟）、寺の沢式期が9棟（長瀬B遺跡5棟、米沢遺跡1棟、小井田III遺跡2棟、薬師社脇遺跡1棟）、吹切沢式期が1棟（真木沢I遺跡1棟）、烏木沢式期が17棟（馬立I遺跡16棟、大久保遺跡1棟）である。県南部や沿岸部でも調査事例はあるものの、盛岡市以北の北上川流域や馬渕川流域に集中している。特に、早期中葉でも古い段階では、盛岡市周辺に集中する傾向が見られる。堅穴住居跡以外の遺構が確認された遺跡は、早期前葉～中葉の土坑9基が確認された盛岡市庄ヶ畑A遺跡、吹切沢式期の土坑1基が確

認された盛岡市宿田遺跡、詳細な時期は判明していないが、当該期の土坑1基が確認された大日向II遺跡がある。いずれにしても遺構が確認されるのは盛岡市以北が圧倒的に多く、県南部にあたる本遺跡での土坑の検出は空白域を埋める貴重なものと考えられる。また、遺構は確認されていないが、同じ船瀬地区の岩脇遺跡や阿弥陀堂遺跡では当該期の土器がまとまって出土している。今後、この船瀬地区を含む北上川左岸地域も遺跡の増加が期待される。

第36表 繩文時代早期中葉の主な遺跡

遺跡名	市町村	種別	遺構数	型式	備考
庄ヶ畑A遺跡	盛岡市	土坑	9基		早期前業～中業
大館町遺跡	盛岡市	堅穴住居跡	1棟	白浜・小舟渡平式	
西田遺跡	紫波町	堅穴住居跡	2棟	白浜・小舟渡平式	
平船Ⅲ遺跡	一戸町	包含層		白浜・小舟渡平式	
薬師社脇遺跡	盛岡市	堅穴住居跡	10棟	白浜・小舟渡平式	
			1棟	寺の沢式	
			8棟		
長瀬B遺跡	二戸市	堅穴住居跡	5棟	寺の沢式	
小井田Ⅲ遺跡	一戸町	堅穴住居跡	2棟	寺の沢式	
米沢遺跡	二戸市	堅穴住居跡	1棟	寺の沢式	
		焼土遺構	2基	寺の沢式	
真木沢Ⅰ遺跡	田野畠村	堅穴住居跡	1棟	吹切沢式	埋土中から焼けた縄が多量に出土
宿田遺跡 第6次調査	盛岡市	土坑	1基	吹切沢式	
馬立Ⅰ遺跡	二戸市	堅穴住居跡	16棟	烏本沢式	
大久保遺跡	二戸市	堅穴住居跡	1棟	烏本沢式	
張山遺跡	遠野市	堅穴住居跡	3棟		
大日向II遺跡 第6～8次調査	輕米町	土坑	1基		
小松I遺跡	住田町	堅穴住居跡	4棟		

3 平 安 時 代

当該期の遺構は堅穴住居跡1棟、土坑1基、柱穴2個である。細長い調査区のなかで、E区のみに分布している。E区は段丘の縁辺部にあたり、遺構の集中する部分では一番低い場所に相当する。局所的にしか確認できないため、集落がどのように広がるか判断に苦慮するところであるが、現在水田として利用されている南東側にも、同じような標高の平坦面が広がっていることから、集落は南東側に広がるものと思われるが、小規模なものと思われる。時期は分析の結果To-aとされた火山灰がカマド構築上中に混入していることや出土遺物から10世紀前半代と考えられる。

4 中 世

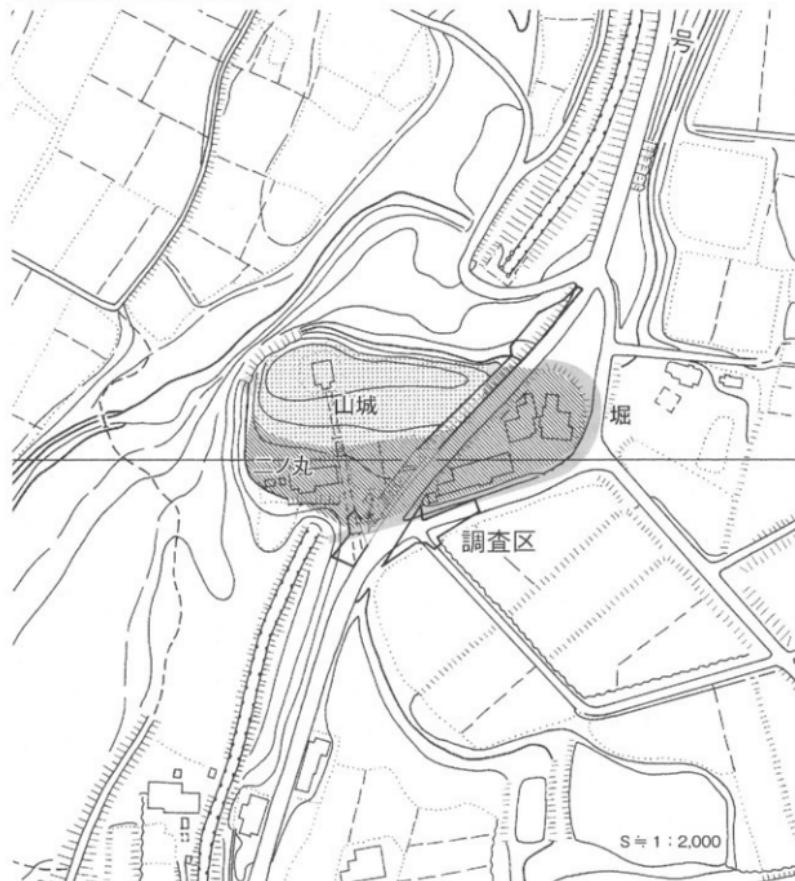
齊（斎）羽場館は、「葛西御家臣衆座列」^{#1} にあるように、天正十八年（1590年）の豊臣秀吉による奥州仕置により没落した葛西氏の御家臣衆であった及川若狭守吉種の居城とされている。また、「宮城県史」第32巻に収録されている、延宝五年（1677年）頃に記されたとされる「仙台領古城書立之覚」^{#2} にも城主及川若狭と記されている。このことより少なくとも16世紀末には、齊（斎）羽場館があったということになる。

発掘調査で検出された当該期の遺構は、堀跡1条、溝跡2条、柱穴18個である。これらの遺構は齊

羽場館に関係する遺構の可能性が高く、地形と合わせて、齊羽場館の構造を検討する。

現況の地形に、検出した遺構や地形を考慮して、想定した齊羽場館の構造を第63図に示した。本調査区は二ノ丸の中央部の一部であった可能性が高く、S D01堀跡と直交もしくは平行する配置をとると考えられる柱穴（SKP 6・8・9・12・24・26・40）が建物を構成する可能性が高い。しかし、県道14号の拡幅部分のみの細長い調査区であることや昭和46年度の調査地点を特定できず、その調査成果とつき合わせることができなかつたことから、建物の配置など詳細な特定は今後の調査を待つしかない。

本遺跡周辺には、南方へ約3kmのところに比翼櫓の擬定地である兵部館櫓、北方へ約4kmのところに川岸遺跡（黒沢尻櫓）、北上川を隔てた西に相去城（鶴野館）などがあり、北上川の水運を利用した要害の地であったことが窺える。



第63図 齊羽場館縄張り想定図

- 註1) 宮城県桃生郡河北町皿見 及川友文家文書
 葛西御家臣衆座列
 (前略)
 総家臣次第不足
 (中略)
 及川若狭 同 (江刺郡) 下門岡邑主
 (中略)
 斎羽場城 山城33間 15間 下門岡村
 二ノ丸20間 18間
 城主 及川若狭吉種 天正18年一家同時没落
- 註2) 仙台領古城書立之覚
 江刺郡 弐拾四ヶ城
 (中略)
 下門岡村
 一 山斎羽城 同九間 一 二ノ丸 同廿三間
 同八間 同 十間
 右城主 及川若狭ト申ス者居住之由申シ候

5 総 括

昭和46年度の調査結果から、後期旧石器時代、縄文時代早期、縄文時代前期、縄文時代中期、中世と断続的に利用されてきた場所であることが想定されていたが、今回の調査で、さらに縄文時代草創期、平安時代にも利用されていたことが判明した。各時代・時期との遺構数・遺物量が少ないため、詳細な様相の検討は、今後の調査成果を待たねばならないが、北上川左岸域に貴重な資料を提供できたものと考えられる。判明したことを例挙すると、次のようになる。①後期旧石器時代はナイフ形石器を含む石刃石器群・縄石刃石器群の2文化層とともに、台形石器を中心とする石器群の3時期があり、どの時期もキャンプサイト的な要素が強い。②縄文時代草創期の室谷下層式期と考えられる土器片が石器とともにブロックを形成して出土し、土器付着炭化物の放射性炭素年代は 10020 ± 60 yrBPであった。③縄文時代早期中葉の土坑が1基検出され、集落として利用された可能性が高い。縄文土器の中心となる時期もこの時期であった。④縄文時代前期や中期の遺物も少量ながら出土し、周辺に集落が存在する可能性が示唆される。⑤平安時代（10世紀前半）には集落として利用されていた。段丘縁辺部のやや低い平坦面で竪穴住居跡が検出され、縁辺部を中心に集落が営まれた可能性が考えられる。⑥葛西氏の家臣の一人である及川若狭守吉種の居城で、遺跡名ともなっている「齊羽場館」に関係する堀跡・溝跡・柱穴や15世紀代のかわらけ・中国産青磁が出土した。詳細な縄張りは不明であるが、「葛西御家臣衆座列」や「仙台領古城書立之覚」にあるような、本丸と二ノ丸があることが想定され、調査区は二ノ丸の中央部に相当する可能性が高い。遺構・遺物からは多様な時代・時期のものが確認できたものの、数量的に少なく、詳細な検討が困難であった。今後、隣接する場所の発掘調査が行われ、今回の成果を含めて検討されることを期待する。

引用・参考文献（編著者姓の五十音順）

- 青森県教育委員会 1999 『獣引遺跡－東北縱貫自動車道八戸線（八戸～八戸）建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－』青森県埋蔵文化財調査報告書第 263 集
- 青森県八戸市教育委員会 2008 『田向冷水遺跡Ⅲ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 118 集
- 秋田県教育委員会 1984 『この辺Ⅱ 遺跡・上の山Ⅱ 遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第 114 集
- 1985 『七曲台遺跡群発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第 125 集
- 1991 『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅷ－小出Ⅰ遺跡・小出Ⅱ遺跡・小出Ⅲ遺跡・小出Ⅳ遺跡－』秋田県文化財調査報告書第 206 集
- 1992 『一般国道 7 号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－鶴子台遺跡・八幡台遺跡－』秋田県文化財調査報告書第 230 集
- 1993 『家の下遺跡（2）臼石器時代編－県営は場整備事業（琴丘地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』秋田県文化財調査報告書第 275 集
- 1996 『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書 X XII－岩瀬遺跡－』秋田県文化財調査報告書第 263 集
- 2006 『縄手下遺跡－一般国道 7 号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 X VII－』秋田県文化財調査報告書第 410 集
- 秋田市教育委員会 1986 『地蔵田 B 遺跡』『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 1993 『豊崎 B 遺跡』『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 胆沢町教育委員会 1988 『上：萩森遺跡－調査報告書－』胆沢町埋蔵文化財調査報告書第 19 集
- 伊藤博幸 1998 『北上盆地南部』『東北地方の古代集落』第 3 分冊「第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム資料集
- 岩手県教育委員会 1972 『齊羽城跡－昭和 46 年度緊急調査報告－』
- 1982 『下：成沢遺跡 東北縱貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 X VIII（北上地区）』岩手県文化財調査報告書第 72 集
- 1986 『岩手県中臣城跡分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第 82 集
- 1992 『岩手県内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』岩手県文化財調査報告書第 91 集
- 岩手県滝沢村教育委員会 1999 『平小路上地区巡回事業発掘調査報告書－室小路 I・7・11・15・16 遺跡－』滝沢村文化財調査報告書第 31 集
- 岩手県立博物館 1993 『北上市と賀町愛宕山遺跡』岩手県立博物館調査研究報告書第 9 号
- 2000 『気仙郡佐竹町小松洞穴発掘調査報告書』岩手県立博物館調査研究報告書第 16 号
- 大川清・鈴木公雄・工業考古編 1996 『日本土器事典』雄山閣
- 大平山元 I 遺跡発掘調査団編 1999 『大平山元 I 遺跡の考古学調査－旧石器文化の終末と縄文文化の起源に関する問題の探究－』
- 大渡賢一 2004 『岩脇遺跡出土の縄文時代早期貝殻文土器について』『北上市立埋蔵文化財センター紀要』第 3 号 pp. 1 ~ 10
- 菊池強一 2000 『龍泉新洞遺跡』『いわて未来への遺産 遺跡は語る 旧石器～古墳時代』岩手日報社 pp.42
- 北上市教育委員会（岩手県）
- 1987 『北上川東岸遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』北上市文化財調査報告第 46 集
- 1996 『北上遺跡群（1995 年度）本編：岩脇』北上市埋蔵文化財調査報告第 23 集
- 2003 『国見山廃寺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第 55 集
- 北村忠昭・丸山浩治 2009 「2 縄文時代（1）草創期・早期」『岩手考古学 岩手考古学会設立 20 周年記念 岩手考古学・回顧と展望』岩手考古学第 20 号 pp.23 ~ 32
- 小林透雄 1994 『縄文土器の研究』小学館
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 1992 『石曾根遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 165 集
- 1995 『大渡 II 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 215 集
- 1996 『岩脇遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 235 集
- 1996 『柏山館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 242 集

- 1997 「白井坂 I・II 発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 248 収
- 1999 「津山牧場 I 遺跡 A 地区発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 291 収
- 2004 「早坂平遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 437 収
- 2006 「二の台長根遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 476 収
- 2006 「金附遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 482 収
- 2009 「境遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 539 収
- 財團法人福島県文化振興事業団
2003 「こまちダム遺跡発掘調査報告 1 沢日本遺跡」福島県文化財調査報告書第 410 収
- 財團法人福島県文化センター
1994 「東北横断自動車道遺跡調査報告 25 六郎次遺跡・塩喰岩陰遺跡」福島県文化財調査報告書第 296 収
- 財團法人水沢市埋蔵文化財調査センター
1997 「仙人西遺跡」水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 8 収
- 杉沢昭太郎 2003 「(3) 藤奥北部 1 - 岩手県 - 2) 13 世紀～16 世紀のかわらけ」『中世奥羽の上谷・陶磁器』東北中世考古学会編 pp.42～48
- 鈴木孝志 1968 「北上川中流域の無土器文化～北上市周辺の遺跡～」『北上市史第 1 卷原始・古代 (一)』北上市編
- 竹岡俊樹 2003 「旧石器時代の型式学」学生社
- 東北学院大学文学部歴史学科佐川ゼミナール・山形県東置賜郡高畠町教育委員会・山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
2006 「日向洞窟遺跡西地区出土石器群の研究 1 - 繩文時代草創期の槍先形尖頭器を中心とする石器製作址の様相」
- 日々生輝・瀧川涉・澤田純明編 2003 「北上山地に日本更新世人類化石を探る - 岩手県大迫町アバクチ・風穴洞穴遺跡の発掘」東北大学出版会
- 中川久夫ほか 1963 「北上川上流沿岸の第四系および地形」『地質学雑誌』69 pp.163～171
- 中村 哲 2000 「コアスカ崩遺跡」「いわて未來への遺産 遺跡は語る 旧石器～占領時代」岩手日報社 pp.48
- 西井寺謙ほか 1991 「武藏游台地・大宮台地の様相」「石器文化研究」3 pp.13～26
- 花巻市博物館 2005 「上台 I 遺跡発掘調査報告書 (1)」花巻市博物館調査研究報告書第 2 収
- 二浦謙一 2007 「東北東 3 黒における繩文時代草創期・早期の様相 - その 1 」『紀要 X XVI 財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター PP. 1～24
- 宮城開発株式会社・盛岡市教育委員会 2008 「薬師寺脇遺跡」
- 宮城県 1970 「宮城県史」第 32 卷 宮城県史刊行会
- 村木 敬・米田 寛 2009 「I 旧石器時代」『岩手考古学 岩手考古学会設立 20 周年記念 岩手考古学・回顧と展望』岩手考古学第 20 号 pp.11～22
- 盛岡市教育委員会
1990 「大館遺跡群 (大野町遺跡) - 平成元年度発掘調査概報 -」
- 2000 「盛岡市内遺跡群 - 平成 11 年度発掘調査概報 -」
- 2001 「盛岡市内遺跡群 - 平成 12 年度発掘調査概報 -」
- 2002 「盛岡市内遺跡群 - 平成 13 年度発掘調査概報 -」
- 2005 「盛岡市内遺跡群 - 平成 15 年度・平成 16 年度発掘調査概報 -」
- 2006 「盛岡市内遺跡群 - 平成 17 年度発掘調査概報 -」
- 八木光則ほか 1998 「馬淵川流域」『東北地方の古代集落』第 1 分冊 第 24 回古代城柵官術遺跡検討会シンポジウム
資料集
- 山本忠尚・松井 幸 1988 「Japanese-English Dictionary of Japanese Archaeology (日本考古学用語英訳辞典 (稿本))」
奈良国立文化財研究所

附編 齊羽場館跡の自然科学分析

黒曜石产地同定

(株)第四紀地質研究所

1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製J SX-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（F P法）による自動定量計算システムが採用されており、6 C～92 Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源(最大30 kV、4mA)の採用で微量試料～最大290mm ϕ ×80mm Hまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクF P法でおこなった。F P法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクF P法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材＝R h、加速電圧＝30 k V、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量%）でSiO₂-Al₂O₃-Fe₂O₃-TiO₂-K₂O-CaOの各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の4組の組み合わせで図を作成した。

2 分析結果

附表1化学分析表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

- 1) 齊羽場館跡—2, 4, 5, 6は小赤沢産の黒曜石であることは附図2 Fe₂O₃-TiO₂図と附図3 K₂O-CaO図から明らかである。
- 2) 齊羽場館跡—1と3は附図2 Fe₂O₃-TiO₂図と附図3 K₂O-CaO図では小赤沢の領域から出ており、他の領域との関連性に乏しく、産地を特定することは難しい。この現象を被熱によるものとすれば、3は明らかにK₂Oの値が高く、被熱にみられる現象を示しているようであり、小赤沢産の遺物が被熱したものではなかろうか。

引用文献

- 井上 嶽 2000 「東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析（XRF）」『北越考古学』第11号、23-38.
- 井上 嶽 2001 「テフラ中の火山ガラスの同定に関する 提言」『怪石学雑誌』第7号 23-51.
- 井上 嶽 2008 「東北日本の原産地黒曜石 関東・中部・東海編」
- 井上 嶽 2008 「東北日本の原産地黒曜石 東北・北陸編」
- 井上 嶽 2008 「東北日本の原産地黒曜石 北海道編」
- 井上 嶽 2008 「東北日本の原産地黒曜石写真集」.

3 調査担当者所見

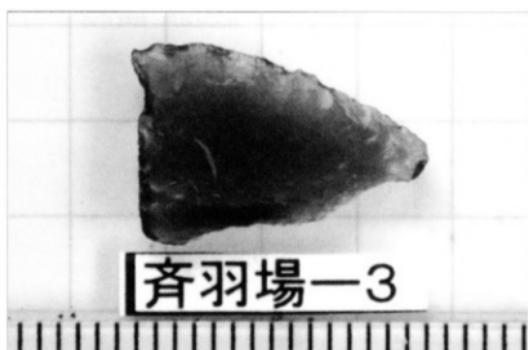
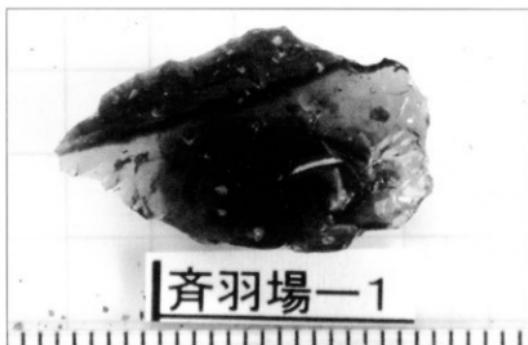
今回の分析試料は前述の6点で、齊羽場館跡-1（掲載No.202）はD区・Ⅲ層出土、齊羽場館跡-2（掲載No.201）はCグリッド・V層出土、齊羽場館跡-3（掲載No.156）はD区・IV層出土、齊羽場館跡-4はD区・IV層出土、齊羽場館跡-5はD区・Ⅲ層出土、齊羽場館跡-6はE区・IV層出土である。齊羽場館跡-2が縄文時代早期中葉～後葉の遺物を包含する堆積層であるV層から出土している以外は、盛土層（Ⅲ層）から盛土以前の表土層（IV層）出土資料であるため、詳細な時期の特定は困難である。いずれにしても、縄文時代に帰属する石器であることは疑いないが、すべての遺物が黒曜石の原産地としては一番近い場所である、栄石町の小赤沢産であることを考慮すると、石器石材は近隣で採取可能なものを選択していた可能性が高い。

附表1 化学分析表

試料番号	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	K ₂ O
齊羽場-1	3.8308	0.1567	11.7355	77.3761	0.8115	3.6466
齊羽場-2	4.6426	0.1144	11.9776	77.2192	0.3463	2.8648
齊羽場-3	3.5836	0.0968	11.6131	77.2211	0.2951	4.6181
齊羽場-4	5.1631	0.1686	11.9904	76.3517	0.3121	3.0317
齊羽場-5	3.9886	0.0006	12.0312	77.6890	0.4913	2.8369
齊羽場-6	4.4583	0.0274	11.5651	77.7927	0.5934	2.7333

試料番号	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO
齊羽場-1	1.0842	0.1600	0.0232	1.1382	0.0076	0.0109
齊羽場-2	1.1597	0.1919	0.0195	1.4313	0.0075	0.0071
齊羽場-3	0.9904	0.1552	0.0237	1.3629	0.0105	0.0078
齊羽場-4	1.2209	0.1925	0.0238	1.5062	0.0058	0.0104
齊羽場-5	1.2157	0.1841	0.0158	1.4963	0.0077	0.0133
齊羽場-6	1.1951	0.1895	0.0099	1.3995	0.0044	0.0041

試料番号	Y ₂ O ₃	ZrO ₃	Total	Rb	Sr	原産地
齊羽場-1	0.0027	0.0159	99.9999	603	850	小赤沢・被熱？
齊羽場-2	0.0027	0.0154	100.0000	625	579	小赤沢
齊羽場-3	0.0060	0.0166	99.9999	823	594	小赤沢・被熱？
齊羽場-4	0.0024	0.0204	100.0000	453	792	小赤沢
齊羽場-5	0.0097	0.0197	99.9999	577	971	小赤沢
齊羽場-6	0.0042	0.0230	99.9999	338	313	小赤沢



齊羽場館跡 試料 No4



齊羽場一4

齊羽場館跡 試料 No5

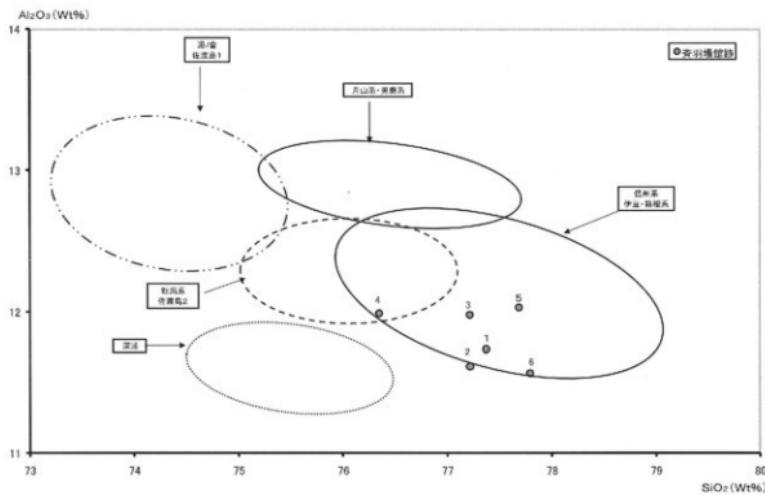


齊羽場一5

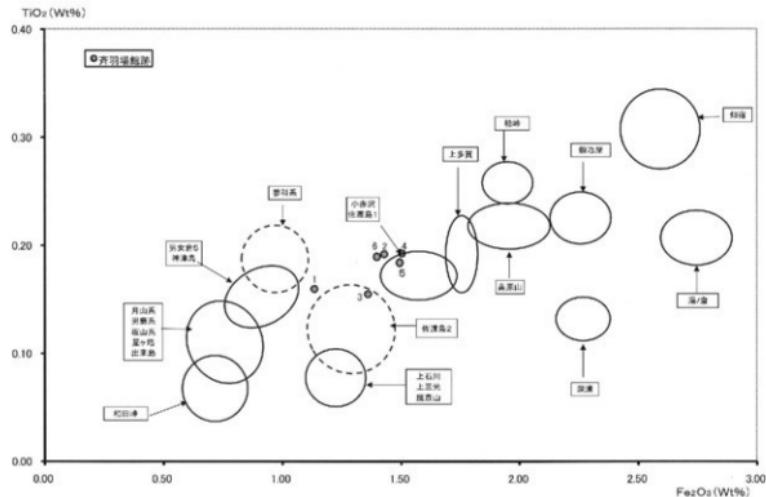
齊羽場館跡 試料 No6



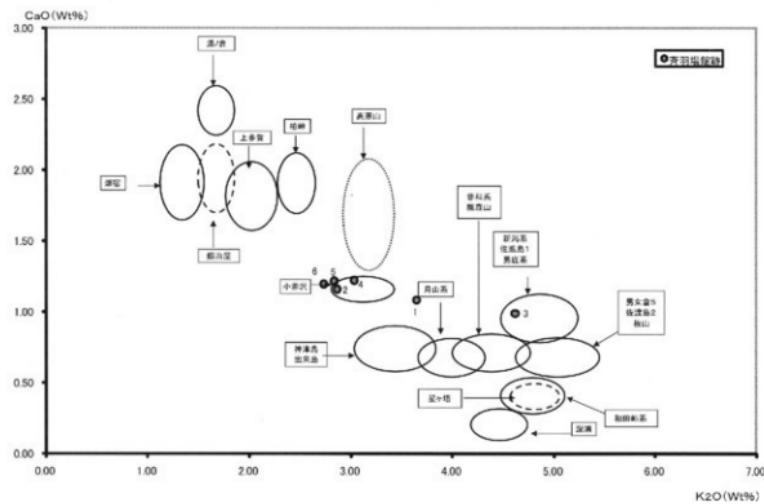
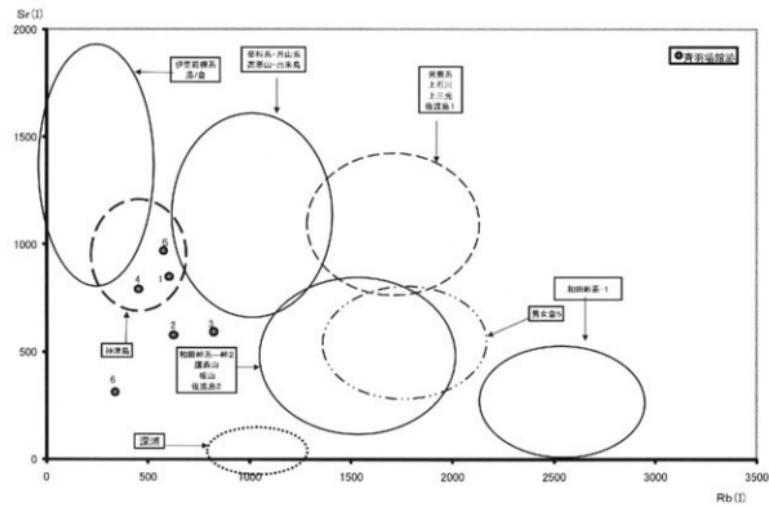
齊羽場一6



附図1 関東・中部・東海・東北・北陸： $\text{SiO}_2-\text{Al}_2\text{O}_3$ 図（黒曜石）



附図2 関東・中部・東海・東北・北陸： Fe_2O_3 — TiO_2 図（黒曜石）

附図3 関東・中部・東海・東北・北陸 : K₂O—CaO図 (黒曜石)

附図4 関東・中部・東海・東北・北陸 : Rb—Sr図 (黒曜石)

火 山 灰 分 析

株式会社 火山灰考古学研究所

1 は じ め に

東北地方岩手県北上市城とその周辺には、焼石、栗駒、鳴子、十和田火山など東北地方の火山のほか、洞爺、阿蘇、姶良など北海道や九州など遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、造構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な土層や造構が認められた北上市齊羽場館跡でも、発掘調査担当者により採取されたテフラ試料を対象に、テフラ組成分析と火山ガラスの屈折率測定を行って、テフラの検出と指標テフラとの同定を実施し、土層や遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。分析の対象となった試料は、発掘調査担当者により採取されたS I 01 埋土上位火山灰（試料①）、S I 01・H 1・2層（試料②）、A 20 グリッド西壁Ⅲ a層（試料③）である。

2 テフラ組成分析

（1）分析試料と分析方法

テフラ粒子のうち、火山ガラスは大規模な噴火の際に、鉱物などとともにマグマの破片として大量に生産噴出され、しかもその比重や形態などの関係で、とくに遠方まで到達する。さらに、マグマの多様性を反映して、形態や色調さらに屈折率、主成分化学組成などに特徴があり、さまざまな分析により特徴を把握しやすい。このことから、テフラを過去の時空指標として利用する火山灰編年学の分野では、とくに火山ガラスの特徴把握が重視される。そこで、最初に3試料に含まれる火山ガラスの色調・形態別比率を求める火山ガラス比分析を実施した。また、あわせて重鉱物組成分析も実施してテフラ組成分析とした。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料15gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。
- 5) 分析筛により1/4～1/8mmおよび1/8～1/16mmの粒子を筛別。
- 6) 偏光顕微鏡下で1/4～1/8mmの250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別比率を求める（火山ガラス比分析）。
- 7) 偏光顕微鏡下で1/4～1/8mmの重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析）。

（2）分析結果

3試料の火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果を、テフラ組成ダイヤグラムにして附図5に、

その内訳を附表2と附表3に示す。S I 01 埋土上位火山灰（試料①）には、スponジ状に発泡した白色軽石型ガラス（最大径1.2mm）が特徴的に含まれている。この試料に含まれる火山ガラスは、比率が高い順に繊維束状に発泡した軽石型（4.8%）、無色透明のバブル型（1.6%）、スponジ状に発泡した軽石型（1.2%）、分厚い中間型（0.4%）である。

S I 01・H 1・2層（試料②）にも、スponジ状に発泡した白色軽石型ガラス（最大径1.2mm）が特徴的に含まれている。この試料に含まれる火山ガラスは、比率が高い順に繊維束状に発泡した軽石型（4.0%）、スponジ状に発泡した軽石型（2.4%）、中間型および無色透明のバブル型（各0.4%）である。

A 20 グリッド西壁Ⅴa層（試料③）に含まれる火山ガラスは、前述2試料に含まれるそれと比較すると非常に細粒（最大径0.2mm）である。この試料では、無色透明のバブル型と中間型ガラスが少量ずつ認められた（各0.4%）。

3 火山ガラスの屈折率測定

（1）測定試料と測定方法

3試料に含まれる1/8～1/16mmサイズの火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製 MAIOT）を利用して、屈折率（n）の測定を実施した。

（2）測 定 結 果

屈折率の測定結果を附表4に示す。S I 01 埋土上位火山灰（試料①）に含まれる火山ガラス（30粒子）の屈折率（n）は、1.500～1.509である。また、S I 01・H 1・2層（試料②）に含まれる火山ガラス（31粒子）の屈折率（n）も、1.500～1.508である。一方、A 20 グリッド西壁のⅤa層（試料③）に含まれる火山ガラスの屈折率（n）はbimodalで、1.504～1.505（7粒子）と1.513（1粒子）の2種類の値が得られた。

4 考 察

S I 01 埋土上位火山灰（試料①）およびS I 01・H 1・2層（試料②）に含まれるテフラ粒子の多くは、比較的粗粒のスponジ状に発泡した白色軽石型ガラスを特徴的に含むこと、火山ガラスの屈折率、さらに斜方輝石および単斜輝石を多く含むことなどから、915年に十和田火山から噴出した十和田a火山灰（To-a, 大池, 1972, 町田ほか, 1981, 山田・井上, 1990）に由来する可能性が高い。ただ、試料中の火山ガラスの比率はさほど高くなく、送られてきた試料で純度はさほど高いとは言いにくい。送付された写真をみると高純度の火山灰がブロックあるいはレンズ状に認められたらしい。試料の純度は、試料採取の方法にも関係することから、テフラを野外で詳細に記載できるテフラ分析担当者による試料採取を望みたい。

一方、A 20 グリッド西壁Ⅴa層（試料③）に含まれる火山ガラスの比率は非常に低く、テフラの一次堆積層の可能性はないと思われる。火山ガラスのうち、より低い屈折率をもつものは、その値から約4.1万年前以前あるいは約5～6万年前⁴⁾に焼石火成から噴出したと推定されている焼石村崎野テフラ（Yk-M, 大上・吉田, 1984, 澤口, 1992, 小岩, 1996, 町田・新井, 2003など）、約3.5～約5万年前に岩手火山から噴出したと考えられている西岩手雪浦・小出テフラ（Iw-Y-Od, 大上・土井,

1978, 土井, 1984, 1991, 2000)、約 1.5 ~ 1.65 万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 2003, 古環境研究所, 1999)あるいはその一部と考えられる浅間草津黄色軽石(As-YPk, 新井, 1962, 町田・新井, 2003 など)、さらに、約 1.5 万年前に十和田火山から噴出した十和田八戸テフラ(To-H, 中川ほか, 1972, 早川, 1983, Hayakawa, 1995, 町田・新井, 2003)などに由来する可能性が考えられる。

一般的に、後二者は本地域とその周辺でいわゆるローム層の最上部付近にあること(火山灰考古学研究所, 未公表資料)を考えると、それらの可能性は低いように思われる。したがって、現段階ではⅢ a 層について Yk-M より上位の土層の可能性を指摘しておく。今後、信頼度の高い EPMA をもちいた火山ガラスの主成分化学組成分析を実施して、その起源に関する資料を収集すると良い。なお、屈折率がとくに高い火山ガラスの起源については現在のところ不明で、遺跡周辺での地質調査やテフラ分析による今後の資料の蓄積を待ちたい。

5 まとめ

北上市齐羽場館跡において、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、テフラ組成分析と火山ガラスの屈折率測定を行った。その結果、焼石村崎野テフラ(Yk-M, 約 4.1 万年前あるいは約 5 ~ 6 万年前)あるいは西岩手雪浦・生出テフラ(Iw-Y-Od, 約 3.5 ~ 約 5 万年前)に由来すると思われるテフラ粒子が検出された。また、十和田 a 火山灰(To-a, 915 年)も本遺跡には降灰しているようである。

*1: 新しい指標テフラの年代観をもとにすると、約 6.8 ~ 7.8 万年前とする研究もある(Koiwa, 2003)。Yk-Y については、ほかに $82,000 \pm 19,000$ 年前の FT 年代(渡辺ほか, 2003)、 $70,000 \pm 10,000$ 年前や $70,000 \pm 12,000$ 年前の TL 年代(長友ほか, 2005)などがある。

文献

- 新井 房夫 1962 関東盆地北西部の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1~79.
- 土井 宣夫 1984 岩手火山、篠ヶ森火砕流と雪浦降下軽石について. 地質雑誌, 90, p.117~120.
- 土井 宣夫 1991 岩手火山、雪浦降下軽石と牛山黒色火山灰の噴出源について. 中川久夫教授退官記念地質学論文集, 13, p.13~22.
- 土井 宣夫 2000 岩手山の地質・火山灰が語る噴火史. 岩手県奥州市教育委員会, 234p.
- 早川山紀夫 1983 火山豆石として降下堆積した十和田火山八戸火山灰. 火山, 28, p.25~40.
- Hayakawa, Y. 1985 Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo, 60, p.507-592.
- 小岩 直人 1996 岩手県夏油川噴状地における後期更新世の河谷堆積期に関する新知見. 第四紀研究, 35, p.35~39.
- 小岩直人・柴 正俊・若井優貴 2007 十和田大不動テフラの AMS14C 年代. 第四紀研究, 46, p.437~441.
- Koiwa, N. 2003 Three-dimensional structure of involutions formed in a late Pleistocene tephra layer, northeastern Japan. Geomorphology, 52, p.131-140.
- 古環境研究所 1999 富谷町三ヶ森遺跡のテフラ. 富谷町教育委員会編「三ヶ森遺跡発掘調査報告書 - 国道 4 号拡幅に伴う埋蔵文化財の調査 -」, p.96~99.
- 町田 洋・新井房夫 1992 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 2003 新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.

- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 1981 日本海を渡ってきたテフラ、科学、51, p.562-569.
- 長友恒人・西村誠治・下岡順直 2005 金取遺跡における地層のルミネッセンス年代、宮守村教育委員会編「金取遺跡－第2・3次発掘調査報告書」、p.64-68.
- 中川久夫・中馬教光・石田琢二・松山 力・七崎 修 1972 十和田火山発達史概要、岩井淳一教授記念論文集、p.7-17.
- 大池昭二 1972 十和田火山東麓における完新世テフラの編年、第四紀研究、11, p.232-233.
- 大池昭二・中川久夫 1979 地形並びに表層地質調査、「三戸地域広域農業開発基本調査報告書」、東北農政局、103p.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 1966 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰、第四紀研究、5, p.29-35.
- 大上和良・土井宣夫 1978 北部北上低地帯の鮮新-更新両統の層序について、岩手大学工学部研究報告、31, p.63-78.
- 大上和良・吉田 光 1984 北上川中流域、胆沢原状地における火山灰層序、岩手大工学部研究報告、37, p.69-81.
- 澤口晋一 1992 北上川流域における最終氷期後半の化石副氷河現象-ソリフラクションロープ、階状土の形成期と古環境-、季刊地理学、44, p.18-28.
- 渡辺満久・塙原 徹・藤原 治 2003 北上低地帯南部における第四紀テフラのFT年代と河成段丘面の編年、日本地理学会春季学術大会予稿集、p.111.

6 調査担当者所見

今回の分析試料は3点で、1点はA 20 グリッド西壁Ⅷ a層から採取したもの、その他の2点はS I 01 堅穴住居跡の耕土から採取したものである。S I 01 堅穴住居跡から採取した試料は調査担当者の想定していた通りの結果となった。また一つ貴重なデータを提示することができたと考えられる。Ⅷ a層から採取した試料は焼石村崎野テフラもしくは西岩手雪浦・生出テフラに由来すると考えられるテフラ粒子との結果であった。Ⅷ層から出土した石器には年代を決定できる資料がほとんどなかったための分析であったが、結果的には3万年前以降との大まかな年代観しか得られず、詳細な年代は不明のままとなってしまった。しかし、段丘面の同定が困難である北上川左岸において、段丘面の比較に活用できるデータが得られたことは重要であると考えられる。

附表2 火山ガラス比分析結果

地点名	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	その他	合計
S I 01	埋土上位 火山灰	4	0	0	1	3	12	230	250
S I 01	H 1・2層	1	0	0	1	6	10	232	250
A 20 西壁	VII a 層	1	0	0	1	0	0	248	250

bw: バブル型, pm: 軽石型, md: 中間型, cl: 無色透明, pb: 深褐色, br: 褐色,

sp: スポンジ状, fb: 繊維束状。

数字は粒子数。

附表3 重鉱物組成分析結果

地点名	試料	ol	opx	cpx	am	bi	mt	その他	合計
S I 01	埋土上位 火山灰	0	94	33	5	0	101	17	250
S I 01	H 1・2層	0	79	8	15	0	138	10	250
A 20 西壁	VII a 層	0	8	4	68	0	155	15	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, mt: 磁鉄鉱。

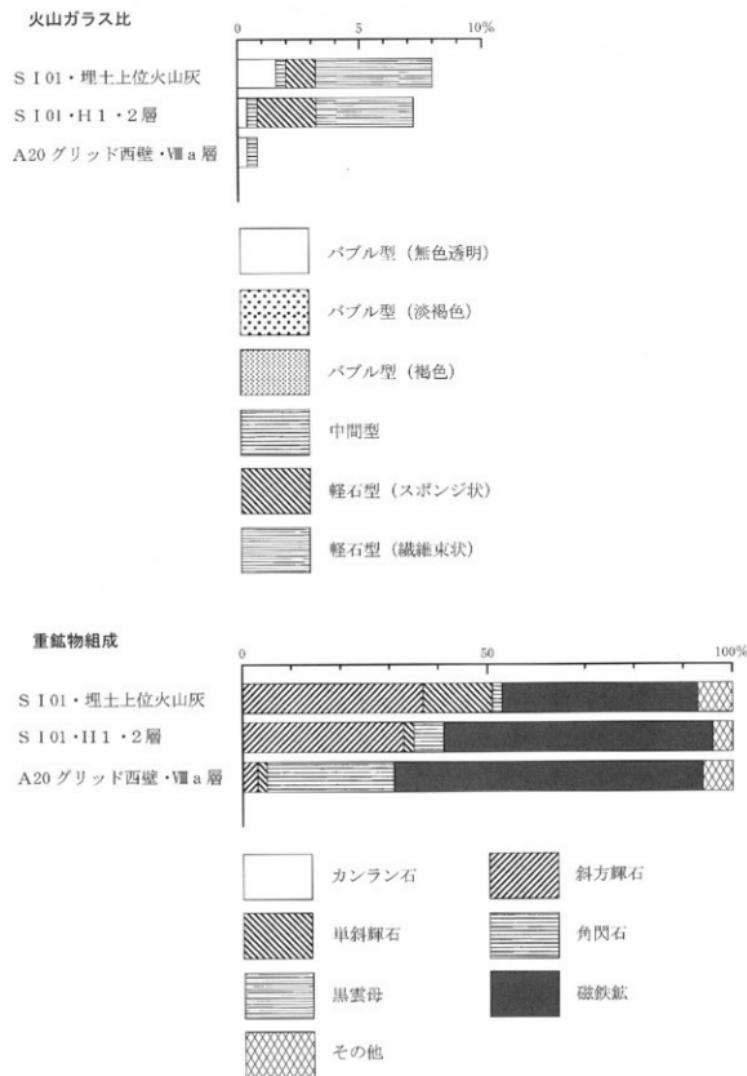
数字は粒子数。

附表4 屈折率測定結果

地 点 名	試 料 - テ フ ラ	火 山 ガ ラ ス	測 定 点 数
		屈 折 率 (n)	
S I 01	埋土上位火山灰	1.500-1.509	30
S I 01	H 1・2層	1.500-1.508	31
A 20 西壁	VII a 層	1.504-1.505, 1.513	7, 1
指標テフラ	白旗山苔小牧 (B-Tm)	1.511-1.522	
	十和田a (To-a)	1.500-1.508	
	十和田中押 (To-Cu)	1.508-1.512	
	鬼界アカホヤ (K-Ah)	1.508-1.516	
	針折庵花山 (Hj-O)	1.499-1.504	
	十和田八戸 (To-H)	1.502-1.509	
	浅間板鼻黃色 (As-YP)	1.501-1.505	
	鳴子湯治上原 (Nk-U)	1.492-1.500	
	鈴鹿 Tn (AT)	1.498-1.501	
	十和田大不動 (To-Of)	1.505-1.511	
	西岩手雪浦・牛島 (Iw-Y-Od)	1.505-1.508	
	焼石材村崎野 (Yk-M)	1.503-1.508	
	焼石山形 (Yk-Y)	1.500-1.503	
	鳴子御沢 (Nr-Y)	1.500-1.503	
	阿蘇4 (Aso-4)	1.506-1.510	
	鳴子前坂 (Nr-N)	1.500-1.502	
	針折北原 (Hj-Kth)	1.499-1.502	
	三瓶本次 (SK)	1.496-1.498	
	洞爺 (Toya)	1.494-1.498	

屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定装置 (MAIOT) による。

指標テフラの屈折率は、町田・新井 (2003)。



附図5 齋羽場跡のテフラ組織ダイヤグラム

放射性炭素年代(AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

齊羽場館跡は、岩手県北上市稻瀬町字前田 164-1（北緯 39° 15' 10"、東経 141° 07' 14"）に所在する。測定対象試料は、S b 04 (B 5 : 520)・VII A層から出土した炭化物 (No 1 : IAAA-82647)、S b 05 (A 25 : 472)・VI層から出土した炭化物 (新 No 2 : IAAA-82648)、S b 05 (B 5 : 473)・VI層から出土した炭化物 (No 3 : IAAA-82649)、D 2 (464)・VI層から出土した炭化物 (No 4 : IAAA-82650)、C 22 (275)・VI層から出土した炭化物 (No 5 : IAAA-82651)、S b 05 (C 21 : 200)・VI層から出土した土器付着炭化物 (新 No 6 : IAAA-82652)、C 24 (71)・VI層から出土した炭化物 (No 7 : IAAA-82653)、S I 01 カマド 2層から出土した炭化物 (No 8 : IAAA-82654) の合計 8 点である。新 No 6 では、土器片 4 点の内外面に付着した微量の炭化物を採取した。

2 測定の意義

土器・石器、竪穴住居跡の帰属する年代を決定する資料としたい。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA: Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。
最初の酸処理では 1 N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1 N の水酸化ナトリウム水溶液 (80°C) を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1 N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1 N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°C で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500°C で 30 分、850°C で 2 時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用して、真空ラインで二酸化炭素 (CO₂) を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4 測定方法

測定機器は、3 MV タンデム加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2)

を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polash 1977）。
- (2) ^{14}C 年代（Libby Age:yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0 yrBP）として測る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。 ^{14}C 年代と誤差は、1 衍目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いざれも基準値からのずれを千分偏差(%)で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に(AMS)と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。
- (5) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた校正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する校正曲線上の历年年代範囲であり、1 標準偏差($1\sigma = 68.2\%$)あるいは 2 標準偏差($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。历年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、校正曲線および校正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal04 データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv4.0 校正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

6 測定結果

S b 04 (B 5 : 520)・Ⅶ A 層出土炭化物の ^{14}C 年代は 11820 ± 50 yrBP (No 1) である。S b 05・Ⅵ 層出土炭化物は、 11490 ± 50 yrBP (A 25 : 472、新 No 2)、 10840 ± 50 yrBP (B 5 : 473、No 3) である。D 2 (464)・Ⅵ 層の炭化物 (No 4) は 11450 ± 50 yrBP、C 22 (275)・Ⅵ 層の炭化物 (No 5) が 11510 ± 50 yrBP、S b 05 (C 21 : 200)・Ⅵ 層の土器付着炭化物 (新 No 6) が 10020 ± 60 yrBP、C 24 (71)・Ⅵ 層の炭化物 (No 7) が 6930 ± 40 yrBP である。No 7 は出土位置が他の試料から離れており、年代も縄文時代早期に相当し、他と異なる。それ以外は縄文時代草創期に相当する。それぞれ年代幅があるが、中心となるのは 11500 yrBP 前後の年代である。試料の出土位置や遺物との共存関係から、それぞれの年代値の妥当性を判断する必要がある。S I 01 カマド 2 層から出土した炭化物は 1270 ± 30 yrBP である。その历年較正年代 (1σ) は、 $688 \sim 730$ AD (37.2%)・ $735 \sim 772$ AD (31.0%) である。

炭化物の炭素含有率はすべて 60% 以上であった。一方、土器付着炭化物 (新 No 6) の炭素含有率は炭化物としては低く 10.7% であった。この理由として、付着物が微量であり、土壤などの炭化物ではない付着物と一緒に採取した可能性を否定できない。その点で年代の信頼性が低い可能性もあり、検討の余地がある。

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data. *Radiocarbon* 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program. *Radiocarbon* 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal. *Radiocarbon* 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates. *Radiocarbon* 43(2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. *Radiocarbon* 46, 1029-1058

7 調査担当者所見

今回の分析試料は前述の8点である。芽室場跡は北上川左岸に立地し、北上川からわずか250mほどしか離れていない。北上川の左岸に位置する本遺跡周辺では石器の出土する面の対比が右岸と比較すると、不明なことが多く、困難な場合が多い。そこで、年代観を得るために分析を行った。

ⅦA層として取り上げた炭化物の年代は同一ブロックの石器の年代観とは大きな隔たりがある。これは、上層VI層から自然の營力などにより落ち込んだものをⅦA層として取り上げた可能性も考えられる。傍証にしかならないが、VI層では炭化物がある程度確認できたものの、ⅦA層では年代測定の試料としたもの以外には確認できなかった。このことが、今回、ⅦA層として採取した試料がVI層からの落ち込みであったことの可能性を示唆するものと考えられる。

VI層から取り上げた炭化物の年代はNo 7を除いて11,500 yrBP前後とまとまっている。新No 6(土器片付着炭化物)との年代差があるものの、縄文時代草創期の範疇に収まるものである。本遺跡のVI層は縄文時代草創期の遺物を含む堆積層で、VI層から出土した遺物(主に石器)の多くは縄文時代草創期に属する可能性が非常に高いと考えている。

新No 6は土器片に付着した炭化物を測定したものである。この土器が出土したVI層は石器が主体で、この土器片以外では、非常に小さな土器片が数点出土地してあるにすぎない。そのため、土器の年代観を決定するのに、苦慮していた。同一層準(VI層)から出土した炭化物の分析を行う予定はしていたが、より確実性のある年代観を得たいと考えていた。すると、土器片をよく観察すると、炭化物と思われる黒色の付着物が裏面に付着しており、この黒色の付着物が炭化物であれば、より確実な年代観が得られると考え、黒色の付着物(炭化物)の年代測定を試みたところである。その結果、前述のような測定結果が得られ、縄文時代草創期後半期の土器である可能性が非常に高くなつたと考えている。

No 7は近接して出土した163の尖頭器の詳細な時期を特定したいと考え、分析を行った試料である。No 7もVI層として取り上げた炭化物であるが、本試料の位置する斜面下方は、斜面上方に比べ、明瞭なV層の堆積の確認ができるず、また、VI層自体もあまり良好な堆積状況をしていない。そのため、本来はV層に帰属すべきものをVI層として取り上げた可能性は否定できない。

No 8はS 1 01堅穴住居跡から採取した試料である。本遺構から出土した土器はロクロが利用されており、9世紀以降であることは疑いないが、炭化物の分析結果とは大きな隔たりが見られる。詳細な原因は不明といわざるを得ない。

附表5 分析結果一覧(1)

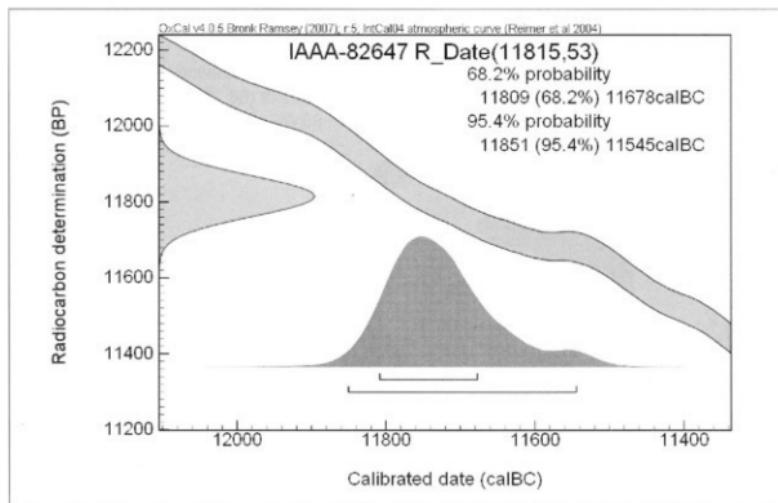
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{14}\text{C}$ 補正あり		
					$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ (AMS)	Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-82647	No 1	S b04(B 5:520) VI層	炭化物	AAA	-28.10 ± 0.63	11,820 ± 50	22.97 ± 0.15
IAAA-82648	新No 2	S b05(A 25:472) VI層	炭化物	AaA	-26.96 ± 0.61	11,490 ± 50	23.92 ± 0.15
IAAA-82649	No 3	S b05(B 5:473) VI層	炭化物	AaA	-23.96 ± 0.71	10,840 ± 50	25.95 ± 0.17
IAAA-82650	No 4	D 2 (464) VI層	炭化物	AAA	-25.21 ± 0.69	11,450 ± 50	24.04 ± 0.15
IAAA-82651	No 5	C 22(275) VI層	炭化物	AaA	-26.50 ± 0.64	11,510 ± 50	23.87 ± 0.16
IAAA-82652	新No 6	S b05(C 21:200) VI層	土器片付着 炭化物	AAA	-30.10 ± 0.54	10,020 ± 60	28.74 ± 0.19
IAAA-82653	No 7	C 24(71) VI層	炭化物	AaA	-26.48 ± 0.89	6,930 ± 40	42.22 ± 0.22
IAAA-82654	No 8	S I 01 カマド2層	炭化物	AAA	-29.20 ± 0.65	1,270 ± 30	85.39 ± 0.33

[#2714]

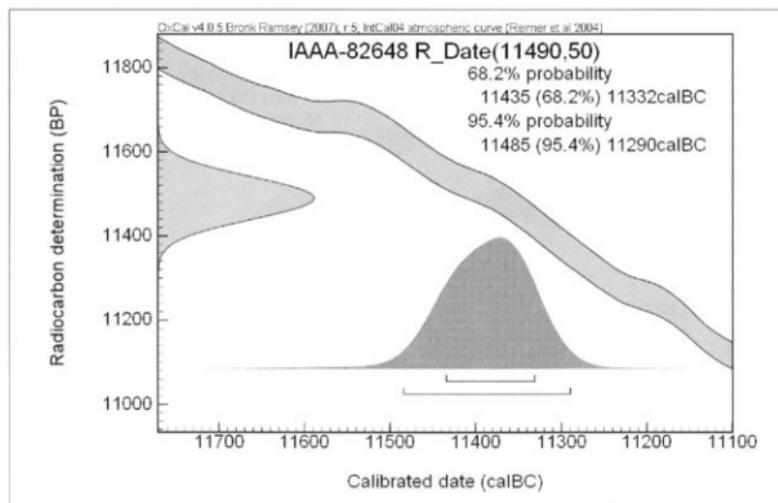
附表5 分析結果一覧(2)

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ 補正なし		曆年校正用 (yrBP)	1 σ 年代範囲	2 σ 年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82647	11,870 ± 50	22.83 ± 0.15	11,815 ± 53	11809BC - 11678BC (68.2%)	11851BC - 11545BC (95.4%)
IAAA-82648	11,520 ± 50	23.83 ± 0.15	11,490 ± 50	11435BC - 11332BC (68.2%)	11485BC - 11290BC (95.4%)
IAAA-82649	10,820 ± 50	26.01 ± 0.16	10,836 ± 51	10919BC - 10871BC (68.2%)	10950BC - 10846BC (95.4%)
IAAA-82650	11,450 ± 50	24.03 ± 0.15	11,450 ± 51	1140IBC - 11301BC (68.2%)	11458BC - 11263BC (95.4%)
IAAA-82651	11,530 ± 50	23.80 ± 0.15	11,506 ± 53	11448BC - 11342BC (68.2%)	11505BC - 11293BC (95.4%)
IAAA-82652	10,100 ± 50	28.44 ± 0.19	10,017 ± 54	9740BC - 9730BC (2.0%) 9671BC - 9439BC (61.4%) 9429BC - 9406BC (4.8%)	9804BC - 9331BC (95.4%)
IAAA-82653	6,950 ± 40	42.10 ± 0.21	6,926 ± 41	5842BC - 5746BC (68.2%)	5898BC - 5724BC (95.4%)
IAAA-82654	1,340 ± 30	84.65 ± 0.31	1,269 ± 31	688AD - 730AD (37.2%) 735AD - 772AD (31.0%)	664AD - 783AD (89.2%) 788AD - 814AD (4.6%) 844AD - 858AD (1.6%)

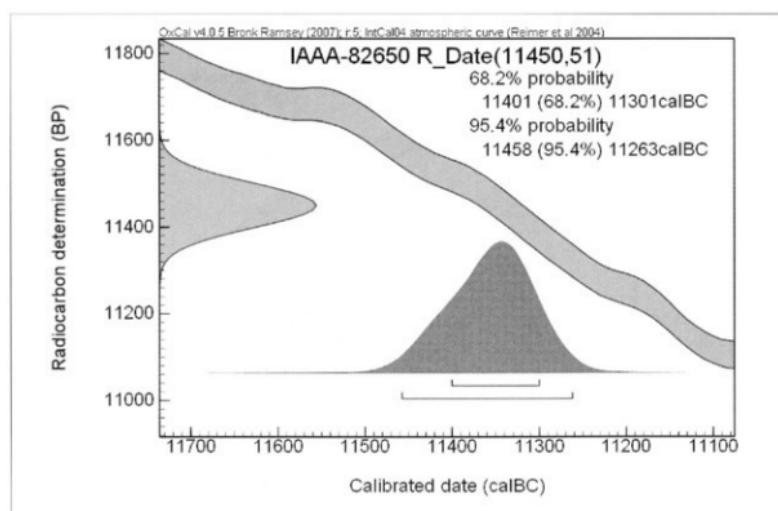
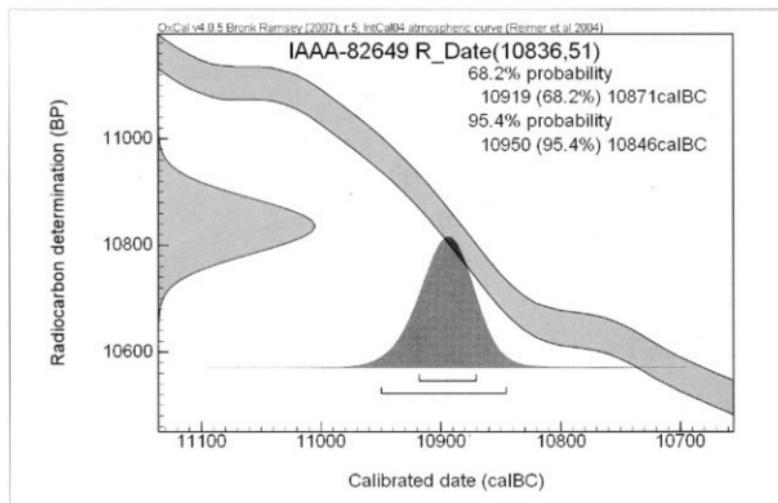
[参考値]

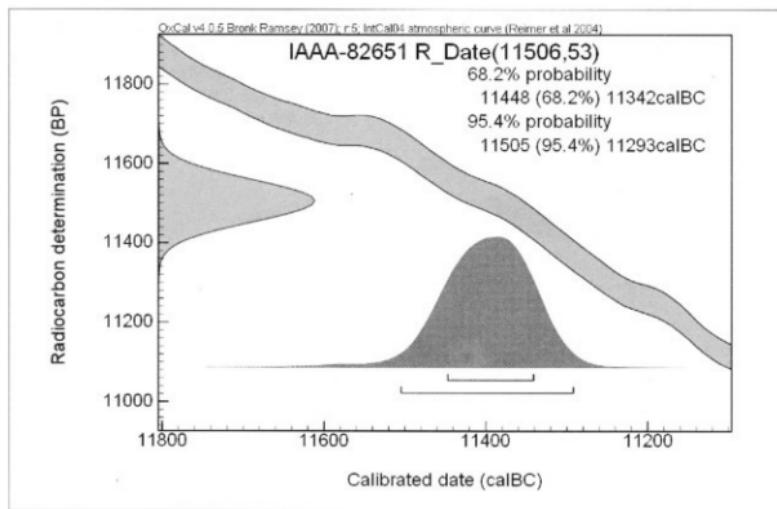


試料名：No 1

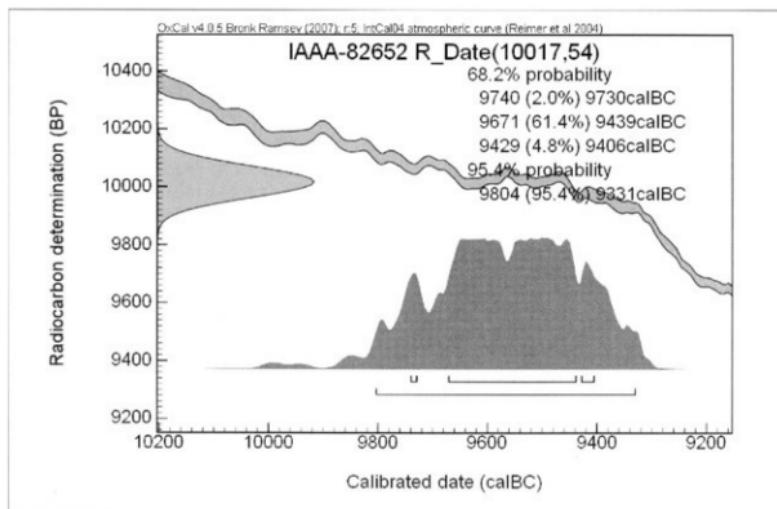


試料名：新 No 2

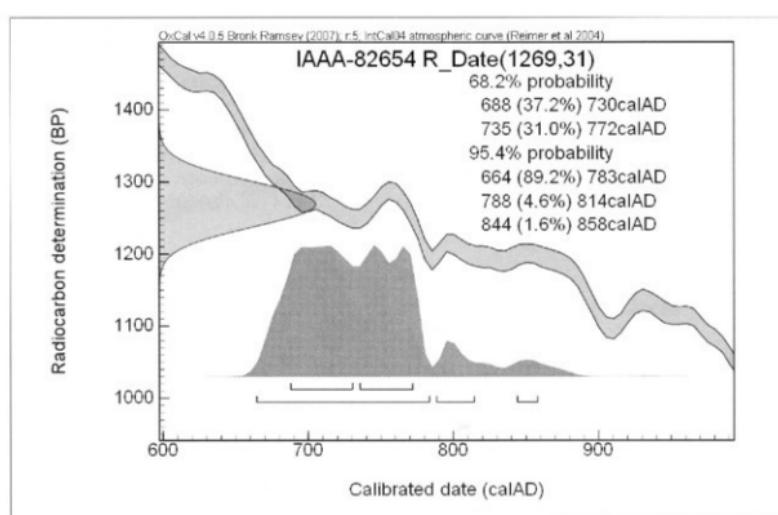
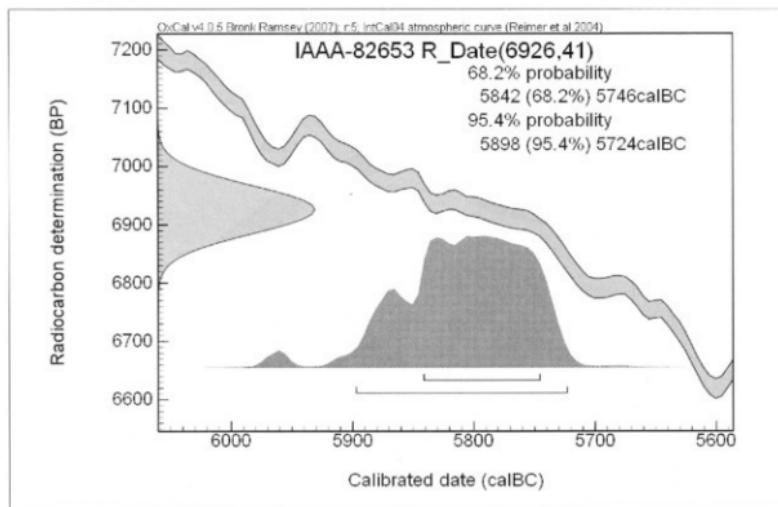




試料名：No 5



試料名：新 No 6



[参考] 历年校正年代グラフ

写 真 図 版



写真図版1 空撮 (1)

遺跡遠景（上が北）



遺跡近景（上が東）



調査区全景（上が東）



写真図版2 空撮（2）

A区（西から）



C区周辺（南西から）



D区（南から）



写真図版3 調査前現況

A20 グリッド (南西から)



C18 グリッド (南西から)



E 区 (北東から)



写真図版 4 層序

S b 01 遺物出土状況（北西から）



S b 02 遺物出土状況（東から）



S b 03 遺物出土状況（西から）



写真図版5 第I文化層（1）

第Ⅰ文化層 D1 遺物出土状況
(南西から)



第Ⅰ文化層 B4 遺物出土状況 (東から)



S b 04 遺物出土状況 (東から)



写真図版6 第Ⅰ文化層(2)、第Ⅱ文化層

S b 05 遺物出土状況（南西から）



S b 06 遺物出土状況（東から）



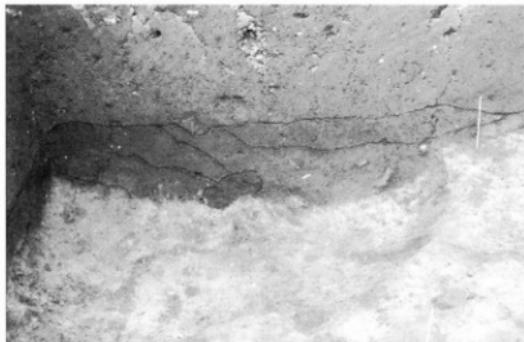
C 24 尖頭器出土状況（南西から）



写真図版7 繩文時代の遺構（1）



S K 02 完掘（東から）



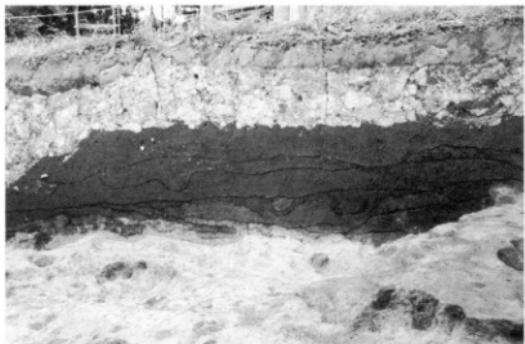
S K 02 断面（東から）



S I 01 新段階 完掘（南西から）

写真図版8 繩文時代の遺構（2）、平安時代の遺構（1）

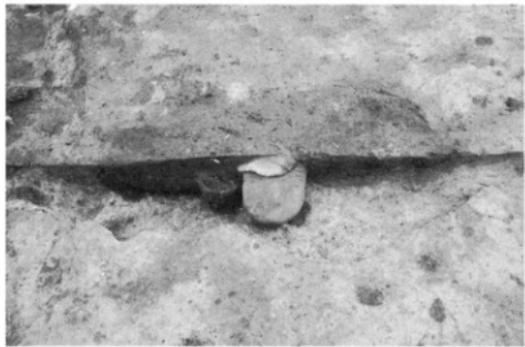
S I 01 断面 (南東から)



S I 01 カマド断面 (南から)



S I 01 煙道部断面 (南から)



写真図版9 平安時代の遺構（2）

S I 01 カマド検出・遺物出土状況
(南西から)



S I 01 煙道部遺物出土状況 (北東から)



S I 01 古段階 完掘 (南西から)



写真図版 10 平安時代の遺構 (3)

S I 01 旧カマド燃焼部断面（南から）



S K 05 完掘（南西から）



S K 05 断面（南から）



写真図版 11 平安時代の遺構（4）

SD 01 東側完掘 (南西から)



SD 01 西側完掘 (東から)



SD 01 西側断面 (東から)

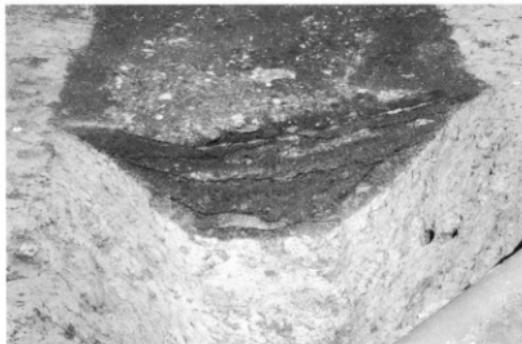


写真図版 12 中世の遺構 (1)

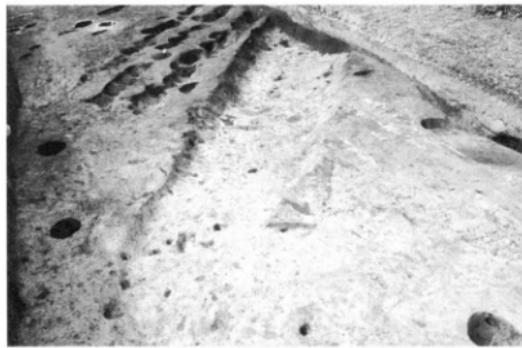
SD 03 完掘（南から）



SD 03 断面（南東から）



SD 04 完掘（東から）



写真図版 3 中世の遺構（2）



SD 04 剖面 (西から)



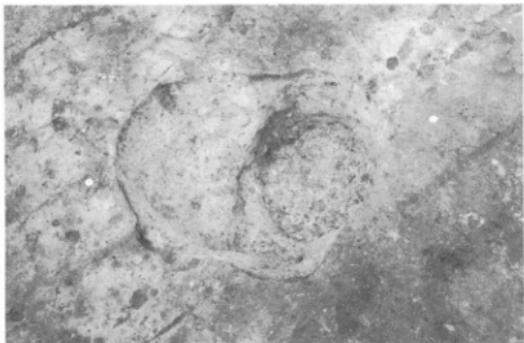
D区柱穴群完掘 (南西から)



E区柱穴群完掘 (南西から)

写真図版 14 中世の遺構 (3)

SK 01 完掘（南から）



SK 01 断面（南西から）



SK 04 完掘（南東から）



写真図版 15 SK 01・SK 04

D・E区古代・中世面終了（南西から）



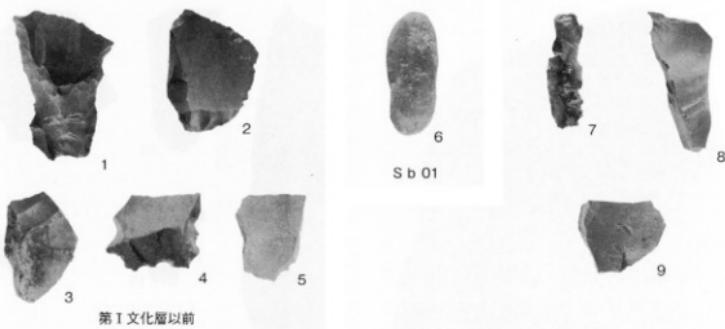
C区後期旧石器時代面終了（東から）



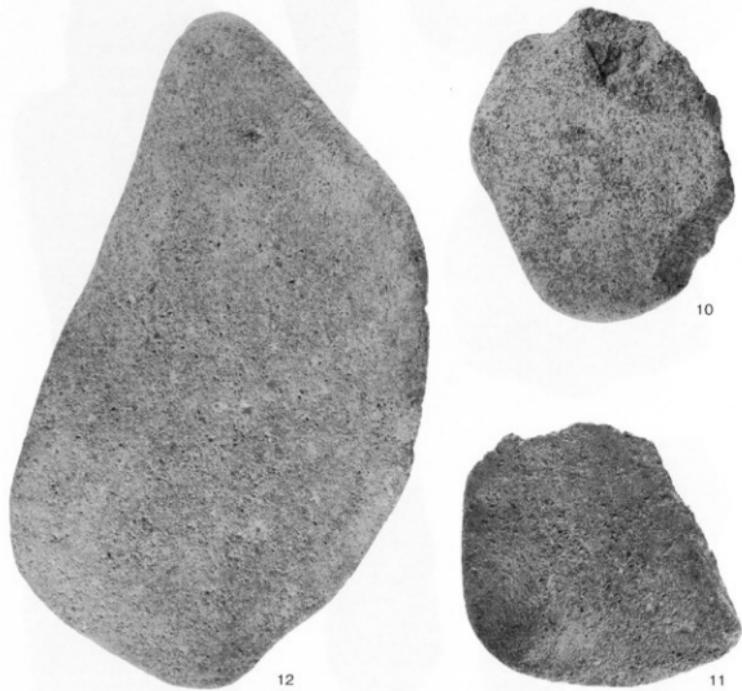
D区後期旧石器時代面終了（南西から）



写真図版 16 終了状況

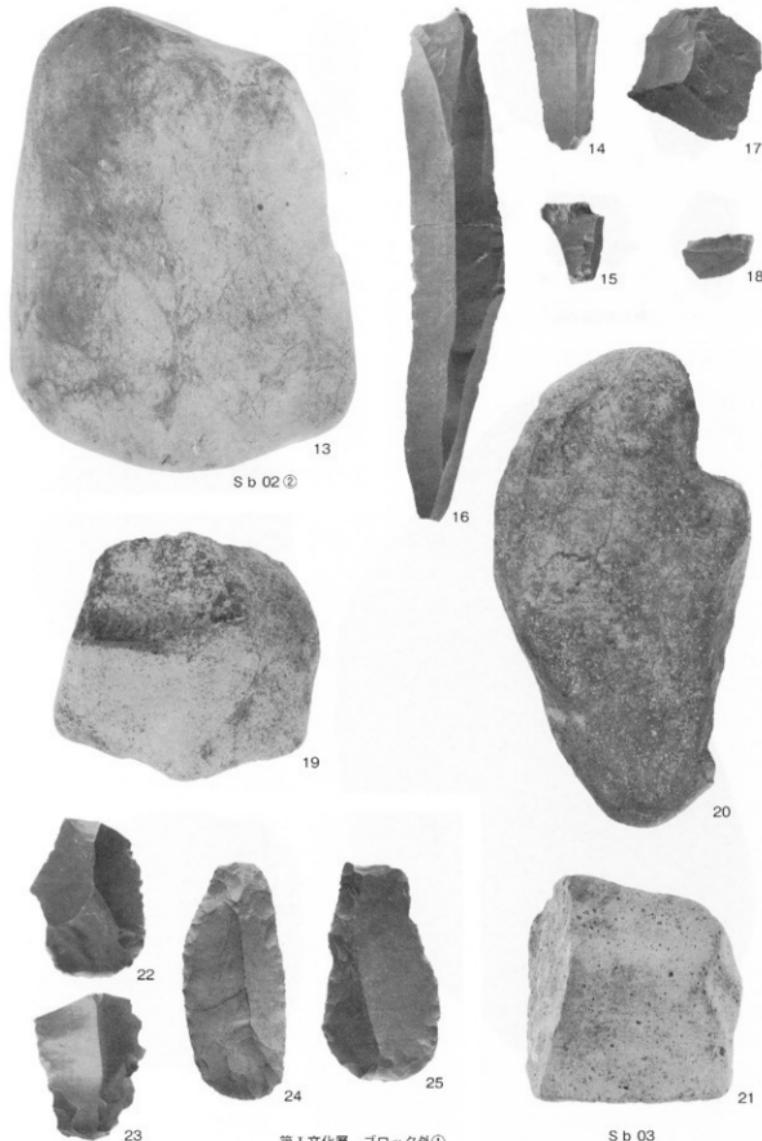


第Ⅰ文化層以前

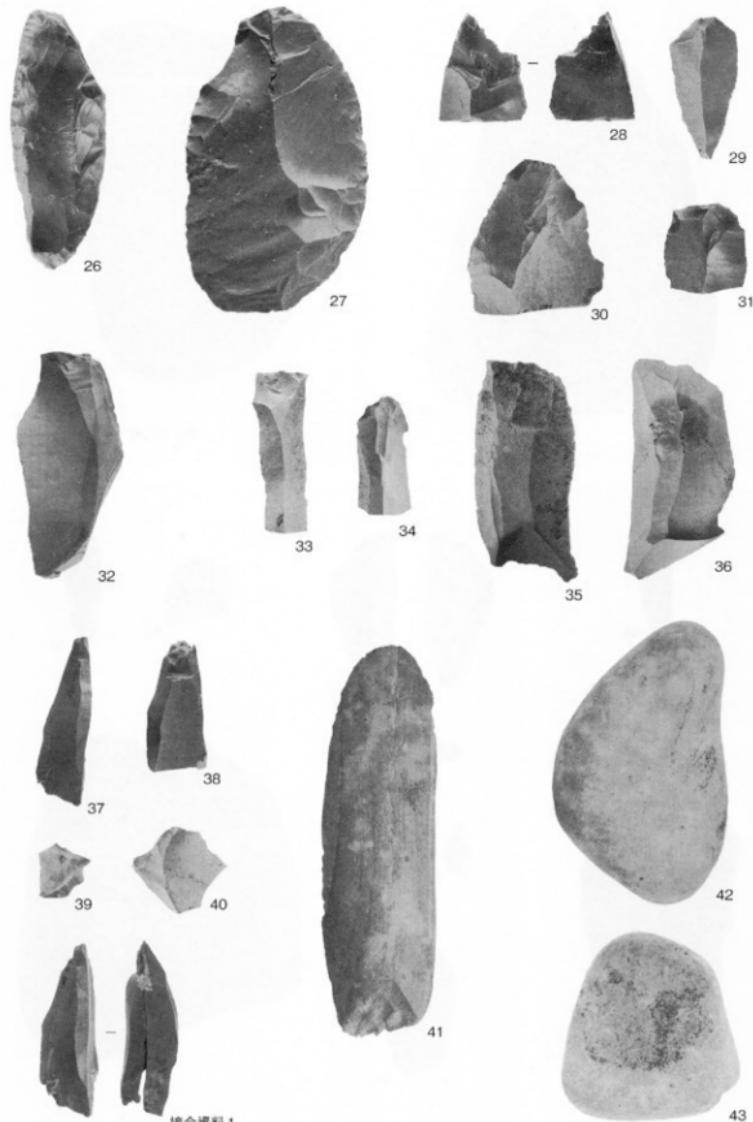


S b 02 ①

写真図版 17 第Ⅰ文化層以前の遺物、第Ⅰ文化層の遺物（1）

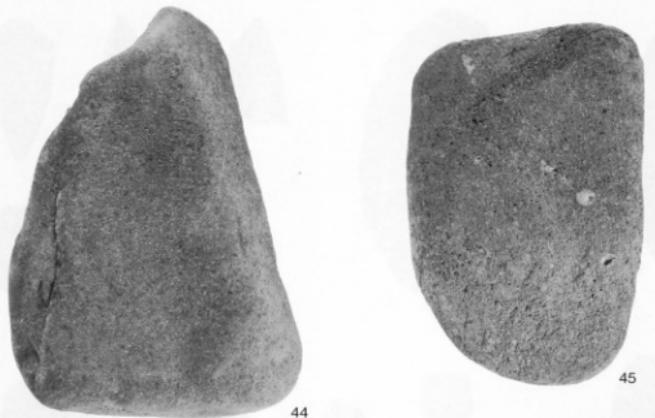


写真図版 18 第 I 文化層の遺物 (2)

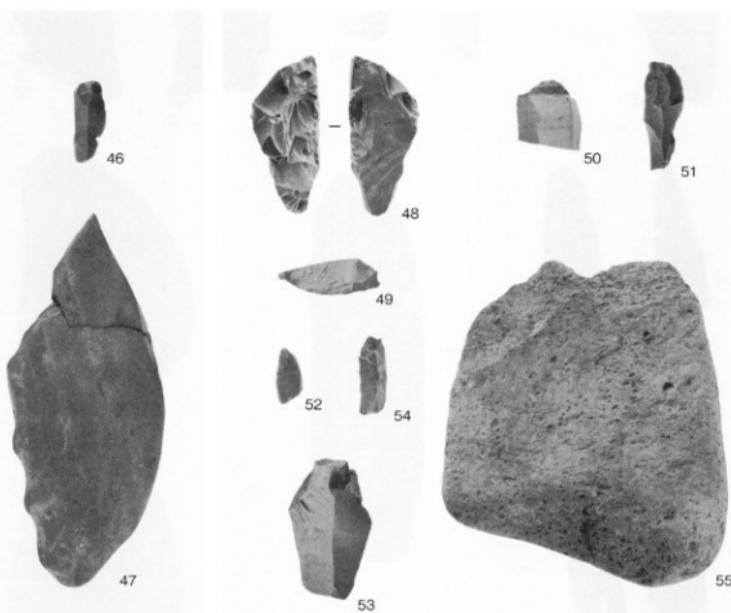


第Ⅰ文化層 ブロック外②

写真図版 19 第Ⅰ文化層の遺物（3）



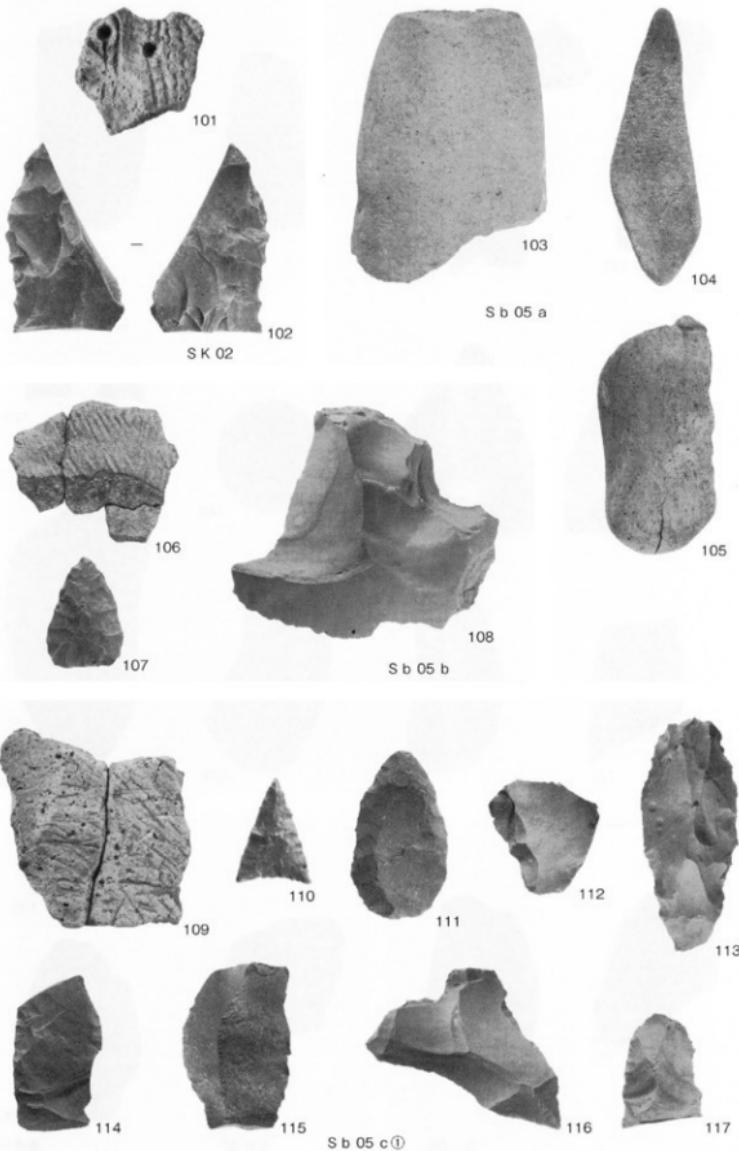
第Ⅰ文化層 ブロック外③



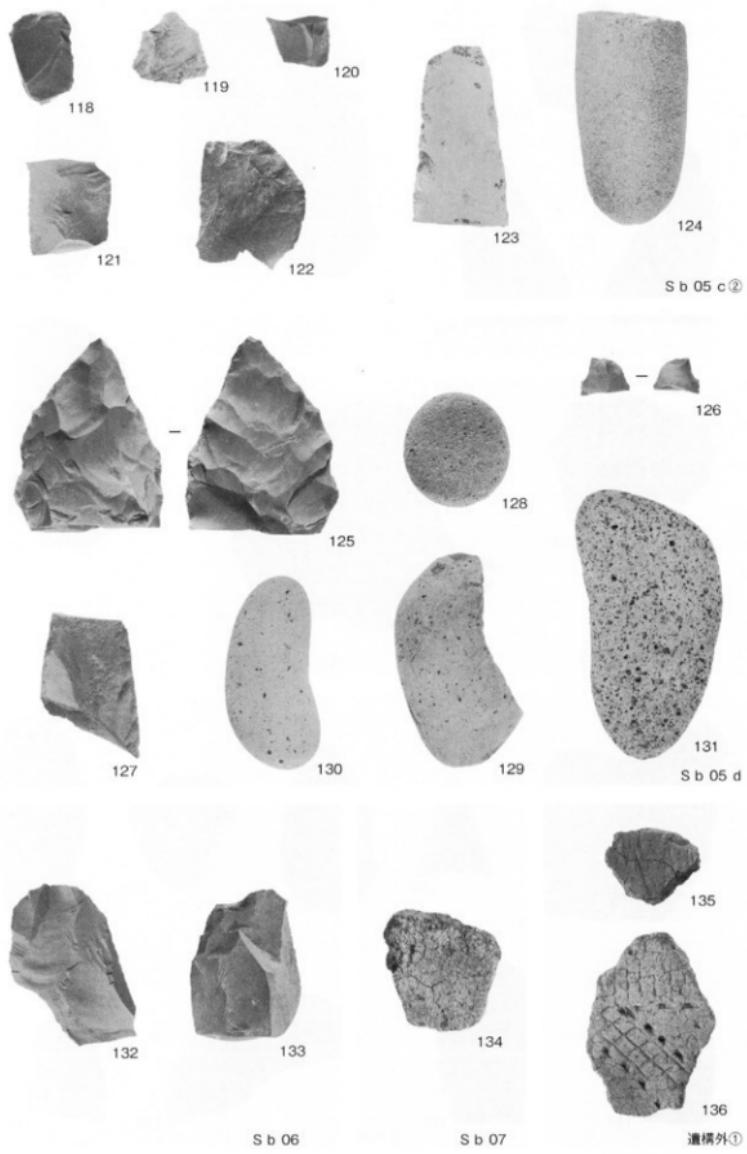
S b 04

第Ⅱ文化層 ブロック外

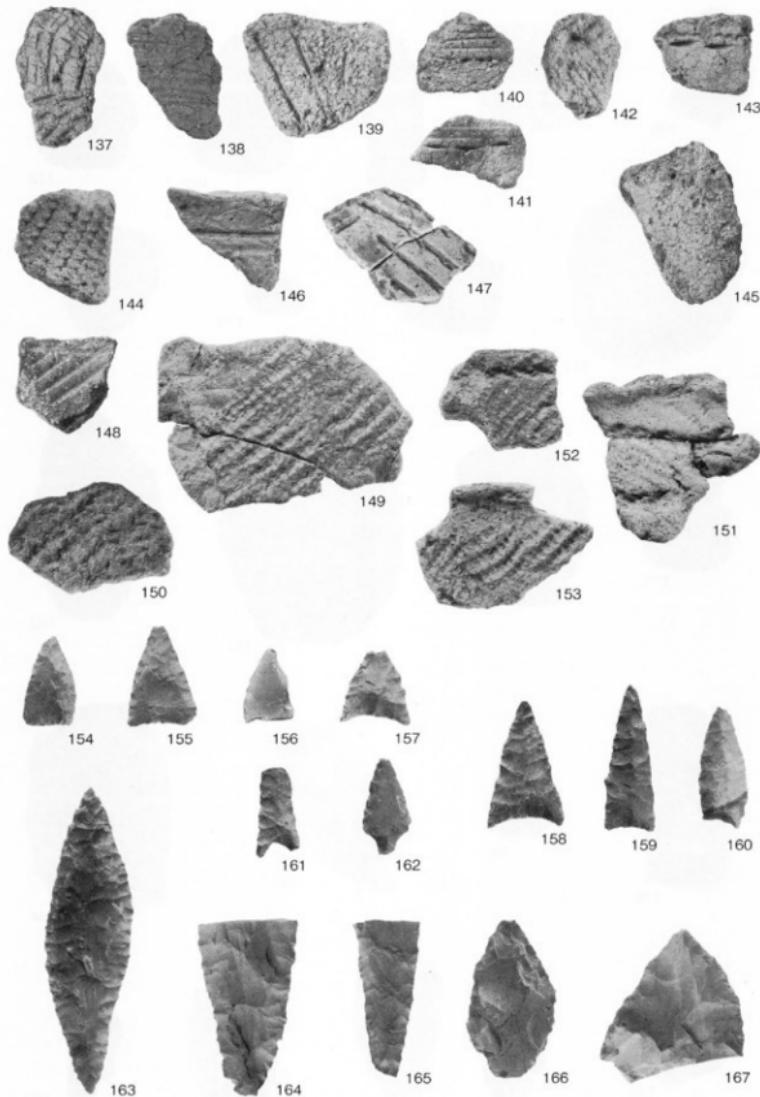
写真図版 20 第Ⅰ文化層の遺物 (4)、第Ⅱ文化層の遺物



写真図版 21 繩文時代の遺物（1）

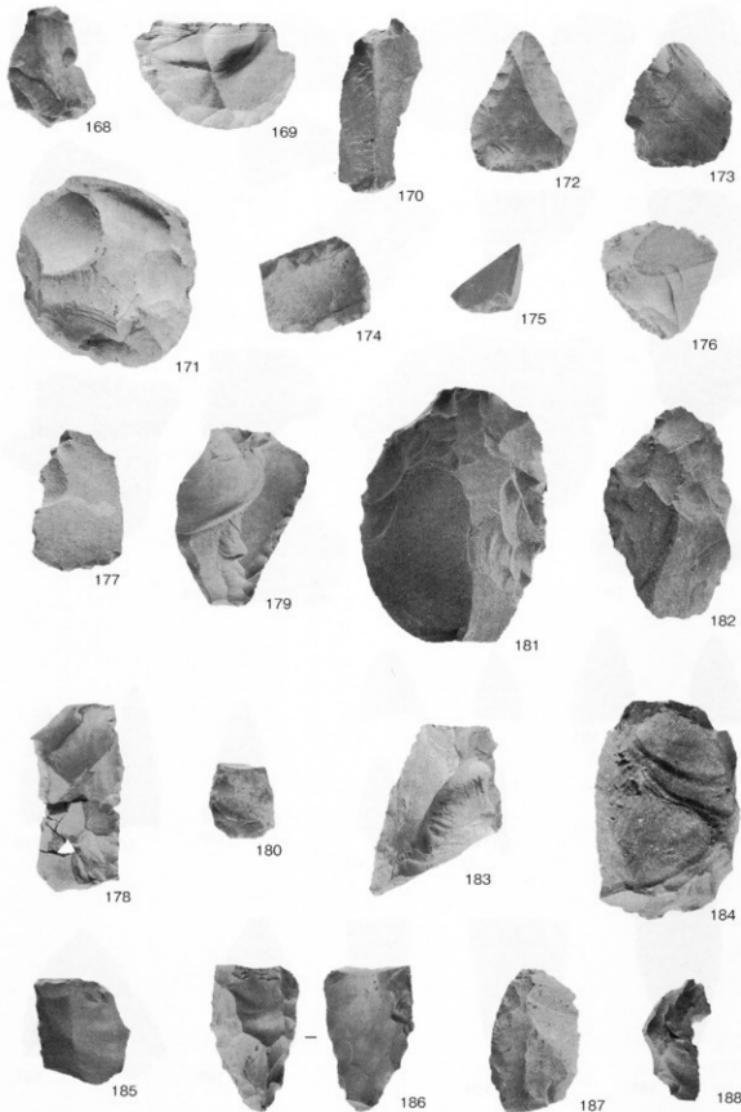


写真図版 22 繩文時代の遺物（2）



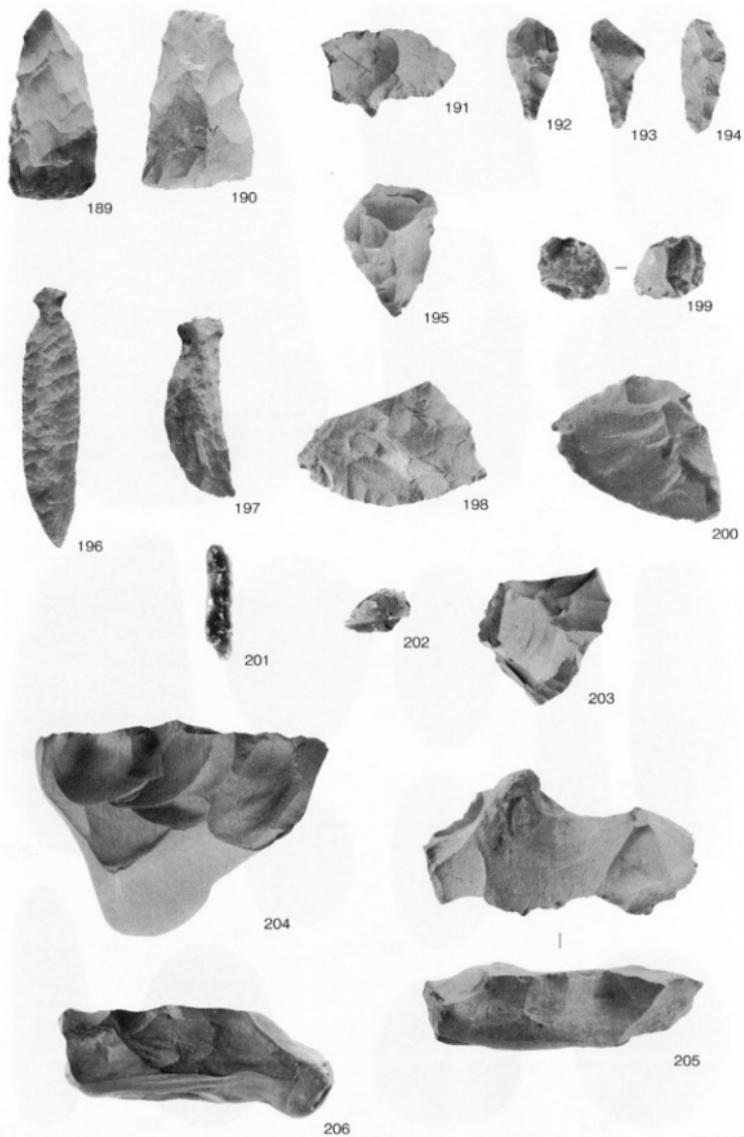
遺構外②

写真図版 23 繩文時代の遺物（3）



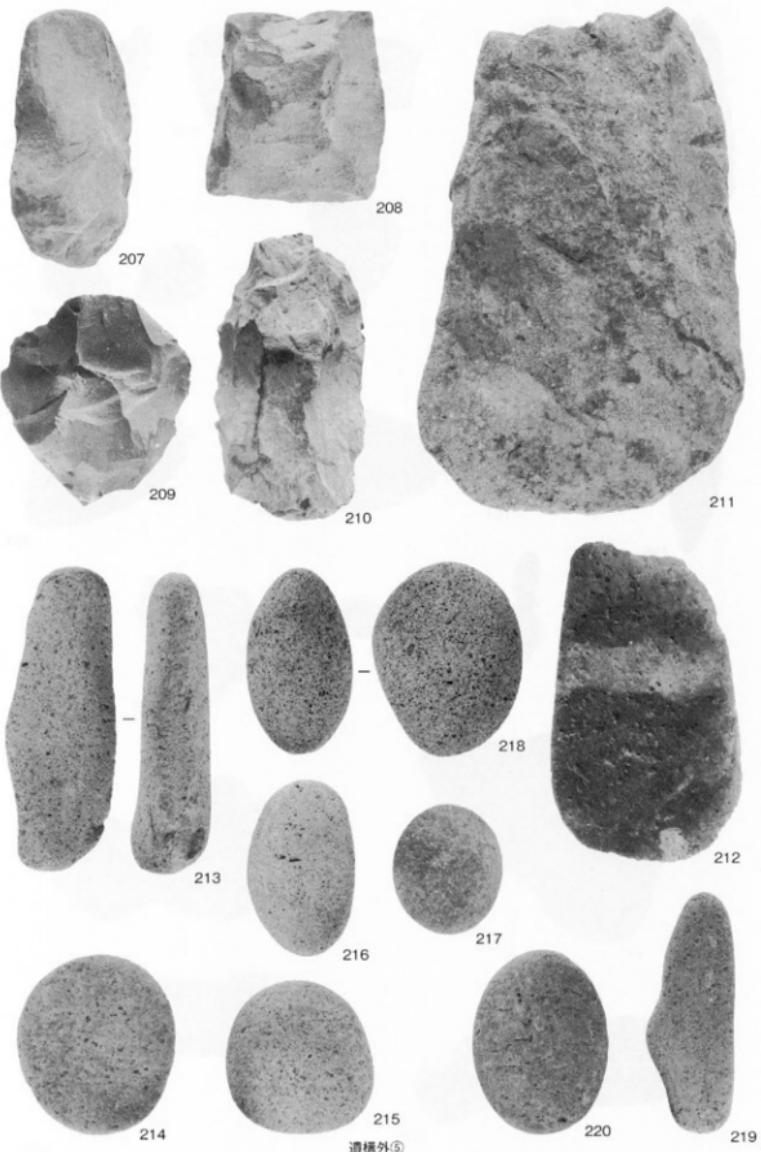
遺構外③

写真図版 24 縄文時代の遺物（4）

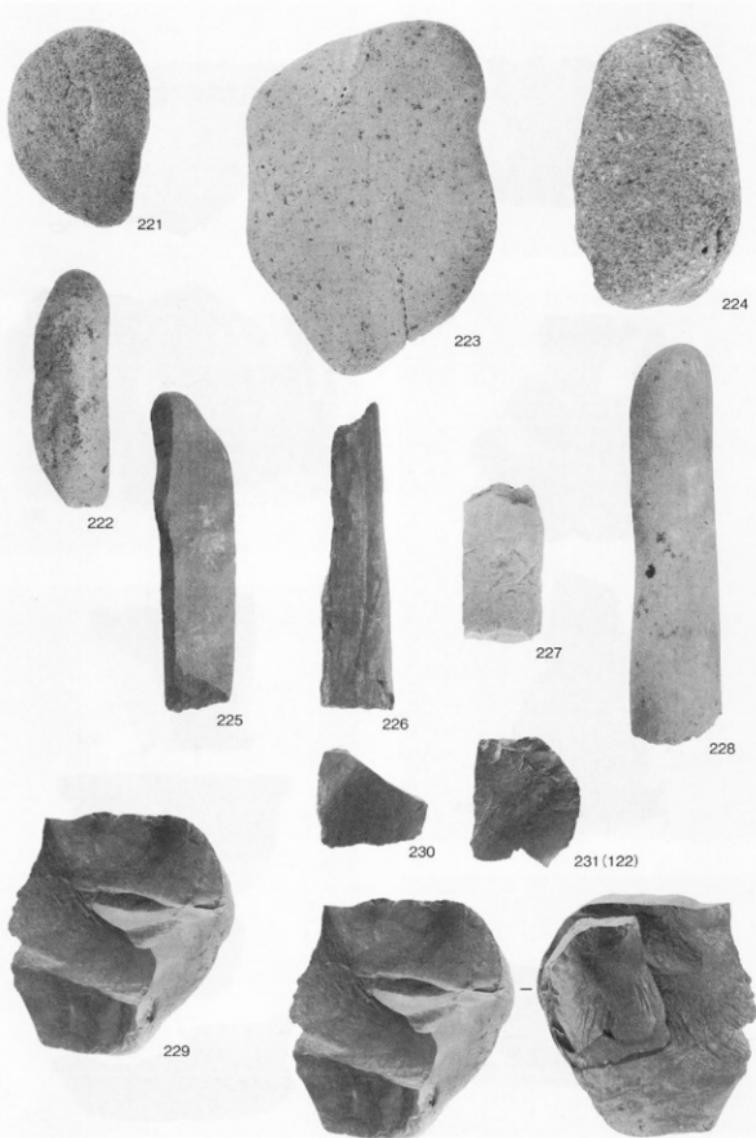


遺構外④

写真図版 25 縄文時代の遺物（5）



写真図版 26 縄文時代の遺物 (6)



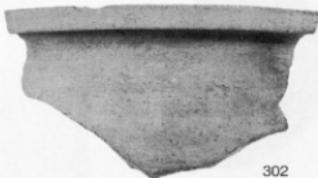
遺構外⑥

接合資料 11

写真図版 27 縄文時代の遺物（7）



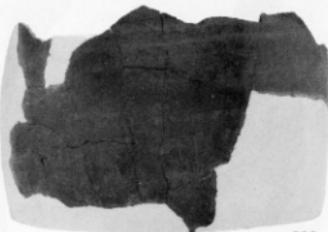
301



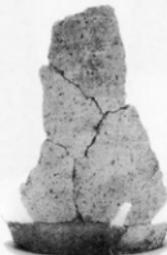
302



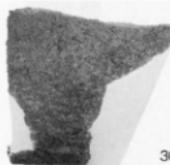
305



303



306



304



307



309

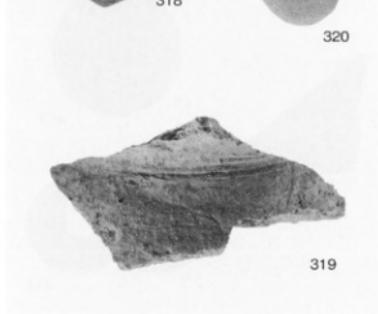
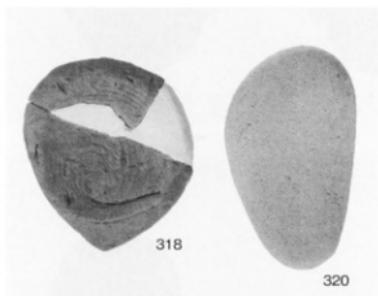
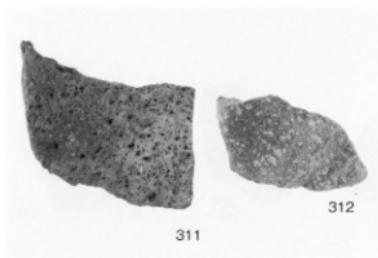


308

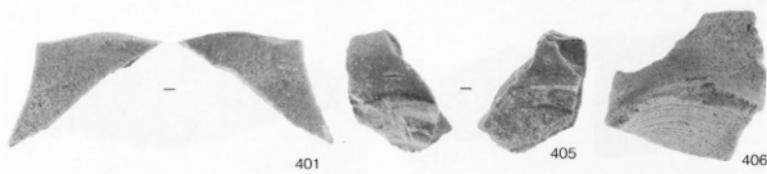


310

写真図版 28 平安時代の遺物 (1)



写真図版 29 平安時代の遺物（2）



401

405

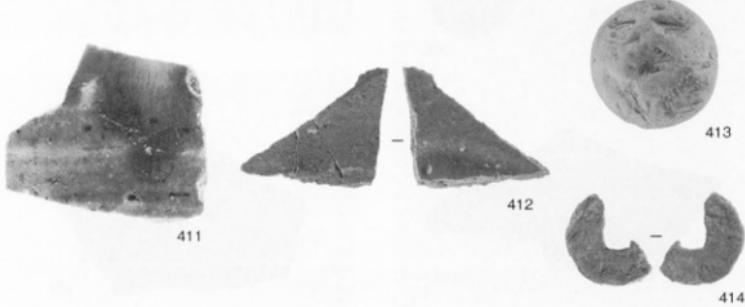
406



402

403

404



411

412

413

414

写真図版 30 中世の遺物、時期不明の遺物

報告書抄録

ふりがな	さいのはばたてあとはつくつちょうさほうこうくしょ						
書名	青羽場館跡発掘調査報告書						
副題名	緊急地方道路整備事業下内四地区関連遺跡発掘調査						
巻次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第561集						
編著者名	北村忠昭						
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下内町11地割185番地 TEL (019) 638-9001						
発行年月日	2010年1月29日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度 分 秒	東経 度 分 秒	調査期間	調査面積	調査原因
青羽場館跡	岩手県北上市福島町字前田164-1	03206 ME76-2110	39度 15分 10秒	141度 07分 14秒	2008.09.01 ~ 2008.11.21	1,290m ²	緊急地方道 路整備事業
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
青羽場館跡	キャンプ地	後期旧石器時代	ブロック4箇所	ナイフ形石器1点、台形石器5点、 彫器1点、猿器4点、猿削器3点、 削器1点、櫛器3点、石斧1点、敲石2点、磨石1点、台石11点、剥片	石刃石器群と細石刃石器群の2枚の文化層を確認		
	集落跡	縄文時代	土坑1基 ブロック4箇所	縄文土器中コンテナ1箱 石器中コンテナ45箱、石製品5点	草創期~早期中葉のブロ ックを確認		
	集落跡	平安時代	整穴住居跡1棟 土坑1基 柱穴2個	土器器・須恵器中コンテナ1箱 刀子1点			
	城 館	中 世	廻跡1条 溝跡2条 柱穴36個	埴輪2点 石器・石製品中コンテナ0.5箱			
	散布地	近 世		磁器1点、寛永通寶1点			
		時期不明	土坑2基	陶器3点、磁器4点、角釘2点、 土製品1点			
要約	青羽場館跡は北上市役所の南南西約3.2kmに位置し、北上川左岸の河岸段丘上に立地する。戦国時代には若西氏の家臣である川井若狭守古種の居城として知られ、正保2年の破却古城書上にも書上げられている城跡である。						
	調査区は主要地方道一関北上線を挟んで、東西に分かれており、遺構・遺物の大半は西側で検出した。後期旧石器時代は、ナイフ形石器・猿器を中心とする石刃石器群と細石刃石器群の2枚の文化層を確認し、前者を第I文化層、後者を第II文化層とした。また、盛土層を中心に台形石器が出土し、周辺には第I文化層以前の石器群が存在する可能性が高い。縄文時代は早期中葉の土坑・草創期~中期の遺物が出土し、草創期~中期中葉を中心とする。特にS b 05 b出上の土器は付着炭化物の放射性炭素年代測定を行ったところ、約1万年前との結果が得られ、草創期後半の多縁土器群である峯谷下層式期に相当する。明確な居住址は確認できなかったが、隣接する場所に存在する可能性が高い。平安時代は10世紀代の整穴住居跡が確認され、居住域であることことが判明した。現状の地形を見る限りでは、平坦面は多く、小規模な集落跡と考えられる。中世では、青羽場館に関係する廻跡・溝跡・柱穴、中国産青磁・かわらけが出土した。現在の金見野神社の場所周辺を境によって区画していたことが判明したが、狭い調査区であるため、顔全体の構造は不明である。						
	今回の調査で、昭和46年度に行われた調査内容を踏襲する遺構・遺物が出土し、後期旧石器時代から現代まで、断続的に利用してきた場所であることが判明した。						

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 561 集

齊羽場館跡発掘調査報告書

緊急地方道路整備事業下門岡地区関連遺跡発掘調査

印 刷 平成 22 年 1 月 25 日

発 行 平成 22 年 1 月 29 日

編 集 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒 020 - 0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地

電話 (019) 638 - 9001

発 行 岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部

〒 024 - 8520 岩手県北上市芳町 2 - 8

電話 (0197) 65 - 2738

(財) 岩手県文化振興事業団

〒 020 - 0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号

電話 (019) 654 - 2235

印 刷 株式会社五六堂印刷

〒 020 - 0021 岩手県盛岡市中央通 3 - 16 - 15

電話 (019) 654 - 5610

